

令和 8 年 度 授 業 計 画
— 幼児教育学科 —

岡山短期大学

幼児教育学科の教育方針

建学の精神

1. 国際交流による世界平和への貢献
2. 少子高齢化に対応する教育を通じた地域社会及び日本への貢献
3. 学園に集うすべての人々の物心両面における幸福の追求

教育理念

岡山短期大学の教育理念は、学生一人ひとりが強い信念をもち、それぞれが志した学習目標を達成し、本学で修得した知識、技能および免許・資格を活かした進路を確実に得、本学および社会の発展に寄与する人材を育てることである。そしてそのために、本学はアセスメント・ポリシーに基づく高等教育の質保証を図り、保育者養成の教育目標を達成することを使命とする。

教育目標

幼児教育施設（幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園）の現場で、幼児教育（環境を通して行う教育）とは何かを考え、「資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識し、保育指針の「乳児・1歳以上3歳未満児の保育」を理解し、乳児期の保育や子どもの育ちをとらえて、幼児期への学びの連続性を考えることができる保育者を養成する。

本学科の保育者養成の教育目標

- ①Society 5.0時代のAIに代表される技術革新の進歩やIoTの広がり、世界のグローバル化や流動化など、日本社会や世界の状況の20年後の将来に対応できる力の基礎を育むことができる保育者を養成する。
- ②幼児教育において育みたい「資質・能力」の三つの柱「知識及び技能の基礎」・「思考力、判断力、表現力等の基礎」・「学びに向かう力、人間性等」を育成することのできる保育者を養成する。
- ③幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」を育むことに向けて指導ができる保育者を養成する。
- ④すべての子どもが安心して過ごせるよう、子どもの気持ちに寄り添い、子どもの生活状況や実態に合わせて気持ちが前向きになるよう満たすような働きかける養護と幼児教育を一体的に展開するために、保育の実態を評価し保育を改善し続けることができる保育者を養成する。

更に、卒業後の目標として、次の、公務員となる公務員養成コース、及び Society 5.0 時代の保育者となる Society 5.0 保育者養成コースを設ける。

※ Society 5.0 とは（内閣府 https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/）

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）である。

狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、第 5 期科学技術基本計画（平成 28～令和 2 年度）において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。

Society 5.0 で実現する社会は

IoT（Internet of Things）で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、これらの課題や困難を克服する。

また、人工知能（AI）により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服される。

社会の変革（イノベーション）を通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合あえる社会、一人一人が快適で活躍できる社会となる。

公務員養成コース

基礎教育科目の「公務員講座（一般教養）」「公務員講座（教職教養）」で公務員試験出題科目を集中的に学習すると共に、「卒業予備研究」「卒業研究（A）」を通して集中的に公務員試験受験のための社会人基礎力を獲得し公務員試験に合格する。

Society 5.0 保育者養成コース

基礎教育科目の「スマート社会と地域創生」「情報処理基礎」「情報処理演習」「ICT リテラシー（A）」及び「ICT リテラシー（B）」の学習を通して Society 5.0 時代の保育者に必要な ICT 技術を修得すると共に、「卒業予備研究」「卒業研究（A）」「卒業研究（B）」で「模擬保育室」の Society 5.0 化を研究し Society 5.0 時代の保育者になる。

学生の学習成果

本学で学ぶ学生の卒業時の学習成果は、自律した信念のある社会人となることである。

学科の専門学習では、Society 5.0 時代の現場に即応する保育者（幼稚園教諭・保育士）になるため、学科の教育課程（基礎教育科目および専門教育科目）の学習をとおして、次の学習成果を獲得する。

I. 専門的学習成果

幼児教育施設（幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園）の現場で、幼児教育（環境を通して行う教育）とは何かを考え、「資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識し、保育指針の「乳児・1歳以上3歳未満児の保育」を理解し、乳児期の保育や子どもの育ちをとらえて、幼児期への学びの連続性を考えることができる能力を獲得する。

II. 汎用的学習成果

社会人として求められる態度、信念、意見、価値、コミュニケーション能力を獲得する。社会人としての責任を果たすために必要な倫理観や価値観、自己管理の能力を、また職業生活や社会生活に必要な情報リテラシーや数量的スキル、人との関わりに必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力を獲得する。

卒業認定・学位授与の方針

学位：短期大学士（幼児教育学）

Society 5.0時代の現場に即応する保育者になるため、学科の教育課程（基礎教育科目および専門教育科目）の学習を通して科目の単位を修得し、学則に規定する卒業に必要な単位を修得した者に学位を授与する。

卒業認定の際に獲得していることを求める学習成果は次のとおりである。

Society 5.0時代の現場に即応できる保育者に求められる専門的学習成果と社会人・職業人として求められる汎用的学習成果を獲得している。

教育課程編成・実施の方針

卒業要件として学生が修得すべき単位数について、学生が1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を30単位とするため、基礎教育科目及び専門教育科目と合わせた単位の上限を30単位とし、可能な限り25単位に近づけるように科目を開講する。

専門教育科目の編成と実施

幼稚園教諭二種免許状取得に必要な科目と、保育士資格取得に必要なカリキュラムを編成する。

授業の実施は、専門的学習成果のみではなく汎用的学習成果も獲得できるように実施する。

基礎教育科目の編成と実施

免許法施行規則の第66条の6に定める科目と共に、卒業後、公務員となる公務員養成コース及びSociety 5.0時代の保育者となるSociety 5.0保育者養成コースに必要な授業科目を編成する。

意欲ある学生に対して図書館司書を取得できる科目を編成し、実施する。

入学者受け入れの方針

本学に入学する人物には、次のような資質・能力を求める。

- ・自分のなりたい保育者像が明確である。
- ・子どもが好きで、心身ともに健康で、何事にも積極的である。
- ・幼稚園教諭免許と保育士資格の両方を取得し、卒業後保育者として働く意志が強い。
- ・Society 5.0時代に必要なスキルの修得意識が強い。
- ・本学での学習に必要な一定水準の学力を身に付けている。
- ・体育や図画工作、音楽が好きで、特にピアノについては、基礎技能を身に付けようと努力できる。

履修にあたって

必修科目……各学科の教育目標を達成する為に必ず履修しなければなりません。1科目でも不認定になると卒業できませんので、授業の教育目標・教育方法・単位認定基準をよく読んで、授業のアウトラインをつかんで履修して下さい。

選択必修科目……一定の授業科目群の中から自分で履修する授業科目を選択することができますが、その授業科目群に定められた必修単位数は必ず修得しなければなりません。

選択科目……自分の目的にあわせて選択履修することができます。授業の内容をみて興味のある授業科目や、自分の希望する職業また取得したい資格に必要な知識、技術と照らしあわせながら選択して下さい。

カリキュラム表及び担当教員掲載頁一覧					
注 1) 一般教育科目					
授業科目	必修	選択	計	担当教員名	職名
	注 2)	注 3)		注 4)	注 5)

注 1) 一般教育科目について具体的に自分の学年でどの授業科目がいつ開講されているかは、「学生のしおり」の授業科目時間配当表を参照して下さい。

注 2) 単位数が記載されている科目は必修科目です。1単位でも落とすと卒業できません。又、2つ以上の授業科目にわたって単位数が記載されている場合は、選択必修科目でその区分の選択科目の中から、定められた必修単位数を修得しなければなりません。

注 3) 注 2) に単位数の記載がない授業科目で、ここに単位数が記載されている科目は選択科目です。各資格取得に必要な科目もありますので、詳しくは「学生のしおり」を参照して下さい。

注 4) 各授業科目の担当教員名とその授業科目のシラバス掲載頁を明記しています。一つの授業科目を複数の教員が担当している場合もあるため、必ず時間割で自分のクラスの担当教員名を確認して下さい。

注 5) 岡山学院大学の教員、非常勤の教員は職名の後に（兼）と記載してあります。

科目ナンバリングについて（岡山短期大学）

科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学習の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示するための仕組みです。

（例）教育心理学・・・CC23B1a201-AAA

CC	23	B	1a	201	—	A	A	A
①	②	③	④	⑤		⑥	⑦	⑧

①開講学部・学科

幼児教育学科	CC
--------	----

②学問領域(科目区分)

基礎教育科目	Society5.0保育者養成	11
	公務員養成	12
	共通	13
	その他	10
専門教育科目	教職	21
	保育士	22
	教職・保育士	23
	その他	20

③授業形態

講義	A
演習	B
実験・実習・実技	C
その他	Z

④学習水準(配当年次) 学年+記号

前期	a
後期	b
通年（前期始まり）	c
通年（後期始まり）	d
その他	z

⑤識別番号

基礎教育科目	101～
専門教育科目	201～

⑥卒業必修／選択

⑦教職必修／選択

⑧保育士必修／選択

必修	A
選択必修	B
選択	C
本学規程による必修扱い	D
本学規程による選択必修扱い	E
実習規則による必修扱い	a
実習規則による選択必修扱い	b
該当なし	0

●基礎教育科目ナンバリング

	授 業 科 目	必修	選択	計	科目ナンバー
基礎教育科目	スマート社会と地域創生	10	2	2	CC11A1a125 - B00
	STEAM教育の理論と実践		1	1	CC13B1b121 - B00
	日 本 国 憲 法		2	2	CC13A1b104 - BA0
	情 報 処 理 基 礎		2	2	CC13A1a105 - BB0
	情 報 処 理 演 習		1	1	CC13B1b106 - BB0
	I C T リ テ ラ シ ー (A)		1	1	CC13B2a107 - BB0
	I C T リ テ ラ シ ー (B)		1	1	CC13B2b108 - BB0
	プ ロ グ ラ ミ ン グ 教 育		2	2	CC13B2b122 - B00
	キ ャ リ ア ガ イ ダ ン ス		1	1	CC13B1a109 - BA0
	英 語 (A)		1	1	CC13B1b110 - BA0
	英 語 (B)		1	1	CC13C1a111 - BAA
	体 育 実 技		1	1	CC13A2b112 - BAA
	体 育 理 論		1	1	CC13B1a113 - B00
	基 礎 音 楽		1	1	CC12B1a114 - B00
	公 務 員 講 座 (一 般 教 養)		1	1	CC12B1a123 - B00
	公 務 員 講 座 (教 職 教 養)		1	1	CC13B1b124 - B00
	ク ラ ブ 活 動		1	1	CC13B1a117 - B00
	保 育 者 基 礎 演 習		2	2	CC13B1a119 - B00
	合 計	10	23	23	

●幼児教育学科専門教育科目ナンバリング

	授 業 科 目	必修	選択	計	科目ナンバー
幼 児 教 育 学 科 専 門 教 育 目 的	教 育 心 理 学	2		2	CC23B1a201 - AAA
	特 別 支 援 の 方 法 ・ 保 育 と 理 解		2	2	CC23B1a260 - CAA
	発 達 心 理 学 I		2	2	CC22A1b203 - C0A
	臨 床 心 理 学 (A)		1	1	CC22B1a204 - C0E
	保 育 者 論 ・ 教 師 論	2		2	CC23A1a261 - AAA
	教 育 原 理	2		2	CC23A1a207 - AAA
	教 育 制 度 論		2	2	CC21A2a208 - CA0
	幼 児 理 解 及 び 保 育 相 談		2	2	CC23A1b209 - CAA
	事 前 ・ 事 後 指 導		1	1	CC21C1d210 - CA0
	幼 稚 園 教 育 実 習		4	4	CC21C2a211 - CA0
	保 育 ・ 教 職 実 践 演 習 (幼 稚 園)		2	2	CC23B2b262 - CAA
	社 会 福 祉		2	2	CC22A1a213 - C0A
	子 ど も 家 庭 支 援 論		2	2	CC22A1b214 - C0A
	子 育 て 支 援		1	1	CC22B2a215 - C0A
	子 ど も 家 庭 福 祉		2	2	CC22A2b216 - C0A
	保 育 原 理 I	2		2	CC22A1b218 - AbA
	保 育 原 理 II		2	2	CC22A2a219 - C0E
	乳 児 保 育 I		2	2	CC22A2a220 - C0A
	乳 児 保 育 II		1	1	CC22B2b221 - C0A
	社 会 的 養 護 I		2	2	CC22A2a222 - C0A
	社 会 的 養 護 II		1	1	CC22B2b224 - C0A
	保 育 実 習 I		4	4	CC22C2a226 - C0A
	保 育 実 習 指 導 I		2	2	CC22B1d227 - C0A
	保 育 実 習 II		2	2	CC22C2a228 - C0D
	保 育 実 習 指 導 II		1	1	CC22B2a229 - C0D
	子 ど も の 保 健		2	2	CC22A1a230 - C0A
	子 ど も の 健 康 と 安 全		1	1	CC22B1b231 - C0A
	子 ど も の 食 と 栄 養		2	2	CC22B2a232 - C0A
	保 育 内 容 総 論	1		1	CC22B2b233 - A0A
	教育課程論及び教育方法・技術論	2		2	CC23A1b234 - AAA
	幼 児 と 健 康	1		1	CC23B1b235 - AAE
	「 幼 児 と 健 康 」 の 指 導 法	2		2	CC23B2a236 - AAA
	幼 児 と 人 間 関 係	1		1	CC23B2a237 - AAD
	「 幼 児 と 人 間 関 係 」 の 指 導 法	2		2	CC23B2b238 - AAA
	幼 児 と 環 境	1		1	CC23B2a239 - AAD
	「 幼 児 と 環 境 」 の 指 導 法	2		2	CC23B2b240 - AAD
	幼 児 と 言 葉	1		1	CC23B1a241 - AAE
	「 幼 児 と 言 葉 」 の 指 導 法	2		2	CC23B1b242 - AAD
	幼 児 と 表 現 I	1		1	CC23B1a243 - AAA
	「 幼 児 と 表 現 I 」 の 指 導 法	1		1	CC23B1b244 - AAD
	幼 児 と 表 現 II	1		1	CC23B1b245 - AAA
	「 幼 児 と 表 現 II 」 の 指 導 法	1		1	CC23B2a246 - AAA
	幼 児 と 音 楽 I (A)		1	1	CC22B1a247 - CaE
	幼 児 と 音 楽 I (B)		1	1	CC22B1b248 - CCE
	幼 児 と 音 楽 I (C)	1		1	CC23B2a249 - AAA
	幼 児 と 音 楽 I (D)	1		1	CC23B2b250 - AAE
	幼 児 と 音 楽 II (A)	1		1	CC23B1b251 - AAE
	幼 児 と 音 楽 II (B)		1	1	CC22B2a252 - CCE
	幼 児 と 体 育 (A)	1		1	CC23B2a253 - AAA
	幼 児 と 体 育 (B)	1		1	CC23B2b254 - AAE
	幼 児 と 図 画 工 作		1	1	CC22B1a255 - CCE
	児 童 文 化		2	2	CC22B1b256 - C0E
	卒 業 予 備 研 究		1	1	CC20B1b263 - C00
	卒 業 研 究 (A)		1	1	CC20B2a258 - C00
	卒 業 研 究 (B)		1	1	CC20B2b259 - C00
	合 計	32	54	86	

カリキュラム表及び担当教員掲載頁一覧

基礎教育科目

授 業 科 目	必修	選択	計	担当教員名	職 名	掲載頁	備 考
スマート社会と地域創生	10	2	2	尾崎 聡	教 授	I - 1	
STEAM教育の理論と実践		1	1	山口 雪子 尾崎 聡	准教授 教 授	I - 7	
日 本 国 憲 法		2	2	河野 正英	教 授 (兼)	I - 12	
情 報 処 理 基 礎		2	2	小松 正直	講 師 (兼)	I - 15	
情 報 処 理 演 習		1	1	小松 正直	講 師 (兼)	I - 18	
ICTリテラシー (A)		1	1	吉田 升	准教授	I - 21	
ICTリテラシー (B)		1	1	吉田 升	准教授	I - 24	
プログラミング教育		1	1	吉田 升	准教授	I - 27	
キャリアガイダンス		2	2	副島 里美 都田 修兵	教授 准教授	I - 30	
英 語 (A)		1	1	花田 春香	講 師 (兼)	I - 34	
英 語 (B)		1	1	花田 春香	講 師 (兼)	I - 37	
体 育 実 技		1	1	吉田 升	准教授	I - 40	
体 育 理 論		1	1	吉田 升	准教授	I - 43	
基 礎 音 楽		1	1	大羽 敬子	講 師 (兼)	I - 45	
公務員講座 (一般教養)		1	1	馬場 結子 副島 里美 都田 修兵	教 授 教 授 准教授	I - 49	
公務員講座 (教職教養)		1	1	副島 里美 都田 修兵	教 授 准教授	I - 54	
ク ラ ブ 活 動		1	1	学科教員			
保 育 者 基 礎 演 習		2	2	副島 里美	教 授	I - 59	
合 計	10	23	23				

専門教育科目							
授 業 科 目	必修	選択	計	担当教員名	職 名	掲載頁	備 考
教 育 心 理 学	2		2	大賀 恵子	教 授	Ⅱ － 1	
特別支援の方法・保育と理解		2	2	大賀 恵子	教 授	Ⅱ － 6	
発 達 心 理 学 Ⅰ		2	2	大賀 恵子	教 授	Ⅱ － 11	
発 達 心 理 学 Ⅱ		2	2	開講せず			
発 達 心 理 学 Ⅲ		2	2	開講せず			
臨 床 心 理 学 （ A ）		1	1	開講せず			
臨 床 心 理 学 （ B ）		1	1	開講せず			
社 会 心 理 学		2	2	開講せず			
保 育 者 論 ・ 教 師 論	2		2	都田 修兵	准教授	Ⅱ － 16	
教 育 原 理	2		2	都田 修兵	准教授	Ⅱ － 22	
教 育 制 度 論		2	2	都田 修兵	准教授	Ⅱ － 28	
幼 児 理 解 及 び 保 育 相 談		2	2	大賀 恵子	教 授	Ⅱ － 34	
事 前 ・ 事 後 指 導		1	1	都田 修兵 副島 里美	准教授 教 授	Ⅱ － 39	
幼 稚 園 教 育 実 習		4	4	都田 修兵 副島 里美	准教授 教 授		
保育・教職実践演習（幼稚園）		2	2	馬場 結子 都田 修兵 秋山 智代	教 授 准教授 講 師	Ⅱ － 43	
社 会 福 祉		2	2	松尾 冀	教 授（兼）	Ⅱ － 48	
子 ど も 家 庭 支 援 論		2	2	大賀 恵子	教 授	Ⅱ － 52	
子 育 て 支 援		1	1	大賀 恵子	教 授	Ⅱ － 57	
子 ど も 家 庭 福 祉		2	2	松尾 冀	教 授（兼）	Ⅱ － 62	
保 育 原 理 Ⅰ	2		2	都田 修兵	准教授	Ⅱ － 65	
保 育 原 理 Ⅱ		2	2	都田 修兵	准教授	Ⅱ － 71	
乳 児 保 育 Ⅰ		2	2	山上 幸子	講 師	Ⅱ － 74	
乳 児 保 育 Ⅱ		1	1	山上 幸子	講 師	Ⅱ － 78	
社 会 的 養 護 Ⅰ		2	2	石原 正巳	講 師（兼）	Ⅱ － 82	
社 会 的 養 護 Ⅱ		1	1	石原 正巳	講 師（兼）	Ⅱ － 85	
保 育 実 習 Ⅰ		4	4	大賀 恵子 馬場 結子 山上 幸子 吉田 升	教 授 教 授 講 師 准教授		
保 育 実 習 指 導 Ⅰ		2	2	大賀 恵子 馬場 結子 山上 幸子 吉田 升	教 授 教 授 講 師 准教授	Ⅱ － 88	
保 育 実 習 Ⅱ		2	2	大賀 恵子 馬場 結子 山上 幸子	教 授 教 授 講 師		
保 育 実 習 指 導 Ⅱ		1	1	大賀 恵子 馬場 結子 山上 幸子	教 授 教 授 講 師	Ⅱ － 91	

子 ども の 保 健		2	2	野々上 敬子	教 授 (兼)	Ⅱ - 94	
子どもの健康と安全		1	1	野々上 敬子	教 授 (兼)	Ⅱ - 96	
子どもの食と栄養		2	2	稲井 玲子	教 授 (兼)	Ⅱ - 98	
保 育 内 容 総 論	1		1	馬場 結子	教 授	Ⅱ - 102	
教育課程論及び教育方法・技術論	2		2	都田 修兵 秋山 智代 吉田 升 堀口 のぞみ	准教授 講 師 准教授 准教授 (兼)	Ⅱ - 105	
幼 児 と 健 康	1		1	吉田 升	准教授	Ⅱ - 110	
「幼児と健康」の指導法	2		2	吉田 升	准教授	Ⅱ - 114	
幼 児 と 人 間 関 係	1		1	尾崎 聡 副島 里美	教 授 教 授	Ⅱ - 118	
「幼児と人間関係」の指導法	2		2	尾崎 聡 副島 里美	教 授 教 授	Ⅱ - 121	
幼 児 と 環 境	1		1	秋山 智代	講 師	Ⅱ - 124	
「幼児と環境」の指導法	2		2	秋山 智代	講 師	Ⅱ - 128	
幼 児 と 言 葉	1		1	馬場 結子	教 授	Ⅱ - 132	
「幼児と言葉」の指導法	2		2	馬場 結子	教 授	Ⅱ - 135	
幼 児 と 表 現 I	1		1	吉田 升	准教授	Ⅱ - 138	
「幼児と表現Ⅰ」の指導法	1		1	吉田 升	准教授	Ⅱ - 142	
幼 児 と 表 現 II	1		1	佐藤 尚宏	准教授	Ⅱ - 146	
「幼児と表現Ⅱ」の指導法	1		1	佐藤 尚宏	准教授	Ⅱ - 150	
幼 児 と 音 楽 I (A)		1	1	河原 真理 荒木 淳子 門田 晶子	講 師 講 師 (兼) 講 師 (兼)	Ⅱ - 153	
幼 児 と 音 楽 I (B)		1	1	河原 真理 荒木 淳子 門田 晶子	講 師 講 師 (兼) 講 師 (兼)	Ⅱ - 157	
幼 児 と 音 楽 I (C)	1		1	河原 真理 荒木 淳子 門田 晶子	講 師 講 師 (兼) 講 師 (兼)	Ⅱ - 161	
幼 児 と 音 楽 I (D)	1		1	河原 真理 荒木 淳子 門田 晶子	講 師 講 師 (兼) 講 師 (兼)	Ⅱ - 166	
幼 児 と 音 楽 II (A)	1		1	大羽 敬子	講 師 (兼)	Ⅱ - 171	
幼 児 と 音 楽 II (B)		1	1	大羽 敬子	講 師 (兼)	Ⅱ - 175	
幼 児 と 体 育 (A)	1		1	吉田 升	准教授	Ⅱ - 179	
幼 児 と 体 育 (B)	1		1	吉田 升	准教授	Ⅱ - 182	
幼 児 と 図 画 工 作	1		1	佐藤 尚宏	准教授	Ⅱ - 185	
図 画 特 修 (A)		1	1	開講せず			
図 画 特 修 (B)		1	1	開講せず			
児 童 文 学		2	2	開講せず			
児 童 文 化		2	2	馬場 結子	教 授	Ⅱ - 189	
卒 業 予 備 研 究		1	1	学科教員			
卒 業 研 究 (A)		1	1	学科教員			
卒 業 研 究 (B)		1	1	学科教員			

合	計	3 3	6 4	9 7				
---	---	-----	-----	-----	--	--	--	--

令和 8 年 度 教 育 計 画							
科目名	スマート社会と地域創生	授業回数	15	単位数	2	担当教員	尾崎聡
質問受付の方法：メールの場合、「vladdracu10824@yahoo.co.jp」、までタイトルに学生番号と氏名を書いて質問のこと。口頭の場合、毎週火曜日、12：20～17：00の間、オフィスアワーを開いているので、メールにて予約の上、尾崎研究室（B308）を訪ねてくること。							
教育目標と学生の学習成果	【教育目標】 本授業では ① AI・IoT・データ活用などによって進展する「スマート社会」の概念を理解し、これらの技術が地域社会の課題解決（保育・教育問題を含む）や地域創生にどのように貢献しうるかを学ぶ。 ② 人口減少・高齢化・産業構造の変化など、地方が直面する課題（保育・教育問題を含む）を具体的に取り上げ、技術と地域政策を結びつけて考える力を養う。 ③ 地域の現状分析を通じて、学生自らが地域の未来を考える姿勢を育成する。 【学生の学習成果】 専門的学習成果：将来、仕事をしながら生きていくのに必要な「課題発見力、解決力、コミュニケーション力」を身に着ける。 汎用的学習成果：仕事だけでなく、社会生活、家庭生活も含めた人生の営み全体に必要な「態度・信念・意見」と教養を身に着ける						
	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 担当教員が準備し、進行させていく講義である。受講生の専門領域を配慮して授業のラインナップを構成し、題材を準備する。授業中是对話という双方向的要素も取り入れて受講生の頭脳を活性化させながら進めていく。					
	予習・復習	大学設置基準第 21 条中の「1 単位の授業科目は 45 時間の学修を必要とする内容をもつて構成することを標準とする」により、予習・復習の時間が必要である。「1 単位 45 時間の計算によると、この授業は 2 単位なので、「授業 90 分（2 時間として計算）× 15 回＝30 時間」＋「予習 90 分（2 時間として計算）× 15 回＝30 時間」＋「復習 90 分×15 回＝30 時間」＝総計 90 時間を要する。					
	テキスト	特にテキストは指定しないが、毎回参考資料をプリントで配布する。					

学習評価の方法	【達成基準】 本授業を履修することで、以下の能力を身につけることを目指す。 1. スマート社会（Society 5.0、DX、AI、IoT 等）の基本概念を理解し説明できる。 2. 地方が抱える社会課題（人口減少、産業衰退、交通、医療、教育等）をデータに基づいて分析できる。 3. スマート技術を活用した地域創生の国内外の事例を理解し、特徴を説明できる。 4. 地域課題に対して、技術と政策を組み合わせた解決策を企画・提案できる。 以上を筆記試験において証明すること。 【試験方法について】 自筆ノート（ルーズリーフはバインダーから外してクリップ等で留める）持ち込み可。 【評価方法】 ・ 専門的学習成果 筆記試験（60%）：授業領域に関する用語や事例の説明を課する シャトルカード（20%）：授業領域等への興味・関心、理解について評価に入れる ノート提出（20%）：自筆ノートは試験持ち込み可。試験終了後に提出する。 ・ 汎用的学習成果 授業態度を評価する。但し、半期における人間的成長についても配慮する。
注意事項	参考図書は古今東西の名著から折に触れて指示する

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	○スマート社会とは何か ・ Society 5.0、DX、AI、IoT の基礎 ・ なぜ地方にとって重要なのか ・ 学生の関心調査 ○スマート社会と地域創生と教育の役割 ・ Society 5.0 の理念 ・ 地域創生における教育の重要性 ・ 高梁川流域圏の教育課題（人口減少・学校統廃合など） ○予習・復習 上記に関係する作業を指示する
2 回	○日本の人口減少と地方の課題 ・ 少子高齢化、人口流出、産業構造の変化 ・ 岡山県・倉敷市の現状データ ・ 地域課題を“自分ごと化”するワーク ※自分ごと↔他人ごと ○Society 5.0 の基礎①：AI・データ活用と教育 DX ・ AI の基礎 ・ 個別最適化学習 ・ 教育データの活用（学習ログ・アダプティブラーニング） ○予習・復習 上記に関係する作業を指示する

3 回	○スマート社会を支える技術① AI とデータ活用 ・ AI の基礎 ・ ChatGPT など生成 AI の活用例 ○Society 5.0 の基礎②：IoT・ロボットと保育・教育現場 ・ IoT による見守り ・ 保育ロボット・教育ロボット ・ 教育現場の省力化と課題 ○予習・復習 上記に関係する作業を指示する
4 回	○スマート社会を支える技術② IoT とセンサー ・ スマート農業 ・ スマート物流 ・ スマート防災 ・ 倉敷市の取り組み紹介 ○スマート社会の国内外事例（教育編） ・ フィンランドの EdTech ・ シンガポールの教育 DX ・ 日本のスマートスクール構想 ○予習・復習 上記に関係する作業を指示する
5 回	○スマート社会を支える技術③ ロボット・自動運転 ・ 自動運転バス ・ 配送ロボット ・ 介護ロボット ・ 地方での実証実験の現状 ○高梁川流域圏の地理・歴史・文化と教育資源 ・ 流域圏の文化資源 ・ 地域の教育資源（博物館、自然、文化施設） ・ 地域学習の可能性 ○予習・復習 上記に関係する作業を指示する
6 回	○地域創生の基本概念 ・ 地域資源とは何か ・ 地域ブランド ・ 地域経済循環 ・ 成功事例の分析（例：真庭市のバイオマス） ○流域圏の人口・産業構造と教育課 ・ 少子化と学校統廃合 ・ 教員不足 ・ 子どもの貧困 ○予習・復習 上記に関係する作業を指示する ・ 地域の教育格差 流域圏の課題①：交通・移動と子どもの生活

7 回	○観光×スマート社会 ・ 観光 DX ・ スマート観光（AR/VR、デジタルスタンプラリー） ・ 倉敷美観地区の可能性を考えるワーク ○流域圏の課題①：交通・移動と子どもの生活 ・ 通学の課題 ・ 交通弱者としての子ども ・ MaaS と教育アクセス ○予習・復習 上記に関係する作業を指示する
8回	○農業×スマート社会 ・ スマート農業の実例 ・ 農業の担い手不足と技術の役割 ・ 岡山の農業（果樹・野菜）との接続 ○流域圏の課題②：観光・文化資源と教育プログラム ・ 観光×教育（体験学習・探究学習） ・ 美観地区を活かした教育プログラム ・ 地域文化の継承 ○予習・復習 上記に関係する作業を指示する
9回	○医療・福祉×スマート社会 ・ 遠隔医療 ・ 高齢者見守りシステム ・ 地域包括ケアとの連携 ○流域圏の課題③：農業・環境と食育・自然保育 ・ スマート農業 ・ 食育・農業体験 ・ 自然保育・森のようちえん の可能性 ○予習・復習 上記に関係する作業を指示する
10 回	○教育×スマート社会 ・ EdTech ・ 個別最適化学習 ・ 地方大学の DX ・ 学生自身の学び方を考える ○流域圏の課題④：医療・福祉と子どもの見守り ・ 遠隔医療と学校 ・ 子どもの安全・見守りシステム ・ 発達支援と ICT ○予習・復習 上記に関係する作業を指示する

11 回	○地域交通×スマート社会 ・ MaaS (Mobility as a Service) ・ 地方の交通弱者問題 ・ 倉敷市の交通課題を分析 ○地域創生の成功事例 (教育視点で分析) ・ 真庭市のバイオマスと環境教育 ・ 地域ぐるみの教育 (コミュニティスクール) ・ 他地域の成功例 ○予習・復習 上記に関係する作業を指示する
12 回	○企業・産業×スマート社会 ・ 地方中小企業の DX ・ 製造業のスマート化 ・ 岡山県内企業の事例紹介 ○肱川流域圏の事例研究 (教育・保育の視点を含む) 授業タイトル 「肱川流域圏の地域課題とスマート社会：防災・文化・教育の視点から」 肱川流域圏の概要 ・ 流域：愛媛県大洲市・内子町・西予市など ・ 地形：中山間地域が多く、急峻な地形と河川の氾濫リスク ・ 産業：農林業、観光、伝統産業 (内子の町並み、大洲の城下町) ・ 人口動態：高齢化・人口減少が進行 ○予習・復習 上記に関係する作業を指示する
13 回	○観光・文化 × スマート社会 地域文化を未来につなぐ観光 DX と学びのデザイン (倉敷美観地区、内子町、大洲城) 内容： ・ AR/VR を使った歴史体験 ・ デジタルスタンプラリー ・ 観光データ分析 (来訪者動向、回遊性) ・ 文化財のデジタルアーカイブ ・ スマート観光と地域ブランド ・ 子ども向け文化体験プログラムの設計 ○教育との接続： ・ 地域文化を教材にした探究学習 ・ 観光×教育のコラボ (ガイド育成、地域学習) ・ 文化継承のためのデジタル技術 ○予習・復習 上記に関係する作業を指示する

14 回	○福祉 × スマート社会 高齢化社会を支えるスマート福祉の未来 ・ 高齢者見守りシステム（IoT センサー、GPS、AI 異常検知） ・ 遠隔医療・オンライン診療 ・ 介護ロボット（移乗支援、会話支援、見守り） ・ 中山間地域の“買い物弱者”支援（自動配送ロボット） ・ 地域包括ケアとデジタル化 ・ 子ども・高齢者の共生空間の可能性 ○教育との接続： ・ 高齢者との交流学习 ・ 福祉施設での探究学習 ・ 子どもと高齢者の ICT 共有 ○予習・復習 上記に関係する作業を指示する
15 回	○防災 × スマート社会 流域圏を守るスマート防災と教育の役割 内容： ・ AI による洪水予測 ・ 河川水位センサー、ドローン観測 ・ 避難情報のリアルタイム配信 ・ デジタルハザードマップ ・ 学校・保育園の防災教育 ・ 子ども・高齢者の避難支援システム ○教育との接続： ・ 防災探究学習 ・ 地域の避難計画を学生が再設計するワーク ・ 流域治水の理解 ○予習・復習 上記に関係する作業を指示する

令和 8 年 度 教 育 計 画							
科目名	STEAM 教育の理論と実践	授業回数	15	単位数	1	担当教員	山口 雪子 ・尾崎 聡
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー等): yukiko@owc.ac.jp、OH: 火曜～金曜 9:00～16:00							
教育目標と学生の学習成果	教育目標 幼児教育から小学校教育への接続として、STEAM 教育を活かした保育活動を考案する基礎的な力を獲得する。STEAM の理論の理解とともに、幼児の身近な環境（園庭など）を活かして、どのような STEAM に基づく保育活動ができるか、実践を交えながら立案する力を伸ばしていく。さらには本科目受講により、公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会公認ネイチャーゲームリーダー資格を取得する。 学生の学習成果 専門的学習成果：STEAM 教育を構成する、科学（Science）・技術（Technology）・工学（Engineering）・芸術（Art）・数学（Mathematics）それぞれに係る育ちが、幼児の遊びの中でどのように得られていくか、を理解する。シェアリングネイチャーの理論とネイチャーゲームの実践を通して、幼児期における STEAM 教育を効果的に計画・実践する力を身につける。さらには、保幼小連携を意識した保育活動計画の立案・実践するポイント・コツをつかむ。 汎用的学習成果：シェアリングネイチャーおよびネイチャーゲームの学びを通して、保育者・人としての「態度・信念」「価値・意見」「論理的思考力」「人間関係力」を身につけ、伸ばしていく。						
	（講義・<u>演習</u>・実験・実習・実技） 主にネイチャーゲームのアクティビティ体験を通じて、身近な自然や教材を活用した保育活動を体験、幼児期の STEAM 教育にどう繋がっているかを学ぶ。また、ネイチャーゲームアクティビティを基にした保育活動の立案、教育にどう繋がっているかを学ぶ。また、ネイチャーゲームアクティビティを基にした保育活動の立案、一部を模擬的に指導実践する。実践した内容はバディチェックによる他者評価とともに、自己評価し、PDCA に基づく立案・実践・評価・改善の流れを学ぶ。自然を活かした保育活動、幼児期の STEAM 教育という専門的学習成果だけでなく、アクティビティ体験や指導実践という授業内活動を通じて、保育者としての態度や信念、価値観、人間関係力等といった汎用的学習成果にも繋がるよう進めていく。						
教育方法	授業の進め方						
	予習・復習	予習事項：各回授業に書かれている内容を参照し、45 分程度取り組むこと。 復習事項：各回授業に書かれている内容を参照し、45 分程度取り組むこと。					
	テキスト	テキスト『ネイチャーゲームリーダーハンドブック 理論編・アクティビティ編』 『シェアリングネイチャー 自然のよこびをわかちあおう』					

学習評価の方法	下記項目（課題）を合計し、100 点満点のうち 60 点以上を単位認定する。評価にあたっては、記述内容から専門的学習成果と汎用的学習成果のうちの「態度・信念」「価値・意見」「論理的思考力」を測り、授業内における指導実践などのグループワークから「人間関係力」を測る。専門的・汎用的学習成果はそれぞれの課題において個々に評価をするが、「人間関係力」は、学習成果獲得に著しく問題があると判断された場合は全体の評価（合計点）から 10 点を最高点に減ずる。 ・プログラム実践計画書：10点×1回＝10点 ・アクティビティ実践計画書：10点×2回＝20点 ・フィールド KYT シート（セルフエイド立案含む）：5点×2回＝10点 ・自己評価シート：10点×2回＝20点 ・振り返りシート（日本シェアリングネイチャー協会資格認定用記入用紙）：40点 なお、上記課題は提出後にコメントを加えて返却することにより、フィードバックする。
注意事項	【注意事項】 ・日本シェアリングネイチャー協会公認ネイチャーゲームリーダー資格取得を兼ねているため、テキスト代や登録料などの資格認定・登録に係る実費を別途徴収する（令和8年度は16,620円予定）。 ・主にアクティビティ体験や指導実践など、教室外に出て活動することから、天候などの状況によって、安全面を考慮し、各回授業の内容を入れ替えて行う場合がある。 【参考図書】 『センス・オブ・ワンダー』レイチェル・カーソン著 上遠 恵子 訳 新潮社 『はるなつあきふゆのたからさがし』矢原 由布子 作・絵 鈴木 純 監修 アノニマ・スタジオ 中央出版社

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション・STEAM 教育およびネイチャーゲームの基礎的理解 授業の進め方や課題・評価について伝え、授業内容や単位認定、ネイチャーゲームリーダー資格取得要件について理解する。また、STEAM 教育およびネイチャーゲームの基礎的事項について整理し、それらの理解を深める。 予習：シラバスを確認して、疑問点などを整理しておく 復習：授業内で記録した内容を見直し、整理する。
2 回	アクティビティ体験① ネイチャーゲーム体験 ネイチャーゲームリーダー資格取得に必要な基本アクティビティを体験するとともに、ネイチャーゲームと背景にあるシェアリングネイチャーの考え方について理解する。 予習：身の回りにどのような自然があるか見直してくる。 復習：授業で体験したアクティビティを振り返り、自身が指導する場合を想定して、体験内容を整理する。
3 回	アクティビティ体験② ネイチャーゲーム体験 ネイチャーゲームリーダー資格取得に必要な基本アクティビティを体験するとともに、ネイチャーゲームと背景にあるシェアリングネイチャーの考え方について理解する。 予習：自身が持つ感覚や感性について考えてくる。 復習：授業で体験したアクティビティを振り返り、自身が指導する場合を想定して、体験内容を整理する。
4 回	アクティビティ体験③ ネイチャーゲーム体験 ネイチャーゲームリーダー資格取得に必要な基本アクティビティを体験するとともに、ネイチャーゲームと背景にあるシェアリングネイチャーの考え方について理解する。 予習：自身が感じたこと・気付いたことをどのように表現できるか、伝え方について考えてくる。 復習：授業で体験したアクティビティを振り返り、自身が指導する場合を想定して、体験内容を整理する
5 回	アクティビティ体験④ ネイチャーゲーム体験 ネイチャーゲームリーダー資格取得に必要な基本アクティビティを体験するとともに、ネイチャーゲームと背景にあるシェアリングネイチャーの考え方について理解する。 予習：これまでの体験を振り返り“ヒヤリハット”したことがないか、検討する。 復習：授業で体験したアクティビティを振り返り、自身が指導する場合を想定して、体験内容を整理する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
6 回	下見、フィールド KYT、セルフエイド 野外での活動を安全にかつ魅力的に行う準備について理解し、自身で計画・実践するための基本を身につける。 予習：フィールドの下見にどのような視点が要るか、考えてくる。 復習：これまで体験したアクティビティを 1 つ選び、セルフエイドとして伝える内容を考える。
7 回	指導実践準備、評価とフィードバック アクティビティ実践のための計画書を作成する。また、実践後のフィードバックとして、他者評価と自己評価について理解する。 予習：これまで体験したアクティビティを 1 つ選び、自身が指導することを想定してテキストを見直してくる。 復習：計画書に基づき、必要な準備を進める。また授業内で作成できなかった場合は、実践計画書とフィールド KYT シートを完成させる。
8 回	アクティビティ実践① グループワーク グループでアクティビティを“指導する側”と“参加する側”の役割を交代しながら、計画してきた内容を実践する。参加役の人は指導側へ他者評価（バディチェックシート）を記入後、渡し、互いの実践力を育む。授業終了時に、実践計画書ならびにフィールド KYT シートは提出する。 予習：作成した実践計画書やフィールド KYT シートを見直し、実践のイメージトレーニングをしてくる。 復習：参加役の人から受け取ったシートを読み、自己評価シートを作成する。
9 回	シェアリングネイチャーの考え方、STEAM 教育とへの展開 これまでの授業を振り返り、体験を基本とする学び方やその効果・意義などを認識するとともに、STEAM 教育とどのように関連付いているかを理解する。授業終了時に、自己評価シートを提出。 予習：『ネイチャーゲームリーダーハンドブック 理論編』第 1・2 章を読んでくる。 復習：授業内ででてきたキーワードについて、整理し、まとめておく。
10 回	アクティビティ体験⑤ STEAM 教育への展開 アクティビティ体験後に、どのような STEAM 教育になっているか意図開きを行い、身近な自然や教材を活かした幼児期の STEAM 教育の方法について理解する。 予習：子どもの頃の遊びを思い出し、STEAM との関連性について考えてくる。 復習：授業内で体験したアクティビティを、自身が指導することを想定して整理しておく。
11 回	アクティビティ体験⑥ STEAM 教育への展開 アクティビティ体験後に、どのような STEAM 教育になっているか意図開きを行い、身近な自然や教材を活かした幼児期の STEAM 教育の方法について理解する。 予習：身の回りの自然や物から、どのような STEAM ができるか考える。 復習：授業内で体験したアクティビティを、自身が指導することを想定して整理しておく。
12 回	STEAM 教育に繋がるアクティビティ実践 授業内で体験したアクティビティを基に、STEAM 教育に繋がるアクティビティの立案を行う。アクティビティ実践計画書およびフィールド KYT シートを作成する。 予習：自身が基とするアクティビティについて、テキストを読み直したり、STEAM に関連しそうな事柄を調べたりして、計画書作成に備える。 復習：次回の実践に向けて、必要な準備を進める。授業内で作成が終わらなかった場合は、完成させてくる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
13 回	アクティビティ実践② グループワーク グループでアクティビティを“指導する側”と“参加する側”の役割を交代しながら、計画してきた内容を実践する。参加役の人は指導側へ他者評価（バディチェックシート）を記入後、渡し、互いの実践力を育む。授業終了時に、実践計画書ならびにフィールド KYT シートは提出する。 予習：作成した実践計画書やフィールド KYT シートを見直し、実践のイメージトレーニングをしてくる。 復習：参加役の人から受け取ったシートを読み、自己評価シートを作成する。
14 回	ネイチャーゲームリーダー認定に向けて 日本シェアリングネイチャー協会公認ネイチャーゲームリーダー認定に必要な内容を、テキストを読みながら確認する。授業終了時に、自己評価シートを提出する。 予習：『ネイチャーゲームリーダーハンドブック 理論編』第 4・5 章を読んでくる。 復習：授業の内容を振り返り、自身がネイチャーゲームをどのように活用するかを考える。
15 回	『シェアリングネイチャー』を読む、全体振り返り、まとめ 『シェアリングネイチャー』を黙読後、これまでの授業から得た自身の学び舎今後の活用について整理し、振り返りシートへの記入を行う。シートへの記入後は、数名のグループで感じたこと・気づきをわかちあい、それぞれの思いや価値観を共有することで学びを深める。最後に、グループディスカッションを経て感じていること、考えていることを、振り返りシートに追記し、提出する。 予習：これまでの授業内容を振り返って整理する。 復習：自身がこれまで得た学びについて振り返る。

令和 8 年 度 教 育 計 画								
科目名	日本国憲法		授業回数	15	単位数	2	担当教員	河野 正英
質問受付の方法（e-mail で行う）				email：mkono@kusa.ac.jp				
教育目標と学生の学習成果	教育目標：憲法（Constitution）は法律（Statutes）とは異なり、国家を統治するための基本原則や国の骨格を表す大原則を中心とする準則のことである。日本国憲法の基本的な柱は、象徴天皇性、自由民主主義、基本的人権を基礎にした個人の尊重、不戦平和主義である。本講義では、こうした基本原則を学びつつ、われわれの生きている現代社会の特徴について学ぶことを目標とする。 学生の学習成果：将来、社会人になった際に、法律と憲法の違いや、条文の解釈の仕方について知っていることは、さまざまな面で役に立つと思う。 汎用的学習成果：法体系における憲法とは、端的に言えば「国の枠組み」のことである。日本国憲法を学ぶことで、日本国の行末について自分の頭で考える一助となる。							
教育方法	授業の進め方	(講義)・演習・実験・実習・実技) ・講義で重視するのは、学んだ知識を基に自分の頭で考え、自分なりの言葉で表現できるようにすること。 ・また、日常生活における法的問題や時事ニュースに関心を持ち、現代社会の特徴に敏感になること。 ・それを自らの言葉で表現できるようにすること。						
	予習・復習	予習事項：日々のニュースに敏感になること。時事問題について知り、それを理解し、自らの言葉で説明できるようにすることは大切である。 復習事項：講義で学んだ項目について、自分の頭で考え、整理して欲しい。						
	テキスト	河野正英『社会と言語表現』大学教育出版						
学習評価の方法	(1) 憲法の位置付けについて理解する。 (2) 日本国憲法の成立過程について理解する。 (3) 条文を読み、意味を知って、自分の言葉で説明できるようになる。 (4) 日本社会の枠組みについて理解する。 毎回、小コメントを書いてもらい、上記を評価する。（20%） まとめプリント（3回を予定）によって、さらに上記をブラッシュアップする。（20%） 期末には論述試験によって評価する。（60%）							
注意事項	【参考図書】 講義では、日本国憲法の前文や条文を参照するので、条文が掲載された小冊子を各自で準備すること。 準備の仕方は下記のいずれかの方法で。 ・ネットで検索すれば、日本国憲法の全文が出てくるので、これを紙に印刷して持参。 ・電子書籍の Kindle（スマートフォンのアプリ）でも読めるので、Amazon で無料版の『日本国憲法』を入手する。（講義中にこれをスマホで見ても構わない。）							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	テーマ：明治維新から昭和までの歴史について概観 講義内容：オリエンテーションを含めて、法体系における憲法の位置付け、日本国憲法成立の過程などについて説明する。
2 回	テーマ：日本国憲法前文に見る歴史観 講義内容：日本国憲法は、手続上は大日本帝国憲法の改正版として成立したが、実態としては、連合国による英文で草案が作成され、それが日本語訳される形で成立した。当時の時代背景を知り、前文に盛り込まれた世界秩序とはどのようなものであったのかを理解する。
3 回	テーマ：日本の歴史と天皇の存在意義 講義内容：日本国憲法成立の過程で、極東国際軍事裁判の趨勢が天皇の位置付けに多大な影響を与えた。天皇制が維持された理由や日本の歴史における天皇の存在意義について理解する。
4 回	テーマ：国連憲章および不戦条約と日本国憲法の相関 講義内容：日本国憲法の草案が作成される過程で、国連憲章の条文との整合性が重視された。また、日本国憲法の柱とされる不戦条項（9条）の規定については不戦条約が参照されている。これらの関連性について学ぶ。
5 回	テーマ：これまでのまとめ（1） 講義内容：まとめプリントを作成する
6 回	テーマ：個人の尊重とその背景にある基本的人権思想 講義内容：日本社会は、戦前の家族主義を中心とする社会秩序から、戦後の個人主義を中心とする社会秩序に大きく変革された。その背景にあったのが基本的人権の思想である。この一見分かるようで、よく分からない基本的人権とはどういう思想なのかを学ぶ。
7 回	テーマ：個人主義と日本社会 講義内容：前回学んだように、戦後の日本社会は個人主義（個人の尊重）を中心に営まれてきた。このことが現代社会におけるわれわれにどのような影響を及ぼしているのかを学ぶ。
授 業 回 数 別 教 育 内 容	

8 回	テーマ：国民の幸福追求権 講義内容：世界的な統計から見える日本社会の特徴は、数値的には健康で裕福な生活をしているはずであるが、その心理面から見ると、不満や不安を抱えている者の数が多いのが特徴である。自分が幸福でないと答える国民の数が多いのである。その原因を探り、日本社会の特徴を知る。
9 回	テーマ：日本国憲法における司法国家像 講義内容：先進国には、欧州大陸国家のような事前解決型国家（行政国家）と英米のような事後解決型国家（司法国家）とがある。日本国は実態としては事前解決型で動いているが、日本国憲法は事後解決型国家、すなわち司法型の国家を基本としている。両者の特徴について学び、日本社会の現状について理解する。
10 回	テーマ：これまでのまとめ（2） 講義内容：まとめプリントを作成する。
11 回	テーマ：学問の自由の保証・表現の自由の保証 講義内容：学問の自由、表現の自由、良心の自由、信教の自由など、精神世界における自由の尊重が日本国憲法の原則である。これらが歴史的にはどういう意義を持って確立されてきたのかを学ぶ。
12 回	テーマ：三権分立、特に大統領制と議院内閣制の比較 講義内容：近代国家は多かれ少なかれ三権分立の体制を採っている。しかし、国によって三権の比重は異なる。日本における三権の比重と日本社会の特徴について学ぶ。大統領制と議院内閣制を比較し、その特徴を知る。
13 回	テーマ：税制および財政権 講義内容：近年、時事問題としてニュース等によく取り上げられるテーマに「貧困」や「子供の貧困」という項目がある。統計的には日本は世界1～2位を争う債権国であるが、国内では貧困問題がしばしば取り上げられる。このギャップがどこから生じるのかを理解する。また、日本の税制や財産権について学ぶ。
14 回	テーマ：これまでのまとめ（3） 講義内容：まとめプリントを作成する
15 回	テーマ：全体を通じて 講義内容：プリントを作成する

令和 8 年 度 教 育 計 画								
科目名	情報処理基礎		授業回数	15	単位数	2	担当教員	小松正直
質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー等）：komatsu@owc.ac.jp								
教育目標と学生の学習成果	AI に代表される技術革新の進歩や IoT の広がり，世界のグローバル化や流動化など，日本社会や世界の状況の 20 年後の将来に対応できる力の基礎を育むことができる人材を養成するために，下記項目について修得することを到達時の目標とする。 1. コンピュータの基本構成や仕組みについて説明できる. 2. コンピュータでのデータの表現について説明できる. 3. 様々な情報技術について仕組みや役割について説明できる. 4. AI の基本や仕組みについて説明できる. 5. 数理・データサイエンス・AI の基礎について説明できる. 学生の学習成果： 数量的スキルを使って Society 5.0 時代のビッグデータを管理・活用することができる（基礎）							
	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） パワーポイントと教科書，配付資料により授業を行う．適宜パソコンを用いた演習を行うことで講義内容の充実を図る．授業終了時にシャトルカードに質問・感想などの記述を求める．質問への返答等を通して学習理解状況を確認しながら授業内容をアレンジする.						
教育方法	予習・復習	予習事項：教科書を予習し，学習内容を把握する（90 分）. 復習事項：教科書・配付資料を基に学習内容を整理する（90 分）.						
	テキスト	noa 出版（著・制作），2024 年，『これだけは知っておこう！ 情報リテラシー 改訂第 5 版』，noa 出版.						
学習評価の方法	提出課題（30 点） 定期試験（70 点）							
注意事項	【参考図書】 ● 岡本敏雄（監修），2017 年，『改訂新版よくわかる情報リテラシー』，技術評論社. ● 岡嶋裕史・吉田雅裕，2021 年，『はじめての AI リテラシー』，技術評論社							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション シラバス、授業の進め方、成績評価の確認 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムにおける科目の位置づけ Moodle 利用方法を身につける（ログイン、課題提出等） 復習内容：配付資料を基に講義内容を復習する。
2 回	コンピュータと情報（データの表現）① 予習内容：教科書を予習し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する。
3 回	コンピュータと情報（データの表現）② 予習内容：教科書を予習し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する。
4 回	情報技術の進歩（Society5.0 と AI）① 予習内容：教科書を予習し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する。
5 回	情報技術の進歩（Society5.1 と AI）② 予習内容：教科書を予習し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する。
6 回	ハードウェア①（パソコンの構成と役割） 予習内容：教科書を予習し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する。
7 回	ハードウェア②（入力と出力） 予習内容：教科書を予習し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する。
8 回	ソフトウェア①（OS とアプリ） 予習内容：教科書を予習し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する。
9 回	ソフトウェア②（プログラミングとアルゴリズム） 予習内容：教科書を予習し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する。

10 回	ネットワークとインターネット 予習内容：教科書を予習し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する．
11 回	インターネットを用いたコミュニケーション 予習内容：教科書を予習し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する．
12 回	情報セキュリティ 予習内容：教科書を予習し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する．
13 回	情報モラル 予習内容：教科書を予習し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する．
14 回	AI 社会の情報モラル 予習内容：教科書を予習し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する．
15 回	まとめ これまでの講義を振り返る 予習内容：教科書・配付資料を予習し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：教科書・配付資料を基に講義内容を復習する．

令和 8 年 度 教 育 計 画								
科目名	情報処理演習		授業回数	15	単位数	1	担当教員	小松正直
質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー等）：komatsu@owc.ac.jp								
教育目標と学生の学習成果	AI に代表される技術革新の進歩や IoT の広がり，世界のグローバル化や流動化など，日本社会や世界の状況の 20 年後の将来に対応できる力の基礎を育むことができる人材を養成するために，下記項目について修得することを到達時の目標とする。 1. レポートの作成と編集が出来る． 2. 表計算ソフトを活用し，情報の整理や活用が出来る． 3. プレゼンテーションに関する基礎知識を学ぶ． 4. 数理・データサイエンス・AI の基礎について説明できる． 学生の学習成果： 数量的スキルを使って Society 5.0 時代のビッグデータを管理・活用することができる（応用）．							
	教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 板書，パワーポイント，教科書，配付資料により授業を行う．適宜パソコンを用いた演習を行うことで講義内容の充実を図る．授業終了時にシャトルカードに質問・感想などの記述を求める．質問への返答等を通して学習理解状況を確認しながら授業内容をアレンジする．					
学習評価の方法	予習・復習	予習事項：教科書を予習し，学習内容を把握する（45 分）． 復習事項：教科書・配付資料を基に学習内容を整理する（45 分）．						
	テキスト	杉本くみ子、大澤栄子、高橋純子、若林雅子（著），『30 時間アカデミック Office2024』，実教出版．						
学習評価の方法	小テスト（30 点） 課題（70 点）							
注意事項	【参考図書】 ● 松山恵美子・黄海湘・八木英一郎・黒澤敦子・石野邦仁子・堀江郁美（著），2022 年，『Office によるデータリテラシー～大学生のデータサイエンス～』，共立出版							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション シラバス，授業の進め方，成績評価の確認 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムにおける科目の位置づけ Windows の基礎・使用方法 予習内容：教科書を予習し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：教科書を基に講義内容を復習する．
2 回	Word の基礎・活用① 予習内容：教科書を予習し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：教科書を基に講義内容を復習する．
3 回	Word の基礎・活用② 予習内容：教科書を予習し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：教科書を基に講義内容を復習する．
4 回	Word の基礎・活用③ 予習内容：教科書を予習し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：教科書を基に講義内容を復習する．
5 回	Word の基礎・活用④ 予習内容：教科書を予習し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：教科書を基に講義内容を復習する．
6 回	Word の基礎・活用⑤（Word 課題提出） 予習内容：教科書を予習し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：教科書を基に講義内容を復習する．
7 回	Excel の基礎・活用① 予習内容：教科書を予習し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：教科書を基に講義内容を復習する．
8 回	Excel の基礎・活用② 予習内容：教科書を予習し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：教科書を基に講義内容を復習する．
9 回	Excel の基礎・活用③ 予習内容：教科書を予習し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：教科書を基に講義内容を復習する．

10 回	Excel の基礎・活用④ (Excel 課題提出) 予習内容：配付資料を予習し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：配付資料を基に講義内容を復習する．
11 回	データサイエンスの基礎・データベースの活用 (データサイエンス課題提出) 予習内容：配付資料を予習し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：配付資料を基に講義内容を復習する．
12 回	PowerPoint の基礎・活用① 予習内容：教科書を予習し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：教科書を基に講義内容を復習する．
13 回	PowerPoint の基礎・活用② 予習内容：教科書を予習し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：教科書を基に講義内容を復習する．
14 回	PowerPoint の基礎・活用③ (PowerPoint 課題提出) 予習内容：教科書を予習し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：教科書を基に講義内容を復習する．
15 回	まとめ これまでの学習内容を振り返る 予習内容：教科書を予習し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：教科書を基に講義内容を復習する．

令和 8 年 度 教 育 計 画							
科目名	ICT リテラシー (A)	授業回数	15	単位数	1	担当教員	吉田升
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー等) : nyoshida@owc.ac.jp、月曜日 5 限							
教育目標と学生の学習成果	AI に代表される技術革新の進歩や IoT の広がり、世界のグローバル化や流動化など、日本社会や世界の状況の 20 年後の将来に対応できる力の基礎を育むことができる人材を養成するために、下記項目について修得することを到達時の目標とする。 1. タッチタイピングが出来る。 2. ワードやエクセルの基本操作を身につける。 3. Society5.0 および数理・データサイエンス・AI の基礎を身につける。 学生の学習成果： ・専門的学習成果：上記 3 項目を達成できるようにする。 ・汎用的学習成果：職業生活や社会生活に必要な情報リテラシーや数量的スキル，論理的思考力を身に付ける。						
	授業の進め方	(講義・ 演習 ・実験・実習・実技) パワーポイントや配付資料等により授業を行う。適宜パソコンを用いた演習を行うことで講義内容の充実を図る。質問への返答等を通して学習理解状況を確認しながら授業内容を適宜変更する。					
教育方法	予習・復習	予習事項：授業における重要事項について予習を課す (45 分)。 復習事項：授業で行った演習について復習を課す (45 分)。					
	テキスト	必要に応じて参考資料を配布する。					
学習評価の方法	● 専門的学習成果 課題・レポート (複数回実施；60%) タッチタイピングテスト (複数回実施；20%) ※課題・レポートについては、フィードバックを実施する。 ● 汎用的学習成果 「情報リテラシーや数量的スキル」，「論理的思考力」：受講中の態度や質疑応答等を評価する。(20%)						
注意事項	【参考図書】 ● 日本情報処理検定協会，2023 年，『日本語ワープロ検定試験模擬問題集 2・準 2 級編』 ● 富士通エフ・オー・エム株式会社，2021 年，『学生のためのデータリテラシー～データの読み方から分析結果の伝え方まで～』， FOM 出版 ● 富士通エフ・オー・エム株式会社，2021 年，『学生のための思考力・判断力・表現力が身に付く情報リテラシー』， FOM 出版 ● 富士通エフ・オー・エム株式会社，2020 年，情報リテラシー改訂版 Windows 10・Office 2019 対応，FOM 出版 ● 杉本くみ子，大澤栄子，2019 年，『30 時間アカデミック Office2019』，実教出版 ● 阿部正平，阿部和子，二宮祐子，2018 年，『保育者のためのパソコン講座』，萌文書林。						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション シラバス，授業の進め方，成績評価の確認 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムと科目の関係 ソサエティ 5.0，数理・データサイエンス・AI 入門 復習内容：配付資料等を基に授業内容を復習する。
2 回	パソコンの基本操作，ファイルとフォルダーの操作 予習内容：シラバスの該当項目を確認し，次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する。
3 回	キーボード等のパソコン周辺機器の操作，タイピング 予習内容：シラバスの該当項目を確認し，次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する。
4 回	ワードの機能と操作 予習内容：シラバスの該当項目を確認し，次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する。
5 回	ワードでおたよりの作成 予習内容：シラバスの該当項目を確認し，次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する。
6 回	ビジュアルコンテンツの作成 予習内容：シラバスの該当項目を確認し，次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する。
7 回	これまでのまとめと操作確認 PC の操作を効率に行い、Word での文書の作成を行う。 予習内容：シラバスの該当項目を確認し，次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する。
8 回	エクセルの機能と操作 予習内容：シラバスの該当項目を確認し，次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する。
9 回	園だよりを作る① 予習内容：シラバスの該当項目を確認し，次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する。

10 回	園だよりを作る② 予習内容：シラバスの該当項目を確認し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する．
11 回	クラス表の作成 予習内容：シラバスの該当項目を確認し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する．
12 回	カレンダーの作成 予習内容：シラバスの該当項目を確認し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する．
13 回	データサイエンス入門① データを活用する，データの種類，質的変数と量的変数， 予習内容：シラバスの該当項目を確認し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する．
14 回	データサイエンス入門② 代表値（平均値，中央値，最頻値），散布度（分散，標準偏差） 予習内容：シラバスの該当項目を確認し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する．
15 回	まとめ エクセルの使用方法を確認する． 予習内容：シラバスの該当項目を確認し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する．

令和 8 年 度 教 育 計 画							
科目名	ICT リテラシー (B)	授業回数	15	単位数	1	担当教員	吉田升
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー等) : nyoshida@owc.ac.jp、月曜日 5 限							
教育目標と学生の学習成果	AI に代表される技術革新の進歩や IoT の広がり、世界のグローバル化や流動化など、日本社会や世界の状況の 20 年後の将来に対応できる力の基礎を育むことができる人材を養成するために、下記項目について修得することを到達時の目標とする。 1. タッチタイピングがある程度出来る。 2. エクセルやパワーポイントの操作を身につける。 3. Society5.0 および数理・データサイエンス・AI の応用を身につける。 学生の学習成果： ・専門的学習成果：上記 3 項目を達成できるようにする。 ・汎用的学習成果：職業生活や社会生活に必要な情報リテラシーや数量的スキル、論理的思考力を身に付ける。						
	授業の進め方	(講義・ 演習 ・実験・実習・実技) パワーポイントや配付資料等により授業を行う。適宜パソコンを用いた演習を行うことで講義内容の充実を図る。質問への返答等を通して学習理解状況を確認しながら授業内容を適宜変更する。					
教育方法	予習・復習	予習事項：授業における重要事項について予習を課す (45 分)。 復習事項：授業で行った演習について復習を課す (45 分)。					
	テキスト	必要に応じて参考資料を配布する。					
学習評価の方法	● 専門的学習成果 課題・レポート (複数回実施 ; 50%) タッチタイピングテスト (複数回実施 ; 10%) ※課題・レポートについては、フィードバックを実施する。 ● 汎用的学習成果 「情報リテラシーや数量的スキル」 : 口頭発表や発表資料等を評価する (20%) 「論理的思考力」 : 受講中の態度や質疑応答等を評価する。 (20%)						
注意事項	ICT リテラシー (A) を履修していることが望ましい。 【参考図書】 ● 日本情報処理検定協会, 2023 年, 『日本語ワープロ検定試験模擬問題集 2・準 2 級編』 ● 富士通エフ・オー・エム株式会社, 2021 年, 『学生のための思考力・判断力・表現力が身に付く情報リテラシー』, FOM 出版 ● 富士通エフ・オー・エム株式会社, 2020 年, 情報リテラシー改訂版 Windows 10・Office 2019 対応, FOM 出版 ● 杉本くみ子, 大澤栄子, 2019 年, 『30 時間アカデミック Office2019』, 実教出版。 ● 阿部正平, 阿部和子, 二宮祐子, 2018 年, 『保育者のためのパソコン講座』, 萌文書林。						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション シラバス、授業の進め方、成績評価の確認 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムと科目の関係 ソサエティ 5.0, 数理・データサイエンス・AI 応用 復習内容：配付資料等を基に授業内容を復習する。
2 回	パソコンリテラシーと情報倫理 予習内容：シラバスの該当項目を確認し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する。
3 回	ネットワークを学ぶ 予習内容：シラバスの該当項目を確認し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する。
4 回	保育の場での E メールの使用 予習内容：シラバスの該当項目を確認し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する。
5 回	児童台帳の作成 予習内容：シラバスの該当項目を確認し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する。
6 回	身体計測記録表とグラフの作成 予習内容：シラバスの該当項目を確認し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する。
7 回	行事写真購入申し込み管理簿の作成 予習内容：シラバスの該当項目を確認し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する。
8 回	パワーポイントの機能と操作 予習内容：シラバスの該当項目を確認し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する。
9 回	自己紹介・園の紹介の作成① 予習内容：シラバスの該当項目を確認し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する。
10 回	自己紹介・園の紹介の作成② 予習内容：シラバスの該当項目を確認し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する。

11 回	自己紹介・園の紹介（発表） 予習内容：シラバスの該当項目を確認し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する．
12 回	生成系 AI の活用 生成系 AI の仕組みを理解し，活用方法について理解する． 予習内容：シラバスの該当項目を確認し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する．
13 回	データサイエンス入門① データの傾向（ヒストグラム，分布） 予習内容：シラバスの該当項目を確認し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する．
14 回	データサイエンス入門② データの傾向（相関，回帰直線） 予習内容：シラバスの該当項目を確認し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する．
15 回	まとめ これまでの学習内容を振り返る 予習内容：シラバスの該当項目を確認し，次回の学習内容を把握する． 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する．

令和 8 年 度 教 育 計 画							
科目名	プログラミング教育	授業回数	15	単位数	1	担当教員	吉田升
質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー等）：nyoshida@owc.ac.jp、月曜日 5 限							
教育目標と学生の学習成果	Society5.0 時代において、必要不可欠なプログラミング教育について学ぶ。本科目ではプログラミング的思考力を養う。本科目におけるプログラミング的思考力とは、論理的思考力とし、物事の全体を把握し、矛盾や飛躍のない筋道を立てることができる力のこととする。下記の項目について習得することを到達時の目標とする。 1. フローチャートの基礎が身についている。 2. 簡単なプログラミングを組み立てることができる。 3. 物事の全体を把握することができる。 学生の学習成果： ・専門的学習成果：上記 3 項目を達成できるようにする。 ・汎用的学習成果：職業生活や社会生活に必要な情報リテラシーや数量的スキル、論理的思考力を身に付ける。						
	授業の進め方	(講義・ 演習 ・実験・実習・実技) パワーポイントや配付資料等により授業を行う。Web 教材を活用しながらプログラミングに関する基礎を学び、論理的思考力の向上を図る。					
教育方法	予習・復習	予習事項：授業における重要事項について予習を課す（45 分）。 復習事項：授業で行った演習について復習を課す（45 分）。					
	テキスト	必要に応じて参考資料を配布する。					
学習評価の方法	● 専門的学習成果 課題・レポート（複数回実施；80%） ※課題・レポートについては、フィードバックを実施する。 ● 汎用的学習成果 「情報リテラシーや数量的スキル」、「論理的思考力」：受講中の態度や質疑応答等を評価する。（20%）						
注意事項	【参考】 ● SCRATCH：https://scratch.mit.edu/ ● マインクラフトアドベンチャー：https://hourofcode.info/adventure/ ● Viscuit（ビスケット）：https://www.viscuit.com/						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション シラバス、授業の進め方、成績評価の確認 プログラミング教育とは 復習内容：配付資料等を基に授業内容を復習する。
2 回	モノのインターネット（IoT）について学ぶ。 予習内容：シラバスの該当項目を確認し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する。
3 回	サブスクリプションについて学ぶ。 予習内容：シラバスの該当項目を確認し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する。
4 回	フローチャート作成① 予習内容：シラバスの該当項目を確認し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する。
5 回	フローチャート作成② 予習内容：シラバスの該当項目を確認し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する。
6 回	フローチャート作成③ 予習内容：シラバスの該当項目を確認し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する。
7 回	プログラミングの基礎① マイクラフトアドベンチャーの使用方法について。 予習内容：シラバスの該当項目を確認し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する。
8 回	プログラミングの基礎② マイクラフトアドベンチャーを実際に使用する。 予習内容：シラバスの該当項目を確認し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する。
9 回	プログラミングの基礎③ SCRATCH の使用方法について。 予習内容：シラバスの該当項目を確認し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する。

10 回	プログラミングの基礎④ SCRATCH を実際に使用する。 予習内容：シラバスの該当項目を確認し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する。
11 回	プログラミングの活用① Viscuit の使用方法について。 予習内容：シラバスの該当項目を確認し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する。
12 回	プログラミングの活用② Viscuit を実際に使用する。 予習内容：シラバスの該当項目を確認し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する。
13 回	プログラミングの活用③ Viscuit の活用方法を考える。 予習内容：シラバスの該当項目を確認し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する。
14 回	プログラミングの活用④ プログラミング言語を学ぶ。 予習内容：シラバスの該当項目を確認し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する。
15 回	Web サイト運営と著作権について学ぶ。 予習内容：シラバスの該当項目を確認し、次回の学習内容を把握する。 復習内容：配付資料等を基に講義内容を復習する。

令和 8 年 度 教 育 計 画							
科目名	キャリアガイダンス	授業回数	15	単位数	2	担当教員	副島里美・都田修兵
質問受付の方法： B 棟 308 研究室 土曜日 13：00～14：00 その他休憩時随時							
教育目標と学生の学習成果	＜教育目標＞ 子どもたちが育つ社会環境の変化に加え、産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等は、子どもたち自らの将来のとらえ方にも大きな変化をもたらしている。子どもたちは、自分の将来を考えるのに役立つ理想とする大人のモデルが見付けにくく、自らの将来に向けて希望あふれる夢を描くことも難しくなっている。 また、環境の変化は、子どもたちの心身の発達にも影響を与え始めている。たとえば、身体的には早熟傾向にあるが、精神的・社会的側面の発達はそれに伴っておらず遅れがちであるなど、全人的発達がバランス良く促進されにくくなっている。具体的には、人間関係をうまく築くことができない、自分で意思決定できない、自己肯定感をもてない、将来に希望をもつことができない、といった子どもの増加などがこれまでも指摘されてきた。 このような現状をふまえ、本科目は、これまでの自らの視野を広げ、進路を具体化し、それまでに育成した社会的・職業的自立に必要な能力や態度を専門分野の学習を通じて伸長・深化させていくことを目的とし、多様なキャリア形成に共通して必要な能力や態度の育成と、これらの育成を通じた勤労観や職業観等の価値観の形成・確立のための基礎を培う。 ＜学生の学習成果＞ 専門的学習成果：社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力（「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」）を身につける。 汎用的学習成果：社会的・職業的自立に向け、「態度・信念」、「価値・意見」、「論理的思考力」、「人間関係力」を身につける。						
	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・授業回数別授業内容に沿った講義後、演習をおこなう。 ・演習は個人又は集団で実施する。					
	予習・復習	予習及び復習 ・毎授業回に、「授業回数別教育内容」に記された予習及び復習を求める。 ・予習については、第1回～15回に向けて、90分×15回を目安とする。また、復習については、第1回～15回に向けて、90分×15回を目安とする。					
	テキスト	配布資料（レジュメ・ワークシート） ※授業開始時に配布する。					
学習評価の方法	自分自身のキャリアプランニングをおこない、将来の就職に関連することに積極的に取り組んでいるかに重点をおき、以下の配点によって学習評価を行う。 （1）専門的学習成果（50点） ●「履歴書」作成と提出（30点） 本学規定の「履歴書」の様式にあわせて、個人の情報や「免許・資格」、「長所・短所」、「趣味・特技」、「自己PR」、「志望動機」を記入し、提出する。なお、記入内容に不備がある者については、不備を修正等行っただけで、再提出する。 ●「進路希望調査票」の作成と提出（20点） 自身の進路について考えながら、「進路希望調査票」を作成し、提出する。なお、記入内容に不備がある者については、不備を修正等行っただけで、再提出する。 （2）汎用的学習成果（50点）						

	●<u>模擬集団面接（10点）</u> 数人編成のグループごとに模擬集団面接を実施する。なお、面接官は授業担当者2人で担当し、学生それぞれに対して「A：5点、B：4点、C：3点」の3段階評価により評価を行い、面接官2人の評価を合計する。 ※模擬集団面接を欠席した者については、後日模擬面接を実施する。 ※模擬集団面接終了後、評価基準をもとにフィードバックを実施する。 ●<u>グループディスカッション（10点）</u> グループ別にグループディスカッションを実施する。評価については、ディスカッションへの参加及びワークシートへの記入によって行う。 ※グループディスカッションを欠席した者については、レポート課題を課し、最大8点満点による評価を行う。 ※グループディスカッション終了後、評価基準をもとにフィードバックを実施する。 ●<u>シャトルカード（2点×15回＝30点）</u> シャトルカードにその授業における学びや疑問、感想を記入し、それを授業担当者が評価する。 (3) その他 学習評価の方法（1）（2）以外に受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、以下のケースに応じて減点することとする。ただし、最大で5点までの減点にとどめるものとする。 ・「過度の居眠り」及び「不必要な私語」（1点） ・「無許可による携帯電話の使用（SNS等）」（2点）
注意 事項	<参考文献> 中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」（平成23年1月31日）。 URL：http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/02/01/1301878_1_1.pdf 神長美津子（監修）・米谷美和子ほか（著）『キラッと光る保育者のマナー』ひかりのくに、2005。 森真理ほか『保育者のマナー』チャイルド本社、2006。 塩谷香（監著）『保育者のマナーと常識』少年写真新聞社、2012。 横山洋子ほか『保育者のためのお仕事マナーBook』学研プラス、2015。 中野悠人ほか『先輩が教えてくれる！ 新人保育士のきほん』翔泳社、2016。 ※そのほか適宜、授業内で参考文献を示す。
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	○授業の進め方についての説明（副島・都田） ・キャリアガイダンスの授業計画を解説する。 （教育目標と学習成果、授業の進め方、具体的な授業内容、評価の方法など） ・キャリア支援室紹介 ・公務員対策講座説明 ・「履歴書」の書き方（第1回目 学歴・職歴） 学習成果：授業回数別教育内容に関して理解する。 復習事項：本時の内容を復習する。
2 回	○求人票の見方と就労、生活設計・家計管理（副島・都田） ・経営形態（社会福祉法人・株式会社・NPO法人、認可・無認可） ・勤務形態（正職・嘱託・臨時） ・給与（基本給・諸手当・所得税・手取り） ・金融関係（家計、クレジットカードほか） 学習成果：経営形態や勤務形態、給与などについて学ぶ。 予習事項：就職についての質問などを考えてくる。 復習事項：本時の内容を復習する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
3 回	○ 本学における学び、就職活動とその状況（副島・都田） ・ 種別（幼稚園、保育所、こども園、施設、その他） ・ 規模と働き方（大規模園・中規模園・小規模園、院内保育・企業内保育） ・ 活動時期と活動日について ・ 内定までのプロセスについて（実習、見学、ボランティア、面接、試験について） ・ 就職先の探し方について 実習先、求人票、教員の紹介、親や地元関係者の紹介、市町村ごとの社会福祉協議会の就職紹介コーナー、ネット人材バンクを利用する時の注意など。 学習成果：就職活動とその状況について学ぶ。 予習事項：自分の就職について考えてくる。 復習事項：本時の内容を復習する。
4 回	○ 「履歴書」の書き方（2回目）（副島・都田） 履歴書の書き方、とくには長所・短所、趣味・特技、自己PRについて、これまでの学校生活で得た知識・技能を書き出しまとめる。 学習成果：自分の個性を理解し、これまでの経験を具体化することによって履歴書の自己PR欄が書けるようになる。 予習事項：長所・短所、趣味・特技、自己PRについて考えてくる。 復習事項：長所・短所、趣味・特技、自己PRの書き方について復習する。
5 回	○ 「履歴書」の書き方（3回目）（副島・都田） 履歴書の書き方、とくには志望動機について、保育者になろうと思った動機などについてまとめる。 学習成果：各自が保育者への道を再発見し、実習への課題や自己課題を具体化することによって履歴書の志望動機欄が書けるようになる。 予習事項：志望動機について考えてみる。 復習事項：志望動機の書き方について復習する。
6 回	○ 就職について（1）（試験対策編）（副島・都田） 保育者として、幼稚園や保育所（園）、各種施設などに就職する際の試験（専門試験やSPI）について具体的に理解する。さらにその際に、「研究倫理」についても理解する。 学習成果：就職する際の試験（専門試験やSPI）について具体的に理解する。 予習事項：園の就職試験について調べてくる。 復習事項：就職する際の試験（専門試験やSPI）について復習する。
7 回	○ 就職について（2）（試験対策編）（副島・都田） 保育者として、幼稚園や保育所（園）、各種施設などに就職する際の試験（作文・小論文）に具体的に理解する。 学習成果：就職する際の試験（作文・小論文）に具体的に理解する。 予習事項：園の就職試験について調べてくる。 復習事項：就職する際の試験（作文・小論文）について復習する。
8 回	○ 就職に関するマナー講座（1）（副島・都田） ・ 面接における入退室のマナーを学ぶ。 ・ 話し方、聞き方を学ぶ（敬語）。 学習成果：面接時のマナーについて理解する。 予習事項：面接時のマナーについて考えてくる。 復習事項：面接時のマナーについて復習する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	○就職に関するマナー講座（２）（副島・都田） ・企業への電話でのマナーを学ぶ。 ・企業への書類作成のマナーを学ぶ（添え状、封筒の表書き、裏書）。 学習成果：就職活動に必要なマナーが身につく。 予習事項：電話や書類作成のマナーについて考えてくる。 復習事項：電話や書類作成のマナーについて復習する。
10 回	○就職について（３）（副島・都田） ・就職試験における個人面接及び集団面接の基礎的事項を理解する。 学習成果：個人面接及び集団面接の基礎的事項を学ぶ。 予習事項：面接の際に重要だということを考えてくる。 復習事項：個人面接及び集団面接の基礎的事項について復習する。
11 回	○就職について（４）（副島・都田） ・就職試験における集団面接を想定しての<u>模擬面接の演習</u>を行う。 ※集団面接は試験官役を教員２名が担当する。 学習成果：模擬面接を通して、社会的・職業的自立のための能力を身につける。 予習事項：模擬面接での応答をイメージしてくる。 復習事項：模擬面接を通して、自身の課題を見つける。
12 回	○就職について（５）（副島・都田） ・就職試験における集団面接を想定しての<u>模擬面接の演習</u>を行う。 ※集団面接は試験官役を教員２名が担当し、総評をおこなう。 学習成果：模擬面接を通して、社会的・職業的自立のための能力を身につける。 予習事項：模擬面接での応答をイメージしてくる。 復習事項：模擬面接を通して、自身の課題を見つける。
13 回	○就職について（６）（副島・都田） ・就職試験におけるグループディスカッションの基礎的事項を理解する。 学習成果：グループディスカッションの基礎的事項を学ぶ。 予習事項：グループディスカッションの際に重要だということを考えてくる。 復習事項：グループディスカッションの基礎的事項について復習する。
14 回	○就職について（７）（副島・都田） ・就職試験におけるグループディスカッションを想定しての<u>グループディスカッション</u>を行う。 学習成果：グループディスカッションを通して、社会的・職業的自立のための能力を身につける。 予習事項：グループディスカッションでの応答をイメージしてくる。 復習事項：グループディスカッションを通して、自身の課題を見つける。
15 回	○就職について（８）、総括（副島・都田） ・就職試験におけるグループディスカッションを想定しての<u>グループディスカッション</u>を行う。 ・本科目の総括を行う。 学習成果：グループディスカッションを通して、社会的・職業的自立のための能力を身につける。 本授業の総括を行い、今後の自身のキャリアについて考えてみる。 予習事項：グループディスカッションでの応答をイメージしてくる。 復習事項：グループディスカッションを通して、自身の課題を見つける。

令和 8 年 度 教 育 計 画								
科目名	英語（A）		授業回数	15	単位数	1	担当教員	花田春香
質問受付の方法（e-mail，オフィスアワー等）：授業時間中 OH：――								
教育目標と学生の学習成果	教育目標：英語を「読む」「書く」「聞く」「話す」を統合的に学び，①英語の総合力を向上させ，②実用的に英語を活用する力を身につける．③多文化共生社会における人間関係形成力と職業的意義も踏まえた実践的な学習を行う（グループ・ワークなど）．④就学前児童教育関連の英語に親しみ，保育の現場で活用できる． 学生の学習成果：教育目標に記載した①～④の専門的学習成果と 汎用的学習成果として，自己管理能力と教育を通した人間関係形成力（自己表現，他者理解，問題解決）を涵養する．							
教育方法	授業の進め方	(講義・ 演習 ・実験・実習・実技) ※原則，英語で授業は進行される．挨拶，質問などを英語で行う（あるいは，行おうとする）こと． 1. Reading: ESL のテキストを用いて「読む」「聞く」「話す」「書く」の総合的な言語活動を行う．内容を理解する．活用できる語彙を増やす．内容理解と英語の発音や抑揚を練習する． 2. グループ/ペア・ワークを中心に実践的な英語スキル習得．就学前児童の外国語活動をリードできるようなスキルの育成ワークショップを行う．						
	予習・復習	予習・復習の時間はそれぞれ 45 分，45 分行う． ・毎授業毎に「授業回数別教育内容」に記載された予習を求める． ・毎授業毎に「授業回数別教育内容」に記載された復習を求める． ・復習を行なったかどうかは小テストや発表，予習については授業中に発言を求めることなどで確認する．						
	テキスト	・Pearson Japan, 2015, 『TOP NOTCH 3 rd EDITION FUNDAMENTALS:Student Book』 ・英語の絵本や歌の資料 ・プリント教材．						
学習評価の方法	1. 各 Unit のまとめプリント：合計 40 点 →言語活動を通して「読む」，「聞く」のペーパーテストによる評価． 2. プレゼンテーション：各授業の英語の歌，絵本を実践に活用できるか，を評価．学習した英語が活用できる．自分の関心を英語で表現できる．10 点 →自己表現と他者理解（習得した内容を効果的に英語と保育で活用できるアイデア・準備・コミュニケーション能力を評価．発表ごとにフィードバックする．） 3. 定期テスト：50 点（100 点満点×0.5） →「英語を使える」ことにおいて重要な語彙力，「聞く」こと，「書く」こと，「読む」ことを，学習を通して身につけられたかを評価．ペーパーテスト．							
注意事項	【参考図書・資料】 ・Pearson Japan, 2015, 『TOP NOTCH 3 rd EDITION FUNDAMENTALS:Student Book』アプリ ※授業内にて詳細説明． ・SESAME STREET 公式サイト https://www.sesamestreet.org ※無料，子ども向け英語ゲーム，動画が閲覧できる． ・「瞬間 英会話」動画 他，授業中に指示します．							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	・オリエンテーション：授業の目標、進め方、持ち物、単位認定方法を理解する。 ・演習内容と成果：英語での自己紹介。友人を紹介できる。 ・習得する保育に推奨する英語の歌や絵本を聞いたり、読んだりしてみる。 ・保育園・幼稚園でできる英語ワークショップ：絵本① (<u>Our Sweet Home</u>) 導入 *配布物：絵本のプリント① / オリエンテーションプリント+自己紹介プリント *MOODLE：歌の歌詞カードをすべて掲載する。 予習・復習：英語の絵本の本文と歌詞は必ず覚えること。教科書の内容は授業で指示します。
2 回	テーマ1：アルファベットと天気 ・保育園・幼稚園で活用できる英語の歌① 発表（グループ or ペアで）。 ・教科書 Unit1 Names and Occupations ・保育園・幼稚園でできる英語ワークショップ：絵本② (<u>Our Sweet Home</u>) 発表 - 動画を観て、内容、音読（発音・抑揚）練習。読み聞かせのためのグループを作り、練習。 ・英語の教育関連映像を観る。 予習・復習：同上 学習成果：基礎的・実践的な英語を習得しながら、保育士の現場で使える英語を学ぶ。
3 回	・保育園・幼稚園で活用できる英語の歌② 導入。 ・教科書 Unit1 Names and Occupations/ 小テスト ・保育園・幼稚園でできる英語ワークショップ：絵本② (SAM and MEG) 導入 *配布物：絵本② *予習・復習：英語の歌を覚える。絵本と歌の予習。教科書の内容は授業で指示。 学習成果：同上のため、以下省略。
4 回	・Unit2 About People ・保育園・幼稚園でできる英語ワークショップ：絵本② (SAM and MEG) 発表 ・保育園・幼稚園で活用できる英語の歌② 発表（グループ or ペアで）。 *予習・復習：同上（小テストがある際は、テスト準備をすること。）
5 回	テーマ2：からだ ・保育園・幼稚園で活用できる英語の歌③導入 (<u>Close and Open Your Hands</u>) の練習。発音や発声の確認。 ・教科書 Unit2 About People ・保育園・幼稚園でできる英語ワークショップ：絵本③ (<u>Catch me Catch me</u>) 導入 *予習・復習：同上
6 回	・保育園・幼稚園で活用できる英語の歌③発表（グループ or ペアで）。 ・Unit2 About People / 小テスト ・保育園・幼稚園でできる英語ワークショップ：絵本③発表 (<u>Catch me Catch me</u>) 予習・復習：小テスト準備。歌詞は必ず覚えること。教科書の内容は授業で指示します。 学習成果：基礎的・実践的な英語を習得しながら、保育士の現場で使える英語を学ぶ。
7 回	・保育園・幼稚園で活用できる英語の歌④ 導入 (<u>Head Shoulders Knees and Clap! Or Toe</u>) ・Unit3 Places and How to Get There ・保育園・幼稚園でできる英語ワークショップ：絵本②習得 (<u>What Can You Do?</u>) グループに分かれて練習。 *配布物：小テスト 予習・復習：歌詞は必ず覚えること。絵本③の予習をすること。教科書の内容は授業で指示。
8 回	テーマ3：動き1 ・保育園・幼稚園で活用できる英語の歌④ (<u>Head Shoulders Knees and Clap! Or Toe</u>) 発表（グループ or ペアで）。 ・教科書 Unit3 Places and How to Get There / 小テスト ・保育園・幼稚園でできる英語ワークショップ：絵本③発表 (<u>What Can You Do?</u>) 予習・復習：絵本の本文をしっかりと読む。覚える。絵本の発表準備。教科書なようは授業時間に指示する。 学習成果：7回までのものと同様とする。

9 回	・保育園・幼稚園で活用できる英語の歌⑤導入 ・Unit4 Places and How to Get There ・保育園・幼稚園でできる英語ワークショップ：絵本④（<u>Monsters Inc.</u>）導入 予習・復習：歌詞を覚え、発表できる状態にする。ほか授業時間に指示。学習成果：同上
10 回	・保育園・幼稚園で活用できる英語の歌⑤発表（グループ or ペアで）。 ・Unit4 Family / 小テスト ・保育園・幼稚園でできる英語ワークショップ：絵本④（<u>Monsters Inc.</u>）発表 *配布物：小テスト 予習・復習：絵本の本文をしっかりと読む。覚える。ほか授業時間に指示。学習成果：同上
11 回	・保育園・幼稚園で活用できる英語の歌⑥（The Hokey-Pokey）導入 ・教科書 Unit5 Events and Times ・保育園・幼稚園でできる英語ワークショップ：絵本⑤ 導入 *配布物：絵本④ 予習・復習：上記と同様とする。 学習成果：同上
12 回	テーマ4：動き2 ・保育園・幼稚園で活用できる英語の歌⑥（The Hokey-Pokey）発表（グループ or ペアで） *動画撮影を予定。 ・Unit5 Events and Times / 小テスト ・保育園・幼稚園でできる英語ワークショップ：世界の遊び 準備（ルール説明など） 予習・復習：上記と同様とする。 学習成果：同上
13 回	・保育園・幼稚園でできる英語ワークショップ：世界の遊び 実践 ・最終プレゼンテーション準備…グループ決め、発表内容決め、評価説明。
14 回	・保育園・幼稚園でできる英語ワークショップ：世界の遊び 実践 ・最終プレゼンテーション準備…グループ決め、発表内容決め、評価説明。 予習・復習：全体復習とプレゼンテーション準備。 学習成果：同上
15 回	・最終プレゼンテーション発表 ・前期 最終テストに向けての振り返り。 *配布物：前期内容 振り返りプリント 予習・復習：プレゼンテーション準備。学習内容を全て振り返って、資料などを整理する。 学習成果：実践の場で活用できる英語のスキルを身につける。協同作業を通した言語活動で英語を通して人間関係形成力とコミュニケーション能力で学習成果を発表できる。

令和 8 年 度 教 育 計 画								
科目名	英語（B）		授業回数	15	単位数	1	担当教員	花田春香
質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー等）：授業時間中 OH：――								
教育目標と学生の学習成果	教育目標：英語を「読む」「書く」「聞く」「話す」を統合的に学び、①英語の総合力を向上させ、②実用的に英語を活用する力を身につける。時事問題にも触れ、③多文化共生社会における人間関係形成力と職業的意義も踏まえた実践的な学習を行う（グループ・ワークなど）。④就学前児童教育関連の英語に親しみ、保育の現場で活用できる。							
	学生の学習成果：教育目標に記載した①～④の専門的学習成果と 汎用的学習成果として、自己管理能力と教育を通じた人間関係形成力（自己表現、他者理解、問題解決）を涵養する。							
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ※原則、英語で授業は進行される。挨拶、質問などを英語で行う（あるいは、行おうとする）こと。 1. Reading: ESL のテキストを用いて「読む」「聞く」「話す」「書く」の総合的な言語活動を行う。内容を理解する。活用できる語彙を増やす。内容理解と英語の発音や抑揚を練習する。 2. グループ/ペア・ワークを中心に実践的な英語スキル習得。就学前児童の外国語活動をリードできるようなスキルの育成ワークショップを行う。						
	予習・復習	予習・復習の時間はそれぞれ 45 分、45 分行う。 ・毎授業毎に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・毎授業毎に「授業回数別教育内容」に記された復習を求める。 ・復習を行なったかどうかは単語テストや指名により、予習については授業中に発言を求めることなどで確認する。						
	テキスト	・Pearson Japan, 2015, 『TOP NOTCH 3 rd EDITION FUNDAMENTALS:Student Book』 ・プリント教材 ・英語の絵本や歌の資料						
学習評価の方法	1. 各 Unit のまとめプリント： 合計 40 点（80 点満点の小テスト Unit6～10 の合計） →言語活動を通して「読む」, 「聞く」のペーパーテストによる評価。 2. プレゼンテーション： 各授業の英語の歌、絵本を実践に活用できるか、を評価。学習した英語が活用できる。自分の関心を英語で表現できる。10 点 →自己表現と他者理解（習得した内容を効果的に英語と保育で活用できるアイデア・準備・コミュニケーション能力を評価。発表ごとにフィードバックする。） 3. 定期テスト：50 点（100 点満点×0.5） →「英語を使える」ことにおいて重要な語彙力, 「聞く」こと, 「書く」こと, 「読む」ことを、学習を通して身につけられたかを評価。ペーパーテスト。							
注意事項	【参考図書】 ・Pearson Japan, 2015, 『TOP NOTCH 3 rd EDITION FUNDAMENTALS:Student Book』アプリ ※授業内にて詳細説明。 ・SESAME STREET 公式サイト https://www.sesamestreet.org ※無料, 子ども向け英語ゲーム, 動画が閲覧できる。 ・「瞬間 英会話」動画 他, 授業中に指示します。							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	①オリエンテーション…後期授業内容の共有。授業で持参するもの。試験実施について。評価など。 ②言語活動：夏休みの出来事をシェアする。：プリント使用 ③英語の絵本の読み聞かせ実践練習 絵本⑥導入 ④英語の歌⑦（“If you’ re happy and you know it）導入 *配布物： 夏休みシェアトーク プリント / オリエンテーションプリント *Moodle：歌詞カードはすべて掲載。 ・予習：教科書の問題を解いておく。絵本を読んでおく。歌詞を覚える。 ・演習内容：コミュニケーションな英語学習を通して英語スキルを向上し、教育の現場で活用できる英語の言語活動で主体的な学習者、指導者の基礎を養う。
2 回	① 英語の歌⑦ “If you’ re happy and you know it” 発表（グループ or ペアで）。 ② Unit6 Clothes ③英語の絵本の読み聞かせ実践 絵本⑥習得 発表。 ・瞬間 英語発話練習 ・予習・復習：絵本の朗読、読み聞かせができるように練習する。絵本の動画を観て、キレイな発音、抑揚を練習すること。歌詞カードで、歌の語句を流暢に読めるようにしておく。ほか授業時間に指示。 学習成果：英語コミュニケーション能力を向上し、教育活動に活かせる英語の能力・アイデアを主体的に身につける。アウトプットできる。
3 回	① Unit6 Clothes 小テスト ② 英語の絵本の読み聞かせ実践 絵本⑦ “Brown Bear, Brown Bear, What Do You See” 導入 ・瞬間 英語発話練習 *配布物：絵本⑦ “Brown Bear, Brown Bear, What Do You See” ・予習・復習：絵本の朗読、読み聞かせができるように練習する。絵本の動画を観て、キレイな発音、抑揚を練習すること。歌詞カードを見ながら正しい語句で歌を歌えるようにしておく。ほか授業時間に指示。
4 回	① 英語の絵本⑦の読み聞かせ実践練習・歌 ② グループ・ワーク：外国語活動ツールの作成 1（グループ分け） *持ってくる物注意！必ず、ハサミ、のり、ホッチキスなどをグループで手分けして持ってくる。 ・予習復習：絵本の朗読、読み聞かせができるように練習する。絵本の動画を観て、キレイな発音、抑揚を練習すること。歌詞カードを見ずに、正しい語句で歌を歌えるようにしておく。
5 回	①Unit7 Activities ③英語の絵本の読み聞かせ実践練習 “Brown Bear, Brown Bear, What Do You See” 習得 グループ・ワーク：外国語活動ツールの作成 2 ・瞬間 英語発話練習 *持ってくる物注意！必ず、ハサミ、のり、ホッチキスなどをグループで手分けして持ってくる。 ・予習：同上 ・復習：絵本の朗読、読み聞かせができるように練習する。絵本の動画を観て、キレイな発音、抑揚を練習すること。歌詞カードを見ながら、正しい語句で歌を歌えるようにしておく。
6 回	① Unit7 Activities 小テスト ③英語の絵本の読み聞かせ実践練習 “Brown Bear, Brown Bear, What Do You See” 。 グループ・ワーク：<u>活動ツールを使いながら、絵本朗読発表練習。発表</u> *持ってくる物注意！必ず、ハサミ、のり、ホッチキスなどをグループで手分けして持ってくる。 ・予習：Unit7 小テスト対策。 ・復習：絵本の朗読、読み聞かせができるように練習する。歌詞カードを見ずに、歌える除隊にしておく。
7 回	①英語の歌 “Ten Little Pumpkins” 導入・活用 ②Unit8 Home and Neighborhood ・予習：Unit8 の問題を解いておく。歌詞カードで、歌の語句を流暢に読めるようにしておく。 ・復習：学習した、歌、絵本は目線を開き手に向けながら行えるようにしておく。語句を覚えておく。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	①外国の遊びを覚える：外国の遊びを覚え、学びと遊びの誘導を練習する。 ※集合場所は教室ではありませんので気をつけること。 ・予習：Unit8, 英語の歌の予習をすること。復習：教科書で間違えた問題を復習し、単語やフレーズを覚えること。英語の歌の歌詞を覚えておくこと。
9 回	① Unit8 Home and Neighborhood ② 絵本⑧ “I AM A BUNNY” 導入 ③ 絵本⑧ “I AM A BUNNY” 読み聞かせ実践発表（グループ or ペアで）。 ④ 瞬間 英語発話練習 *配布物：絵本⑧ “I AM A BUNNY” ・予習：Unit8 小テスト対策。 ・復習：歌詞を暗記しておくこと。書ける、読める、教えられるまで。教科書の語彙も必ず 覚えること。
10 回	① Unit8 Home and Neighborhood 小テスト ② MINUTE TO WIN IT GAMES：1 分間、室内で子どもとできる英語のゲームを学ぶ。“STACK IT UP” など ・予習：歌詞カード見ずに歌えるように練習する。 ・復習：学習した、歌、絵本は目線を聞き手に向けながら行えるようにしておく。語句を覚えておく。
11 回	① Unit9 Activities and Plans ② 英語の歌 “We Wish You A Merry Christmas” 導入 ③英語の絵本⑨ “SAM AND MEG” 導入 ・予習・復習：学習した、歌、絵本は目線を聞き手に向けながら行えるようにしておく。語句を覚えておく。
12 回	① 英語の歌 “We Wish You A Merry Christmas” 発表（グループ or ペアで）。 ② “SAM AND MEG” 発表（グループ or ペアで）。 ③ Unit9 Activities and Plans 小テスト ・予習・復習：学習した、歌、絵本は目線を聞き手に向けながら行えるようにしておく。語句を覚えておく。外国語活動ツールの準備。
13 回	① Unit10 FOOD ② 絵本⑩ 導入 ・予習：Unit9 小テスト対策 ・成果：保育の現場で就学前児童への遊び、音楽、朗読を通した外国語活動の実践者となる。
14 回	① Unit10 FOOD 小テスト ② 絵本⑩発表 予習・復習：授業で学んだことを全体的に復習しておく。 ・成果：学習したことをどのように保育の現場で活用できるのか、意見交換をしながら活用を考える。
15 回	①後期、試験範囲の復習を行う。 「学び合い」の方法で、後期学習した内容を振り返る。 ②自身の習得した、英語を活用した保育の企画を考え、発表する。 ・成果：保育の現場で就学前児童への遊び、音楽、朗読を通した外国語活動の実践者となる。実践的な英語学習を通して行なったテキストを中心とした学習を活用する。 *配布物：後期内容振り返りプリント

令和 8 年 度 教 育 計 画							
科目名	体育実技	授業回数	15	単位数	1	担当教員	吉田 升
質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー）：nyoshida@owc.ac.jp、月曜日 5 限目							
教育目標と学生の学習成果	教育目標： 体育実技を通して、体力や技能の向上を図り、仲間と体を動かす楽しさを味わうことでコミュニケーション能力を身につける。また、生涯にわたってスポーツを行う生活習慣を身につける。 学生の学習成果 ・専門的学習成果：1 基礎技能の向上及び試合ができる技能・能力が身に付く。 2 日常生活に必要な体力を養う。 ・汎用的学習成果：スポーツ活動に積極的に参加し、実践する態度が身につく。コミュニケーション能力や自己管理能力が向上し、人間関係力が身につく。						
	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) ・6 種目の球技を実践する。 ・体力維持の為、筋力トレーニングを行う。 ・それぞれの球技のルールを説明し、基礎技能の練習や試合を行う。 ・グループ編成で授業を進めていく。 ・用具の管理を当番制で行う。					
教育方法	予習・復習	1 回の授業に対する予習および復習の時間はそれぞれ 90 分とする。 予習：講義における主要な内容について予習を課す。 復習：講義内容における重要な項目について復習を課す。					
	テキスト	特に設けない。					
学習評価の方法	専門的学習成果 ・バドミントン ・卓球 ・バレーボール ・ソフトバレーボール ・バスケットボール ・硬式テニス 等 技能、ルール理解の評価を行う（70%）。 汎用的学習成果 スポーツ活動に参加する態度（20%）「態度・信念」 グループ活動での参加態度（10%）「人間関係力」						
注意事項	服装等について：室内で用いる運動用シューズを準備すること。服装は、運動に適した服装で参加すること。アクセサリ等については、可能な限り全て外すこと。 遅刻について：準備運動終了後入室した場合、怪我などの心配があるため、指導者の指示に従って授業に参加すること。 見学者について：授業内容を見学用紙に記入すること。 トイレ等で退室する場合、入室時に帰ってきたことを伝えること。 体調等が悪い場合は、事前に申し出ること。						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション 授業の進め方、安全に対する留意点、学習評価の方法、施設、用具の使い方について説明する。 基礎運動 ストレッチ、ランニング、腹筋、背筋などの実技を行う。 学習評価 授業の進め方及び学習評価の方法を理解する。毎回の授業において基礎運動を行うことにより体力が身に付くことを理解する。 【予習】シラバスを読み、講義の内容を確認し、ストレッチについて調べる。 【復習】基礎運動について復習する。
2 ・ 3 回	ソフトバレーボール ・ 基礎技能の習得：アンダーパス オーバーパスの技能習得をする。 ・ ルールの説明：2ゲーム先取で行う。1ゲーム 15点、1対1の場合は3ゲーム目を行う。ただし3ゲーム目は5点で勝敗を決める。 ・ 試合：チームごと対戦相手を決め交流を図る。 学習評価 基礎技能の向上及びルールを理解することにより試合を円滑に進めることが出来る。対戦相手と交流を図ることでコミュニケーション能力が身に付く。 【予習】ソフトバレーボールのルールを調べる 【復習】アンダーパス、オーバーパスを復習する。
4 ・ 5 ・ 6 回	硬式テニス ・ 基礎技能の習得：ストローク、サーブ、レシーブの技能習得をする。 ・ 2人組、4人組で打ち合いを行う。 学習成果 基礎技能の向上及び試合が出来る能力が身に付く。 【予習】硬式テニスのルールについて調べる。 【復習】サーブやストロークの復習をする。
7 回	バドミントン ・ 基礎技能の習得：ストローク、ハイクリヤー、スマッシュ、ドロップ、サーブの技能習得をする。 ルールの説明：実践を交えながらルールの理解を行う。 学習成果 基礎技能の向上及び試合ができる技能・能力が身に付く。 【予習】バドミントンのシングルのルールについて調べる。 【復習】サーブ、スマッシュ、ヘアピンについて復習する。
8 ・ 9 回	バドミントン ・ 試合（ダブルス）：リーグ戦を行う（グループごと）。 学習成果 ・ 試合戦術が向上する 積極的に実践する態度が身に付く。 【予習】バドミントンのダブルスのルールについて調べる。 【復習】バックスイングの復習をする。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
10 回	卓球 ・試合（シングルス）基礎技能の習得 リーグ戦を行う（グループごと）サーブ ストロークの技能習得をする。 ・ルール説明：実践を交えながら ルールの理解を行う 学習成果 卓球：基礎技能の向上及び試合ができる技能・能力が身に付く。 【予習】卓球のルールについて調べる。 【復習】サーブ、ラリーについて復習する。
11 ・ 12 回	卓球 ・試合（ダブルス）リーグ戦を行う。 学習成果 卓球：練習してきた成果が発揮できる能力が身に付く（自己実現） 【予習】サーブと10回以上のラリーの練習をする。 【復習】サーブとラリーについて復習する。
13 回	バスケットボール ・基礎技能の習得：チェスト等のパス ジャンプ・ドリブルシュートの技能習得をする。 ・ルールの説明：実践を交えながらルールを理解する。 ・試合：グループ編成を行い、交流戦を行う。 学習成果 基礎技能の向上及び試合ができる技能・能力が身に付く。戦術を考えることで、協力し合う態度、価値観、意見などの自己表現力が身に付く。 【予習】バスケットボールのルールを調べる。 【復習】パスとドリブルについて復習する。
14 ・ 15 回	バレーボール ・基礎技能の習得：サーブ、レシーブ、オーバー・アンダーハンドパスを習得する。 ・ルールの説明：実践を交えながらルールの理解をする。 ・試合：グループ編成を行い、交流戦を行う。 学習成果 基礎技能の向上および試合ができる技能・能力が身に付く。戦術を考えることで、協力し合う態度、価値観、意見などの自己表現力が身に付く。 【予習】バレーボールのルールについて調べる。 【復習】アンダーハンドパスとオーバーハンドパスについて復習する。

令和 8 年 度 教 育 計 画							
科目名	体育理論	授業回数	8	単位数	1	担当教員	吉田 升
質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー）：nyoshida@owc.ac.jp、月曜日 5 限目							
教育目標と学生の学習成果	教育目標： 1. 体力の保持・増進に係る科学的な運動処方及び生涯体育の必要性に対する理解 2. 現代社会における心身の健康を取り巻く諸問題に対する理解 3. 健康生活の構築を図るための有効なアプローチに対する理解 学生の学習成果： ・専門的学習成果として、上記 3 項目の教育目標を達成できるようにする。 ・汎用的学習成果として、積極的に体力の保持・増進を図るための「価値・意見」を形成すると共に、「論理的思考力」を身につける。						
教育方法	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) 上述の教育目標及び学習成果を達成するために、シラバスに示すテーマ以外にも、健康を脅かす喫緊の課題があれば、その内容を盛り込んで講義を展開する。 また、講義内容にかかわらず、以下の項目を重視して授業を進める。 1. 取り扱う全テーマについて、自らの問題として関心を持って捉える姿勢を育む。 2. 問答式授業を採用し、積極的な発表や質疑応答等を通して授業を活性化する。					
	予習・復習	1 回の授業に対する予習および復習の時間はそれぞれ 90 分とする。 予習：講義における主要な内容について予習を課す。 復習：講義内容における重要な項目について復習を課す。					
	テキスト	・テキストは使用せず、講義内容に即したプリントを使用して講義を進める。 * 補助教材として、VTR や DVD を適宜使用する。					
学習評価の方法	●専門的学習成果 筆記試験：下記 3 点について、用語の説明および図等を用いた論述を課す。(80%) （1）体力の保持・増進に係る科学的な運動処方及び生涯体育の必要性に対する理解 （2）現代社会における心身の健康を取り巻く諸問題に対する理解 （3）健康生活の構築を図るための有効なアプローチに対する理解 ●汎用的学習成果 「価値・意見」及び「論理的思考力」：受講中の態度や質疑応答等を評価する。(20%)						
注意事項	参考図書等 ・緒方正名編『健康科学概論』朝倉書店、1992 年。 ・田口貞善・山地啓司編『運動・健康とからだの秘密』近代科学者、1998 年。 ・春日規克編『運動生理学の基礎と発展』星雲社、2018 年。						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	■オリエンテーション 教育目標と学生の学習成果、教育方法、学習評価の方法について説明する。 ■講義内容〔生活習慣病予防のための運動と食事〕 現代の生活習慣病を学び、生活習慣病予防のための運動と食事について解説する。 *学習成果：生活習慣病予防のための運動と食事の方法について理解する。 【予習】心身の問題や課題について調べる。 【復習】現代人の心身の問題について考え、生活習慣についても復習する。
2 回	■講義内容〔運動と筋肉〕 骨格筋の構造と働き、筋収縮様式と運動・スポーツの種類との関連性について解説する。 *学習成果：運動・スポーツによる身体への具体的な効力について理解する。 【予習】筋肉について調べる。 【復習】トレーニングの方法について復習する。
3 回	■講義内容〔発育と発達〕 人体の発育・発達について解説する。 *学習成果：人間を支える骨格の構造や働きを理解し、身体の発育・発達について理解する。 【予習】人間の骨の働きについて調べる。 【復習】現在の自分の身体の発育・発達について復習する。
4 回	■講義内容〔ストレス〕 ストレス発生のメカニズムと生理的変化、引き起こされるストレス病について解説する。 *学習成果：ストレスのメカニズムと回避・解消法について理解する。 【予習】ストレスの要因について調べる。 【復習】ストレスの回避・解消法の実際について復習する
5 回	■講義内容〔運動と体温〕 体温調節のしくみと運動時の環境温について解説する。 *学習成果：運動時の体熱産生・放散について理解する。 【予習】体温の測定方法を調べ、体温を測定し、自分の平熱を調べる。 【復習】高温環境下での運動時に発生する事故および対処法について復習する。
6 回	■講義内容〔ここの健康〕 現代に生きる我々が抱える心身を取りまく諸問題について解説する。 *学習成果：現代社会における心身の諸問題について理解する。 【予習】心身の問題や課題について調べる。 【復習】現代人の心身の問題について復習する。
7 回	■講義内容〔運動と循環〕 循環器系の機能と構造について学び、運動時の身体の循環機能について解説する。 *学習成果：心臓から送り出された血液が人体の何に使われているのかについて理解する。 【予習】心臓の形態や構造について調べる。 【復習】運動による循環動態について復習する。
8 回	■講義内容〔妊娠・出産〕 生命誕生について、「DVD／驚異の小宇宙(1)人体～生命の誕生～」の視聴により解説する。 *学習成果：妊娠・出産に伴う心身の変化を通して「生命の尊厳」について理解する。 【予習】生命の誕生について調べる。 【復習】「生命の尊厳」について復習する。

令和 8 年 度 教 育 計 画													
科目名	基礎音楽	授業回数	15	単位数	1	担当教員	大羽敬子						
質問受付の方法： S－Tシャトルカード、授業時間の前後													
教育目標と学生の学習成果	〈教育目標〉 音楽表現に必要な基礎知識を習得し、保育・教育現場で実践できる表現技能を身につけ、自ら音楽表現の楽しさを味わうことを目標とする。 1. 楽譜を読むために必要な基礎知識を習得する。 2. 習得した読譜力を、歌唱・ピアノ演奏における表現の向上に結びつける。 3. 実践的な応用力を身につけ、歌唱表現を楽しむことができる。 〈学生の学習成果〉 専門的学習成果： 教育目標に掲げた 3 項目について習得し、歌唱やピアノ演奏などの音楽表現に活かせるようになる。 汎用的学習成果： 知識を応用するために日々の自主練習の積み重ねが不可欠となる。各自の技能に応じた目標を設定し、達せに向けて努力する姿勢を身につけることができる。												
	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) ・テキストや配布プリントを用いて講義を行う。 ・講義内容に沿って演習を行う。 ・知識の理解度を確認するために小テストを実施する。											
教育方法	予習・復習	・授業前にテキストの該当ページを読む。(30 分) ・授業後にテキストの該当ページを再度読んで演習内容を復習する。(30 分)											
	テキスト	「この一冊でわかる ピアノ実技と楽典 増補版」 音楽之友社											
学習評価の方法	専門的学習成果について、以下の配分で判断し、学習評価を行う。 <table><tr><td>1. 授業への取り組み（課題提出を含む）</td><td>20%</td></tr><tr><td>2. 小テスト（①～⑩）</td><td>20%</td></tr><tr><td>3. 学期末筆記試験</td><td>60%</td></tr></table> なお、小テスト（①～⑩）については、出題範囲を前回授業内容とし、授業内で実施する。採点后、解説を加えて返却し、各回 60 点未満の場合は再提出を求める。 課題提出については、第 13 回～第 15 回授業内で作った伴奏楽譜等を提出し、添削指導をする。							1. 授業への取り組み（課題提出を含む）	20%	2. 小テスト（①～⑩）	20%	3. 学期末筆記試験	60%
1. 授業への取り組み（課題提出を含む）	20%												
2. 小テスト（①～⑩）	20%												
3. 学期末筆記試験	60%												
注意事項	参考図書：こどものうた 200」 チャイルド本社 注意事項：授業の特性として、欠席した場合は、次回授業内容が分かり難くなるので注意する。												

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<オリエンテーション> 授業の進め方、スケジュール、学習評価の方法について説明する。 音楽歴、読譜力等についてのアンケート調査をする。 <音楽の学び方> テキスト P68～108 ・授業内容 保育士・幼稚園教諭に必要な音楽基礎の学び方、心構えについて認識する。 ・学習成果 読譜力を身につけることの必要性を認識できる。 知識理解にとどまらず、実際に歌唱や楽器演奏で表現できるようになることが重要であることを認識できる。 ・予習課題 テキストの該当ページを読む。 ・復習課題 テキストを再度熟読し、音楽の学び方を確認する。
2 回	<楽譜について> テキスト P10～12 ・授業内容 楽譜の意味、五線、小節、音部記号と譜表、楽譜と鍵盤の位置について理解する。 音の高低を意識する練習をする。 ・学習成果 楽譜とは何かを認識できる。 楽譜と鍵盤の位置を認識することができる。 音の高低を意識できるようになる。 ・予習課題 テキストの該当ページを読む。 ・復習課題 実際に鍵盤楽器で音を聴いて確認する。 学習した内容を再度確認する。
3 回	・小テスト① <音名と階名> テキスト P13～17 ・授業内容 音名、半音と全音、変化記号、異名同音、臨時記号とナチュラルについて理解する。 階名について理解し、簡単な楽譜を用いて階名唱の練習をする。 ・学習成果 音の高さに関する知識を身につけることができる。 ・予習課題 テキストの該当ページを読む。 ・復習課題 階名唱を繰り返し練習し、慣れる。
4 回	・小テスト② <音符と休符> テキスト P18～19 ・授業内容 音符・休符の種類と名称、長さについて理解する。 わらべうたなどの楽譜を用いてリズム打ちの練習をする ・学習成果 音符・休符の長さに関する知識を身につけることができる。 正確なリズム打ちができるようになる。 ・予習課題 テキストの該当ページを読む。 ・復習課題 リズム打ちを繰り返し練習し、慣れる。
5 回	・小テスト③ <リズムと拍子> テキスト P19～22 ・授業内容 拍子記号、拍子と強さ、弱起、シンコペーション、連符について理解する。 ・学習成果 拍子を理解して演奏の基礎を認識できる。 ・予習課題 テキストの該当ページを読む。 ・復習課題 授業で扱った曲を繰り返し練習していろいろな拍子に慣れる。 練習問題を再確認する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
6 回	・小テスト④ <記号と標語> テキスト P23～26 ・授業内容 記号と標語について、強弱に関するもの・速度に関するもの・奏法に関するもの・曲想に関するものを理解する。 反復記号について理解する。 ・学習成果 記号と標語について確認し、楽譜の指示通りに演奏できるようになる。 ・予習課題 テキストの該当ページを読む。 ・復習課題 ピアノ楽譜などで復習して、知識を定着させる。
7 回	・小テスト⑤ <音階と調> テキスト P41～51 ・授業内容 長音階と短音階について名称と構成音について理解する。 調子記号について理解する。 ・学習成果 いろいろな調の楽譜に対応できるようになる。 ・予習課題 テキストの該当ページを読む。 ・復習課題 音階について、実際に鍵盤楽器を用いて音を確かめる。 練習問題を再確認する。
8 回	・小テスト⑥ <読譜 (1) > テキスト P10～51 ・授業内容 実際に子どもの歌の楽譜を用いて、第1回～第7回までの内容を確認しながら楽譜を読む練習をする。 ・学習成果 簡単な初見演奏ができるようになる。 ・予習課題 テキストの該当ページを読む。 ・復習課題 授業で扱った楽譜について、繰り返し練習する。
9 回	<読譜 (2) > テキスト P10～51 ・授業内容 実際に子どもの歌の楽譜を用いて、第1回～第7回までの内容を確認しながら楽譜を読む練習をする。 ・学習成果 簡単な初見演奏ができるようになる。 ・予習課題 テキストの該当ページを読む。 ・復習課題 授業で扱った楽譜について、繰り返し練習する。
10 回	<音程 (1) > テキスト P27～30 ・授業内容 音程について理解する 長短系の音程について理解し、実際に歌って響きを確かめる。 ・学習成果 2度、3度、6度、7度の音程について理解し、正確に歌う意識を持てるようになる。 ・予習課題 テキストの該当ページを読む。 ・復習課題 演習問題を再度確認する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
11 回	・小テスト⑦ <音程 (2) > テキスト P31～40 ・授業内容 音程について理解する。 完全系の音程について理解し、実際に歌って響きを確認する。 ・学習成果 1度、4度、5度、8度の音程について理解し、正確に歌う意識を持てるようになる。 ・予習課題 テキストの該当ページを読む。 ・復習課題 練習問題を再度確認する。
12 回	・小テスト⑧ <和音> テキスト P52～60 ・授業内容 和音、主要三和音、メジャーコード、マイナーコード、セブンスコードについて理解する。 ・学習成果 コードネームによる簡易伴奏がつけられるようになる。 ・予習課題 テキストの該当ページを読む。 ・復習課題 演習問題を再度確認する。
13 回	・小テスト⑨ <コードネームと伴奏付け (1) > テキスト P61～65 ・授業内容 コードの種類と構成音を理解し、簡単な童謡のピアノ伴奏を考える。 ・課題提出 授業内で作成した楽譜を提出する。 ・学習成果 各自の演奏技能に応じたピアノ伴奏を考え、楽譜に書くことができるようになる。 ・予習課題 テキストの該当ページを読む。 ・復習課題 各自で考えたピアノ伴奏を練習し、さらに伴奏パターンを工夫する。 練習問題を再確認する。
14 回	・小テスト⑩ <コードネームと伴奏付け (2) > テキスト P61～65 ・授業内容 伴奏パターンを工夫して、各自の演奏技能に応じたピアノ伴奏を考える。 ・課題提出 授業内で作成した楽譜を提出する。 ・学習成果 幼児の歌の伴奏がつけられるようになる。 ・予習課題 テキストの該当ページを読む。 ・復習課題 コードネームを見ながらピアノ伴奏を練習する。
15 回	<移調と転調> テキスト P51 ・授業内容 移調と転調について理解する。 幼児の声域について知り、簡単な楽譜の移調をする。 ・課題提出 授業内で作成した楽譜を提出する。 ・学習成果 歌いやすい高さの調へ移調ができるようになる。 ・予習課題 テキストの該当ページを読む。 ・復習課題 第1回～第15回授業内容を総復習する。

令和8年度教育計画								
科目名	公務員講座（一般教養）		授業回数	15	単位数	1	担当教員 馬場結子 副島里美 都田修兵	
質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー）：stsuda@owc.ac.jp、金曜日5限目								
教育目標と学生の学習成果	＜教育目標＞ 本科目は、岡山短期大学の「公務員養成コース」を選択した学生の向けの科目である。 公務員試験とは、公務員としての任用に適格と認められる候補者を選抜する目的で国や地方公共団体が実施する試験であり、公務員試験は国家機関職員である国家公務員を採用する「国家公務員試験」と、各地方公共団体職員である地方公務員を採用する「地方公務員試験」に大別される。 本科目は、とくに「地方公務員試験」（保育士・幼稚園教諭などの教員採用試験）を受験する学生を対象としたものである。地方公務員法第20条によれば「競争試験は、職務遂行の能力を有するかどうかを正確に判定することをもつてその目的とする。競争試験は、筆記試験により、若しくは口頭試問及び身体検査並びに人物性行、教育程度、経歴、適性、知能、技能、一般的知識、専門的知識及び適応性の判定の方法により、又はこれらの方法をあわせ用いることにより行うものとする。」とされている。 本科目は、主として「筆記試験」における「一般教養」（人文科学・自然科学・社会科学）の領域を扱うものであって、指定のテキストを用いて一般教養の問題を解きながら、「地方公務員試験」（保育士・幼稚園教諭などの教員採用試験）の傾向と対策を学ぶとともに、公務員として必要とされる資質・能力を育むことを目指すものである。 ＜専門的学習成果＞ 地方公務員試験及び公務員として必要とされる「一般教養」（人文科学・自然科学・社会科学）の内容について習得することである。 ＜汎用的学習成果＞ 公務員として必要とされる「態度・信念」、「価値・意見」、「論理的思考力」を獲得する。							
	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・本科目は、「演習形式」による15回の授業である。 ・15回の授業のなかで、「復習プリント」等を配布し、学生の理解が深まるように支援する。						
	教育方法	予習・復習	予習・復習事項 ・毎授業回に、「授業回数別教育内容」に記された予習及び復習を求める。 ・予習については、第1回～15回に向けて、45分×15回を目安とする。また、復習については、第1回～15回に向けて、45分×15回を目安とする。 ※復習でわからないことがあった学生には、OHなどを利用しながら、学習成果を高める援助を行う。					
		テキスト	プリントを配布する。 ＊そのほか適宜、参考文献等については授業内で示す。					

学 習 評 価 の 方 法	<学習評価の方法> 学習評価の方法は以下のとおりである。 ●「専門的学習成果」については、「一般教養」（人文科学・自然科学・社会科学）の内容についての習得及び学習態度によって評価する。なお、その都度フィードバックを実施する。 （１）毎時間の予習及び復習（５点×１４回＝７０点） 毎時間テキストの該当箇所を解いてくること（予習）及び毎時間の内容を復習すること。 ●「汎用的学習成果」については、公務員として必要とされる態度や信念を獲得の状況に基づき、評価を行う。 （２）シャトルカード（１５回×２点＝３０点） 毎回の授業において、小論述課題を課す。この課題について、自分の考え等をシャトルカードに記入することによって得点とする。 （３）その他 学習評価の方法（１）（２）以外に受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、以下のケースに応じて減点することとする。ただし、最大で５点までの減点にとどめるものとする。 ・「過度の居眠り」及び「不必要な私語」（１点） ・「無許可による携帯電話の使用（SNS等）」（２点） ●学習評価 「学則施行細則」第７条により、学習評価は１００点法をもって採点し、８０点以上を優、７０点以上８０点未満を良、６０点以上７０点未満を可、６０点未満を不可とする。
注 意 事 項	<参考文献等> ●保育士採用試験情報研究会編著『スイスイわかる保育士採用 教養試験』一ツ橋書店。 ○保育士採用試験情報研究会編著『スイスイわかる保育士採用 専門試験』一ツ橋書店。 ●東京アカデミー編『教員採用試験対策 問題集１ 一般教養Ⅰ〔人文科学 自然科学〕』七賀出版。 ●東京アカデミー編『教員採用試験対策 問題集２ 一般教養Ⅰ〔社会科学〕』七賀出版。 ○東京アカデミー編『教員採用試験対策 問題集３ 教職教養』七賀出版。 ●東京アカデミー編『教員採用試験対策 参考書 一般教養Ⅰ〔人文科学〕』七賀出版。 ●東京アカデミー編『教員採用試験対策 参考書 一般教養Ⅱ〔社会科学〕』七賀出版。 ●東京アカデミー編『教員採用試験対策 参考書 一般教養Ⅲ〔自然科学〕』七賀出版。 ○東京アカデミー編『教員採用試験対策 参考書 教職教養Ⅰ〔教育原理・教育史〕』七賀出版。 ○東京アカデミー編『教員採用試験対策 参考書 教職教養Ⅱ〔教育心理・教育法規〕』七賀出版。 ※上記の参考文献は各年度で出版されるもので、名称等変更になる可能性がある。 ※「●」＝「公務員講座（Ａ）」の内容に関する参考文献を示す。 ※「○」＝「公務員講座（Ｂ）」の内容に関する参考文献を示す。 尾崎聡・都田修兵編著『岡山短期大学公務員養成コーステキスト 公務員講座問題集』、 ２０２２（初版２０２１）。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	○本時の目標（馬場・副島・都田） 本科目の全体目標と授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、公務員試験についての基礎的な事項を理解する。 ○本時の活動 ・オリエンテーションを行う。 ・テキストで解説する。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：再度テキストの該当箇所及びノートを見ながら、本時の内容をおさえる。
2 回	○本時の目標（馬場・副島・都田） 公務員試験における「一般教養」の出題範囲から、とくに「政治」「経済」「社会」に関する理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所での解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の問題を解いてくる。 ・復習事項：本時の内容を復習する。
3 回	○本時の目標（馬場・副島・都田） 公務員試験における「一般教養」の出題範囲から、とくに「地理」「日本史」「世界史」に関する理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所での解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の問題を解いてくる。 ・復習事項：本時の内容を復習する。
4 回	○本時の目標（馬場・副島・都田） 公務員試験における「一般教養」の出題範囲から、とくに「地理」「日本史」「世界史」に関する理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所での解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の問題を解いてくる。 ・復習事項：本時の内容を復習する。
5 回	○本時の目標（馬場・副島・都田） 公務員試験における「一般教養」の出題範囲から、とくに「国語」「文学・芸術」に関する理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所での解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の問題を解いてくる。 ・復習事項：本時の内容を復習する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
6 回	○本時の目標（馬場・副島・都田） 公務員試験における「一般教養」の出題範囲から、とくに「思想」に関する理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所での解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の問題を解いてくる。 ・復習事項：本時の内容を復習する。
7 回	○本時の目標（馬場・副島・都田） 公務員試験における「一般教養」の出題範囲から、とくに「数学」に関する理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所での解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の問題を解いてくる。 ・復習事項：本時の内容を復習する。
8 回	○本時の目標（馬場・副島・都田） 公務員試験における「一般教養」の出題範囲から、とくに「数学」に関する理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所での解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の問題を解いてくる。 ・復習事項：本時の内容を復習する。
9 回	○本時の目標（馬場・副島・都田） 公務員試験における「一般教養」の出題範囲から、とくに「物理」「化学」に関する理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所での解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の問題を解いてくる。 ・復習事項：本時の内容を復習する。
10 回	○本時の目標（馬場・副島・都田） 公務員試験における「一般教養」の出題範囲から、とくに「生物」「地学」に関する理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所での解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の問題を解いてくる。 ・復習事項：本時の内容を復習する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
11 回	○本時の目標（馬場・副島・都田） 公務員試験における「一般教養」の出題範囲から、とくに「文章理解（現代文）」「文章理解（古文）」に関しての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所問題を解いてくる。 ・復習事項：本時の内容を復習する。
12 回	○本時の目標（馬場・副島・都田） 公務員試験における「一般教養」の出題範囲から、とくに「文章理解（英文）」に関しての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所問題を解いてくる。 ・復習事項：本時の内容を復習する。
13 回	○本時の目標（馬場・副島・都田） 公務員試験における「一般教養」の出題範囲から、とくに「判断推理」に関しての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所問題を解いてくる。 ・復習事項：本時の内容を復習する。
14 回	○本時の目標（馬場・副島・都田） 公務員試験における「一般教養」の出題範囲から、とくに「数的推理」「資料解釈」に関しての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所問題を解いてくる。 ・復習事項：本時の内容を復習する。
15 回	○本時の目標（馬場・副島・都田） これまでの「一般教養」の内容についての模擬試験に取り組むことによって、自身の学びの状況等を把握するとともに、試験に向かう態度等を養う。 ○本時の活動 ・自身の学びを把握する。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：第11回から第14回までの範囲を確認してくる。 ・復習事項：自身の学びの状況等を把握する。

令和 8 年 度 教 育 計 画							
科目名	公務員講座(教職教養)	授業回数	15	単位数	1	担当教員	副島里美 都田修兵
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー) : stsuda@owc.ac.jp、金曜日 5 限目							
教育目標と学生の学習成果	<教育目標> 本科目は、岡山短期大学の「公務員養成コース」を選択した学生の向けの科目である。 公務員試験とは、公務員としての任用に適格と認められる候補者を選抜する目的で国や地方公共団体が実施する試験であり、公務員試験は国家機関職員である国家公務員を採用する「国家公務員試験」と、各地方公共団体職員である地方公務員を採用する「地方公務員試験」に大別される。 本科目は、とくに「地方公務員試験」(保育士・幼稚園教諭などの教員採用試験)を受験する学生を対象としたものである。地方公務員法第20条によれば「競争試験は、職務遂行の能力を有するかどうかを正確に判定することをもつてその目的とする。競争試験は、筆記試験により、若しくは口頭試問及び身体検査並びに人物性行、教育程度、経歴、適性、知能、技能、一般的知識、専門的知識及び適応性の判定の方法により、又はこれらの方法をあわせ用いることにより行うものとする。」とされている。 本科目は、主として「筆記試験」における「専門教養(教職教養)」(教育学、保育原理、法規等)の領域を扱うものであって、指定のテキストを用いて一般教養の問題を解きながら、「地方公務員試験」(保育士・幼稚園教諭などの教員採用試験)の傾向と対策を学ぶとともに、公務員として必要とされる資質・能力を育むことを目指すものである。 <専門的学習成果> 地方公務員試験及び公務員として必要とされる「専門教養(教職教養)」(教育学、保育原理、法規等)の内容について習得することである。 <汎用的学習成果> 公務員として必要とされる「態度・信念」、「価値・意見」、「論理的思考力」を獲得する。						
	授業の進め方	(講義・<u>演習</u>・実験・実習・実技) ・本科目は、「演習形式」による15回の授業である。 ・15回の授業のなかで、「復習プリント」等を配布し、学生の理解が深まるように支援する。					
	予習・復習	予習・復習事項 ・毎授業回に、「授業回数別教育内容」に記された予習及び復習を求める。 ・予習については、第1回～15回に向けて、45分×15回を目安とする。また、復習については、第1回～15回に向けて、45分×15回を目安とする。 ※復習でわからないことがあった学生には、OHなどを利用しながら、学習成果を高める援助を行う。					
	テキスト	保育士試験研究会編『保育士・幼稚園教諭 採用試験問題集 2024年度』実務教育出版、2023。 *そのほか適宜、参考文献等については授業内で示す。					

学習評価の方法	＜学習評価の方法＞ 学習評価の方法は以下のとおりである。 ●「専門的学習成果」については、「専門教養（教職教養）」（教育学、保育原理、法規等）の内容についての習得及び学習態度によって評価する。なお、その都度内容についてのフィードバックを実施する。 （１）毎時間の予習及び復習（３点×１５回＝４５点） 毎時間テキストの該当箇所を解いてくること（予習）及び毎時間の復習をすること。 （２）模擬試験の実施（５点×６回＝３０点） 授業内において「模擬試験」を実施する。この模擬試験への参加及び取り組みによって得点とする。なお、模擬試験当日欠席した者については、別途模擬試験を実施することとする。 ●「汎用的学習成果」については、公務員として必要とされる態度や信念を獲得の状況に基づき、評価を行う。 （３）シャトルカード（２５点） 毎回の授業において、小論述課題を課す。この課題について、自分の考え等をシャトルカードに記入することによって得点とする。 （４）その他 学習評価の方法（１）（２）以外に受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、以下のケースに応じて減点することとする。ただし、最大で５点までの減点にとどめるものとする。 ・「過度の居眠り」及び「不必要な私語」（１点） ・「無許可による携帯電話の使用（SNS等）」（２点） ●学習評価 「学則施行細則」第７条により、学習評価は１００点法をもって採点し、８０点以上を優、７０点以上８０点未満を良、６０点以上７０点未満を可、６０点未満を不可とする。
注意事項	＜参考文献等＞ ●保育士採用試験情報研究会編著『スイスイわかる保育士採用 教養試験』一ツ橋書店。 ○保育士採用試験情報研究会編著『スイスイわかる保育士採用 専門試験』一ツ橋書店。 ●東京アカデミー編『教員採用試験対策 問題集１ 一般教養Ⅰ〔人文科学 自然科学〕』七賀出版。 ●東京アカデミー編『教員採用試験対策 問題集２ 一般教養Ⅰ〔社会科学〕』七賀出版。 ○東京アカデミー編『教員採用試験対策 問題集３ 教職教養』七賀出版。 ●東京アカデミー編『教員採用試験対策 参考書 一般教養Ⅰ〔人文科学〕』七賀出版。 ●東京アカデミー編『教員採用試験対策 参考書 一般教養Ⅱ〔社会科学〕』七賀出版。 ●東京アカデミー編『教員採用試験対策 参考書 一般教養Ⅲ〔自然科学〕』七賀出版。 ○東京アカデミー編『教員採用試験対策 参考書 教職教養Ⅰ〔教育原理・教育史〕』七賀出版。 ○東京アカデミー編『教員採用試験対策 参考書 教職教養Ⅱ〔教育心理・教育法規〕』七賀出版。 ※上記の参考文献は各年度で出版されるもので、名称等変更になる可能性がある。 ※「●」＝「公務員講座（Ａ）」の内容に関する参考文献を示す。 ※「○」＝「公務員講座（Ｂ）」の内容に関する参考文献を示す。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	○本時の目標（副島・都田） 本科目の全体目標と授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、公務員試験についての基礎的な事項を理解する。 ○本時の活動 ・オリエンテーションを行う。 ・テキストで解説する。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：再度テキストの該当箇所及びノートを見ながら、本時の内容をおさえる。
2 回	○本時の目標（副島・都田） 公務員試験における「専門教養（教職教養）」の出題範囲から、とくに「社会福祉」に関しての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所で解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の重要ポイントを確認してくる。 ・復習事項：テキストの練習問題を解いてみる。
3 回	○本時の目標（副島・都田） 模擬試験（「社会福祉」の範囲）を受け、決まった時間内で問題を解くなど試験の雰囲気になれる。 ○本時の活動 ・模擬試験を実施する（「社会福祉」）。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の重要ポイントを確認してくる。 ・復習事項：テキストなどで本時の内容について復習する。
4 回	○本時の目標（副島・都田） 模擬試験の結果をもとに、自身の学びの状況を把握し、課題などを発見することで、次の学びへとつなげる。 ○本時の活動 ・模擬試験の解説を実施する。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の重要ポイントを確認してくる。 ・復習事項：模擬試験の問題におけるポイントなどを確認する。
5 回	○本時の目標（副島・都田） 公務員試験における「専門教養（教職教養）」の出題範囲から、とくに「子ども家庭福祉」に関しての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所で解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の重要ポイントを確認してくる。 ・復習事項：テキストの練習問題を解いてみる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
6 回	○本時の目標（副島・都田） 模擬試験（「子ども家庭福祉」の範囲）を受け、決まった時間内で問題を解くなど試験の雰囲気になれる。 ○本時の活動 ・模擬試験を実施する（「子ども家庭福祉」）。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の重要ポイントを確認してくる。 ・復習事項：テキストなどで本時の内容について復習する。
7 回	○本時の目標（副島・都田） 模擬試験の結果をもとに、自身の学びの状況を把握し、課題などを発見することで、次の学びへとつなげる。 ○本時の活動 ・模擬試験の解説を実施する。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の重要ポイントを確認してくる。 ・復習事項：模擬試験の問題におけるポイントなどを確認する。
8 回	○本時の目標（副島・都田） 公務員試験における「専門教養（教職教養）」の出題範囲から、とくに「保育の心理学」に関しての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所で解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の重要ポイントを確認してくる。 ・復習事項：テキストの練習問題を解いてみる。
9 回	○本時の目標（副島・都田） 模擬試験（「保育の心理学」の範囲）を受け、決まった時間内で問題を解くなど試験の雰囲気になれる。 ○本時の活動 ・模擬試験を実施する（「保育の心理学」）。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の重要ポイントを確認してくる。 ・復習事項：テキストなどで本時の内容について復習する。
10 回	○本時の目標（副島・都田） 模擬試験の結果をもとに、自身の学びの状況を把握し、課題などを発見することで、次の学びへとつなげる。 ○本時の活動 ・模擬試験の解説を実施する。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の重要ポイントを確認してくる。 ・復習事項：模擬試験の問題におけるポイントなどを確認する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
11 回	○本時の目標（副島・都田） 公務員試験における「専門教養（教職教養）」の出題範囲から、とくに「保育原理」に関しての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の重要ポイントを確認してくる。 ・復習事項：テキストの練習問題を解いてみる。
12 回	○本時の目標（副島・都田） 模擬試験（「保育原理」の範囲）を受け、決まった時間内で問題を解くなど試験の雰囲気慣れる。 ○本時の活動 ・模擬試験を実施する（「保育原理」）。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の重要ポイントを確認してくる。 ・復習事項：テキストなどで本時の内容について復習する。
13 回	○本時の目標（副島・都田） 公務員試験における「専門教養（教職教養）」の出題範囲から、とくに「教育原理」に関しての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の重要ポイントを確認してくる。 ・復習事項：テキストの練習問題を解いてみる。
14 回	○本時の目標（副島・都田） 模擬試験（「教育原理」の範囲）を受け、決まった時間内で問題を解くなど試験の雰囲気慣れる。 ○本時の活動 ・模擬試験を実施する（「教育原理」）。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の重要ポイントを確認してくる。 ・復習事項：テキストなどで本時の内容について復習する。
15 回	○本時の目標（副島・都田） 模擬試験の結果をもとに、自身の学びの状況を把握し、課題などを発見することで、次の学びへとつなげる。 ○本時の活動 ・模擬試験の解説を実施する。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の重要ポイントを確認してくる。 ・復習事項：模擬試験の問題におけるポイントなどを確認する。

令和 8 年 度 教 育 計 画							
科目名	保育者基礎演習	授業回数	15	単位数	2	担当教員	副島里美 学科教員
質問受付の方法（e-mail, オフィスアワー等）：授業後教室にて担当教員が受け付ける。							
教育目標と学生の学習成果	教育目標 使命感を備えた保育者を養成することを目指し、本授業ではその基礎となる以下の7点を目標とする。 ①保育者養成校である本学の教育について理解する。 ②保育者に必要な知識・技能を理解する。 ③保育・福祉現場の現状と課題について理解する。 ④幼児指導の基本を修得する。 ⑤保育者として求められる心と体の健康作りの方法を理解する。 ⑥保育者として求められる論理的思考・文章表現力を修得する。 ⑦保育者になるための自己課題・克服方法を自覚する。 学生の学習成果 教育目標に掲げる7点及び保育者として求められる「態度・信念」「人間関係力」を修得する。						
	教育方法	授業の進め方	(講義・ 演習 ・実験・実習・実技) ・ 教員による講義、本学卒業生による講演、演習等の活動を通して学習する。 ・ 受講生は、毎回の学習成果を記述し提出する（課題・シャトルカード等）。 ・ 課題に関するフィードバックの方法は、各回の担当教員が説明する。				
教育方法	予習・復習	・ 毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・ 毎授業回後に、「授業回数別教育内容」に記された復習を求める。 ・ 1回の授業に対する予習・復習の時間はそれぞれ90分とする。					
	テキスト	・ 使用しない。 ・ 適宜持参するものを指示する。あるいは資料を配付する。					
学習評価の方法	・ 各回担当教員が教育目標に掲げる7点の学習成果について、受講状況、シャトルカード・課題等の記述により受講生を個別に評価し、それらを集計する（100満点）。 ・ 全授業を通して受講態度・課題・シャトルカードにより「態度・信念」「人間関係力」の評価を行い、思わしくない状態が続く場合は担当教員が指導を行う。改善が見られない場合、評価点より減ずる。但し、人間的成長を考慮する。						
注意事項	参考図書等						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	○本時の目標 ・オリエンテーション（Moodle を活用した学習の仕方等を含む） ○本時の活動 ・配付資料（シラバス・授業予定）を解説する。 ・講義による学習成果等について記述する。 ○本時の学習成果 ・本授業の概要を説明できる。 予習：シラバスを通読する。 復習：講義を振り返り、シラバスを確認する。
2 回	○本時の目標 【教育目標①】 ・「保育者養成校である岡山短期大学の 1. 建学の精神「教育三綱領」、2. 「教育目標」、そして幼児教育学科の 3. 「保育者養成の教育目標」、4. 「学生の学習成果」、5. 「入学者受け入れの方針」、6. 「教育課程編成・実施の方針」、7. 「卒業認定・学位授与の方針」を一体的に理解する。 ○本時の活動 ・学生のしおりを用いた講義を聴き、要点をノートに記述する。 ○本時の学習成果 ・「自分が、何を学んで、何ができるようになるのか」について具体的に説明できる。 予習：「学生のしおり」の学則及び学則施行細則第1章を通読し、2年間の学びを理解する。（学習時間90分） 復習：講義を振り返り、本学教育で「自分が、何を学んで、何ができるようになるのか」について具体的にレポート用紙にまとめる。（学習時間90分） 課題：復習でまとめたレポートを提出する。 課題のフィードバック：合格となる課題のレポート記述を配付する。
3 回	○本時の目標 【教育目標①⑥】 ・レポートの書き方について学ぶ ○本時の活動 ・レポートの書き方についての講義を聴く。 ・講義による学習成果等について記述する。 ○本時の学習成果 ・レポートの書き方について要点を説明できる。 予習：配付資料を通読する。（学習時間 90 分） 復習：レポートの書き方について考える。（学習時間 90 分）
4 回	○本時の目標 【教育目標②③】 ・保育現場の現状と課題（1）保育所（※認定こども園を含む）について理解する。 ○本時の活動 ・保育の現状と課題に関する講義を聴く。 ・講義による学習成果等について記述する。 ○本時の学習成果 ・保育現場の現状と課題について要点を説明できる。 予習：配付資料を通読する。（学習時間 90 分） 復習：講義内容を振り返る。（学習時間 90 分）

5 回	○本時の目標 【教育目標②③】 ・保育現場の現状と課題（２）幼稚園（※認定こども園を含む）について理解する。 ○本時の活動 ・保育の現状と課題に関する講義を聴く。 ・講義による学習成果等について記述する。 ○本時の学習成果 ・保育現場の現状と課題について要点を説明できる。 予習：配付資料を通読する。（学習時間 90 分） 復習：講義内容を振り返る。（学習時間 90 分）
6 回	○本時の目標 【教育目標④】 ・子どもといっしょに運動会（リハーサル）。子どもといっしょに運動会のリハーサルに参加し、各自の役割を理解する。 ○本時の活動 ・学生が、子どもといっしょに運動会のリハーサルに参加する。 ・学生が、リハーサルに関するコメントを記述する。 ○本時の学習成果 ・子どもといっしょに運動会での役割を説明できる。 予習：配付資料を通読する。（学習時間 90 分） 復習：子どもといっしょに運動会のリハーサルを振り返り、各自の役割を確認する。（学習時間 90 分）
7 回	○本時の目標 【教育目標④】 ・子どもといっしょに運動会（本番）。学生が子どもといっしょに運動会に参加し、幼児指導の基本を修得する。 ○本時の活動 ・学生が子どもといっしょに運動会に参加し、各自の役割を果たす。 ○本時の学習成果 ・子どもといっしょに運動会での学習成果を説明できる。 予習：配付資料を通読する。（学習時間 90 分） 復習：子どもといっしょに運動会を振り返り、学習成果を確認する。（学習時間 90 分）
8 回	○本時の目標 【教育目標④】 ・子どもといっしょに運動会（本番）。学生が子どもといっしょに運動会に参加し、幼児指導の基本を修得する。 ○本時の活動 ・学生が子どもといっしょに運動会に参加し、各自の役割を果たす。 ○本時の学習成果 ・子どもといっしょに運動会での学習成果を説明できる。 予習：配付資料を通読する。（学習時間 90 分） 復習：子どもといっしょに運動会を振り返り、学習成果を確認する。（学習時間 90 分）

9 回	○本時の目標 【教育目標⑥・⑦】 ・子どもといっしょに運動会（学習成果まとめ）。子どもといっしょに運動会に関する学習成果を明らかにする。 ・目指す保育者像をイメージする。 ○本時の活動 ・学生が、子どもといっしょに運動会に関する学習成果を記述する。 ・学生がこれまでの学習を振り返り、各自が目指す保育者像を文章にまとめる。 ・学生が、まとめた二つの課題に関するコメントを記述する。 ○本時の学習成果 ・子どもといっしょに運動会に関する学習成果を説明できる。 ・目指す保育者像について説明できる。 予習：これまでの配付資料を通読し、学習成果を振り返る。（学習時間 90 分） 復習：目指す保育者像に近づくための自己課題を考える。（学習時間 90 分）
10 回	○本時の目標 【教育目標⑤】 ・保育者に求められる健康（身体の健康）。保育者として求められる健康について理解する。 ○本時の活動 ・生活と健康についての講義を聴く。 ・講義による学習成果等について記述する。 ○本時の学習成果 ・「保育者として求められる健康（身体の健康）」について要点を説明できる。 予習：配付資料を通読する。（学習時間 90 分） 復習：授業内容を振り返り、望ましい生活について考える。（学習時間 90 分）
11 回	○本時の目標 【教育目標⑤】 ・保育者に求められる健康（心の健康）。保育者として求められる健康（心の健康）について理解する。 ○本時の活動 ・心の健康についての講義を聴く。 ・講義による学習成果等について記述する。 ○本時の学習成果 ・「保育者として求められる健康（心の健康）」について要点を説明できる。 予習：心の健康について調べて A4 版 1 枚にまとめておく。授業内で提出する。（学習時間 90 分） 復習：講義を振り返り、望ましい心の健康についてレポートにまとめる。（学習時間 90 分）
12 回	○本時の目標 【教育目標②③】 ・保育現場の現状と課題（3）卒業生の保育士による講演。「保育現場の現状と課題」について理解する。 ○本時の活動 ・本学卒業生保育士による保育現場についての講演を聴く。 ・講演による学習成果等について記述する。 ○本時の学習成果 ・保育現場の現状と課題について要点を説明できる。 予習：配付資料を通読する。（学習時間 90 分） 復習：講演を振り返り、目指す保育者像を考える。（学習時間 90 分）

13 回	○本時の目標 【教育目標②③】 ・福祉現場の現状と課題（４）卒業生の施設保育士による講演。「福祉現場の現状と課題」について理解する。 ○本時の活動 ・本学卒業生施設保育士による福祉現場についての講演を聴く。 ・講演による学習成果等について記述する。 ○本時の学習成果 ・福祉現場の現状と課題について要点を説明できる。 予習：配付資料を通読する。（学習時間 90 分） 復習：講演を振り返り、目指す保育者像を考える。（学習時間 90 分）
14 回	○本時の目標 【教育目標⑥⑦】 ・小論文の書き方について学ぶ。保育者になるための自己課題・克服法をテーマとして小論文を構想する。 ○本時の活動 ・小論文の書き方についての講義を聴く。 ・これまでの学習を振り返りつつ自己課題・克服法を考え、次回に向けて下書きをする。 ○本時の学習成果 ・保育者になるための自己課題・克服法について概要を説明できる。 予習：配付資料を通読する。（学習時間 90 分） 復習：目指す保育者像、保育者になるための自己課題・克服法を検討する。（学習時間 90 分）
15 回	○本時の目標 【教育目標⑥⑦】 ・小論文を実際書いてみる。保育者になるための自己課題・克服法をテーマにした小論文を書いてみる。 ○本時の活動 ・自己課題・克服法を記述した小論文の記述に入る。 ○本時の学習成果 ・保育者になるための自己課題・克服法を具体的に説明できる。 予習：配付資料を通読する。（学習時間 90 分） 復習：目指す保育者像、保育者になるための自己課題・克服法を確認する。（学習時間 90 分）

令和 8 年 度 教 育 計 画								
科目名	教育心理学		授業回数	15	単位数	2	担当教員	大賀 恵子
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）： e-mail：ohga@owc.ac.jp、OH：土曜 2 限								
教育目標と学生の学習成果	教育目標 教育心理学の意義・目的、内容・領域について、子どもの姿や保育現場に結びつけながら子どもの心理や行動を理解し、適切な教育的活動ができる基礎的な知見や方法を概観する。それらの知識をもとに、保育者として乳幼児期の子どもたちへの働きかけの大切さを学び、教育における問題を解決に導く効果的な教育的対応及び保育実践のできる保育者の育成を目指す。次の 3 項目の習得を目標とする。 ①子どもの生活や遊びを通した学習の過程等、保育上必要かつ有効な教育心理学の基本的事項 ②子どもの心身の発達及び発達に即した教育的対応並びに保育実践 ③保護者への育児支援まで含めた保育における発達援助 学生の学習成果 専門的学習成果：教育目標に掲げる 3 項目に関する基礎的知識を習得する。 汎用的学習効果：保育者としての使命感や倫理観を身につけるとともに、他者とのコミュニケーションを円滑に行えるような人間関係力を養う。							
	授業の進め方	(講義)・演習・実験・実習・実技 ・ 教育心理学の知識として不可欠なものについては講義形式で行う。 ・ 必要に応じて補充プリントを配布する。 ・ 授業内容の理解度確認のために、授業中に論述課題を実施する。						
	予習・復習	予習：毎授業前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 復習：毎授業後に復習を求め、そのポイントをまとめる。 予習・復習は各回それぞれ 90 分程度の学習時間を確保すること。						
	テキスト	教育心理学―保育者をめざす人へ― 石井正子・松尾直博編著 樹村房						
学習評価の方法	専門的学習成果 評価配分は 90 点で、期末試験（80 点）と課題（10 点）で測る。また、90 点は以下に示した 3 つの専門的学習成果について、おおよそ「①：②：③＝30 点：30 点：30 点」の比重をおく。 ①学習過程等、保育上必要かつ有効な教育心理学の基本的事項を理解する。 ②発達及び発達に即した教育的対応並びに保育実践について理解する。 ③保護者への育児支援まで含めた発達援助の能力を養う。 汎用的学習成果 評価配分は 10 点であり、課題とその内容で測る。なお、受講態度などに問題があった受講生に対して、注意指導で改善が見られない場合、保育を学ぶ者としての倫理観が十分でないとして、ケースに応じて減点する。 以上の通り、専門的学習成果の評価配分は 90 点、汎用的学習成果の評価配分は 10 点、合計 100 点満点で最終評価を行う。							
	注意事項	参考図書等 よくわかる教育心理学 中澤 潤編 ミネルヴァ書房 2011						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<オリエンテーション> 1. 本時の目標 本科目の授業スケジュールを確認し、教育心理学についての学びと保育の関連性を理解する。 2. 本時の活動 ・本科目の内容・進め方・成績評価の方法を確認する。 ・第1章 保育と教育心理学（1.保育者の役割と教育心理学／2.乳幼児期の学習と教育）について理解する。 3. 本時の学習成果 ・本科目の概要について理解し、保育と教育心理学のかかわり、乳幼児期の学習と教育の必要性が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
2 回	<幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程①> 1. 本時の目標 幼児や児童の心身の発達を理解する。 2. 本時の活動 ・第1章 保育と教育心理学（3.さまざまな児童観と教育観／2.幼稚園や保育所における保育）について理解する。 3. 本時の学習成果 ・さまざまな児童観と教育観、幼稚園や保育所における保育について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
3 回	<幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程②> 1. 本時の目標 ・幼児や児童の発達・及び学習の過程について基礎的な知識を身につける。 2. 本時の活動 ・第2章 発達と教育（1.発達を規定するもの／2.発達段階と発達課題）について理解する。 3. 本時の学習成果 ・発達を規定するもの、発達段階と発達課題について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
4 回	<幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程③> 1. 本時の目標 ・乳幼児期から各時期における運動・言語・認知の発達・社会性について理解する。 2. 本時の活動 ・第2章 発達と教育（3.思考の発達と教育／4.ことばの発達と教育）について理解する。 3. 本時の学習成果 ・各時期における発達や社会性について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
5 回	<幼児、児童及び生徒の学習の過程①> 1. 本時の目標 ・さまざまな学習の形態や概念及びその過程の根拠から心理学における代表的理論の基礎を理解する。 2. 本時の活動 ・第3章 学習のしくみ (1.乳幼児と学習／2.さまざまな学習) 3. 本時の学習成果 ・学習の意義、さまざまな学習について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
6 回	<幼児、児童及び生徒の学習の過程②> 1. 本時の目標 ・教育心理学の基礎的な考え方や用語を理解する。 2. 本時の活動 ・第3章 学習のしくみ (3.記憶／4.学習が成立する環境) 3. 本時の学習成果 ・記憶、学習が成立する環境について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
7 回	<幼児、児童及び生徒の学習の過程③> 1. 本時の目標 ・心理学における代表的理論の基礎を理解し、やる気を育てるための方法をさぐる。 2. 本時の活動 ・第4章 やる気を育てる (1.やる気とは／2.いろいろなやる気—やる気の捉え方—) 3. 本時の学習成果 ・内外のやる気、外からのやる気の問題点について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
8 回	<幼児、児童及び生徒の学習の過程④> 1. 本時の目標 ・幼児や児童の発達を踏まえた主体的な学習を支える指導の基礎となる考え方を理解する。 2. 本時の活動 ・第4章 やる気を育てる (3.内からのやる気の発達／4.内からのやる気をうばってしまう世界／5.内からのやる気を育てる) 3. 本時の学習成果 ・内からのやる気の発達、やる気を育てる際の留意点について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	<幼児、児童及び生徒の学習の過程⑤> 1. 本時の目標 ・ 幼児や児童の発達を踏まえた主体的な学習を支える指導における個人の発達をふまえた指導について理解する。 2. 本時の活動 ・ 第5章 個人差の理解 (1.個人差と個性／2.知能とはなにか) 3. 本時の学習成果 ・ 個人差、知能について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・ 復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
10 回	<幼児、児童及び生徒の学習の過程⑥> 1. 本時の目標 ・ 教育現場における幼児の個人差を理解し、発達を踏まえた学習の支援の在り方について理解する。 2. 本時の活動 ・ 第5章 個人差の理解 (3.性格とは何か／4.子どものあり方の理解と適応) 3. 本時の学習成果 ・ 性格は多様であることをふまえ、子どものあり方の理解と適応について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・ 復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
11 回	<幼児、児童及び生徒の学習の過程⑦> 1. 本時の目標 ・ 幼児にとっての主体的な学習を支える集団作りと人間関係について理解する。 2. 本時の活動 ・ 第6章 人間関係と社会化 (1.人間関係の中で育つものー人間関係の芽生えー／2.人間関係の広がりと環境／3.遊びと人間関係／4.道徳性と向社会的行動の発達) 3. 本時の学習成果 ・ 遊びの重要性、道徳性と向社会的行動の発達について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・ 復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
12 回	<幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程④> 1. 本時の目標 ・ 幼児の主体的な学習を支える学習評価の在り方や知能検査などについて理解する。 2. 本時の活動 ・ 第7章 特別な支援を要する子どもたち (1.特別な支援を要する子どもたち／2.障害の理解と受容) 3. 本時の学習成果 ・ 障害の理解と受容過程について理解し保育の中で気になる子どもへの対応について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・ 復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
13 回	<幼児、児童及び生徒の心身の発達過程⑤> 1. 本時の目標 ・ 幼児の発達や特別の支援の必要な指導について理解する。 2. 本時の活動 ・ 第7章 特別な支援を要する子どもたち (3.さまざまなこころの問題／4.保育の中での支援) 3. 本時の学習成果 ・ こころの問題への支援 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・ 復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
14 回	<幼児、児童及び生徒の心身の発達過程⑥> 1. 本時の目標 ・ 幼児や児童の主体的な学習を支える動機づけを発達の特徴と関連付けて理解する。 2. 本時の活動 ・ 第8章 親の理解と子育て支援 (1.現代社会と子育て支援／2.現代の親子関係) 3. 本時の学習成果 ・ 保育士の子育て支援、現代の親子関係について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・ 復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
15 回	<幼児、児童及び生徒の心身の発達過程と総復習> 1. 本時の目標 ・ 各発達段階における心理的特徴を重点的に理解する。 2. 本時の活動 ・ 第8章 親の理解と子育て支援 (3.保育者に求められる役割／4.保育者のストレスとストレスマネジメント) ・ 幼児、児童、及び生徒の心身の発達及び学習の過程の総復習 3. 本時の学習成果 ・ 本科目の学習成果を達成している。 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：特になし。 ・ 復習事項：第1回から第14回の授業内容を整理し、期末考査に備える。

令和 8 年 度 教 育 計 画								
科目名	特別支援の方法・保育と理解		授業回数	15	単位数	2	担当教員	大賀 恵子
質問受付の方法（e-mail, オフィスアワー等）：e-mail: ohga@owc.ac.jp								
OH:土曜 2 限								
教育目標と学生の学習成果	教育目標 特別支援を必要とする幼児・児童及び生徒が学習活動に参加し生きる力を身につけていくことができるよう、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を習得することを目指す。次の 4 項目を習得目標とする。 ①障害児保育を支える理念を学び、障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際、現状と課題について理解する。 ②障害児等の理解と保育における発達の援助について学び、家庭および社会資源との連携・協働について理解する。 ③特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害特性や心身の発達について理解する。 ④特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援法、学習上または生活上の困難との対応について理解する。							
	学生の学習成果 専門的学習成果： 教育目標に掲げる内容（幼児一人一人の特性に応じ障害や発達の課題に即した個別指導を行う能力）を習得する。 汎用的学習成果： 教育目標に関する内容を理解し、保育者としての使命感や倫理観を身につけるとともに、他者とのコミュニケーションが円滑に行えるような人間関係力を構築する。							
	教育	授業の進め方	(講義・ 演習 ・実験・実習・実技) 学習成果を確認するために授業中に課題を実施する。 ・障害児保育で必要な知識の習得は、講義形式で行う。 ・実践的な対応技能の習得は、演習形式で行う。 ・自ら学ぶ姿勢を身につけるため、予習や復習を奨励し、グループワークを行う。					
	方法	予習・復習	予習：毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 復習：基本的には授業で使用した資料・板書内容・プリントの見直しを行う。提出課題とする場合がある。なお、予習、復習には毎回 90 分は学習すること。					
	テキスト	柘植雅義・渡部匡隆・二宮信一・納富恵子〔編〕 改訂版『はじめての特別支援教育』有斐閣アルマ 2016 年						
学習評価の方法	評価配分に関して 以下の 4 つの学習成果について、習得度合いを等分に評価する。 ①特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。 ②障害児等の理解と保育における発達の援助について学び、家庭および社会資源との連携・協働について理解する。 ③特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 ④障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難への対応方法を理解する。 評価ツールに関して ・専門的学習成果：評価配分の合計 80 点は期末試験で測る。 ・汎用的学習成果：評価配分 20 点は課題で測る。授業内容に応じた課題を含む。受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、ケースに応じて減点する。							
注意事項	参考図書 授業中に紹介する。							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<オリエンテーション・特別支援教育の歴史> 1. 本時の目標 本科目の全体目標及び授業スケジュールを確認し、支援の必要性を理解する。 2. 本時の活動 ・本科目の内容・進め方・成績評価の方法を確認する。 ・特別支援教育の歴史と支援の必要性を理解する。 3. 本時の学習成果 ・本科目の概要について理解し、特別支援教育の歴史と支援の必要性が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を振り返り、特別支援教育の歴史と支援の必要性を確認する。
2 回	<特別支援教育の理念と制度①> 1. 本時の目標 インクルーシブ教育システムや合理的配慮を学び、特別支援教育に関する制度の理念、仕組みを理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第1章を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・インクルーシブ教育と合理的配慮について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第1章を読んでおく。 ・復習事項：特別支援教育の理念に関する課題を仕上げる。
3 回	<特別支援教育の理念と制度②> 1. 本時の目標 特別支援教育の現行制度や通級による指導及び自立活動の教育課程上の内容を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第2章を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・特別支援教育の現行制度や通級による指導及び自立活動の教育課程上の内容が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第2章、特別支援教育学校の学習指導要領の内容を確認しておく。 ・復習事項：特別支援教育の仕組みに関する課題を仕上げる。
4 回	<特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程と支援方法①> 1. 本時の目標 支援システムの構築の必要性和法的整備について理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第3章を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・支援システムの構築の必要性和法的整備について説明することができる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第3章を読んでおく。 ・復習事項：本時内容に関する課題を作成する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
5 回	<特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程と支援方法②> 1. 本時の目標 特別な支援教育におけるコーディネーターの役割と専門性を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第4章を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・関係機関との連携し支援体制を構築することの必要性を理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第4章を読んでおく。 ・復習事項：特別支援教育コーディネーター・関係機関を確認する。
6 回	<特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程と支援方法③> 1. 本時の目標 特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に関する個別の指導計画及び教育支援計画を作成する意義と方法を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第5章を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に関する個別の指導計画及び教育支援計画を作成することができる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第5章を読んでおく。 ・復習事項：本時内容に関する課題（計画書）を作成する。
7 回	<特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程と支援方法①> 1. 本時の目標 発達障害や軽度知的障害など特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援方法を確認し、例示することができる。 2. 本時の活動 ・テキスト第6,7章を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援方法について、例示することができる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第6,7章を読んでおく。 ・復習事項：支援方法についてまとめる。
8 回	<特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性②> 1. 本時の目標 発達障害や軽度知的障害、情緒障害児・言語障害児の特性を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第8,9章を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・発達障害や軽度知的障害、情緒障害児・言語障害児の特性を理解している。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第8,9章を読んでおく。 ・復習事項：情緒障害児・言語障害児の特性と支援方法をまとめる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	<特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性③> 1. 本時の目標 視覚障害児・聴覚障害児・肢体不自由児・病弱児の特性を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第 10, 11 章を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・視覚障害児・聴覚障害児・肢体不自由児・病弱児の特性を理解している。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 10, 11 章を読んでおく。 ・復習事項：視覚障害児・聴覚障害児・肢体不自由児・病弱児の特性をまとめる。
10 回	<特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援> 1. 本時の目標 特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第 12 章を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 12 章を読んでおく。 ・復習事項：特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難や組織的な対応の必要性を確認する。
11 回	<特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握、保護者との連携> 1. 本時の目標 保護者の障害受容とストレスなど、保護者の心理状態を把握し、支援の必要性を確認する。 2. 本時の活動 ・テキスト第 13 章を解説し、理解度を課題で確認する。幼児・児童理解について確認する。 3. 本時の学習成果 ・保護者の障害受容とストレスなどに対する支援の必要性を理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 13 章を読んでおく。 ・復習事項：保護者の障害受容とストレスについて理解し、支援の必要性を確認する。
12 回	<特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握、専門機関や地域との連携> 1. 本時の目標 専門機関や組織的な対応の必要性を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第 14 章を解説し、事例をもとに対応、本時の理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・専門機関や組織的な対応の必要性を理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 14 章を読んでおく。 ・復習事項：特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難や組織的な対応の必要性を確認する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
13 回	<早期発見、早期支援と連携> 1. 本時の目標 特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の家庭支援の実際を確認し、早期発見、早期支援の必要性を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第 15 章を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の進路状況や養育者の心理及び家庭支援の実際を理解する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：本科目に関する内容からテーマを定め、それに関する資料を準備する。 ・復習事項：養育者の心理及び家庭支援の実際を理解し、早期発見・早期支援の必要性を確認する。
14 回	<進学支援・就労支援と連携／特別支援の方法と理解> 1. 本時の目標 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する進学・就労支援について理解し、特別支援の方法と理解の内容を確認する。 2. 本時の活動 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法と理解について確認する。 3. 本時の学習成果 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法と理解を深める。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 16 章を読む。／本科目の内容を復習しておく。 ・復習事項：第 1 回から第 13 回の授業内容を確認する。
15 回	<まとめ> 1. 本時の目標 本科目の内容を振り返り、必要な知識や支援方法の習得度合いを確認する。 2. 本時の活動 次の 3 点に関して習得度合いを確認し、本科目の内容に関するレポートを仕上げる。 ①特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 ②特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。 ③障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難との対応を理解する。 3. 本時の学習成果 ・本科目の目標を達成している。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：特になし。 ・復習事項：第 1 回から第 14 回の授業内容を整理し、期末考査に備える。

令和 8 年 度 教 育 計 画							
科目名	発達心理学 I	授業回数	15	単位数	2	担当教員	大賀恵子
質問受付の方法（e-mail, オフィスアワー等）： e-mail:ohga @owc. ac. jp、 OH:土曜 2 限							
教育目標と学生の学習成果	教育目標 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、心身の発達領域別に見た子どもの発達・成長過程の理解を深めることを目標とする。 ①心理学の観点から保育に関する基本的事項を学ぶ。 ②心身の発達領域別に乳幼児期の発達を理解するための基礎知識を習得する。 ③生涯発達に関する基礎的な知識を学び、初期経験の重要性、発達課題を理解する。 ④子どもの発達・成長に重要な遊びに関する様々な研究知見を習得する。 ⑤保育者としての信念をもち、あるべき姿勢を身につける。 学生の学習成果 専門的学習成果：教育目標に掲げる①～④の 4 項目に関する基礎的知識を習得する。 汎用的学習成果：教育目標に掲げる⑤の項目に関して、自主的に学ぶ姿勢を身につける。						
	教育方法	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) ・主として教科書とノートに基づく講義形式によって行う。 ・授業内容に応じて、補足プリントを配布する。 ・授業内容の理解度確認のために、授業中に論述課題を実施する。				
予習・復習		予習：毎授業前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 復習：毎授業後に復習を求め、そのポイントをまとめる。 予習、復習には各回 90 分程度の学習時間を確保すること。					
テキスト		成田 朋子・大野木 裕明・小平 英志編著 『保育実践を支える保育の心理学 I』福村出版、2011 年。					
学習評価の方法	専門的学習成果 評価配分は 90 点であり、期末試験（80 点）と課題（10 点）で測る。また、90 点は以下に示した 3 つの専門的学習成果について、おおよそ「①：②：③＝30 点：30 点：30 点」の比重をおく。 ①心理学の観点から保育に関する基本的事項を学ぶ。 ②心身の発達領域別に子どもの発達を理解するための基礎知識を習得する。 ③生涯発達を理解しながら、保育の重要性を学ぶ。 汎用的学習成果 評価配分は 10 点であり、課題とその内容で測る。なお、受講態度などに問題があった受講生に対して、注意指導で改善が見られない場合、保育を学ぶ者としての倫理観が十分でないとして、ケースに応じて減点する。 以上の通り、専門的学習成果の評価配分は 90 点、汎用的学習成果の評価配分は 10 点、合計 100 点満点で最終評価を行う。						
注意事項	参考図書 新井邦二郎編著『図でわかる発達心理学』福村出版、1997 年。						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<オリエンテーション・保育と心理学> 1. 本時の目標 授業内容の概略・進め方・成績評価の方法を確認し、乳幼児から学童期前期の発達と心理学とのかかわりについて理解する。 2. 本時の活動 ・本科目の内容・進め方・成績評価の方法を理解する。 ・乳幼児期の発達と心理学とのかかわりについて理解する。 3. 本時の学習成果 人間理解の1つの方法である「心理学」をおおまかに理解する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト1章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
2 回	<保育実践の評価と心理学> 1. 本時の目標 前回授業を振り返り、保育に活かされる心理学の基本的研究知見を示す。 2. 本時の活動 ・心理学の基本的な研究知見が保育にどのように活かされるのかを理解する。 3. 本時の学習成果 ・心理学の基本的な研究知見が保育にどのように活かされるのかを説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト2章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の課題に備えてキーワードを確認しておく。
3 回	<練習課題①・発達段階における代表的な理論> 1. 本時の目標 乳幼児の発達に関する代表的理論、発達の概念および発達理解の意義を説明する。 2. 本時の活動 ・1,2回の授業内容に関する課題を仕上げ、発達に関する代表的理論を理解する。 3. 本時の学習成果 ・発達過程の特徴を説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト3章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直ししておく。
4 回	<心身の発達領域別に見た乳幼児期の発達①人間の発達とその要因> 1. 本時の目標 ・発達に影響する遺伝や環境の要因、それらの相互作用についての諸説を示す。 2. 本時の活動 ・人間の生涯発達に影響する要因を理解し、子どもの育ちに影響する要因を全体的な視点から把握する。 3. 本時の学習成果 ・人間の生涯発達に影響する要因を理解し、人間の発達とその要因が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト4章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の課題に備えてキーワードを確認しておく。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
5 回	<練習課題②・心身の発達領域別に見た乳幼児期の発達②情動と自我・自己の発達> 1. 本時の目標 乳幼児期の情動の発達、また、自我・自己の発達過程を説明する。 2. 本時の活動 3 回目の授業内容に関する課題を仕上げ、乳幼児期の情動の発達に関してルイス (Lewis, M.) の理論などを紹介する。また、自我・自己の発達過程を理解する。 3. 本時の学習成果 ・乳幼児期の情動と自我・自己の発達過程が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト 5 章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の課題に備えてキーワードを確認しておく。
6 回	<練習課題③・心身の発達領域別に見た乳幼児期の発達③身体機能と運動機能の発達> 1. 本時の目標 乳幼児期の身体機能と運動機能の発達過程について、身体の発達曲線、粗大および微細運動の発達過程を紹介する。 2. 本時の活動 4 回目の授業内容に関する課題を仕上げ、乳幼児期の身体機能と運動機能の発達過程について、身体の発達曲線、粗大および微細運動の発達過程を理解する。 3. 本時の学習成果 ・乳幼児期における身体および運動面の発達過程や特徴が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト 6 章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の課題に備えてキーワードを確認しておく。
7 回	<練習課題④・心身の発達領域別に見た乳幼児期の発達④知覚と認知の発達> 1. 本時の目標 乳幼児期の知覚に関して、乳幼児を対象とした知覚についての研究知見を紹介する。 また、乳幼児期の認知に関して、ピアジェ (Piaget, J.) の理論を紹介し、乳幼児期の認知発達を説明する。 2. 本時の活動 ・5 回目の授業内容に関する課題を仕上げ、乳幼児期の知覚・認知の特徴を理解する。 3. 本時の学習成果 ・乳幼児期の各知覚、乳幼児の認知の特徴が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト 7 章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の課題に備えてキーワードを確認しておく。
8 回	<練習課題⑤・心身の発達領域別に見た乳幼児期の発達⑤言語の発達> 1. 本時の目標 乳幼児期における他者とのかかわりについて、言語能力の発達過程を説明する。 2. 本時の活動 ・6 回目の授業内容に関する課題を仕上げ、乳幼児期における他者とのかかわり・言語能力の発達過程を理解する。 3. 本時の学習成果 ・乳幼児と養育者の相互作用とその意義、乳幼児期の言語能力の発達過程を理解する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト 8 章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の課題に備えてキーワードを確認しておく。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	<練習課題⑥・心身の発達領域別に見た乳幼児期の発達⑥人とのかかわり> 1. 本時の目標 乳幼児期における他者とのかかわりについて、母子関係の相互作用・ボールビィの理論、愛着について説明する。 2. 本時の活動 ・7 回目の授業内容に関する課題を仕上げ、乳幼児期における他者とのかかわりについて、ボールビィの理論、愛着について内容を理解する。 3. 本時の学習成果 ・乳幼児期における他者とのかかわりについて説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト 9 章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の課題に備えてキーワードを確認しておく。
10 回	<練習課題⑦・家庭環境と保育の重要性> 1. 本時の目標 生涯発達に関して、「保育所保育指針」に示されている乳幼児期の発達の特徴を紹介し、乳幼児期の発達の特徴の全体像を示す。 2. 本時の活動 ・8 回目の授業内容の課題を仕上げ、乳幼児期の発達の特徴の全体像を理解する。 3. 本時の学習成果 ・乳幼児期の発達の特徴の全体像、家庭における人間関係を確認し、発達の特徴を説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト 10 章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の課題に備えてキーワードを確認しておく。
11 ・ 12 回	<練習課題⑧・生涯発達と保育の重要性①> 1. 本時の目標 前回授業を振り返り、保育に活かされる心理学の基本的研究知見を示し、児童期以降の発達の特徴を説明する。 2. 本時の活動 ・4～9 回目の授業内容から乳幼児期の発達の特徴の全体像を振り返り、生涯発達に関してエリクソン（Erikson, E. H.）の理論を紹介し、児童期以降の発達の特徴を確認する。 3. 本時の学習成果 ・児童期および青年期以降の発達の特徴が説明できる。 ・心理学の基本的な研究知見が保育にどのように活かされるのかを理解する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト 11, 12 章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の課題に備えてキーワードを確認しておく。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
13 回	<練習課題⑨・生涯発達と保育の重要性②> 1. 本時の目標 乳幼児の発達と生涯発達の重要性に関する理解を促進する。発達の“つまずき”に関して、その種類、発見と評価、支援のあり方を説明する。 2. 本時の活動 ・発達の“つまずき”の種類、発見と評価、支援のあり方を理解する。 3. 本時の学習成果 ・乳幼児の発達と生涯発達の重要性に関して理解する。 ・発達の“つまずき”に関して、その種類、発見と評価、支援のあり方が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト 13, 14 章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく。 10, 11 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。
14 回	<練習課題⑩・子どもと遊び> 1. 本時の目標 遊びに関して、その概念、種類、機能、特徴を説明し、遊びが及ぼす子どもの発達に対する影響と意義を示す。 2. 本時の活動 ・遊びに関して、その概念、種類、機能、特徴を理解する。 3. 本時の学習成果 ・子どもの発達に対する遊びの意義を認識し、概念等を説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：子どもの頃の経験を振り返り、健康で安全な生活をつくりだす力を養うための効果的な遊びを考えてくる。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく。
15 回	<まとめ> 1. 本時の目標 心理学の観点から子どもの発達を理解するために習得した基礎知識、子どもが体験を積み重ね相互に関係をもちながら成長する過程を理解し、全講義の内容をまとめる。 2. 本時の活動 ・心身の発達領域別に見た子どもの発達・成長過程の理解を深め、保育の重要性を確認する。 3. 本時の学習成果 ・本科目の目標を達成している。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：特になし。 ・復習事項：第 1 回から第 14 回の授業内容を整理し、期末考査に備える。

令和 8 年 度 教 育 計 画							
科目名	保育者論・教師論	授業回数	15	単位数	2	担当教員	都田 修兵
質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー）：stsuda@owc.ac.jp、金曜日 5 限目							
教育目標と学生の学習成果	<教育目標> 本科目は、保育士資格及び幼稚園教諭免許取得のための科目である。 本科目ではとくに、現代社会における保育・教育の必要性や重要性の高まりを背景に、保育職および教職の意義、役割・資質能力・職務内容などについて身につけ、保育職および教職への意欲を高め、さらに専門職としての適性を判断し、進路選択に資する保育職および教職の在り方を理解する。 なお、具体的には「保育士課程を構成する各教科目の目標及び授業内容」および「教職課程コアカリキュラム」に対応する以下の目標を達成するものとする。 (1) 保育者の役割と倫理について理解する。 (2) 保育士の制度的な位置づけを理解する。 (3) 保育士の専門性について考察し、理解する。 (4) 保育者の連携・協働について理解する。 (5) 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。 (6) 我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。 (7) 教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。 (8) 教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。 (9) 学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。 <専門的学習成果> 本科目における「専門的学習成果」は、教育目標に示す（１）から（９）までを理解し、「保育職」および「教職」についての基礎的事項を修得することである。 <汎用的学習成果> 本科目における「汎用的学習成果」は、「態度・信念」の獲得であり、「保育職」および「教職」に就く者であることを自覚し、自らを高めることに努め、ふさわしい言動を身につけることである。						
	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) ・主として講義形式による。 ・受講者の理解を促進させるため、講義中に小テストを課す。 ・受講生自身の学びについて考えるため「ポートフォリオ」の作成を行う。					
	予習・復習	予習・復習事項 ・毎授業回に、「授業回数別教育内容」に記された予習及び復習を求める。 ・予習については、第２回～１５回に向けて、90 分×１４回を目安とする。また、復習については、第１回～１５回終了後にその回の内容と１５回目には別途 90 分程度の期末試験に向けた復習も入れて、90 分×１５回＋90 分を目安とする。 ※復習でわからないことがあった学生には、OH などを利用しながら、学習成果を高める援助を行う。					
	テキスト	田中卓也・松村齋・小島千恵子編『改訂版 保育者論・教育者論——子どもとともに未来をデザインする』わかば社、2025（初版 2020）。					

学習評価の方法	＜学習評価の観点＞ 学習評価の観点は下記の通りである。 ●「専門的学習成果」の評価は、「教育目標」にも掲げた（１）から（９）の観点に基づき行う。 ●「汎用的学習成果」の評価は、「教育目標」に示した「態度・信念」の獲得状況に基づき行う。 ＜学習評価の方法＞ 学習評価は以下の方法により実施することとする。 （１）定期試験（70 点） 「専門的学習成果」の学習評価の方法は、学習評価の観点（１）から（９）までにかかる内容についての定期試験（70 点分）を実施する。なお、出題は「選択問題」「簡単な記述問題」「論述問題」等から構成する。 （２）小テスト（10 点×2 回＝20 点） 小テストを実施し、評価する。なお、実施回は「授業回数別教育内容」を参照すること。小テスト実施日に欠席等により小テストを受験することができなかった者は、後日追試験を実施する。なお、小テストについては採点終了後、学生に返却し、解説等を実施する。 （３）汎用的学習成果（5 点×2 回＝10 点） 「汎用的学習成果」の学習評価の方法は、授業課題である「ポートフォリオ」の作成をもって「態度・信念」の獲得とする。 なお、ポートフォリオについては、本人の手元に保管できるようにし、第 15 回の授業で、受講生全員が自身を振り返ることができるようにし、これからの自身の学びに生かせるようにする。 （４）その他 学習評価の方法（１）（２）（３）以外に受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、以下のケースに応じて減点することとする。ただし、最大で 5 点までの減点にとどめるものとする。 ・「過度の居眠り」及び「不必要な私語」（1 点） ・「無許可による携帯電話の使用（SNS 等）」（2 点）
注意事項	●定期試験 ・「学則施行細則」第 7 条により、<u>本科目について 3 分の 2 以上出席をしなければ試験を受けることはできない（受験資格なし）。</u> ・「学則施行細則」第 7 条により、学習評価は 100 点法をもって採点し、80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可、60 点未満を不可とする。 ●再試験 ・「学則施行細則」第 7 条により、定期試験が不可の者に対して再試験の機会を与え、願により再試験を受けることができる。ただし、<u>講義及び演習の授業科目の再試験は 100 点法による筆記試験とし、その他の評価点（本科目については、学習評価の方法における（２）（３）（４））は含めず、再試験による 60 点以上の得点者はすべて 60 点の学習評価とする。</u> ●追試験 ・「学則施行細則」第 7 条により、定期試験の際、病気その他止むを得ない事情により受験不能であった者に対しては、その理由が正当であると認められた場合に限り、願により追試験を受けることができるが、<u>追試験による 80 点以上の得点者はすべて 80 点の学習評価とする。</u> ＜参考図書等＞ 阿部彩『子どもの貧困——日本の不公平を考える』岩波新書、2008。 阿部彩『子どもの貧困Ⅱ——解決策を考える』岩波新書、2014。 広田照幸『日本人のしつけは衰退したか——「教育する家族」のゆくえ』講談社現代新書、1999。 市川伸一『学ぶ意欲の心理学』PHP 新書、2001。 池田修『教師になるということ』ひまわり社、2007。 小林美希『ルポ 保育崩壊』岩波新書、2015。 前田正子『保育園問題——待機児童、保育士不足、建設反対運動』中公新書、2017。 大村はま／荻谷剛彦・夏子『教えることの復権』ちくま新書、2003。 汐見稔幸編『子どもにかかわる仕事』岩波ジュニア新書、2011。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<オリエンテーション、ポートフォリオ作成> ○本時の目標 本科目の全体目標及び授業スケジュール、成績評価等について理解し、自分の成長過程を振り返る（ポートフォリオ作成）。また、保育者あるいは教育者（教職）について考え、整理する。 ○本時の活動 ・オリエンテーション（授業の進め方、スケジュール、学習評価の方法） ・ポートフォリオ（テキスト p. 8）を作成する。 ・テキスト第1章（pp. 10-15）をもとに考える。 ○本時の学習成果 本授業の全体目標や授業スケジュールなどを確認し、自身のこれまでの成長過程を振り返ることができている。また、保育者あるいは教育者（教職）について理解している。 ○予習及び復習事項 ・復習事項：これからの自身のキャリア形成について考えてみる。また、保育者あるいは教育者（教職）という職業について整理する。
2 回	<保育者・教育者の資格・免許> ○本時の目標 保育者・教育者（教職）という仕事が法的・制度的にどのようなものとして位置づけられているのか関連法令などをもとに理解し、保育者の資格や免許、責務についての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキスト第2章（pp. 16-23）をもとに考える。 ○本時の学習成果 保育者・教育者（教職）の法的・制度的位置づけ、保育者の資格や責務を理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容を確認する。
3 回	<保育者・教育者の教職観の変遷と保育・教育の歴史> ○本時の目標 保育者あるいは教育者（教職）の教職観がどのような変遷を辿ってきたの、さらにはそのような教職観も含めて保育あるいは教育に影響を与えた思想について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第3章（pp. 24-35）をもとに考える。 ○本時の学習成果 保育者あるいは教育者（教職）の教職観がどのような変遷を辿ってきたの、さらにはそのような教職観も含めて保育あるいは教育に影響を与えた思想について理解できる。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：保育あるいは教育について、その教職観や思想から整理してみる。
4 回	<保育者・教育者の一日> ○本時の目標 園（あるいは施設）で働く保育者あるいは教育者（教職）の仕事の内容について、具体的事例をもとに理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第4章（pp. 36-49）をもとに考える。 ○本時の学習成果 保育者あるいは教育者（教職）の仕事の流れについて理解できる。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育者あるいは教育者（教職）の仕事について整理する。 また、第5回における小テストの範囲を振り返っておく。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
5 回	<保育者・教育者に必要な資質・専門性> ○本時の目標 保育者あるいは教育者（教職）に必要な資質・専門性について整理し、それらの向上が常に必要であることなどについて学ぶ。 ○本時の活動 ・<u>小テスト（第1回）</u>：シラバス第2回・第3回・第4回の内容 ・テキスト第5章（pp. 50-59）をもとに考える。 ○本時の学習成果 保育者あるいは教育者（教職）に必要な資質・専門性について理解し、それらの向上の必要性について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育者あるいは教育者（教職）の資質・専門性について整理する。
6 回	<子どもの成長と発達> ○本時の目標 子どもたち（0歳～6歳まで）の発達を具体的に理解するとともに、その発達を理解したうえでの保育者あるいは教育者（教職）の援助と配慮、留意点について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第6章（pp. 60-65）をもとに考える。 ○本時の学習成果 子どもたち（0歳～6歳まで）の発達を具体的に理解でき、その発達を理解したうえでの保育者あるいは教育者（教職）の援助と配慮、留意点について考えることができる。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、子どもの発達段階などについて整理する。
7 回	<子どもの理解とクラス（集団）づくり> ○本時の目標 子ども理解とクラス（集団）づくりについて理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第7章（pp. 66-77）をもとに考える。 ○本時の学習成果 子ども理解とクラス（集団）づくりについて理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：子ども理解とクラス（集団）づくりについて整理してみる。
8 回	<環境をいかす保育者・教育者> ○本時の目標 環境（人的環境・物的環境・自然環境・社会的環境）を通して教育あるいは保育を行うことの意味、意義などについて理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第8章（pp. 78-85）をもとに考える。 ○本時の学習成果 環境を通して教育あるいは保育を行うことの意味、意義などについて理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、環境を通して教育あるいは保育を行うことの意味、意義などについて整理してみる。 また、第9回における小テストの範囲を振り返っておく。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	<保育者・教育者に必要なさまざまな保育技術> ○本時の目標 保育者あるいは教育者（教職）にとって必要となるさまざまな保育技術（たとえば、音楽表現や造形表現、身体表現など）について学ぶ。 ○本時の活動 ・<u>小テスト（第2回）</u>：シラバス第5回・第6回・第7回・第8回の内容 ・テキスト第9章（pp. 86-99）をもとに考える。 ○本時の学習成果 保育者あるいは教育者（教職）にとって必要となるさまざまな保育技術（たとえば、音楽表現や造形表現、身体表現など）について理解する。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育者に必要な保育技術についてまとめる。
10 回	<さまざまな子どもや保護者を支援する保育者・教育者> ○本時の目標 特別な支援を必要とする子どもへの保育、その保護者への子育て支援などについての基礎的事項を理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第10章（pp. 100-109）をもとに考える。 ○本時の学習成果 特別な支援を必要とする子どもへの保育、その保護者への子育て支援などについての基礎的事項について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、特別な支援を必要とする子どもへの保育、その保護者への子育て支援などについて自分なりにまとめる。
11 回	<保育者・教育者のメンタルヘルス> ○本時の目標 保育者あるいは教育者（教職）にとってのメンタルヘルスとは何か考える。 ○本時の活動 ・テキスト第11章（pp. 110-115）をもとに考える。 ○本時の学習成果 保育者あるいは教育者（教職）にとってのメンタルヘルスとは何かについて理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育者あるいは教育者（教職）にとってのメンタルヘルスについて整理する。
12 回	<保育者・教育者に必要な連携・協働> ○本時の目標 保育者あるいは教育者（教職）にとって必要な連携や協働について、「チームとしての学校」などの視点から考える。 ○本時の活動 ・テキスト第12章（pp. 116-123）をもとに考える。 ○本時の学習成果 保育者あるいは教育者（教職）にとって必要な連携や協働について、「チームとしての学校」などの視点から考えることができる。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育者あるいは教育者（教職）にとって必要な連携や協働について整理する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
13 回	<保育者・教育者に必要な研修> ○本時の目標 保育者あるいは教育者（教職）の研修について、具体的レベルでの理解を通して、その目的や意義について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第13章（pp. 124-133）をもとに考える。 ○本時の学習成果 保育者あるいは教育者（教職）の研修の意義や意味について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、研修の目的や意義について整理する。
14 回	<これからの保育者・教育者とは、総括> ○本時の目標 これからの保育者あるいは教育者（教職）について、省察などの視点から整理する。そのうえで自身の本授業の学びの整理（ポートフォリオ作成）を行う。 ○本時の活動 ・テキスト第14章（pp. 134-142）をもとに考える。 ・<u>ポートフォリオ（テキスト p. 143）を作成</u>する。 ○本時の学習成果 これからの保育者あるいは教育者（教職）について、省察などの視点から整理できている。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容を整理する。
15 回	<総括> ○本時の目標 本授業の総括を行う。 ○本時の活動 ・これまでのプリント及び期末試験についてのプリントをもとに、期末試験に向けた授業内容の振り返りを行う。 ○本時の学習成果 これまでの学びを総括できている。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：これまでのプリント等をまとめておく。 ・復習事項：これまでの授業内容の整理を行いながら、期末試験に備える。

令和 8 年 度 教 育 計 画							
科目名	教育原理	授業回数	15	単位数	2	担当教員	都田 修兵
質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー）：stsuda@owc.ac.jp、金曜日 5 限目							
教育目標と学生の学習成果	教育目標 本科目は、幼稚園教諭二種免許状取得のための「教職に関する科目」の一つである。 本科目では、教育の基本的概念や教育の理念、歴史や思想についての歴史的展開を理解するとともに、日本をはじめとした教育や学校がどのような変遷を経てきたのかを理解することを目標とし、具体的には「教職課程コアカリキュラム」に対応する以下の目標を達成するものとする。 （１）教育の基本的概念 教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。 （２）教育に関する歴史 教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。 （３）教育に関する思想 教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。 ＜専門的学習成果＞ 本科目における「専門的学習成果」は、教育目標に示す（１）から（３）までを理解し、「教育」についての基礎的事項を修得することである。 ＜汎用的学習成果＞ 本科目における「汎用的学習成果」は、「価値・意見」の獲得であり、保育者（教職）に就く者であることを自覚し、自らを高めることに努め、自らで考える力を身に付けることである。						
	授業の進め方	（講義）・演習・実験・実習・実技） ・主として講義形式による。 ・受講者の理解を促進させるため、講義中に小テストを課す。 ・授業時間外に取り組む課題を課す。					
	予習・復習	予習・復習事項 ・毎授業回に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・予習については、第 2 回～ 1 5 回に向けて、90 分×1 4 回を目安とする。また、復習については、第 1 回～ 1 5 回終了後にその回の内容と 1 5 回目には別途 90 分程度の期末試験に向けた復習も入れて、90 分×1 5 回+90 分を目安とする。					
	テキスト	古橋和夫編著『子どもの教育の原理——保育の明日をひらくために』萌文書林、2018（初版 2011）。					
	学習評価の方法	＜学習評価の観点＞ ●「専門的学習成果」については「教育目標」でも示した以下の（１）から（５）の観点に基づき行う。学習評価の観点は下記の通りである。 （１）教育の意義・目的、基礎的概念を理解する。 （２）教育の思想及び歴史の基礎を理解する。 （３）現代日本の教育制度の基礎を理解する。 （４）現代教育の諸問題について知り、科学的に思考する方法及び態度を修得する。					

	●「汎用的学習成果」については「教育目標」でも示した「態度・信念」の獲得の状況に基づき行う。 ＜学習評価の方法＞ 学習評価は以下の方法により実施することとする。 (1) 定期試験 (70 点) 「専門的学習成果」の学習評価の方法は、学習評価の観点 (1) から (4) までにかかる内容についての定期試験 (70 点分) を実施する。なお、出題は「選択問題」「簡単な記述問題」「論述問題」等から構成することとする。 (2) 小テスト (10 点×2 回=20 点) 数回分の授業内容についての小テストを実施し、評価する。なお、実施回は「授業回数別教育内容」を参照すること。小テスト実施日に欠席等により小テストを受験することができなかった者は、後日追試験を実施する。 なお、小テストについては採点終了後、学生に返却し、解説等を実施する。 (3) 読書レポート (10 点×1 回=10 点) 「汎用的学習成果」の学習評価の方法は、授業課題である「読書レポート」の得点をもって「価値・意見」の獲得とする。なお、「読書レポート」については、＜参考図書等＞に書いてある文献等を読んで行うものとする。 (4) その他 学習評価の方法 (1) (2) (3) 以外に受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、以下のケースに応じて減点することとする。ただし、最大で 5 点までの減点にとどめるものとする。 ・「過度の居眠り」及び「不必要な私語」(1 点) ・「無許可による携帯電話の使用 (SNS 等)」(2 点)
注 意 事 項	●定期試験 ・「学則施行細則」第 7 条により、<u>本科目について 3 分の 2 以上出席をしなければ試験を受けることはできない (受験資格なし)。</u> ・「学則施行細則」第 7 条により、学習評価は 100 点法をもって採点し、80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可、60 点未満を不可とする。 ●再試験 ・「学則施行細則」第 7 条により、定期試験が不可の者に対して再試験の機会を与え、願により再試験を受けることができる。ただし、<u>講義及び演習の授業科目の再試験は 100 点法による筆記試験とし、その他の評価点 (本科目は、学習評価の方法における (2) (3) (4)) は含めず、再試験による 60 点以上の得点者はすべて 60 点の学習評価とする。</u> ●追試験 ・「学則施行細則」第 7 条により、定期試験の際、病気その他止むを得ない事情により受験不能であった者に対しては、その理由が正当であると認められた場合に限り、願により追試験を受けることができるが、<u>追試験による 80 点以上の得点者はすべて 80 点の学習評価とする。</u> ＜参考図書等＞ ・秋山千佳『ルポ 保健室——子どもの貧困・虐待・性のリアル』朝日新書、2016。 ・林純次『残念な教員——学校教員の失敗学』光文社新書、2015。 ・藤田英典『教育改革——共生時代の学校づくり』岩波新書、1997。 ・藤田英典『義務教育を問いなおす』ちくま新書、2005。 ・堀尾輝久『教育入門』岩波新書、1989。 ・荻谷剛彦『教育改革の幻想』ちくま新書、2002。 ・荻谷剛彦ほか著『「学力低下」の実態』岩波ブックレット、2002。 ・荻谷剛彦『学校って何だろう？——教育の社会学入門』ちくま文庫、2005。 ・尾木直樹『学校は再生できるか』NHK ブックス、1998。 ・尾木直樹『「学級崩壊」をどうみるか』NHK ブックス、1999。 ※その他、授業内で「読書案内」を配布するので参照されたい。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<オリエンテーション、教育の意義と目的> ○本時の目標 本科目の全体目標及び授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、「教育」を考えていくうえで必要となる思考について考える。そのうえで、「教育の意義と目的」について理解する。 ○本時の活動 ・オリエンテーション 授業の進め方、スケジュール、学習評価の方法の確認をする。 ・テキスト第1章（pp. 14-29）で解説する。 ○本時の学習成果 本科目の概要について理解しており、「教育の意義と目的」について理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 復習事項：本時の内容について、テキストやノートを見ながら確認する。
2 回	<幼児教育を築いた人々——教育の歴史的考察①> ○本時の目標 教育の歴史——とくには「幼児教育」——について、それを築いた人々の歴史的・思想的考察をもとに考えていく。 ○本時の活動 ・テキスト第2章（pp. 30-48）で解説する。 ○本時の学習成果 教育の思想や歴史を代表的な教育思想家によりながら学ぶことを通して、子供や学校、家庭に関する教育の思想を理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 教育思想家についてインターネットなどで調べてみる。 ・復習事項：取り上げた教育思想家とその教育思想についてテキストやノートを見ながら、自分なりにまとめる。
3 回	<幼児教育を築いた人々——教育の歴史的考察②> ○本時の目標 前回に引き続き、教育の歴史——とくには「幼児教育」——について、それを築いた人々の歴史的・思想的考察をもとに考えていく。 ○本時の活動 ・テキスト第2章（pp. 48-56）で解説する。 ○本時の学習成果 教育の思想や歴史を代表的な教育思想家によりながら学ぶことを通して、子供や学校、家庭に関する教育の思想を理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習及び復習事項：第3回に同じ。
4 回	<わが国の幼児教育と保育の歴史> ○本時の目標 日本における幼児教育と保育の歴史について当時の状況や写真、法律などをもとに理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第3章（pp. 57-74）で解説する。 ○本時の学習成果 日本における幼児教育と保育の歴史について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：本時の内容について、テキストやノートを見ながら確認する。 第5回における小テストの範囲をふり返る。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
5 回	<子どもの発達と教育①> ○本時の目標 子どもの発達について、「発達」の概念やピアジェ、エリクソン、ヴィゴツキーらの発達理論をもとに理解する。 ○本時の活動 ・<u>小テスト（第1回）</u>：シラバス第2回・第3回の内容 ・テキスト第4章（pp. 78-92）で解説する。 ○本時の学習成果 子どもの発達について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：本時の内容について、テキストやノートを見ながら確認する。
6 回	<子どもの発達と教育②> ○本時の目標 子どもの発達について、「発達」の概念やピアジェ、エリクソン、ヴィゴツキーらの発達理論をもとに理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第4章（pp. 92-110）で解説する。 ○本時の学習成果 子どもの発達について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：本時の内容について、テキストやノートを見ながら確認する。
7 回	<教育と子ども家庭福祉における目的と目標> ○本時の目標 教育と子ども家庭福祉における目的と目標について、日本国憲法、教育基本法、幼稚園や保育所に関わる法律などから理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第5章（pp. 112-127）で解説する。 ○本時の学習成果 教育と子ども家庭福祉における目的と目標について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：本時の内容について、テキストやノートを見ながら確認する。 第8回における小テストの範囲をふり返る。
8 回	<わが国と外国の幼児教育・保育の制度> ○本時の目標 日本の幼稚園と保育所がどのような制度に基づいて成立しているのかについて理解したうえで、諸外国の制度について概観し、日本の制度について客観的な視点からも理解する。 ○本時の活動 ・<u>小テスト（第2回）</u>：シラバス第5回・第6回の内容 ・テキスト第6章（pp.128-151）で解説する。 ○本時の学習成果 日本の幼稚園と保育所がどのような制度に基づいて成立しているのかについて理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：本時の内容について、テキストやノートを見ながら確認する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	<保育・教育の計画> ○本時の目標 保育の計画の必要性、保育の計画の立て方について、幼稚園教育要領や保育所保育指針などの内容を踏まえて理解する。 ○本日の活動 ・テキスト第7章（pp. 152-170）で解説する。 ○本時の学習成果 保育・教育の計画について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：本時の内容について、テキストやノートを見ながら確認する。
10 回	<子どもの発達の特徴と遊び> ○本時の目標 子どもの発達の特徴と遊びについて、0歳児、1歳以上3歳未満児、3歳以上児のそれぞれにより理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第8章（pp. 171-198）で解説する。 ○本時の学習成果 子どもの発達の特徴と遊びについて整理できている。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：本時の内容について、テキストやノートを見ながら確認する。
11 回	<幼児教育と保育の教育評価> ○本時の目標 幼児教育における保育の教育評価について、評価対象と評価方法により理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第9章（pp. 199-219）で解説する。 ○本時の学習成果 幼児教育における保育の教育方法について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：本時の内容について、テキストやノートを見ながら確認する。
12 回	<特別支援教育> ○本時の目標 「特別支援教育」そのものについての理解、そして「障がいのある子どもへの支援」がどのようなものであるかについて理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第10章（pp. 222-235）で解説する。 ○本時の学習成果 「特別支援教育」について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：本時の内容について、テキストやノートを見ながら確認する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
13 回	<生涯学習社会における幼児教育と保育> ○本時の目標 現代社会における「生涯学習」について理解するとともに、生涯学習にとって乳幼児期の保育（あるいは教育）がどのような意味をもつのかについて理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第11章（pp. 236-247）で解説する。 ○本時の学習成果 「生涯学習」について乳幼児期との関係のなかで理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：本時の内容について、テキストやノートを見ながら確認する。
14 回	<保育者とは何か> ○本時の目標 保育者という存在について、専門職という面から考えるとともに、保育者養成の抱えている課題について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第12章（pp. 248-269）で解説する。 ○本時の学習成果 保育者という存在について考える。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：本時の内容について、テキストやノートを見ながら確認する。 第15回において提出する「読書レポート」を仕上げる。
15 回	<総括> ○本時の目標 シラバス第14回までの内容を総括するとともに、この授業における自身の学びの総括を行う。さらに期末試験に向けた対策を立てる。 ○本時の活動 ・テキスト第1章～第12章（pp. 14-269）で総括する。 ・<u>読書レポートを提出</u>する。 ○本時の学習成果 この授業の総括ができる。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：本時の内容について、テキストやノートを見ながら確認し、期末試験に向けて準備する。

令和 8 年 度 教 育 計 画							
科目名	教育制度論	授業回数	15	単位数	2	担当教員	都田 修兵
質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー）： stsuda@owc.ac.jp、金曜日 5 限目							
教育目標と学生の学習成果	教育目標 本科目は、幼稚園教諭二種免許状取得のための「教職に関する科目」の一つである。 本科目では、現代の学校教育制度に関する基礎的な知識や課題を理解するとともに、学校教育と地域との連携や学校安全に関する基礎的な知識も習得することを目標とし、具体的には、「教職課程コアカリキュラム」に対応する以下の目標を達成するものとする。 （１）教育に関する制度的事項 現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。 （２）学校と地域の連携 学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。 （３）学校安全への対応 学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取り組みを理解する。 ＜専門的学習成果＞ 本科目における「専門的学習成果」は、教育目標に示す（１）から（３）までを理解し、「教職」についての基礎的事項を修得することである。 ＜汎用的学習成果＞ 本科目における「汎用的学習成果」は、「態度・信念」の獲得であり、保育者（教職）に就く者であることを自覚し、自らを高めることに努め、ふさわしい言動を身につけることである。						
	教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・主として講義形成による。 ・受講生の理解を促すために、講義中に小テストを課す。				
		予習・復習	予習・復習事項 ・毎授業回に、「授業回数別教育内容」に記された予習・復習を求める。 ・予習については、第 2 回～ 1 5 回に向けて、90 分× 1 4 回を目安とする。また、復習については、第 1 回～ 1 5 回終了後にその回の内容と 1 5 回目には別途 90 分程度の期末試験に向けた復習も入れて、90 分× 1 5 回+90 分を目安とする。				
		テキスト	田中正浩編著『学びを深める教育制度論』大学図書出版、2020。				
	学習評価の方法	＜学習評価の観点＞ 学習評価の観点は下記の通りである。 ●「専門的学習成果」については、教育目標にも掲げた（１）から（３）の観点に基づき行う。 （１）教育に関する制度的事項 （２）学校と地域の連携 （３）学校安全への対応 ●「汎用的学習成果」については「教育目標」でも示した「態度・信念」の獲得の状況に基づき行う。					

	＜学習評価の方法＞ 学習評価は以下の方法により実施することとする。 (1) 定期試験 (70 点) 「専門的学習成果」の学習評価の方法は、学習評価の観点 (1) から (3) までにかかる内容についての定期試験 (70 点分) を実施する。なお、出題は「選択問題」「簡単な記述問題」「論述問題」等から構成することとする。 (2) 小テスト (10 点×2 回=20 点) 数回分の授業内容についての小テストを実施し、評価する。なお、実施回は「授業回数別教育内容」を参照すること。小テスト実施日に欠席等により小テストを受験することができなかった者は、後日追試験を実施する。 なお、小テストについては採点終了後、学生に返却し、解説等を実施する。 (3) 読書レポート (10 点×1 回=10 点) 「汎用的学習成果」の学習評価の方法は、授業課題である「読書レポート」の得点をもって「態度・信念」の獲得とする。なお、「読書レポート」については、＜参考図書等＞に書いてある文献等を読んで行うものとする。 (4) その他 ただし、学習評価の方法 (1) (2) (3) 以外に受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、以下のケースに応じて減点することとする。ただし、最大で 5 点までの減点にとどめるものとする。 ・「過度の居眠り」及び「不必要な私語」(1 点) ・「無許可による携帯電話の使用 (SNS 等)」(2 点)
注 意 事 項	●定期試験 ・「学則施行細則」第 7 条により、<u>本科目について 3 分の 2 以上出席をしなければ試験を受けることはできない (受験資格なし)。</u> ・「学則施行細則」第 7 条により、学習評価は 100 点法をもって採点し、80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可、60 点未満を不可とする。 ●再試験 ・「学則施行細則」第 7 条により、定期試験が不可の者に対して再試験の機会を与え、願により再試験を受けることができる。ただし、<u>講義及び演習の授業科目の再試験は 100 点法による筆記試験とし、その他の評価点 (本科目については、学習評価の方法における (2) (3) (4)) は含めず、再試験による 60 点以上の得点者はすべて 60 点の学習評価とする。</u> ●追試験 ・「学則施行細則」第 7 条により、定期試験の際、病気その他止むを得ない事情により受験不能であった者に対しては、その理由が正当であると認められた場合に限り、願により追試験を受けることができるが、<u>追試験による 80 点以上の得点者はすべて 80 点の学習評価とする。</u> ＜参考図書＞ ・大豆生田啓友、三谷大紀編集『最新保育資料集 2023』ミネルヴァ書房、2023。 ・坂田仰ほか『新訂第 4 版 図解・表解教育法規』教育開発研究所、2021。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<オリエンテーション、教育制度を学ぶ意義> ○本時の目標 本科目の全体目標及び授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、学校教育を取り囲む状況を確認しつつ、教育制度の基本的原理や公教育の制度化原理などについて理解する。 ○本時の活動 ・オリエンテーション 授業の進め方、スケジュール、学習評価の方法を説明する。 ・テキスト第1章（pp. 10-21）で解説する。 ○本時の学習成果 本科目の概要について理解し、学校教育の基本的原理や公教育の制度化原理などについて理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の復習をする。
2 回	<人間の発達と教育制度> ○本時の目標 学習権と子どもの権利の意味、そしてそれを保障する学校教育と社会教育の制度に関する原則と要点について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第2章（pp. 22-31）で解説する。 ○本時の学習成果 学習権と子どもの権利の意味、そしてそれを保障する学校教育と社会教育の制度に関する原則と要点について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら本時の内容について整理し、理解する。
3 回	<教育法のしくみ> ○本時の目標 わが国における教育制度に関係の深い法や法律のしくみを学ぶ。 ○本時の活動 ・テキスト第3章（pp. 32-41）で解説する。 ○本時の学習成果 わが国における教育制度に関係の深い法や法律のしくみを理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら本時の内容について整理し、理解する。
4 回	<教育内容の制度> ○本時の目標 教育内容について定めた法律や省令、告示などで示された国の基準と、各地方教育委員会が行うべき教育内容に関わる事務、各学校が編成する教育課程について義務教育の部分を中心にその仕組みについて学ぶ。 ○本時の活動 ・テキスト第4章（pp. 42-51）で解説する。 ○本時の学習成果 教育内容について定めた法律や省令などについて理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら本時の内容について整理し、理解する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
5 回	<日本国憲法と教育基本法> ○本時の目標 日本国憲法と教育基本法についての成立過程を知るとともに、制定された背景やその特徴について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第5章（pp. 52-64）で解説する。 ○本時の学習成果 日本国憲法と教育基本法についての成立過程や制定された背景、その特徴について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら本時の内容について整理し、理解する。
6 回	<学校の制度> ○本時の目標 「公教育」の意味、わが国公教育の始まりである「学制」「学校体系」「わが国の教育法規」などを学ぶ。 ○本時の活動 ・テキスト第6章（pp. 66-76）で解説する。 ○本時の学習成果 「公教育」の意味、わが国公教育の始まりである「学制」「学校体系」「わが国の教育法規」などについて理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら本時の内容について整理し、理解する。 第7回における小テストの範囲を振り返っておく。
7 回	<義務教育制度> ○本時の目標 義務教育制度の成り立ちをはじめ、その目的・目標、そして義務教育制度の基本的原理について根拠となる法令を確認しながら理解する。 ○本時の活動 ・<u>小テスト（第1回）</u>：シラバス第5回・第6回の内容 ・テキスト第7章（pp. 78-89）で解説する。 ○本時の学習成果 義務教育制度の成り立ちをはじめ、その目的・目標、そして義務教育制度の基本的原理について根拠となる法令を確認しながら理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら本時の内容について整理し、理解する。
8 回	<教育の機会均等> ○本時の目標 「教育の機会均等」について、その理念や制度の歴史的変遷、法規定について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第8章（pp. 90-103）で解説する。 ○本時の学習成果 「教育の機会均等」について、その理念や制度の歴史的変遷、法規定について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら本時の内容について整理し、理解する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	<教職員の制度> ○本時の目標 教職員の制度として、教員免許状の区分や種類及び教職員の組織について学ぶ。 ○本時の活動 ・テキスト第9章（pp. 104-115）で解説する。 ○本時の学習成果 教職員の制度として、教員免許状の区分や種類及び教職員の組織について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら本時の内容について整理し、理解する。
10 回	<教育行政の制度> ○本時の目標 国及び地方公共団体における教育行政が、教育の機会均等を実現し、国民の教育受ける権利を実質的に保障するためにいかに重要な役割を果たしているかを学ぶ。 ○本時の活動 ・テキスト第10章（pp. 116-120）で解説する。 ○本時の学習成果 国及び地方公共団体における教育行政の役割について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら本時の内容について整理し、理解する。
11 回	<乳幼児教育・保育の制度①> ○本時の目標 乳幼児期の教育・保育を担う幼稚園や保育所、認定こども園等の基本制度を学びながら、社会全体で乳幼児の子どもや子育て家庭を支えるしくみについて学ぶ。 ○本時の活動 ・テキスト第11章（pp. 122-134）で解説する。 ○本時の学習成果 乳幼児期の教育・保育を担う幼稚園や保育所、認定こども園等の基本制度を学びながら、社会全体で乳幼児の子どもや子育て家庭を支えるしくみについて理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら本時の内容について整理し、理解する。
12 回	<乳幼児教育・保育の制度②> ○本時の目標 乳幼児期の教育・保育を担う幼稚園や保育所、認定こども園等の基本制度を学びながら、社会全体で乳幼児の子どもや子育て家庭を支えるしくみについて学ぶ。 ○本時の活動 ・テキスト第11章（pp. 122-134）で解説する。 ○本時の学習成果 乳幼児期の教育・保育を担う幼稚園や保育所、認定こども園等の基本制度を学びながら、社会全体で乳幼児の子どもや子育て家庭を支えるしくみについて理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら本時の内容について整理し、理解する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
13 回	<社会教育制度> ○本時の目標 社会教育の理念と、社会教育法に示される社会教育行政の基本原則を確認し、社会教育の実践を支える制度の基本的事項について学ぶ。 ○本時の活動 ・テキスト第12章 (pp. 136-147) で解説する。 ○本時の学習成果 社会教育の理念と、社会教育法に示される社会教育行政の基本原則を確認し、社会教育の実践を支える制度の基本的事項について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら本時の内容について整理し、理解する。 第14回における小テストの範囲を振り返っておく。
14 回	<現代的教育政策①> ○本時の目標 多様で複雑なる課題に対して示される現代的教育政策を概観し、今後のゆくえについて考える。 ○本時の活動 ・<u>小テスト (第2回)</u>：シラバス第11回・第12回の内容 ・テキスト第13章 (pp. 148-157) で解説する。 ○本時の学習成果 多様で複雑なる課題に対して示される現代的教育政策を概観し、今後のゆくえについて考えることができる。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら本時の内容について整理し、理解する。 第15回において提出する「読書レポート」を仕上げる。
15 回	<現代的教育政策②、総括> ○本時の目標 多様で複雑なる課題に対して示される現代的教育政策を概観し、今後のゆくえについて考えるとともに、授業全体の総括を行う。 ○本時の活動 ・<u>読書レポートを提出</u>する。 ・テキスト第13章 (pp. 148-157) で解説する。 ・期末試験に向けた授業内容の振り返りを行う。 ○本時の学習成果 多様で複雑なる課題に対して示される現代的教育政策を概観し、今後のゆくえについて考えることができ、授業全体の総括ができている。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容を整理するとともに、これまでの授業内容の整理を行いながら、期末試験に備える。

令和 8 年 度 教 育 計 画								
科目名	幼児理解及び保育相談		授業回数	15	単位数	2	担当教員	大賀 恵子
質問受付の方法：(e-mail, オフィスアワー等)：e-mail：ohga@owc.ac.jp 、 OH：土曜日 2 限								
教育 目 標 と 学 生 の 学 習 成 果	教育目標 幼児理解は保育者の基本となる姿勢である。本科目では、幼児理解の知識を身につけ、考え方や基礎的態度を理解することを目標とする。 ①幼児理解についての知識を身につけ、考え方や基礎的態度を理解する。 ②幼児理解の方法を具体的に理解する。 ③保育相談で必要となる心理学的基礎的知識を身につけ、基礎的な対応方法を身につける。							
	学生の学習成果 専門的学習成果：教育目標に掲げる①～③の 3 項目に関する基礎的知識を習得する。 汎用的学習成果：教育目標に掲げる①～③の項目に関して、保育者としての価値観や人間関係力を養い、自主的に学ぶ姿勢を身につける。							
教 育 方 法	授 業 の 進 め 方	(講義)・演習・実験・実習・実技) ・主として講義形式によって行うが、受講者の理解を促進し学習効果を確認するために講義中に論述課題、小レポートを課す。 ・カウンセリング的関わりの理解のために、グループワーク等の演習形式を用いる。						
	予 習 ・ 復 習	・毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・毎授業回に復習を求め、そのポイントをまとめる。その際、提出課題とする場合がある。 予習、復習には各回 90 分程度の学習時間を確保すること。						
	テ キ ス ト	谷田貝公昭(監修)・大沢裕・藤田久美 他 『子どもの理解と援助 (保育士を育てる)』一藝社、2020 年						
学 習 評 価 の 方 法	専門的学習成果 評価配分は 90 点であり、期末試験 (80 点) と課題 (10 点) で測る。90 点は以下に示した 3 つの専門的学習成果について、おおよそ「①：②：③＝30 点：30 点：30 点」の比重をおく。 ①幼児理解についての知識を身につけ、考え方や基礎的態度を理解する。 ②幼児理解の方法を具体的に理解する。 ③保育相談で必要となる心理学的基礎的知識を身につけ、基礎的な対応方法を身につける。							
	汎用的学習成果 評価配分は 10 点であり、課題とその内容で測る。なお、受講態度などに問題があった受講生に対して、注意指導で改善が見られない場合、保育を学ぶ者としての倫理観が十分でないとして、ケースに応じて減点する。 以上の通り、専門的学習成果の評価配分は 90 点、汎用的学習成果の評価配分は 10 点、合計 100 点満点で最終評価を行う。							
注 意 事 項	参考図書等 小林郁子 小林久利 共著：「保育所の子育て相談」～相談の基本・事例とアドバイス～萌文書林 佐川寛子・成瀬美恵子：「保育者のためのカウンセリングマインド入門」チャイルド本社、2007 年。							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<オリエンテーション> 1. 本時の目標 授業内容の概略・進め方・成績評価の方法を確認し、幼児理解の意義及び教育相談の意義と課題を説明する。 2. 本時の活動 ・本科目の内容・進め方・成績評価の方法を理解する。 ・幼児理解や教育相談の意義を理解する。 3. 本時の学習成果 ・保育相談の基礎の教育目標が理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト1章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
2 回	<幼児理解・保育相談の意義> 1. 本時の目標 幼児理解の意義及び教育相談の意義と課題を確認しながら、それぞれに関わる幼児の発達や学びを捉える原理を心理学的立場から理解する。 2. 本時の活動 ・幼児の発達や学びを捉える原理を理解する。 3. 本時の学習成果 ・幼児の発達や学びを捉える原理が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第2章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
3 回	<幼児理解・教師の基礎的態度> 1. 本時の目標 幼児理解に関して代表的心理学的立場からその原理的考察を深め、幼児に必要な環境について理解する。また、それと関連づけながら幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度がどのようなものであるかも理解する。 2. 本時の活動 ・幼児理解に必要な環境作り、教師の基本的な態度について理解する。 3. 本時の学習成果 ・幼児理解に必要な環境設定、教師の基本的な態度について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第3章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
4 回	<幼児理解のための実態把握と理解の方法> 1. 本時の目標 授業3回までを振り返り、幼児理解を深めるための実態を把握し、「個」と「集団」がどのような関係にあるのかを捉える意義や方法を理解し、観察法等の基礎的な事柄を例示する。 2. 本時の活動 ・幼児理解のための実態を把握する。 ・「個」と「集団」の関係が捉える意義や方法を理解している。 ・観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第4章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
5 回	<保育相談支援の計画と記録・事例の対応方法> 1. 本時の目標 学校教育において、カウンセリングマインドの必要性を具体的事例や実際に事例の対応をもとに理解する。 2. 本時の活動 ・具体的事例の対応について計画を立て援助法を検討する。 3. 本時の学習成果 ・保育相談の具体的な事例の対応を理解し、計画に基づく援助法について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第5章を熟読する。 ・復習事項：事例の対応方法を確認する。
6 回	<信頼関係を基本とした受容的かかわり・自己決定など> 1. 本時の目標 これまでの幼児理解に関する内容と関連づけながら、幼稚園をはじめとする教育相談におけるカウンセリングの基礎的な知識を習得する。 2. 本時の活動 ・カウンセリングの基礎的な理論を理解し、教育相談の実践事例について確認する。 3. 本時の学習成果 ・カウンセリングの基本的な理論が理解し、事例の対応を検討できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第6章を熟読する。 ・復習事項：カウンセリングの理論について理解する。
7 回	<保育所における保育相談の実際> 1. 本時の目標 教育相談の計画の作成必要な校内体制の整備、組織的な取り組みの必要性について、実際の学校現場の様子などの具体的レベルで理解する。 2. 本時の活動 ・学校現場の様子を理解し、養育者自身の問題に対する事例対応を把握する。 3. 本時の学習成果 ・養育者自身の問題における事例の対応が理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第7章を熟読する。 ・復習事項：養護者自身の問題への対応法と留意点を確認する。
8 回	<気になる幼児への理解と保護者支援> 1. 本時の目標 幼児理解及び教育相談に関して、学校現場における幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動に対する幼児や児童および生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を考える。児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を心理学的なアプローチにより理解する。 2. 本時の活動 ・学校現場の諸問題について調べたデータをグループで確認する。実際の心理支援の技法を理解できる。 3. 本時の学習成果 ・気になる幼児への理解と保護者支援の方法と留意点が理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：学校現場の諸問題に関する資料を確認する。テキスト第8章を熟読する。 ・復習事項：保護者の心理的支援の方法を理解する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	＜保育相談支援の内容―障害のある幼児と保護者理解―＞ 1. 本時の目標 障害のある幼児への対応法を確認し、ケースワーク過程について事例をもとに理解する。 2. 本時の活動 ・事例についてグループワークから対応法を検討する。 ・対応法を確認し、留意点等も確認できる。 3. 本時の学習成果 ・障害のある幼児への対応法と留意点が理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第9章を熟読する。障害のある幼児への対応法を考える。 ・復習事項：集団でのコミュニケーション技法について理解する。
10 回	＜保護者理解と子ども理解＞ 1. 本時の目標 学校ごとの職種や校務分掌に応じて、幼児、児童、及び生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を具体的な事例をもとに学び、さらに例示することができる。 2. 本時の活動 ・事例を通して具体的な保護者対応を確認する。 3. 本時の学習成果 ・保育相談の具体的な事例の対応が理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第10章を熟読する。事例の対応方法を考える。 ・復習事項：事例の対応方法を理解する。
11 回	＜保護者の養育力の向上に資する支援＞ 1. 本時の目標 幼児理解及び教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を再度理解しなおすとともに、幼児のつまづき、保護者への対応などの具体的方法について理解する。 2. 本時の活動 ・家庭支援に大切な保護者の養育力の向上について基礎的な理論を確認する。 ・家庭支援の具体的な方法について理解する。 3. 本時の学習成果 ・子育て、家庭支援について、保護者の養育力向上に資する支援法を確認する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第11章を熟読する。カウンセリング理論について調べる。 ・復習事項：事例の対応法を理解する。
12 回	＜地域資源の活用と関係機関との連携・協力＞ 1. 本時の目標 教員として幼児理解や教育相談に関わる際に、地域の医療・福祉・心理等の医療機関との連携がどのような意義や必要性を有しているかについて理解する。 2. 本時の活動 ・専門機関との幼児理解の共有について確認する。 ・カウンセリングにおける技法について理解する。 3. 本時の学習成果 ・社会資源との連携・協力についての必要性を理解できる。 ・カウンセリングにおける技法について確認する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第12章を熟読する。カウンセリングにおける傾聴技法について調べる。 ・復習事項：カウンセリング技法について理解する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
13 回	<幼児理解を深める実践と省察> 1. 本時の目標 学校現場における保護者に対する教育相談の進め方を、幼児に対するものと比較して理解する。 2. 本時の活動 ・コミュニケーションの取り方について、技法としての知識を得る。 3. 本時の学習成果 ・幼児と養育者の問題に対する事例の対応が理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 15 章を熟読する。幼児理解を深めるための方法を考える。 ・復習事項：コミュニケーションの取り方に関する技法を確認する。
14 回	<保育に関わる保護者への指導と保育カンファレンスにおける幼児理解> 1. 本時の目標 幼児理解及び教育相談に関して、学校現場における受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解する。 2. 本時の活動 ・保育カンファレンスにおける幼児理解について確認する。 ・保護者への指導法について理解する。 3. 本時の学習成果 ・保育カンファレンスにおける幼児理解について具体的に説明できる。 ・保護者への指導法について理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 14 章を熟読する。保護者への指導法について考える。 ・復習事項：保育カンファレンス、保護者への指導について確認する。
15 回	<幼児理解に基づく援助から生まれるもの・総まとめ> 1. 本時の目標 幼児理解に基づく援助から生まれるものは何か、それらを大切にしたい保育相談の方法はどのようなものかを確認し、自身の対応法をまとめる。14 回までの授業内容をまとめる。 2. 本時の活動 ・14 回までの授業内容を振り返り、幼児理解及び保育相談に関する内容について確認する。 3. 本時の学習成果 ・本科目の学習成果を達成している。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：特になし。 ・復習事項：第 1 回から第 14 回の授業内容を整理し、期末考査に備える。

令和 8 年 度 教 育 計 画							
科目名	事前・事後指導	授業回数	15	単位数	1	担当教員	都田 修兵
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー等) : stsuda@owc.ac.jp、OH:金曜日 5 限目							
教育目標と学生の学習成果	教育目標 本科目は、幼稚園教育実習準備としての事前指導及び同実習終了後のまとめとしての事後指導として、以下の目標のもとに実施する。 (1) 幼稚園教育実習の意義と制度を知る。 (2) 幼児や保育を観察する方法を知り、適切な記録を作成する。 (3) 指導計画の根拠や意義を知り、適切な指導案を作成する。 (4) 実習実施の手続きを知り、適切な文書を作成する。 (5) 評価の意義を知り、実習後の振り返りを通して自己課題を設定する。 学生の学習成果 <専門的学習成果> 教育目標に掲げる能力を獲得する。 <汎用的学習成果> 汎用的学習成果として、「態度・信念」を獲得する。						
	授業の進め方 (講義・演習・実験・実習・実技) ・講義と演習を併用する。 ・学習成果をあげるために授業時間内外で取り組む課題を課す。						
教育方法	予習・復習事項 ・予習については、第1回～15回に向けて、45分×15回を目安とする。また、復習については、第1回～15回に向けて、45分×15回を目安とする。 ※復習でわからないことがあった学生には、OH などを利用しながら、学習成果を高める援助を行う。						
	テキスト 『幼稚園教育実習-指導の手引き』						
学習評価の方法	<学習評価の観点> ●「専門的学習成果」は、教育目標にも掲げた(1)から(5)の観点に基づき行う。 ●「汎用的学習成果」は、「教育目標」でも示した「態度・信念」の獲得状況に基づき行う。 <学習評価の方法> ●「専門的学習成果」 (1) 幼稚園教育実習「事前レポート」の提出 (30点) (2) 幼稚園教育実習「自己課題」の提出 (20点) (3) 実習報告会におけるレポート (10点) ●「汎用的学習成果」 (1) 幼稚園教育実習「事前希望調査」の提出 (20点) (2) 幼稚園教育実習「内諾書」関係の提出等 (20点)						
注意事項	本科目は「幼稚園教育実習」の履修を前提とする科目である。その履修条件については、『学生のしおり』の「幼稚園教育実習履修に関する規則」に従う。 なお、本科目は、1年後期及び2年前期にかけて開講される。						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<オリエンテーション> <本科目の紹介と進め方> ○本時の目標 本科目の位置づけを知り、幼稚園教育実習の意義を理解する。 ○本時の活動 ・プリントなどにより、幼稚園教育実習の意義及び法制度などについて整理する。 ○本時の学習成果 本科目の位置づけを知り、幼稚園教育実習の意義を理解している。 ○予習および復習事項 ・復習事項：プリントやノートなどで学びの振り返りをする。
2 回	<幼稚園教育実習の内容と実習希望幼稚園について> ○本時の目標 幼稚園に種別や特色があること、および「実習希望園調査書」について理解する。 ○本日の活動 ・プリントなどにより、幼稚園についての理解を深める。 ○本時の学習成果 ・幼稚園に種別や特色および「実習希望園調査書」について理解している。 ○予習および復習事項 ・予習事項：地元の幼稚園や認定こども園などを調べて、「実習希望園調査書」を記入してくる。 ・復習事項：プリントやノートなどで学びの振り返りをする。
3 回	<教育実習受け入れの事務的手続き―「内諾書」について―> ○本時の目標 幼稚園教育実習に向けた手続き（とくには内諾書関係）を理解する。 ○本時の活動 ・プリントなどにより、幼稚園教育実習に向けた手続きを整理する。 ○本時の学習成果 幼稚園教育実習に向けた手続き（とくには内諾書関係）を理解している。 ○予習および復習事項 ・予習事項：幼稚園教育実習の希望先を再度確認するとともに、必要に応じて修正などを行う。 ・復習事項：幼稚園教育実習に向けた手続きを再確認し、「内諾書」をもらうためのオリエンテーションの日程を園側と交渉する。
4 回	<幼稚園教育要領における「ねらい及び内容」> ○本時の目標 幼稚園（および幼保連携型認定こども）に関係する法的基準を確認し、幼稚園教育要領（および幼保連携型認定こども園教育・保育要領）における幼稚園（および幼保連携型認定こども）の保育や教育の基本を理解する。 ○本時の活動 ・プリントなどにより、園に関する法的基準や保育や教育の基本について整理する。 ○本時の学習成果 園に関する法的基準や保育や教育の基本について理解している。 ○予習および復習事項 ・予習事項：幼稚園（および幼保連携型認定こども）について調べる。 ・復習事項：プリントやノートなどで学びの振り返りをする。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
5 回	<幼児教育における「遊び」の意義と種類> ○本時の目標 幼児教育における「遊び」の意義や種類について理解する。 ○本時の活動 ・プリントなどにより、幼児教育における「遊び」の意義や種類について整理する。 ○本時の学習成果 幼児教育における「遊び」の意義や種類について理解している。 ○予習および復習事項 ・予習事項：幼児教育における「遊び」について調べてくる。 ・復習事項：プリントやノートなどで学びの振り返りをする。
6 回	<内諾の確認> ○本時の目標 幼稚園教育実習に向けた手続き（内諾）についての状況を確認し、自身の幼稚園教育実習に向けた手続きの進捗状況を確認する。 ○本時の活動 ・担当教員より「内諾書」の提出状況について確認を受ける。 ○本時の学習成果 自身の幼稚園教育実習に向けた手続きの進捗状況を確認できている。 ○予習および復習事項 ・予習事項：再度、自身の幼稚園教育実習に向けた手続きの進捗状況を確認する。 ・復習事項：実習の進捗状況にあわせて、オリエンテーションなどの対応を行う。
7 回	<実習報告会>※実習報告会は2年生の授業とあわせるため、授業回は変更となることがある。 ○本時の目標 2年生の実習報告会を通して、実習についてより具体的に理解する。 ○本日の活動 ・2年生の実習報告会に参加して学ぶ。 ○本時の学習成果 実習についてより具体的に理解している。 ○予習および復習事項 ・予習事項：2年生に聞きたいことなどを確認しておく。 ・復習事項：実習報告会での学びを受けて、幼稚園教育実習に向けてできるものから準備する。
8 回	<承諾の手続き・実習事前レポート> ○本時の目標 幼稚園教育実習に向けた手続き（とくには承諾書関係）および実習事前レポートについて理解する。 ○本時の活動 ・プリントなどにより、幼稚園教育実習に向けた手続き（とくには承諾書関係）および実習事前レポートについて整理する。 ○本時の学習成果 幼稚園教育実習に向けた手続き（とくには承諾書関係）および実習事前レポートについて理解している。 ○予習および復習事項 ・予習事項：再度、自身の幼稚園教育実習に向けた手続きの進捗状況を確認する。 ・復習事項：プリントやノートなどで学びの振り返りをする。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	<オリエンテーション> <幼稚園における指導計画> ○本時の目標 指導案を作成するポイントについて理解する。 ○本時の活動 ・プリントなどにより、指導案を作成するポイントについて整理する。 ○本時の学習成果 指導案を作成するポイントについて理解している。 ○予習および復習事項 ・予習事項：指導案の作成について整理し直しておく。 ・復習事項：指導案の作成について、プリントやノートなどで学びの振り返りをする。
10 ・ 11 ・ 12 回	<幼稚園教育実習に向けた準備①～③> ○本時の目標 幼稚園教育実習に向けた手続き（とくには個人票・出勤簿・評価票・自己課題、実習ファイル作成）を進める。 ○本時の活動 ・個人票、出勤簿、評価票、自己課題、実習ファイルを作成する。 ○本時の学習成果 個人票、出勤簿、評価票、自己課題、実習ファイルを作成できている。 ○予習および復習事項 ・予習事項：自己課題の作成に向けて準備する。 ・復習事項：手続きを進めるために必要なものを準備する。
14 回	<幼稚園教育実習に向けた準備> ○本時の目標 日誌や指導案作成など、幼稚園教育実習に向けて準備や整理を行う。 ○本時の活動 ・日誌や指導案作成についてポイントなどを整理する。 ・その他幼稚園教育実習に向けた準備を行う。 ○本時の学習成果 ・日誌や指導案作成など、幼稚園教育実習に向けた準備や整理をしている。 ○予習および復習事項 ・予習事項：幼稚園教育実習に向けた手続きや準備について再確認する。 ・復習事項：幼稚園教育実習に向けた手続きや準備について最終的準備をする。
15 回	<幼稚園教育実習に向けた最終的確認と準備ほか> <総括> ○本時の目標 幼稚園教育実習に向けて最終的確認や準備を行う。 ○本時の活動 ・幼稚園教育実習に向けて最終的確認や準備をする。 ○本時の学習成果 幼稚園教育実習に向けて最終的確認や準備ができている。 ○予習および復習事項 ・予習事項：幼稚園教育実習に向けた手続きや準備について最終的準備をする。 ・復習事項：幼稚園教育実習について不明な点などがないように確認する。

令和 8 年 度 教 育 計 画								
科目名	保育・教職実践演習 (幼稚園)	授業回数	15	単位数	2	担当教員	馬場結子、都田修兵、 秋山智代	
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等） stsuda@owc.ac.jp、金曜日 5 限目								
教育目標と学生の学習成果	教育目標 本科目は、必修科目及び選択必修科目、保育実習、施設実習、幼稚園教育実習を通しての学び等を踏まえ、保育者として必要な知識技能を取得したことを確認する。特に3つの実習の現場で発見した問題について分析考察を行い、講義、グループ討議、ロールプレイ等の方法によって探究し、問題解決の手法を学ぶことを目的とする。 具体的には、教員として求められる4つの事項、①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科・保育内容等の指導力に関する事項や次の内容に基づいて授業を行うものとする。 （1）教育課程の全体を通して、保育者として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。 （2）保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育者、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。 本科目は、短大2年間での学びの集大成としての役割を果たすものであって、自身の課題を自覚し、不足している知識・技能を補い、定着を図ることによって、保育者生活を円滑にスタートできる力を身につけることを目標とする。							
	学生の学習成果 ＜専門的学習成果＞ 教育目標に掲げる知識や能力を獲得し、姿勢や意見を形成することが挙げられる。							
	＜汎用的学習成果＞ 社会的・職業的自立に向け、「態度・信念」、「価値・意見」、「論理的思考力」、「人間関係力」を身につける。							
	教 育 方 法	授業の進め方	（講義・ 演習 ・実験・実習・実技） 教育目標を達成できるように、講義などを通して総合的に学ぶ。 また、保育現場と連携を図り、保育者による講演を実施する。 3名の教員がオムニバス形式で担当するが内容に応じてティーム・ティーチングの方式で行う。また、履修カルテに基づき必要に応じて補完的指導を行う。					
		予習・復	・毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・毎授業回後に復習を求める。その際、レポートとする場合がある。 ※予習および復習については、それぞれ 90 分程度を目安とする。 ※授業における課題等についてはその都度フィードバックを実施する。					
テキスト		適宜、プリント等を配布する。						

学 習 評 価 の 方 法	以下の学習成果について、その獲得度合を量的に評価する。 (1) 保育者としての使命感や責任感、教育的愛情を持つ。 (2) 保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。 (3) 幼児理解の姿勢を持ち学級経営の力量の基礎を形成する。 (4) 保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。 (5) 問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。 (6) 社会性や対人関係能力を形成する。 (7) 必修科目及び選択必修科目の履修状況を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育士として必要な知識・技能を修得したことを確認する。 学習評価は、実習報告会、各授業でのグループ討議・ロールプレイングの取組内容・レポート・小論文などの結果を踏まえ、教員として最低限必要な資質能力が身についているかを担当教員全員が総合的に評価、確認し、学習評価を行う。 具体的には次の内容によって評価する。 (1) 履修カルテの作成 (10%) (2) 各実習に関するまとめ (10%) (3) 実習報告会 (10%) - 保育所実習や施設実習、幼稚園教育実習のいずれかについての実習報告を1年生に向けた発表会において行う。なお、その際には発表会用ポスターと当日の発表への取り組み方などによって評価する。 (4) 講演会 (10%) - 現場の保育者による講演を聴き、その講演に関する感想などにより評価する。 (5) オペレッタ準備 (20%) 「子どもといっしょに発表会」に向けた準備を行い、その活動への貢献度に応じて評価する。 (6) 小論文 (40%) - 小論文による評価を行う。 ただし、受講態度に問題があった者、保育者としての倫理観が十分でない場合は汎用的学習成果を考慮する。保育所実習、施設実習、幼稚園教育実習のそれぞれの成績評価はその成績評価が基準点を上回らなければ評価を得ることはできない。
注 意 事 項	参考図書等 参考資料は適宜授業内容にあわせて紹介・配布する。 その他 知識技能の獲得状況を踏まえての科目であることから、履修には、保育所実習、施設実習幼稚園教育実習を受講し、単位習得の見通しがついていることが前提となる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<オリエンテーション>（都田） <履修カルテの作成> ○本時の目標 本科目について理解するとともに、履修カルテを作成する。 ○本時の活動 ・本科目についての説明を受ける。 ・「履修カルテ」を作成する。 ○本時の学習成果 本科目について理解するとともに、履修カルテを作成している。 ○予習および復習事項 ・予習事項：自身の履修状況について整理しておくこと。 ・復習事項：自身の保育者としての課題を明確にする。
2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 回	<オペレッタの準備①～④>（都田・秋山） ○本時の目標 オペレッタの準備を進め、「子どもといっしょに発表会」に向けた準備をする。 ○本日の活動 ・オペレッタの準備を進める。 ○本時の学習成果 友だち同士で協力し合い、オペレッタの準備を進めている。 ○予習および復習事項 ・予習事項：オペレッタの準備に必要なものを整理しておく。 ・復習事項：次回以降にオペレッタの準備がある時には、何が必要かなどをまとめ、担当者などと相談しておく。
7 回	<オペレッタの準備⑤、実習報告会について> ○本時の目標 オペレッタの準備を進め、「子どもといっしょに発表会」に向けた準備をする。あわせて、「実習報告会」についての説明を聞く。 ○本日の活動 ・オペレッタの準備を進める。 ・「実習報告会」の説明を聞く。 ○本時の学習成果 友だち同士で協力し合い、オペレッタの準備を進めている。また、「実習報告会」に理解している。 ○予習および復習事項 ・予習事項：オペレッタの準備に必要なものを整理しておく。 ・復習事項：次回以降にオペレッタの準備がある時には、何が必要かなどをまとめ、担当者などと相談しておく。また、「実習報告会」に向けた準備を進めていく。
8 回	<使命感・責任感・教育的愛情・対人関係能力①>（都田） ○本時の目標 各実習についてまとめるとともに、各々の実習経験を共有し、自己課題を明確にする。 ○本時の活動 ・自身の実習についてまとめる。 ・各々の実習経験を共有し、自己課題を明確にする。 ○本時の学習成果 各実習についてまとめるとともに、各々の実習経験を共有し、自己課題を明確にしている。 ○予習および復習事項 ・予習事項：自身の実習について整理しておく。 ・復習事項：実習経験の共有によって自己課題を明確にしておく。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 ・ 10 回	<実習報告会>（都田・浦上・秋山）※授業日程の関係で開講授業回が変更になる可能性がある。 ○本時の目標 実習報告会を開催し、自身の実習での経験などをポスターなどを通して、1年生にわかりやすく伝える。 ○本時の活動 ・実習報告会を行う。 ○本時の学習成果 自身の実習での経験などを1年生にわかりやすく伝えている。 ○予習および復習事項 ・予習事項：ポスター発表に向けた準備を行う。 ・復習事項：ポスター発表を通しての報告会の感想をまとめておく。
11 回	<卒業生講演>（都田・浦上・秋山）※授業日程の関係で開講授業回が変更になる可能性がある。 ○本時の目標 卒業生（保育者）の講演を聴き、卒業後の自身の姿をより明確にする。 ○本時の活動 ・卒業生講演を聴く。 ・感想カードを記入する。 ○本時の学習成果 卒業生（保育者）の講演を聴き、卒業後の自身の姿をより明確になっている。 ○予習および復習事項 ・予習事項：事前に卒業生に聞いてみたいことなどをまとめておく。 ・復習事項：講演後、卒業後の自身の姿を思い描いてみるとともに、卒業生に追加の質問がないか考えてみる。
12 回	<講演のまとめ>※授業日程の関係で開講授業回が変更になる可能性がある。 ○本時の目標 卒業生講演のまとめを行う。 ○本時の活動 ・卒業生講演のまとめをする。 ○本時の学習成果 卒業生講演のまとめをすることを通して、卒業後の自身の姿をより明確にする。 ○予習および復習事項 ・予習事項：講演について思い出しておく。 ・復習事項：卒業後の自身の姿をさらに思い描いてみる。
13 回	<幼児理解と保育の展開>（都田） ○本時の目標 幼児理解と保育の展開の関係について考える。 ○本時の活動 ・幼児理解と保育の展開の関係について整理する。 ○本時の学習成果 「幼児理解」と「保育」それぞれについて考えるとともに、その関係について理解している。 ○予習および復習事項 ・予習事項：「幼児理解」について調べてみる。 ・復習事項：「幼児理解」と「保育」の関係について整理し直す。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
14 回	<保護者対応>（都田） ○本時の目標 保護者対応について考える。 ○本時の活動 ・ 具体的事例などをもとに保護者対応について考える。 ○本時の学習成果 保護者対応について考えている。 ○予習および復習事項 ・ 予習事項：「保護者対応」について調べてみる。 ・ 復習事項：「保護者対応」にとって大切なことについて整理する。
15 回	<保育者としての資質・能力の確認、自己課題探求のまとめ>（浦上・都田） ○本時の目標 保育者としての資質・能力の確認、自己課題探求のまとめを行う。 ○本時の活動 ・ 小論文の作成 ○本時の学習成果 小論文の作成を通して、保育者としての資質・能力の確認、自己課題探求のまとめをすることができる。 ○予習および復習事項 ・ 予習事項：小論文に向けた準備を行う。 ・ 復習事項：自身の保育者としての自己課題を明確にしておく。

令和 8 年 度 教 育 計 画							
科目名	社会福祉	授業回数	15	単位数	2	担当教員	松尾 冀
質問受付の方法：授業中に口頭で、及び右のメールにて可。＜matu6848no6707@docomo.ne.jp＞							
教育目標と学生の学習成果	教育目標 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3. 社会福祉における相談援助について理解する。 4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 5. 社会福祉の動向と課題について理解する。 学生の学習成果 ・専門的学習成果：教育目標に掲げる 5 項目の社会福祉の基本を修得し、栄養士及び食育の専門職として不可欠の社会福祉に関する基礎知識と支援理念を獲得する。 ・汎用的学習成果：食育の専門職としてのみならず社会人としてもまた家庭人（子どもの親）としても、広い視野で社会を見据え社会の発展に寄与する人間として成長する。 ・課題のフィードバック：毎回の小テストで模範解答を紹介し、異論を含め質疑応答する。						
	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) ・基本的にはテキストを中心に授業を進め、毎回の小テストで理解度を確認。 ・新聞やテレビ等の社会福祉欄に関心を持つよう、媒介物を実際に解説することによって学生の社会福祉への関心と意識を高める。 ・授業時間外に取り組むレポート 2 回（新聞の切り抜きとコメント）を課す。 主立ったものを解説し、現代の社会福祉問題に対して関心を高めさせる。					
	予習・復習	・予習：次週の単元を示し、「授業回数別教育内容」に沿った予習を求め、課題意識を持って次回の授業に臨ませる。（毎回 90 分が目安） ・復習：主として、小テストにて重要な専門用語の理解を深める。（毎回 90 分が目安） 提出物（新聞の切り抜きとコメント）を通じて社会問題を解説。					
	テキスト	・赤木正典・平松正臣編著『改訂 社会福祉論』建帛社 ＜ISBN:978-4-7679-3385-6＞					

学習評価の方法	以下の5つの学習内容について小テスト・期末テストで評価する他、提出物も評価する。 ・現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における食育の視点についての理解度。 ・社会福祉の制度や実施体系等についての理解度。 ・社会福祉における相談援助についての理解度。 ・社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについての理解度。 ・社会福祉の動向と課題についての理解度。 学習評価は①小テスト 16 点 (%) (授業態度、私語雑音・居眠り・遅刻などを加味する) ②課題 16 点 (%) (新聞の切り抜きの提出期限及びレイアウト&コメント内容) ③学期末の筆記テスト 100 点満点を 68%換算する <総合評価>①+②+③=合計 100 点
注意事項	参考図書等： 他の授業で使用の、福祉関係法令の解説書等は、本授業でも有用である。 ※授業の始めと終わりの挨拶励行、私語を慎む、遅刻をしない等のマナーを大切にする。
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	第1章. 現代と社会福祉 (オリエンテーションの後に) <講義>21 世紀の福祉の目標は、高齢化が活力に結びつく明るい社会を構築するという基本理念のもとに、社会全体のシステムを少子高齢社会にふさわしいものにつくり替えていくこととなっている。このことを子どもの食育の視点で理解させる。 <復習>21 世紀の福祉の課題である少子高齢化について、その本質と背景の理解を深める ・日常生活の中から、人権尊重の福祉社会実現の流れを見つける。(90 分、以下同じ) <予習>第1章・2章を読み、脚注の用語を調べておく。(90 分、以下同じ)
2 回	第2章. 社会福祉の基礎理解 <講義>憲法 25 条をもとに、生存権の保障に至る歴史や、広義の社会福祉と狭義の社会福祉の概念を解説する。 <学習成果>福祉の源は人間愛と連帯感であることを知り、各自が各自の優しさを育む。 <予習>第3章を読み、福祉理念の歴史に関心を持っておく。 <課題>社会福祉に関する新聞記事を切り抜き、コメントを加え、提出させる。
3 回	第3章. 社会福祉の歴史 <講義>我が国における社会福祉の歴史について解説し、欧米の福祉よりも古い歴史を知らせながら、近代の欧米の福祉から学んだ成果の定着過程を理解させる。 <学習成果>福祉という言葉は新しいが、福祉の精神は古くから息づいていたことを知り、現代社会での課題に目を向けることの大切さを学ぶ。 <復習>歴史的な福祉事業家の業績を整理し、郷里の偉人を調べてみる。 <予習>第4章を読み、福祉6法の歴史に関心を持っておく。

4 回	第4章. 社会福祉の法律と制度 <講義>福祉6法が制定された歴史的背景について解説し、それぞれの法律の意義を理解させる。また、法で定められたそれぞれの行政機関の役割を理解させる。 <学習成果>福祉6法が制定された順番こそが時代の緊急課題であったことを理解する。 <復習>福祉6法の名称とそれぞれの法に係る援護制度の内容と背景を理解する。 <予習>第5章を読み、生活保護の実例を調べ、意義と役割に関心を持っておく。
5 回	第5章. 貧困と社会福祉 <講義>貧困問題が福祉の中核であり、最近の生活保護制度の動向を説明し、制度の適正な実施の仕組みと課題を考えさせる。 <学習成果>貧困の連鎖を絶つことの難しさを知りながら、栄養士として、貧困家庭の実情に目を向けながらどのような支援に当たることができるかを考えさせる。 <復習>国家による公的扶助の代表が生活保護であるが、その動向と課題を考えて見る。 <予習>児童の権利に関する条約の理念は何か、どんな具体例があるか関心を持っておく。
6 回	第6章①. 子どもと家庭の福祉① <講義>児童福祉法制定の背景を戦後の歴史として学び、日本国憲法の生存権や基本的人権が「児童の権利に関する条約」と融合した経緯を理解させる。そして、現代の子どもも家庭福祉問題を社会病理としたとき、栄養士の果たす役割について考えさせる。 <学習成果>子ども家庭支援の法的根拠が児童福祉法にあることを知る。 <復習>子どもの権利条約における子どもの最善の利益とは何かを理解する。 <予習>児童福祉の行政機関や児童福祉施設の役割を考え常に関心を持っておく。 <課題>児童虐待や子どもの貧困など児童福祉をテーマの新聞の切り抜きを提出する。
7 回	第6章②. 子どもと家庭の福祉② <講義>子ども家庭福祉の実施機関の体制を説明し、そこで働く人々の役割を理解させる。 <学習成果>子ども家庭福祉の現場の状況を知することは、食育活動にも貴重な情報である。 <復習>身近にどのような福祉機関や児童福祉施設があるかを調べておく。 <予習>高齢者の定義と老人福祉の現代的意義について考えてみる。
8 回	第7章. 高齢者の福祉 <講義>高齢社会の進行状況と少子化との関連性を説明し、長期的展望で見ると日本が大変な状況であることを理解させる。やがては自分自身の問題となる高齢者の生活実態について説明し、健康や家族関係や経済面についての対策を考えさせる。 <学習成果>老人福祉法のお世話になる割合を少しでも減らす努力は今からやらねばならないと気づく。社会の発展に貢献してきた老人を敬愛する精神を育て、実践する力をつける。同時に、家庭での子育てと家庭での老後が無関係でないと気づかせる。 <復習>介護問題の現状と課題を身近な事例から考えてみる。 <予習>障害にはどんな種類があるか、そして障害別の福祉手帳を調べておく。
9 回	第8章①. 障害者の福祉① <講義>三障害の定義と概念を説明し、具体的な障害像をイメージさせ、障害の種類ごとにとられている福祉対策の現状と課題を理解させる。 身体障害者福祉法制定の背景と援護制度について説明する。 <学習成果>障害者の健康と栄養の視点から支援のあり方を考える力がつく。 <復習>身体障害にどんな福祉支援があるか書き出してみる。

10 回	第8章②. 障害者の福祉② <講義>知的障害の定義や程度を説明し、知的障害者福祉制度の現状と課題を考えさせる。 旧来の障害の三分類以外の、発達障害についても説明を加える。 <学習成果>知的障害児や発達障害児の食育の大切さを理解する。 <復習>発達障害に関する専門書を一冊は読んでおきたい。 <予習>ひとり親となる原因にはどんなものがあるか考えておこう。 子どもの発達に及ぼす大人（親）の関わり方の重要性について考えてみる。
11 回	第9章. ひとり親家庭の福祉・女性福祉 <講義>ひとり親家庭の現状を理解させ、円満な家庭の大切さを考えさせる。 母子及び寡婦世帯への福祉施策について解説する。 DV などによる要保護女性の福祉と、婦人相談所の現代的使命を解説する。 <学習成果>ひとり親になる原因は離婚が圧倒的に多く、ひとり親にならないような結婚の大切さを自覚する。 <復習>DV 被害者の連れている児童は、被虐待児であることの根拠を学ぶ。 ひとり親となる原因を少なくするために自分自身が出来ることは何かを考える。
12 回	第10章. 社会福祉援助技術 <講義>社会福祉における相談援助技術の種類とそれらの発展した歴史を説明し、社会福祉援助に関して利用者の保護と権利擁護に関わる仕組みを解説する。 <学習成果>栄養士として福祉的支援に当たるとき、これらの援助相談技術は役立つ。 <予習復習>身近な地域にどんな住民参加型の福祉活動があるかを考え調べてみる。
13 回	第11章. 地域福祉 <講義>地域における篤志家の慈善事業が源流であった地域福祉が公的サービスとして日本に定着した経緯と、共生社会の実現への理念と課題を解説する。 <学習成果>地域福祉は行政を支える住民の活動があって初めて実を結ぶことを知る。 <予習復習>今までのノートを読み返してみる。
14 回	第12章. 医療福祉 <講義>医療福祉の概念説明をしながら、医療福祉の歴史を振り返り、現代社会にとってこの医療ケースワークの重要性を解説する。 <学習成果>医療内容が高度化してくれば、それに伴い医療技術以外の医療サービスが必要になり、その中で栄養指導の大切さに気づく。
15 回	<総復習> ・全15回の授業内容の要点を再度説明し、各章や單元ごとに質疑応答。 ・法制度、理念等授業中に指摘したポイント及び小テストの正解を再解説し注意点を説明。 ・提出物の漏れがないように再度チェックさせる。 ・幼児教育・看護・福祉・栄養等々の専門家としての基礎的教養を身につけると同時に、ここでの学びを我が子の育児や家庭の幸せに活かしてもらいたい。

令和 8 年 度 教 育 計 画								
科目名	子ども家庭支援論		授業回数	15	単位数	2	担当教員	大賀恵子
質問受付の方法（e-mail, オフィスアワー等）： e-mail:ohga @owc.ac.jp、 OH:土曜 2 限								
教育目標と学生の学習成果	教育目標 子ども家庭支援の意義と役割を理解し保育者による子ども家庭支援の意義とその基本を学ぶ。子育て家庭に対する支援の体制、多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。 ①子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 ②保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 ③子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 ④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。また、保育者としての価値観・人間関係力を養う。 以上の内容には、約 30 年間の教育現場における実践（保護者対応）をもとに作成した事例を活用し、グループで対応法を考え発表やロールプレイで保護者とのかかわりをどのようにするのがよいかを考察する。 学生の学習成果 専門的学習成果：教育目標に掲げる①、②、③の項目に関する基礎的知識を習得する。 汎用的学習成果：教育目標に掲げる④の項目に関する能力を身につける。							
	授業の進め方	(講義)・演習・実験・実習・実技) 教育目標を達成するために、以下のような要領で授業を行っていく。 ・講義形式で行う。理解を深めるために、必要に応じて演習も行う。 ・毎回課題プリントを実施し、こども家庭支援論に関する習熟度を高める。 ・自ら学ぶ姿勢を身につけるために、予習・復習を奨励する。						
方法	予習・復	予習：毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 復習：毎授業回後に復習を求め、そのポイントを示す。 予習、復習には各回 90 分程度の学習時間を確保すること。						
	テキスト	和田上貴昭・高玉和子（編著）他 『子ども家庭支援論（保育者を育てる）』一藝社、2020 年						
学習評価の方法	専門的学習成果 評価配分は 80 点であり、期末試験で測る。また 80 点は、以下に示した 4 つの専門的学習成果について、おおよそ同等の比重をかける。 ①家庭の意義とその機能について理解する。 ②子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。 ③子育て家庭の支援体制について理解する。 ④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。 評価は、課題・授業中に実施し提出する課題（20 点）、及び期末試験（80 点）により実施する。 汎用的学習成果 評価配分は 20 点であり、授業中に行う課題で測る。具体的には、自立した保育者としての責務を果たすために必要な論理的思考力や批判的思考力を習得するために、授業内容に応じた論述問題の課題を課す。受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、ケースに応じて減点する。							
	注意事項	参考図書・岩間伸之『対人援助職のための相談面接技術 逐語で学ぶ 21 の技法』中央法規出版、2008 年						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<オリエンテーション・子ども家庭支援の必要性、家庭の機能と役割> 1. 本時の目標 本科目の全体目標及び授業スケジュールを確認する。さらに、家庭・家族の概念とその歴史を説明し、都市化・核家族化・少子化などの影響による現在の家庭の実態を把握したうえで家庭の機能と役割を理解する。 2. 本時の活動 ・本科目の内容・進め方・成績評価の方法を確認する。子どもに現れる様々な問題を解決するためには子どものみでなく家庭そのものも援助することの必要性を理解する。 3. 本時の学習成果 ・本科目の概要について理解し、子ども家庭支援の課題は家族の子育てに対する社会的支援について学ぶことであるという認識をもつ。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：シラバスで学習内容を確認し、テキスト1章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
2 回	<子ども家庭支援の意義と社会状況> 1. 本時の目標 家族と子育てに関する近年の動向や実態を把握し、子ども家庭支援の意義を理解する。 2. 本時の活動 ・目標内容を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・家庭とは何かを考えることにより、子育ての場として家庭をとらえ、取り巻く社会状況の中で家庭がどのように機能していくべきかを考えられるようになる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：家庭・家族の概念を調べ、テキスト2章を熟読する。 ・復習事項：家庭の実態を把握し、子ども家庭支援の意義と機能に関する課題を仕上げる。
3 回	<保育者による子ども家庭支援の目的と必要性> 1. 本時の目標 子ども家庭支援の目的と必要性を理解し、事例についてグループで対応法を確認する。 2. 本時の活動 ・子ども家庭支援の目的と必要性を理解し、各グループの対応法から求められる支援のあり方を確認する。 3. 本時の学習成果 ・保育者による子ども家族支援の目的と必要性を理解する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：保育者の専門性とは何かを調べておく。テキスト3章を熟読する。 ・復習事項：保育者の専門性と子ども家庭支援の目的と必要性に関する課題を仕上げる。
4 回	<保育の専門性と子育て支援> 1. 本時の目標 保育の専門性について確認し、家庭支援の機能を活かした子どもの喜びにつながる対応について理解する。 2. 本時の活動 ・目標内容の理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・子どもの育ちを確認し、保育者の専門性を活かした子どもへの対応を理解する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第4章を熟読する。子どもの喜びの共有とは何かを考えておく。 ・復習事項：子どもの育ちの喜びの共有に関する課題を仕上げる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
5 回	<家庭の状況に応じた支援> 1. 本時の目標 家庭の状況に応じた支援事例をもとに、保育者としての対応法を確認する。 2. 本時の活動 ・資料を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・事例をもとにロールプレイをするなかで保護者とのかかわりをどのようにするのがよいかを考察できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第5章を熟読する。支援の展開過程について調べておく。 ・復習事項：事例に応じた支援法に関する課題を仕上げる。
6 回	<保護者及び地域の実践力向上に資する支援> 1. 本時の目標 保護者が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援のあり方を説明する。 2. 本時の活動 ・目標内容を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・保護者が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援のあり方を理解する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第6章を熟読する。子育て支援サービスについて調べておく。 ・復習事項：子育てを自ら実践する力の向上に資する支援に関して説明できるようにする。
7 回	<保育者に求められる基本的態度> 1. 本時の目標 保育者に求められる支援の展開過程、アセスメントのための具体的なツールを紹介したうえで、支援の基本的態度を理解する。 2. 本時の活動 ・目標内容を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・保育者に求められる基本的態度を理解し、説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第7章を熟読する。支援の展開過程について調べておく。 ・復習事項：具体的な展開過程に関する課題を仕上げる。
8 回	<社会資源との連携・協力> 1. 本時の目標 地域の子育てマップや広報誌などをもとに、どの機関がどのような子育て支援を実施しているか概説する。 2. 本時の活動 ・目標内容を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・社会資源における子育て支援の役割と課題について確認する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第8,9章を熟読する。最寄りの地域の子育て支援について調べておく。 ・復習事項：社会資源との連携・協力に関する課題を仕上げる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	＜子育て家庭に対する支援体制＞ 1. 本時の目標 子育て家庭の福祉を図るための社会資源を確認し、保育者としてどのように対応するのが望ましいかを理解する。 2. 本時の活動 ・ 目標内容を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・ 社会資源の活用、調整、開発のための保育者としての対応を理解し、事例分析を通して対象の理解を深める。 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：テキスト第 8, 9 章を熟読する。社会資源の活用に関する事例を調べておく。 ・ 復習事項：子育て家庭に対する支援体制に関する課題を仕上げる。
10 回	＜子育て支援施策・次世代育成支援施策＞ 1. 本時の目標 子育てに対するさまざまな問題に国がどのような施策で対応してきたか概要を説明する。保育所における子育て支援の役割を確認し、支援方法や配慮点について理解する。 2. 本時の活動 ・ 目標内容を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・ 子育て支援においては、親自身が主人公であるという視点も必要なことに気づく。 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：テキスト第 10 章を熟読する。子育て支援と保育者の役割について調べておく。 ・ 復習事項：国の対応、保育所の支援方法に関する課題を仕上げる。
11 回	＜さまざまな子育て家庭への支援内容＞ 1. 本時の目標 さまざまな子育て家庭支援の対象を確認し、それぞれの支援方法と内容を理解する。 2. 本時の活動 ・ 目標内容を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・ 子育て家庭支援の対象が分かり、それぞれの支援方法と内容が理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：テキスト第 11 章を熟読する。子育て家庭支援について調べておく。 ・ 復習事項：子育て家庭支援の対象、それぞれの支援方法と内容に関する課題を仕上げる。
12 回	＜保育所等を利用する子ども家庭支援＞ 1. 本時の目標 保育所等を利用する子ども家庭支援の事例を取り上げ、保育所等と相談支援機能との関連や支援の留意点について解説する。 2. 本時の活動 ・ 目標内容を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・ 児童福祉法（子ども権利条約など）・保育所保育指針（子育て支援）の内容を確認し、保育所の役割と理解・支援の留意点が理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：テキスト第 12 章を熟読する。児童福祉法・保育所保育指針を確認しておく。 ・ 復習事項：保育所等の支援方法と留意点、家庭支援への理解に関する課題を仕上げる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
13 回	<要保護児童等及びその家庭に対する支援> 1. 本時の目標 児童虐待、ひとり家庭、障害をもつ子ども家庭への支援課題と対応を確認し、支援のあり方について解説する。 2. 本時の活動 ・ 目標内容を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・ 保育者は子ども家庭が抱える問題への対応と予防の現状を理解し、適する支援方法を理解する。 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：テキスト第 13 章を熟読する。児童虐待に関する内容について調べておく。 ・ 復習事項：要保護児童等及びその家庭に対する支援に関する課題を仕上げる。
14 回	<地域の子育て家庭への支援> 1. 本時の目標 地域の子育て家庭への支援事例を取り上げ、保育所における子育て支援の役割について解説する。また、保育者や幼稚園が企画して提供する事ばかりが子育て支援ではないことを知る。 2. 本時の活動 ・ 目標内容を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・ 地域の子ども・子育て支援事業の内容を確認し、保育者の役割や支援者のあるべき姿を理解する。 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：テキスト第 14 章を熟読する。地域子育て家庭支援に関する取り組みを調べる。 ・ 復習事項：地域の子育て家庭支援に関する課題を仕上げる。
15 回	<子ども家庭支援に関する現状と今後の動向・総まとめ> 1. 本時の目標 子ども家庭支援について振り返り、子ども家庭支援における保育者の役割を確認する。 2. 本時の活動 ・ 本科目の教育目標に関して習得度合いを確認し、その内容に関するレポートを仕上げる。 3. 本時の学習成果 ・ 本科目の目標を達成している。 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：テキスト第 15 章を熟読する。 ・ 復習事項：第 1 回から第 14 回の授業内容を整理し、期末考査に備える。

令和 8 年 度 教 育 計 画										
科目名	子育て支援		授業回数	15	単位数	1	担当教員	大賀 恵子		
質問受付の方法（e-mail, オフィスアワー等）：ohga@owc.ac.jp OH 土曜日 2 限										
教育目標と学生の学習成果	教育目標 保育者の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、援助、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。 ①保育者の行う保育の専門性を理解する。 ②保護者に対する支援法とその特性を理解する。 ③保育者の行う子育て支援の内容を理解する。 ④子育て支援方法及び技術を、実践事例を通じて具体的に理解し、保育者としての価値観、人間関係力を養う。 学生の学習成果 専門的学習成果：教育目標に掲げる①、②、③の項目に関する基礎的知識を習得する。 汎用的学習成果：教育目標に掲げる④の項目に関する能力を身につける。									
	教育方法	授業の進め方	（講義・ 演習 ・実験・実習・実技） ・保育相談支援に必要な知識の習得は、講義形式で行う。内容によって演習を取り入れる。 ・実践的な対応技能の習得は、ロールプレイやグループワーク等の演習形式で行う。 ・必要に応じてカウンセリングの実施や演習レポートを課し、保育相談支援に関する習熟度を高める。					予習・復習	・毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・毎授業回後に復習を求める。その際、提出課題とする場合がある。 予習、復習には各回 1 時間程度の学習時間を確保すること。	テキスト
学習評価の方法	専門的学習成果 評価配分は授業で行う課題（演習点・演習レポート点、など）30 点、及び期末試験 70 点で測る。以下に示した 4 点の専門的学習成果について「①：②：③：④」＝1：1：1：4 の比重をかける。 ①保育相談支援の意義と原則について理解する。 ②保護者支援の基本について理解する。 ③保育相談支援の実際を学び、内容や方法について理解する。 ④保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。 汎用的学習成果 授業で行う課題に対する提出状況、社会人・保育者としての倫理観として授業態度などが十分であることが求められる。不十分な場合は、ケースに応じて減点する。									
注意事項	参考図書等 柏女霊峰・橋本真紀著：2011,「保育相談支援」 ミネルヴァ書房 吉田真理著：2011,「保育相談支援」 青鞥社									

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<オリエンテーション・保育相談支援の意義> 1. 本時の目標 本科目の全体目標及び授業スケジュールを確認する。子育て支援に関して、子どもの発達過程を踏まえた内容の支援法を考える。保育相談支援の意義を理解する。 2. 本時の活動 ・本科目の内容・進め方・成績評価の方法を確認する。子育て支援の意義を理解する。 3. 本時の学習成果 ・本科目の概要について理解し、子育て支援について学ぶという認識をもつ。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：シラバスで学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
2 回	<保育者の行う子育て支援の特性> 1. 本時の目標 社会状況や家庭における人間関係を把握し、保育の特性について理解する。その内容を踏まえて、保育者の専門性を生かした支援の意義と原則について確認する。 2. 本時の活動 ・保育の特性、保育者の専門性を生かした支援の意義と原則について理解できる。 3. 本時の学習成果 ・社会状況や家庭における人間関係を把握し、保育の特性、保育者の専門性を生かした支援の意義と原則が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：第2回の内容について調べておく。 ・復習事項：保育相談支援の意義と原則について理解する。
3 回	<子どもの保育とともに行う保護者の支援> 1. 本時の目標 保護者の子育て意識（親になるということ）、家庭環境について理解し、子どもの最善の利益と福祉の重視について確認する。 2. 本時の活動 ・保護者の子育て意識、保護者の養育力向上を支援する方法を確認する。 3. 本時の学習成果 ・保護者の子育て意識について説明できる。 ・子どもの最善の利益と福祉について理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：第3回の内容について調べておく。 ・復習事項：保護者の子育て意識、子どもの最善の利益と福祉について理解する。
4 回	<日常的・継続的な関りを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成> 1. 本時の目標 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成について事例を通して確認する。 2. 本時の活動 ・保護者との相互理解と信頼関係の形成についての支援法を確認する。 3. 本時の学習成果 ・保護者との相互理解と信頼関係の形成に関する支援法について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：保護者の話を聞く方法について調べる。 ・復習事項：守秘義務と受容的なかわりなどについて理解する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
5 回	<保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解> 1. 本時の目標 より効果的な保育相談をするために、保護者の生活・行動特性について確認する。 2. 本時の活動 事例をもとに、保護者の生活・行動特性について確認する。それらの情報から、より効果的な保育相談の仕方を考える。 3. 本時の学習成果 ・保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきを多面的に理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：第5回の内容について調べておく。 ・復習事項：保護者の生活・行動特性を理解する。
6 回	<子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供> 1. 本時の目標 主訴・過去の経過・これまでの対応・アセスメント・関連機関との連携について確認し、面接の技術を用いて支援の仕方を発表する。 2. 本時の活動 事例に基づいた支援法をまとめ、発表する。 3. 本時の学習成果 ・事例内容に適した支援法を計画できる。 ・支援法について発表できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：第6回の内容について調べておく。 ・復習事項：受容的かわり、自己決定、アセスメントについて理解する。
7 回	<保育者の行う子育て支援の展開 保育相談支援の事例と実際（1）> 1. 本時の目標 子ども及び保護者の状況・状態を把握し、保育相談支援の事例をもとにロールプレイによる発表を行う。 2. 本時の活動 ・事例について分析し、ロールプレイを行う。 3. 本時の学習成果 ・子育て支援の方法と留意点について説明できる。 ・事例についての対応法が理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：第7回の内容について調べておく。 ・復習事項：保育相談支援の技術と留意点について理解する。
8 回	<保育相談支援の事例と実際（2）> 1. 本時も目標 保育・保護者に関する指導、支援の計画と環境の構成について確認する。 2. 本時の活動 ・事例に対する支援計画と環境構成を検討する。 3. 本時の学習成果 ・保護者への指導や指導法について理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：第8回の内容について調べておく。保護者への指導や指導について調べる。 ・復習事項：保育・保護者に関する指導について理解する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	<保育相談支援の事例と実際 (3) > 1. 本時の目標 保護者支援の内容（支援の実践・記録・評価・カンファレンス）について確認する。 2. 本時の活動 ・本時に配布された事例プリントについて 支援の実践・記録・評価・カンファレンスについて実際に記録用紙を作成する。 3. 本時の学習成果 ・支援の実践・記録・評価・カンファレンスについて実際に記録用紙を作成できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：保育や養護を通じた支援について調べる。 ・復習事項：特別なニーズをもつ子どもと保護者への支援について理解する。
10 回	<保育相談支援の事例と実際 (4) > 1. 本時の目標 保護者支援の方法と技術、職員間の連携・協働に関する事例の対応を検討する。 2. 本時の活動 ・本時に配布された事例プリント内容について、より効果的な対応を考える。 3. 本時の学習成果 ・支援内容の確認ができる。言葉がけや態度に関する留意点が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：ニーズ把握とは何かについて調べる。 ・復習事項：保護者支援の方法と技術について理解する。
11 回	<保育相談支援の事例と実際 (5) > 1. 本時の目標 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働の必要性を踏まえた支援計画を立てる。 2. 本時の活動 ・本時に配布された事例プリントの内容についての対応法を検討する。 3. 本時の学習成果 ・目標内容に関する知識を身につけ、効果的な支援法が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：保護者支援の方法について確認しておく。 ・復習事項：保護者支援の計画、記録、カンファレンスについて理解する。
12 回	<保育相談支援の事例と実際 (6) > 1. 本時の目標 保育所における保育相談支援の実際（保育所等における支援）について適切な対応法を検討する。 2. 本時の活動 ・本時に配布された事例プリント内容についての対応法を検討する。 3. 本時の学習成果 ・目標内容に関する知識を身につけ、効果的な支援法が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：支援の仕方について今までの内容を再確認しておく。 ・復習事項：連絡や通信による相談支援の事例について理解する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
13 回	<保育相談支援の事例と実際（7）> 1. 本時の目標 保育所における特別な対応を要する家庭への支援について、より効果的な方法を検討する。 2. 本時の活動 ・本時に配布された事例プリント内容についての対応法を検討する。 3. 本時の学習成果 ・目標内容に関する知識を身につけ、効果的な支援法が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：児童虐待について調べておく。 ・復習事項：虐待の類型と保護者支援について理解する。
14 回	<保育相談支援の技術を磨くために> 1. 本時の目標 記録と評価・研修（多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解）、障害のある子ども及びその家庭に対する支援について確認する。 2. 本時の活動 ・本時に配布された事例プリント内容についての対応法を検討する。 3. 本時の学習成果 ・目標内容に関する知識を身につけ、効果的な支援法が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：障害のある子ども支援について再確認する。 ・復習事項：ケース会議に提出する記録の書き方について理解する。
15 回	<児童福祉施設における保育相談支援・総まとめ> 1. 本時の目標 保育所以外の障害児・障害者施設、母子生活支援施設等における保育相談支援、要保護児童等の家庭に対する支援について計画をたてる。 2. 本時の活動 ・本時に配布された事例プリント内容についての対応法を検討する。 ・本科目の教育目標に関する内容に関するレポートを仕上げる。 3. 本時の学習成果 ・本科目の目標を達成している。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：特になし。 ・復習事項：第1回から第14回の授業内容を整理し、期末考査に備える。

令和 8 年 度 教 育 計 画								
科目名	子ども家庭福祉		授業回数	15	単位数	2	担当教員	松尾 冀
質問受付の方法：授業中適宜。その他メールでも可。<matu6848no6707@docomo.ne.jp>								
教育目標と学生の学習成果	教育目標 1. 現代社会における子ども家庭福祉（児童福祉）の意義と歴史的変遷について理解する。 2. 「児童の権利に関する条約」の精神をもとに「子どもの最善の利益」を理解する。 3. 「児童福祉法」を中心に様々な法制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について、特に少子化及び児童虐待防止への理解を深める。 5. 子ども家庭福祉で学んだ成果を、保育士としても親としても活かせる応用力を養う。 学生の学習成果 ・専門的学習成果：教育目標に掲げる 5 項目の子ども家庭福祉の基礎的知識を修得し、幼児教育の専門家にふさわしい支援技術と態度を身につけ実践に当たる。 ・汎用的学習成果：「児童の権利に関する条約」の精神にのっとり、教育者としても親としても子どもの最善の利益に配慮した精神と行動力を身につける。 ・課題のフィードバック：毎回の小テストで模範解答を紹介し、異論を含め質疑応答する。							
	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) ・基本的にはテキストを中心に授業を進め、毎回小テストで理解度を検証する。 ・児童虐待等の社会問題にも関心を深めていくように、新聞記事等をテーマに適時意見交換等の参加型授業を行う。 ・授業時間外に取り組むレポート（新聞の切抜きとコメント）を課す。 ・それらを集約し、主立ったものを解説し、児童福祉の現状への関心を高める。						
教育方法	予習・復習	・予習：次週の単元を示し、「授業回数別教育内容」に沿った予習を求め、課題意識を持って授業に臨ませる。(毎回 90 分が目安) ・復習：主として、小テストにて重要な用語の理解を深める。(毎回 90 分が目安) 提出物（新聞の切り抜きとコメント）を通じて児童福祉の諸問題を解説。						
	テキスト	松井圭三・小倉毅 編著「子ども家庭福祉」大学教育出版 ISBN:9784-86692-207-2						
学習評価の方法	以下の 5 つの学習内容について小テスト・期末テスト及び提出物で総合的に評価する。 ・ 現代社会における子ども家庭福祉（児童福祉）の意義と歴史的変遷についての理解度。 ・ 「児童の権利に関する条約」の精神をもとに「児童の最善の利益」の理解度。 ・ 「児童福祉法」を中心に様々な法制度や実施体系等についての理解度。 ・ 子ども家庭福祉の現状と課題について、特に児童虐待防止と保育士の役割への理解度。 ・ 子ども家庭福祉で学んだ成果を、食育の専門家としても親としても生かせる応用力。 ◎親子のお手本となるべき、保育の専門家として身につけるべきマナーを大切にする。 学習評価は①小テスト 16 点(%)（授業態度、私語雑音・居眠り・遅刻なども加味する） ②課題 16 点(%)（新聞の切り抜きの提出期限及びレイアウトとコメント内容） ③学期末の筆記テスト 100 点満点を 68%換算する ＜総合評価＞ ①+②+③＝合計 100 点							
注意事項	参考図書等： 他の授業で使用の、福祉関係法令の解説書等は、本授業でも有用である。 ※授業の始めと終わりの挨拶励行、私語・居眠り・遅刻をしない等のマナーを大切にする。							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<オリエンテーション> 自己紹介、本講義の目的と進め方、スケジュール、学習評価方法について説明する。 <子ども家庭福祉（児童福祉）の意義とその歴史の変遷及び現代的課題を考える> ・講義内容：子ども家庭福祉の基本理念である子どもの最善の利益を尊重する歴史を説明し、子育てに関わる親や保育・幼児教育専門職の担う役割の大切さを伝える。 ・学習成果：「子どもの最善の利益」という視点を常に自覚した判断力を身に付ける。 ・時間内課題：シャトルカードに受講の心構えと自分が理想とする将来の保育士像を。
2 回	<現代社会における子ども家庭福祉の諸問題を考えよう>（第1章） ・講義内容：現代社会が抱える子ども家庭福祉問題として、少子化による将来への不安や子どもの貧困や子どもの虐待問題があり、児童の権利と親の権利、及び親が幸せであって初めて子どもの幸せがあることを理解させる。 ・学習成果：子どもの福祉を親や家族の福祉と一体で考えることの大切さを認識する。 ・課外学習：子どもの福祉に関する新聞記事を切り抜き、コメントを加え提出準備する。
3 回	<子ども家庭福祉諸制度の歴史と背景を理解しよう>（第2章） ・講義内容：欧米における児童の福祉や権利擁護の歴史と、日本における児童観の移り変わりについて解説する。 ・学習成果：日本における諸制度から、日本は子どもを大切にする国であった歴史を知る。 ・予習事項：各自の郷里で活躍した「児童福祉関係者」を調べておく。（90分、以下同じ）
4 回	<子ども家庭福祉の理念と、先人の業績と児童の権利に関する条約について>（第3章） ・講義内容：日本の児童福祉向上に貢献した先人の業績と子どもの権利条約を説明し、現代の我々がそれを引き継ぎどのように発展させたいかを考えさせる。 ・学習成果：子ども家庭福祉の基本が「子どもの最善の利益」に他ならないことに気付く。 ・復習事項：子ども福祉の先人の業績を、分野ごとに整理してみる。（90分、以下同じ） ・予習事項：テキスト第4章1節&2節を読んでおく。
5 回	<子ども家庭福祉（児童福祉）制度の法体系と福祉行政機関のいろいろ>（第4章1.2節） ・講義内容：児童福祉に関係する様々な法令の制定と改正の背景について解説し、福祉行政機関の権限と役割を理解させる。 ・学習成果：児童福祉法の理念を理解し、その理念に沿った実践力を身に付ける。 ・復習事項：児童福祉の行政機関や実施機関具体的役割を整理し理解を深める。 ・予習事項：児童福祉施設にはどんなものがあるのか、テキスト第4章3節を読んでおく。
6 回	<児童福祉施設と施設生活の概要>（第4章3節） ・講義内容：児童福祉施設の種類と役割を解説し、入所利用の手順を説明する。 - また、児童福祉施設での生活実態から施設の課題とあり方を考えさせる。 ・学習成果：施設の役割を理解し、施設職員のあり方について自覚を高めることができる。 ・復習事項：社会的養護の意義を知ること、家庭と親の大切さ及び役割を再認識する。 ・予習事項：児童虐待のニュースに関心を注ぎ、なぜ虐待が多発するか考えてみる。
7 回	<児童虐待の現状と子育て支援体制について> ・講義内容：児童虐待防止法制定記念の特別講座である。児童虐待の予防と早期対応及びアフタケアのあり方など、子どもと関わる現場での留意点について解説する。 ・学習効果：社会生活にて虐待を発見した場合、専門職としての確に対応する力が育つ。 ・復習事項：児童虐待の新聞記事を切り抜き、コメントを添えて提出する。
8 回	<保育対策及び少子化対策の現状と課題>（第1章・4章3節） ・講義内容：現代の家庭養育及び少子化の要因と現状を解説し、保育所等の児童福祉施設の役割と課題及び現代的意義について考えさせる。 ・学習成果：少子化対策と保育養育機能の充実が深く関わることの理解を深める。 ・復習事項：少子化の原因について、自分の人生設計と関係づけて考察してみる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	<障害児福祉及び児童自立支援対策の現状と課題>（第4章3節） ・講義内容：子どもの発達と障害の原因及び福祉現場での対応のあり方を考え、心身障害児施策の変遷とサービス提供上の留意点について解説する。 ・学習成果：障害の種類や内容によって適切な対応のあり方が異なることを学ぶ。 ・復習事項：障害児福祉はどのような法律でどのような支援がなされるか整理しておく。 ・予習事項：母子保健・母子福祉・ひとり親支援にはどのような制度があるか調べてみる。
10 回	<母子保健対策・母子寡婦対策及び健全育成対策の現状と課題>（第5章） ・講義内容：子どもの福祉は胎児の時から始まり妊婦健診・乳幼児健診の大切さを解説。ひとり親福祉の歴史及び非行対策などの子育て支援の大切さを解説する。 ・学習成果：母子関係の大切さを知り、健全育成対策及びひとり親家庭への支援策を学ぶ。 ・復習事項：結婚離婚の子どもへの影響を考え、自分の結婚生活プランを立てる。 ・予習事項：子ども家庭福祉の関係機関にはどんなものがあるか調べてみる。
11 回	<子ども家庭福祉諸機関における専門職の役割と連携のあり方>（第6章） ・講義内容：児童福祉関係機関における専門職種と資格及びその役割について説明し、同職者連携と異職種間連携のあり方を具体的に考えさせる。 ・学習成果：保育現場で困難に直面した時、一人で悩まず連携し解決に当たる智慧を養う。 ・復習事項：保育士が子どもの問題で連携する機関にはどんなものがあるか整理してみる。 ・予習事項：児童福祉の中核機関である児童相談所について調べてみる。
12 回	<児童相談所の役割及び職員の資格と職務及び少年非行について>（第7章①） ・講義内容：「児童福祉法」における児童相談所の位置づけを法令に基づき説明し、そこで働く職員の職種・資格・責務について解説する。 ・学習成果：子ども家庭福祉の中核機関としての児童相談所の活用方法が理解できる。 ・復習事項：児童相談所における専門職の種類と役割を理解しておく。 ・予習事項：児童福祉施設の現状と最低基準の大切さについて実習を振り返る。
13 回	<児童虐待防止に向けて保育士・専門職の果たす役割>（第7章②） ・講義内容：児童虐待防止法の変遷と各条文を解説し、早期対応の大切さを理解させる。虐待は子どもの人権侵害であり、子どもたちの安心と安全を保障するために、子どもにかかわる専門職はどうあるべきかを具体例を交えて解説する。 ・学習成果：様々な専門職現場での被虐待児への治療的にかかわりの大切さを自覚する。 ・復習事項：子育てに悩む保護者の相談に寄り添う保育士としての留意点を整理してみる。
14 回	<21世紀の児童福祉・子育て支援のあり方>（第7章③） ・講義内容：次世代育成支援施策と、専門職は単に子どもにだけでなく保護者に対しても、良き相談相手としての役割が期待されていることを理解させる。 ・学習成果：子どもと関わる幼児教育専門職としての責任の重大性を自覚する。 ・予習事項：ノートの読み直し及び小テストでの課題と正解の再確認。
15	<まとめ> ・講義内容：期末考査に向けて、今までにノートした内容を追いながら、重要事項を再度確認させる。 ・学習成果：子ども家庭福祉の理念における児童の最善の利益とは、児童の発達保障こそが「子どもとして成長する権利に他ならない」と理解し、各自の役割に気づく。 ・予習事項：ノート及びテキストの読み直し。試験に向けて大切な福祉用語を理解する。 ・復習事項：保育士としての資質向上を目指して、立派な社会人に成長すると同時に、良い家庭を築き、いい親になるよう努力を続けること。この授業で学んだテキストやノートは、今後のお仕事で役立ててもらいたい。しかし、法制度等は刻々と変化するので、社会の動向に関心を持ち続けることが大切です。

令和 8 年 度 教 育 計 画												
科目名	保育原理 I	授業回数	15	単位数	2	担当教員	都田 修兵					
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：stsuda@owc.ac.jp、OH:金曜日 5 限目												
教育目標と学生の学習成果	教育目標 本科目では、「教師論・保育者論」での学びを基礎として、実践的指導力のある保育者を育成するため、以下にかかげる目標を獲得する。 （１）保育の意義を理解する。 （２）保育の思想と制度の歴史を理解する。 （３）保育所保育指針の内容を理解する。 （４）保育の方法、とくに環境の諸要素を理解する。 （５）保育課程の根拠を知り、適切な指導計画を作成する基礎的な力を身につける。 （６）保育に関する現状と課題について理解する。 （７）保育に関連するタームを理解して使用する。 学生の学習成果 ＜専門的学習成果＞ 教育目標に掲げる保育の基礎的知識を修得するとともに、保育に関連するタームを理解して使用できるようにする。 ＜汎用的学習成果＞ 本科目における「汎用的学習成果」は、「価値・意見」、「論理的思考力」の獲得であり、自らを高めることに努め、自らで考える力を身に付けることである。											
	教育方法	<table><tr><td>授業の進め方</td><td>（講義・演習・実験・実習・実技） ・主として講義形式による。 ・受講者の理解を促進させるため、講義中に小テストを課す。</td></tr><tr><td>予習・復習</td><td>予習・復習事項 ・毎授業回に、「授業回数別教育内容」に記された予習及び復習を求める。 ・予習については、第２回～１５回に向けて、９０分×１４回を目安とする。また、復習については、第１回～１５回終了後にその回の内容と１５回目には別途 ９０分程度の期末試験に向けた復習も入れて、９０分×１５回＋９０分を目安とする。 ※復習でわからないことがあった学生には、OH などを利用しながら、学習成果を高める援助を行う。</td></tr><tr><td>テキスト</td><td>岡田耕一編著『保育原理― 子どもの保育の基本理論の理解』萌文書林、2019。</td></tr></table>						授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・主として講義形式による。 ・受講者の理解を促進させるため、講義中に小テストを課す。	予習・復習	予習・復習事項 ・毎授業回に、「授業回数別教育内容」に記された予習及び復習を求める。 ・予習については、第２回～１５回に向けて、９０分×１４回を目安とする。また、復習については、第１回～１５回終了後にその回の内容と１５回目には別途 ９０分程度の期末試験に向けた復習も入れて、９０分×１５回＋９０分を目安とする。 ※復習でわからないことがあった学生には、OH などを利用しながら、学習成果を高める援助を行う。	テキスト
授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・主として講義形式による。 ・受講者の理解を促進させるため、講義中に小テストを課す。											
予習・復習	予習・復習事項 ・毎授業回に、「授業回数別教育内容」に記された予習及び復習を求める。 ・予習については、第２回～１５回に向けて、９０分×１４回を目安とする。また、復習については、第１回～１５回終了後にその回の内容と１５回目には別途 ９０分程度の期末試験に向けた復習も入れて、９０分×１５回＋９０分を目安とする。 ※復習でわからないことがあった学生には、OH などを利用しながら、学習成果を高める援助を行う。											
テキスト	岡田耕一編著『保育原理― 子どもの保育の基本理論の理解』萌文書林、2019。											
学習評価の方法	＜学習評価の観点＞ ●「専門的学習成果」については「教育目標」でも示した以下の（１）から（７）の観点に基づき行う。学習評価の観点は下記の通りである。 ●「汎用的学習成果」については「教育目標」でも示した「態度・信念」の獲得の状況に基づき行う。 ＜学習評価の方法＞ 学習評価は以下の方法により実施することとする。											

学習評価の方法	(1) 定期試験 (70 点) 「専門的学習成果」の学習評価の方法は、学習評価の観点 (1) から (7) までにかかる内容についての定期試験 (70 点分) を実施する。なお、出題は「選択問題」「簡単な記述問題」「論述問題」等から構成することとする。 (2) 小テスト (10 点×2 回=20 点) 小テストを実施し、評価する。なお、実施回は「授業回数別教育内容」を参照すること。小テスト実施日に欠席等により小テストを受験することができなかった者は、後日追試験を実施する。なお、小テストについては採点終了後、学生に返却し、解説等を実施する。 (3) 読書レポート (10 点×1 回=10 点) 「汎用的学習成果」の学習評価の方法は、授業課題である「読書レポート」の得点をもって「態度・信念」の獲得とする。なお、「読書レポート」については、＜参考図書等＞に書いてある文献等を読んで行うものとする。なお、レポートについては、評価基準を明示し、提出後フィードバックを実施する。 (4) その他 ただし、学習評価の方法 (1) (2) (3) 以外に受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、以下のケースに応じて減点することとする。 ・「過度の居眠り」及び「不必要な私語」(1 点) ・「無許可による携帯電話の使用 (SNS 等)」(2 点)
注意事項	●定期試験 ・「学則施行細則」第 7 条により、<u>本科目について 3 分の 2 以上出席をしなれば試験を受けることはできない (受験資格なし)。</u> ・「学則施行細則」第 7 条により、学習評価は 100 点法をもって採点し、80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可、60 点未満を不可とする。 ●再試験 ・「学則施行細則」第 7 条により、定期試験が不可の者に対して再試験の機会を与え、願により再試験を受けることができる。ただし、<u>講義及び演習の授業科目の再試験は 100 点法による筆記試験とし、その他の評価点 (本科目は、学習評価の方法における (2) (3) (4)) は含めず、再試験による 60 点以上の得点者はすべて 60 点の学習評価とする。</u> ●追試験 ・「学則施行細則」第 7 条により、定期試験の際、病気その他止むを得ない事情により受験不能であった者に対しては、その理由が正当であると認められた場合に限り、願により追試験を受けることができるが、<u>追試験による 80 点以上の得点者はすべて 80 点の学習評価とする。</u> ＜参考図書等＞ ・秋山千佳『ルポ 保健室——子どもの貧困・虐待・性のリアル』朝日新書、2016。 ・林純次『残念な教員——学校教員の失敗学』光文社新書、2015。 ・藤田英典『教育改革——共生時代の学校づくり』岩波新書、1997。 ・藤田英典『義務教育を問いなおす』ちくま新書、2005。 ・堀尾輝久『教育入門』岩波新書、1989。 ・苅谷剛彦『教育改革の幻想』ちくま新書、2002。 ・苅谷剛彦ほか著『「学力低下」の実態』岩波ブックレット、2002。 ・苅谷剛彦『学校って何だろう？——教育の社会学入門』ちくま文庫、2005。 ・尾木直樹『学校は再生できるか』NHK ブックス、1998。 ・尾木直樹『「学級崩壊」をどうみるか』NHK ブックス、1999。 ※その他、授業内で「読書案内」を配布するので参照されたい。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<オリエンテーション、保育の理念と概念> ○本時の目標 本科目の全体目標及び授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、そもそも「保育」とは何か、その意義や役割についての学びを通して、保育の基盤を成す理念や概念について理解する。 ○本時の活動 ・オリエンテーション（講義内容 授業の進め方、スケジュール、学習評価の方法） ・テキスト第1章（pp. 11-18）で解説する。 ○本時の学習成果 「保育」そのものについて、そしてその意義や役割について学ぶことを通して、保育の基盤を成す理念や概念を理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育の基盤を成す理念や概念を整理する。
2 回	<子どもと保育に関する法令> ○本時の目標 子ども家庭福祉における保育の関係法令（たとえば、日本国憲法、児童憲章、社会福祉法など）に関して学ぶことを通して、子ども家庭福祉を支える制度的特徴などを理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第2章（pp. 21-30）で解説する。 ○本時の学習成果 子ども家庭福祉を支える制度的特徴などを理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容について整理する。
3 回	<保育所について学ぶ①> ○本時の目標 保育所保育の目的、内容、方法などについて理解する。とくには保育所保育指針の改定の経緯、概要について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第3章（pp. 34-45）で解説する。 ○本時の学習成果 保育所保育指針の改定の経緯、概要について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容について整理する。
4 回	<保育所について学ぶ②> ○本時の目標 保育所保育の目的、内容、方法などについて理解する。とくには保育内容、乳児保育などについて理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第3章（pp. 45-52）で解説する。 ○本時の学習成果 保育内容、乳児保育などについて理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容について整理する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
5 回	<幼稚園について学ぶ> ○本時の目標 幼稚園の目的、内容、方法などについて理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第4章（pp. 56-65）で解説する。 ○本時の学習成果 幼稚園の目的、内容、方法などについて理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容について整理する。 第6回における小テストの範囲を振り返っておく。
6 回	<幼保連携型認定こども園について学ぶ> ○本時の目標 幼保連携型認定こども園の目的、内容、方法などについて理解する。 ○本時の活動 ・<u>小テスト（第1回）</u>：シラバス第3回・第4回・第5回の内容 ・テキスト第5章（pp. 70-75）で解説する。 ○本時の学習成果 幼保連携型認定こども園の目的などについて理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容について整理する。
7 回	<保育所保育の方法> ○本時の目標 保育所保育や幼稚園、こども園における保育の方法について、「環境」という鍵概念を中心として学ぶ。 ○本時の活動 ・テキスト第6章（pp. 79-87）で解説する。 ○本時の学習成果 保育における方法について、「環境」という鍵概念を中心に理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容について整理する。
8 回	<保育の計画と評価> ○本時の目標 保育の計画（全体的な計画（全体計画）、指導計画（長期指導計画、短期指導計画）について学ぶとともに、実践される保育の評価についても学ぶ。 ○本時の活動 ・テキスト第7章（pp. 91-105）で解説する。 ○本時の学習成果 保育における計画と評価について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容について整理する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	<子どもの理解に基づく保育> ○本時の目標 子どもの発達（乳児、1歳以上3歳未満児、3歳以上児）について学び、その子ども理解に基づいた保育実践について考えることができる。 ○本時の活動 ・テキスト第8章（pp. 109-123）で解説する。 ○本時の学習成果 子ども理解に基づく保育実践について考えることができる。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容について整理する。 第10回における小テストの範囲を振り返っておく。
10 回	<地域社会で行う子育ての支援> ○本時の目標 保育所や幼稚園、こども園の地域社会への役割としての「子育て支援」について学ぶ。 ○本時の活動 ・テキスト第9章（pp. 127-137）で解説する。 ○本時の学習成果 「子育て支援」について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容について理解する。
11 回	<障がい（害）児を受け入れる保育> ○本時の目標 障がい（害）の種類（自閉症、ADHDなど）について理解するとともに、「障がい（害）児保育」について考える。 ○本時の活動 ・<u>小テスト（第2回）</u>：シラバス第7回・第8回・第9回の内容 ・テキスト第10章（pp. 141-152）で解説する。 ○本時の学習成果 「障がい（害）児保育」について考えることができる。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の授業内容を整理する。
12 回	<保育の歴史①> ○本時の目標 教育あるいは保育の思想と歴史などについて学ぶ。 ○本時の活動 ・テキスト第11章（pp. 155-170）で解説する。 ○本時の学習成果 日本の教育あるいは保育の思想と歴史などについての理解を深めている。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容について整理する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
13 回	<保育の歴史②> ○本時の目標 教育あるいは保育の思想と歴史などについて学ぶ。 ○本時の活動 ・テキスト第11章（pp. 155-170）で解説する。 ○本時の学習成果 日本の教育あるいは保育の思想と歴史などについての理解を深めているとともに、日本の保育の現状について理解しようとしている。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容について整理する。
14 回	<日本の保育の現状> ○本時の目標 日本の保育の現状について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第12章（pp. 173-180）で解説する。 ・期末試験に向けた授業内容の振り返りを行う。 ○本時の学習成果 日本の保育の現状について理解し、授業の総括を行うことができる。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容を整理するとともに、これまでの授業内容の整理を行いながら、期末試験に備える。 第15回における「読書レポート」（第2回）の提出の準備をする。
15 回	<総括> ○本時の目標 これまでの内容を総括する。 ○本時の活動 ・<u>読書レポートを提出</u>する。 ・期末試験に向けた授業内容の振り返りを行う。 ○本時の学習成果 授業の総括を行うことができる。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：これまでのテキストやノートを整理する。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容を整理するとともに、これまでの授業内容の整理を行いながら、期末試験に備える。

令和 8 年 度 教 育 計 画							
科目名	保育原理Ⅱ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	都田 修兵
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：stsuda@owc.ac.jp、OH:金曜日 5 限目							
教育目標と学生の学習成果	教育目標 保育原理Ⅰの講義内容を土台として、主に保育所保育における実践力をつけるため、以下の目標を掲げる。 （１）保育課程に関する歴史及び現代の課題を知る。 （２）子どもの理解に基づく指導計画の意義を理解し、作成のポイントを知る。 （３）年齢や環境に応じた短期指導計画の作成・評価・改善を行う。 （４）保育現場における「幼児ダンス」「手遊び」「唱歌」「絵本」などの内容について研究し、実際に活動する。						
	学生の学習成果 ＜専門的学習成果＞ 教育目標に掲げる 3 項目の知識や遂行する能力の獲得を目指す。 ＜汎用的学習成果＞ 本科目における「汎用的学習成果」は、「情報リテラシー・数量的スキル」の獲得であり、自らを高めることに努め、自らで考える力を身に付けることである。						
教育方法	授業の進め方	（講義）・演習・実験・実習・実技） ・知識の伝授は講義形式による。 ・受講者の指導案作成能力を高めるため、授業時間内外で指導案を作成させる。					
	予習・復習	予習・復習事項 ・毎授業回に、「授業回数別教育内容」に記された予習及び復習を求める。 ・予習については、第 2 回～15 回に向けて、90 分×14 回を目安とする。また、復習については、第 1 回～15 回終了後にその回の内容と 15 回目には別途 90 分程度の期末試験に向けた復習も入れて、90 分×15 回+90 分を目安とする。 ※復習でわからないことがあった学生には、OH などを利用しながら、学習成果を高める援助を行う。					
	テキスト	使用しない。					
学習評価の方法	＜学習評価の観点＞ ●「専門的学習成果」については「教育目標」でも示した以下の（１）から（４）の観点に基づき行う。学習評価の観点は下記の通りである。 ●「汎用的学習成果」については「教育目標」でも示した「態度・信念」の獲得の状況に基づき行う。 ＜学習評価の方法＞ 学習評価は以下の方法により実施することとする。 （１）定期試験（50 点） 「専門的学習成果」の学習評価の方法は、学習評価の観点（１）から（４）までにかかる内容についての定期試験（50 点分）を実施する。なお、出題は「選択問題」「簡単な記述問題」「論述問題」等から構成することとする。						

学習評価の方法	(2) 指導案作成 (50 点) 授業内及び授業外において、指導案の作成を行う。 (3) その他 学習評価の方法 (1) (2) (3) 以外に受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、以下のケースに応じて減点することとする。ただし、最大で 5 点までの減点にとどめるものとする。 ・「過度の居眠り」及び「不必要な私語」(1 点) ・「無許可による携帯電話の使用 (SNS 等)」(2 点)
注意事項	●定期試験 ・「学則施行細則」第 7 条により、<u>本科目について 3 分の 2 以上出席をしなければ試験を受けることはできない (受験資格なし)。</u> ・「学則施行細則」第 7 条により、学習評価は 100 点法をもって採点し、80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可、60 点未満を不可とする。 ●再試験 ・「学則施行細則」第 7 条により、定期試験が不可の者に対して再試験の機会を与え、願により再試験を受けることができる。ただし、<u>講義及び演習の授業科目の再試験は 100 点法による筆記試験とし、その他の評価点 (本科目は、学習評価の方法における (2) (3) (4)) は含めず、再試験による 60 点以上の得点者はすべて 60 点の学習評価とする。</u> ●追試験 ・「学則施行細則」第 7 条により、定期試験の際、病気その他止むを得ない事情により受験不能であった者に対しては、その理由が正当であると認められた場合に限り、願により追試験を受けることができるが、<u>追試験による 80 点以上の得点者はすべて 80 点の学習評価とする。</u> 参考図書等 開仁志編著『保育指導案大百科事典』一藝社、2012。 片山紀子編著『保育実習・教育実習の設定保育——これではじめての実習も大丈夫』朱鷺書房、2007。 師岡章編著『保育指導法——幼児のための保育・教育の方法』同文書院、2007。 長島和代編『これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語』わかば社、2013。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<オリエンテーション、保育の思想と歴史> ○本時の目標 本科目の全体目標及び授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、思想家の思想について学ぶことを通して、「保育」そのものへの理解を深める。 ○本時の活動 ・オリエンテーション（講義内容、授業の進め方、スケジュール、学習評価の方法） ・ペスタロッパーやフレーベルの思想に触れる。 ○本時の学習成果 思想家の思想について学びながら、自らの「保育」への理解を深めている。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：特になし。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、内容を整理する。
2 回	<『保育所保育指針』と保育計画、子ども理解> ○本時の目標 現場における保育計画について学ぶとともに、実際の保育において「子ども理解」がなぜ重要となるのかについて学び、理解する。 ○本時の活動 ・『保育所保育指針』の全体像の把握と保育計画について学ぶ。 ・「子ども理解」について学ぶ。 ○本時の学習成果 保育計画について理解し、「子ども理解」について学んでいる。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：『保育所保育指針』を読んできく。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、内容を整理する。
4 14 回	<保育指導案の理解、指導計画の立て方、保育指導案作成①～⑪> ○本時の目標 保育指導案に関して学び、実際の指導計画の立て方について理解する。さらに、指導案の構成要素（子どもの姿、ねらい、環境構成、子どもの活動と保育士の援助配慮）とそのポイントを確認し、実際に保育指導案を作成する。 ○本時の活動 実際の保育指導案で考えながら、保育指導案や指導計画の立て方について学ぶ。 ○本時の学習成果 保育指導案に関して学び、実際の指導計画の立て方について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：前回の内容をノートなどで確認してくる。 ・復習事項：指導案の作成の続きを行う。
15 回	<総括> ○本時の目標 これまでの授業内容を整理し、「保育」について「保育者」という視点から再考する。 ○本時の活動 ・期末試験に向けた授業内容の振り返りを行う。 ○本時の学習成果 「保育」そのものについて「保育者」という視点から考えている。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：前回の内容を確認してくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容を整理し、期末試験に備える。

令和8年度教育計画							
科目名	乳児保育 I	授業回数	15	単位数	2	担当教員	山上 幸子
質問受付の方法 (e-mail,yamagami:@owc.ac.jp オフィスアワー等):B307研究室							
教育目標と学生の学習成果	教育目標: <u>本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である</u> 保育所や乳児院で、乳児保育を担当する保育士として必要な理論や知識・技術の基本を、具体的な事例を通して理解させる。 1. 「保育所保育指針」に基づき、乳児保育の基本を理解する。 2. 乳児各期の発達課題に即した援助のありようを考える。 3. 家庭や地域との連携、協働という文脈において考える。 4. 乳児の保育環境についてどう捉え、どう整えたらよいかを考える。 5.現場での具体的事例紹介や実践的な課題演習を通じて保育現場をリアルに理解し将来の実践に活かせる知識技能を身につけることを目指す。 学生の学習成果: ・専門的学習成果:将来乳幼児保育に関わるものとして、上記に掲げた乳児期の基礎的な知識と技術を獲得する。 ・汎用的学習成果:人格形成の基礎が培われる乳幼児のモデルとなるべき保育者を目指し、人となりを養成する。						
	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) ・基本的にはテキストやプリントを中心に進めていくが、適宜、参考資料を配付する。 ・実際の写真や動画で乳児を身近に感じる。 ・ワークシートにより講義内容ごとにまとめ、大切なポイントを確認し、受講生の見解を問う。また、ビデオ視聴後は、レポートなどの形式により内容把握や感想を問う。 ・随時、模擬保育室や人形を使用し実践保育を導入する。親子クラブに参加し実際の赤ちゃんに触れたり見たりして観察する。					
教育方法	予習・復習	1. 上記の内容により、必要に応じて課題を投げかけ、感想や意見等を予習・復習として求める。(各 90 分程度) 2. 所定の様式により提出をさせ、チェックする。 3. 手遊びや、わらべうたを獲得していく。					
	テキスト	・加藤 敏子編著 富永 由佳:2019「乳児保育 一人一人を大切に」萌文書林 ・プリント					
学習評価の方法	1. 上記3つの学習成果についてその獲得度合を量的に評価する。 2. 期末テストの成績 70 点 (試験の持ち込みはすべて不可) 3. 随時、課題・レポート提出 20 点 (提出期限厳守) 課題・レポートの内容が不適切で未熟な場合、減点とする。 4. 積極的な授業への参加、真摯な授業態度を重視する。 尚、汎用的学習成果について、「保育者としての態度・信念」 課題・演習に取り組む姿勢や人となりで評価する。自己評価をしていく。(10 点) 学習評価は、上記を総合して行う。						
注意事項	参考図書等: ・監修:公益財団法人 児童育成協会 編集:寺田清美 大方美香 塩谷 香 :2019「乳児保育 I・II」中央法規 ・田中真介監修 乳児保育研究会編書:2009「発達がわかれば子どもが見える」ぎょうせい						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<オリエンテーション> 本講義の目的と授業の進め方、シラバスについて理解する。 <乳児保育の目的と役割> ・学習のポイント:乳児保育の歴史を振り返り、子どもの育つ保育環境の変化や乳児保育の必要性。さらに乳児保育の意義について学ぶ。また、保育者の役割について認識する。手遊びをする。 テキスト p.10～28 「乳児保育の意義」・「乳児保育の歴史と現状」 ・課題:「乳児保育の目的と役割」についてワークシートにポイントまとめる。 ・予習:「子どもを産み育てていくとしたら、どんな子育て支援が必要か？」考えてくる。
2 回	<乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題> ・学習のポイント:子育て家庭を取り巻く社会的環境から、その支援のあり方や課題を学ぶ。 テキスト p.28～39「乳児保育の歴史と現状」 手遊びをグループでする ・課題:グループで「子育て支援・待機児童・乳児院」について話し合い、ワークシートにまとめる。 ・復習:「乳児保育の目的と役割」について確認しておく。 ・予習:「生まれたばかりのあかちゃん」について、どんな能力があるか考えてくる。
3 回	<あかちゃんの能力について> ・学習のポイント:DVD視聴 「赤ちゃんこのすばらしき生命」を視聴し、基本的な知識やイメージだけでなく実際にはどんな能力があるのか認識する。 実際に人形を抱いたり、おしめを交換したりして応答的なかわりをする。 ・課題:視聴後、「あかちゃんの能力」について学んだことを踏まえて、自分の考えをまとめる。 ・復習:ワークシートについての確認。 ・予習:テキスト (1)「誕生～6か月未満」の発達の特性を読んでくる。
4 回	<誕生～6か月未満の発達と保育> ・学習のポイント:資料「誕生～6か月未満までの発達の特性と保育者の援助のポイント」をもとに、1 か月ごとの乳児の基本的な成長の変化や保育者の配慮・援助のポイントを理解する。 手遊びをグループでみんなの前でする。 テキスト p.40～58 第3章 1発達の特性 2(1)誕生～6か月未満 保育園の0歳児の部屋の環境を写真や動画で視聴する。 ・課題:ワークシート「誕生～6か月未満」に発達の特性・保育者の援助を書き提出。 ビデオ:「乳児保育の実際 前半」を視聴し 0 歳児前半の子どもの発達の様子を映像によってさらに理解を深める。m ・復習:「あかちゃんの能力」確認をする。 ・予習:テキスト (2)「6か月～1歳3か月未満」の発達の特性を読んでくる。
5 回	<6か月～1歳3か月未満の発達と保育> ・学習のポイント:「6か月～1歳3か月未満までの発達の特性と保育者の援助のポイント」の資料をもとに、1か月ごとの乳児の基本的な成長の変化や保育者の配慮・援助のポイントを理解する 保育園の1歳児の部屋の環境を写真や動画で見る テキスト p.58～65 「6 か月から 1 歳 3 か月未満」 はじめの一步教室に参加して気づきや発見をする。 ・課題:ワークシート「6か月～1歳3か月未満」に発達の特性・保育者の援助を書き提出。 はじめの一步教室で実際の赤ちゃんの様子を見たり触れたりして理解を深める。 ・復習:「誕生～6か月未満」の子どもの発達の特性・保育者の援助の確認。 ・予習:テキスト (3)「1 歳 3 か月～2 歳未満」の発達の特性を読んでくる。

6 回	<1歳3か月～2歳未満の発達と保育> ・学習のポイント:1歳3か月～2歳未満児の基本的な発達の特性と保育者の配慮・援助のポイントを理解する。 テキスト p.66～69 「1歳3か月～2歳未満」 ・課題:ワークシート「1歳3か月～2歳未満」に発達の特性・保育者の援助を書き提出。 ビデオ視聴:「遊びの中にみる1歳児」を視聴し1歳児の子どもの発達の様子を、映像によってさらに理解を深める。 ・復習:「6か月～1歳3か月未満」の子どもの発達の特性・保育者の援助の確認。 ・予習:テキスト (4)「2歳～3歳未満」の発達の特性を読んでくる。
7 回	<2歳～3歳未満の発達と保育 と実践> ・学習のポイント:「2歳～3歳未満児の基本的な発達の特性と保育者の配慮・援助のポイントを理解する。 親子クラブの子ども達と触れ合い観察をする。 テキスト p.70～74 赤ちゃんと触れ合いを経験した事をグループで気づきを話し合う。 ・演習:ワークシート「2歳～3歳未満」の子どもの発達の特性・保育者の援助を書き提出。 ・復習:「1歳3か月～2歳未満」の子どもの発達の特性・保育者の援助の確認。
8 回	<乳児期の発達の特性> 学習のポイント:乳児期の発達と特性について理解する。 テキスト p.40～49 「3歳未満児の発達と保育」発達の特性 「泣く子の見分け方」について・・・資料をもとに、泣くことの原因や気をつけることなど様々な事例を分析し、対応の仕方を理解する。 「はいはいの発達」について・・・資料をもとに、はいはいの意味や発達過程を理解し、乳児の接し方の力をつける。 ・「泣く子の見分け方」「はいはいの発達」についてまとめる。ワークシート ・復習:「2歳～3歳未満」の子どもの発達と保育者の配慮・援助の確認。乳児の玩具集め。 ・予習: テキスト3「乳児期の生活」・ 4「1～2歳児の生活」の離乳食と食事を読んでくる。
9 回	<乳児の生活②(食事・睡眠)> ・学習のポイント:テキスト p.76～88 「乳児期の生活」、p.94～100「1～2歳児の生活」 「スプーンと箸について」の資料によって、基本的なスプーンや箸の持ち方を身につけ、さらに発達過程の経過についても理解を深める。また、食事のための環境づくりについて、食器の選び方や配膳方法を知り、理解する。 実際の茶碗や箸を観たり触ったりする。(わたぼうし) 写真、動画を見る ・演習: ワークシート「スプーンや箸の持ち方、食器の選び方」について空白を記入し提出。 ・復習:「泣く子の見分け方」「はいはいの発達」についてポイントを確認。 ・予習:「子どものトラブル」にはどんなことがあるか考えてくる。
10 回	< 場面事例から学ぶ > ・学習のポイント:ビデオ「やさしさの育つとき」を視聴し、様々な場面からの子どもへのかかわり方を学び、さらにグループで話し合い、相手の意見や気づきを共有する。 ・課題:各グループでビデオ視聴後、場面ごとの事例をもとに子どもへのかかわり方や気づいたことをまとめる。 ワークシート「かみつき・ひっかきの対応の仕方」について、事例をもとに分析し、基本的なトラブルへの対応の仕方を身につける。「ひっかき・かみつきへの対応」の資料 実習時の自己紹介の仕方について話し合う。 ・復習:「食器の選び方」や、スプーン・箸の持ち方の発達過程について確認。 ・予習:乳児の玩具について考え、材料を集める。

11 回	< 保育の計画と記録 > ・学習のポイント: 乳児保育を行う上での計画の必要性, また、保育計画作成において保育者が行う援助や配慮の大切なポイントを学び、書き方のポイントを身につける。 テキスト p.152～175「保育の計画と記録」 ・課題: 「0～3 歳未満」それぞれの「生活と遊び」の指導案を作成する。 グループで年齢を決め、0 歳児、1 歳児、2 歳児それぞれの「ディリープログラム」をもとに生活と遊びの流れの場面の指導案を作成する。1歳児、2歳児の遊びを考える。 ・復習: 「トラブルの対応について」確認(被害者・加害者・保護者・園など各側に立って)。 ・予習: テキスト (3)排泄(4)着脱衣(5)清潔を」読み確認する。
12 回	< 排泄: 着脱衣・清潔 > 学習のポイント: 基本的な生活習慣は、人間が快適に生活するために欠かせないものであり、集団保育では家庭と連携して身につけられるよう援助していくことが大切である。保育者が乳幼児期それぞれの発達過程により、どう援助していくかを認識する。 テキスト p.88～94「乳児期の生活」・ p.100～109「1～2 歳児の生活」 (3)排泄(4)着脱衣(5) ・課題: グループで「生活場面における子どもの姿と保育者のかかわり」について話し合いまとめる。 ・復習: 0、1、2 歳児それぞれのディリープログラムや発達によって、援助の仕方や関わり方の違いについて確認する ・演習: 乳児の玩具作り 動画を見るガラガラ スードーム
13 回	< 乳児の玩具 ・ 遊び > ・学習のポイント: 乳児の玩具やあそびの種類を知り、その遊びの行為によって育つものは何かを理解する。さらに、乳児の遊びの意味について理解を深める。 テキスト p.110～126「乳児期のあそび」・ 「1～2 歳児のあそび」 ・課題: 手作り玩具を製作(1～2 個) ペットボトル等の空き容器を使ってフローティングボトル等手作りした玩具の「あそび・遊び方・育つもの」について項目ごとにまとめる。 またグループでそれぞれの玩具について発表し合い、どんな働き(育つもの)は何か考える。 ・演習: 乳児の手遊び・ふれあい遊び
14 回	< 健康, 安全管理 ・ 保育の環境 > ・学習のポイント: 子どもの健やかな発達のためには、環境が重要であることで知り起こりやすい事故や対処方法、また事故防止対策などについて理解する。 そして様々な事例を分析し、共通点や基本的な対応の仕方を身につける。 テキスト p.127～151 「健康、安全管理」・「保育の環境」 ・課題: グループで「起こりやすい事故への対処方法」について話し合いにまとめる。 ・予習: 乳児保育テキストを見て、今までに学んだ乳児保育の現状と背景、保育のニーズ保育者の役割について確認する。
15 回	< 乳児保育の今後の課題 ・ まとめ > ・学習のポイント: 近年、保育ニーズが複雑化しており、地域・他機関との連携・子育て支援などが必要とされている。その中で保育所の役割は大きく、保育者はより高い専門技術や資質が要求されているという意識をもつこと。 テキスト p.176～192「乳児保育の今後の課題」 ・課題: ～乳児保育で大切なこと～、また保育士の立ち位置について再確認する。 ・演習: 実習園では子どもの発達についてはどうだったか？ どんな玩具があったか、環境や子ども同士のかかわりはどうだったか話し合う。

令和 8 年 度 教 育 計 画							
科目名	乳児保育Ⅱ	授業回数	15	単位数	1	担当教員	山上 幸子
質問受付の方法（e-mail, オフィスアワー等）：B 3 0 7 研究室							
教育目標と学生の学習成果	教育目標： <u>本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である</u> 乳児保育の基本的な考え方について理解し、3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びや生活の実際、環境構成、援助、配慮について理解するとともに、指導計画と記録のあり方について学ぶことを目的とし、以下の4点を主な目標とする。 1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 専門的学習成果：乳児保育Ⅰの学びを基礎として、発育・発達の過程や特性を踏まえた子どもへの関わり方や保育環境について理解を深める。 汎用的学習成果：人間形成の基礎が培われる乳幼児のモデルとなるべき保育者を目指し、人となりを養成する。						
	教育方法	授業の進め方	(講義・ <u>演習</u> ・実験・実習・実技) ・基本的にはパワーポイント、プリントを中心に進めていくが、講義、グループ討論、演習を行う。 ・受講者の理解を図るため、課題により資質能力の確認、まとめを行う。 ・随時、模擬保育室や人形を使用し実践保育を導入する。 ・はじめの一步教室や親子クラブへの参加により実際に子どもの関わりを経験する。				
		予習・復習	1. 上記の内容により、必要に応じて課題を投げかけ、感想や意見等を予習・復習として求める。(各 45 分程度) 2. 所定の様式により提出をさせ、チェックする。				
		ステキ	・必要に応じてムードルにあげる ・演習プリント				
学習評価の方法	評価を以下の4つの学習成果についてその獲得度合を量的に評価する。演習 60 点、汎用学習成果計 40 点を合わせて 100 点満点で評価する。ただし、授業態度によっては減点する。 1. 乳児保育の基礎について理解する。(1 回) 2. 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びについて理解する。 0～2 歳児の生活の流れ・保育環境・援助の実際と遊びの獲得 (2 回～10 回) 3. 子どもの心身の健康と安全・集団生活における配慮 (11, 12, 13 回) と援助の獲得 4. 乳児保育における計画について理解する。(14, 15 回) 尚、汎用学習成果について、「保育者としての態度・信念」 課題や演習に取り組む姿勢や人となりで評価する。(40 点) 学習評価は、上記を総合して行う。						
注意事項	参考図書：監修：公益財団法人 児童育成協会 編集：寺田清美 大方美香 塩谷 香 ：「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」中央法規 編集：後藤由美・菊池篤子「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」 演習で学ぶ乳児保育 小山朝子 編著 亀山美沙子 善本眞弓 評価として提出物、演習課題を重視する。						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<オリエンテーション> 本講義の目的と授業の進め方、シラバスについて理解する。 <乳児保育の基本> ・学習のポイント：保育者との応答的にかかわりや信頼関係の構築が子どもの発達にどのように影響しているか、理解する。 1. 子どもと保育者との関係性について・人形を使って実際にする 2. 乳児（0歳）と1歳以上3歳未満児の保育内容 演習：応答的なかわりと言葉の育ちにはどんな関係があるか考えてみよう。 予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「0歳児の発達」について確認しておく。
2 回	<子どもの生活の流れ（0歳児クラス）> ・学習のポイント：乳児が安心して心地よく過ごせる生活とは何か、大切にしたい視点を学ぶ。 1. 0歳児のディリープログラムについて 2. 乳児のディリープログラムの特徴 3. 一人ひとりに応じた適切な援助を行うための実践 演習：「流れる日課」を行うためには、どのような保育者の配慮や作業が必要なのか考えてみよう。育児担当制を実施する場合のメリット、デメリットを考えてみよう。 復習：子どもと保育者との関係の重要性について再確認する。 予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「0歳児の発達」について確認しておく。
3 回	<子どもの保育環境（0歳児クラス）> ・学習のポイント：子どもの保育環境は、大きく人的環境と物的環境に分けられる。なかでも、物的環境における心地よい室内環境や発達を促す玩具について学ぶ。 1. 指針からみる保育環境 模擬保育室で保育してみよう 2. 乳児が過ごしやすい部屋 3. 玩具 4. グループで手遊びやわらべうた遊びを交えて保育をする。 演習：家庭的雰囲気にするために、どのような工夫ができるか考えてみよう。 復習：「0歳児のディリープログラム」について再確認する。 予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「0歳児の発達」について確認しておく。
4 回	<子どもの援助の実践（0歳児クラス）> 学習のポイント：生活（「養護」と遊び（5領域につながる「3つの視点」）の援助について学ぶ。 1. 生活の援助の実践 模擬保育室等で実際に人形を使って学ぶ 2. 遊びの援助の実践 わらべうたを導入する 演習：0歳児クラスの食事場面をイメージして、どのような「ねらい」と「内容」「配慮事項」が考えられるか書いてみよう。 復習：「0歳児クラスの保育環境」について再確認する 予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「1歳児の発達」について確認しておく。
5 回	<子どもの生活の流れ（1歳児クラス）> ・学習のポイント：1歳児の一日の生活（ディリープログラム）に沿って、保育者の配慮を学ぶ。1歳児の園生活のDVD 1. 1歳児クラスの生活の流れ（ディリープログラム） 2. 絵本の読み聞かせをする 演習：「朝の視診」について考えてみよう。実際にしてみよう。 復習：「0歳児の生活と遊びの援助」について大切なことを確認しておく。 予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「1歳児の発達」について確認しておく。

6 回	<子どもの保育実践> ・学習のポイント：地域の親子クラブの子ども達とわらべうたや手遊びをしたり一緒に遊んだりして0．1．2歳児の子ども達と関わる。 グループで話し合い振り返りをする。 演習：手作り玩具をつくってみよう。 復習：1歳児の生活の流れの中で、大切な「保育者の配慮」について確認しておく。 予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「1歳児の発達」について確認しておく。
7 回	<子どもの援助の実際（1歳児クラス）> ・学習のポイント：1歳児の発達の特性を考えてどのように援助したらよいか？保育者のかかわり方について、生活と遊びの両面から、具体的な援助について学ぶ。 1. 生活の援助：保育士と子どもに分かれ模擬保育する。ロールプレイング（朝の視診） 2. 遊びの援助 「排泄と着脱について」、保護者は排泄の自立についてどのように考え、どのような悩みを持っているだろうか、認識する。遊びの場面のDVDから考える。 演習：着脱の動作を分割してとらえ、どのような援助が必要なのか考えてみよう。 復習：援助しやすい環境設定について確認する。 予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「2歳児の発達」について確認しておく。
8 回	<子どもの生活の流れ（2歳児クラス）> ・学習のポイント：2歳児の生活の流れを理解し、2歳児の発達の課題である生活習慣の自立を促すための環境構成や、保育者のかかわりとは何かについて学ぶ。 自立を促す関わりかた。衣服の着脱の場面（ロールプレイング） 1. 2歳児クラスの生活の流れ（ディリープログラム） 2. 集団遊びをする。（子どもの王差等） 演習：事例から、自立をうながす保育者のかかわりを考えてみよう。 食事・排泄・衣服の着脱・清潔・その他の場面などから 復習：生活と遊びの中での具体的な援助の仕方について確認する。 予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「2歳児の発達」について確認しておく。
9 回	<子どもの保育環境（2歳児クラス）> ・学習のポイント：2歳児クラスの物的環境の1つである玩具を中心に、その構成のポイントを理解し、具体的に玩具が子どもの発達にどのように関係するかを学ぶ。 1. 2歳児の遊びと保育環境を知る。人形で投影する姿を理解する。 2. 実際の保育園生活のDVDをみて話し合う。「2歳児の生活と遊び」 3. 手指の発達をうながす遊び 簡単な集団遊びを知る。 演習：2歳児の発達に適した人形はどのようなものがあるかを考える。 復習：生活習慣の自立をうながす保育者のかかわり方について確認する。 予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「2歳児の発達」について確認しておく。
10 回	<子どもの援助の実際（2歳児クラス）> ・学習のポイント：2歳児クラスにおける遊びと生活習慣の関連性を確認し、保育所保育指針に示されている、「育みたい資質・能力」につなげる2歳児の育ちについて理解する。 1. 手指の発達をうながす遊びと生活習慣 様々な行事を知る。 演習：トイレ排泄に慣れ、自分で排泄できるようになる時期である。自分で排泄しようとするための適切な援助を考える。 復習：玩具が子どもの発達にどのように関係するかを確認する。 予習：子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮について考えてくる。

11 回	<子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮> ・学習のポイント：子どもの心身の健康や安全、情緒の安定とは何かを保育所保育指針から確認し、現状で起こっている事故などについて知り、基本的な知識を身につける。 1. 保育所保育指針の内容 2. 子どもの死亡および事故の現状と課題「事故防止および安全対策」を考える。 3. 保育園・幼稚園での行事の取り組みについて「年末の行事」演習をする。 演習：年末の様々な行事をグループで実践する。 復習：2歳児クラスにおける遊びと生活習慣の関連性を確認する。 予習：「保育者、その他の専門職、保護者との連携」について考えてくる。
12 回	<集団での生活における配慮> ・学習のポイント：集団での育ちを保障しながら個々への配慮を行うためには何が必要か、保育者、他職種、保護者との連携の重要性について学ぶ。 1. 集団保育と個々への援助 2. 保育者同士と他職種・保護者との連携 演習：事例を読んで、保護者に園での子どもの様子をどう伝えるか、考えて書いてみよう。 復習：子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮とは 予習：「環境の変化や移行に対する配慮」について考えてくる
13 回	<環境の変化や移行に対する配慮> ・学習のポイント：移行や環境の変化の現状について理解を深め、保育者の配慮や援助のあり方に関する基本的事項を学ぶ。 1. 移行とは何か。その配慮とは。 2. 年齢発達に応じた集団遊びやゲーム遊びを知る。 演習：DVD「物とのかかわりの中で学ぶ」を視聴して、子どもの姿からの気づきや感じたことを記録する。 復習：集団での育ちを保障しながら個々への配慮を行うためには何が必要か確認する。 予習：乳児保育における計画にはどのようなものがあるか考えてくる。
14 回	<長期的な指導計画と短期的な指導計画> ・学習のポイント：長期的な指導計画と短期的な指導計画について学び、指導計画の必要性について考える。指導計画の評価（保育の振り返り）について学ぶ。 1. 実際の指導計画から・保育の振り返りについて 2. 模擬保育室でゲーム遊びやことば遊びを実践する。 演習：簡単なゲームや集団遊び、ことば遊びを知る。 復習：子どもがスムーズに移行するために何をしたらよいのか確認する。 予習：個別的な指導計画と集団の指導計画とはどんなものか考えてくる。
15 回	<個別的な指導計画と集団の指導計画> ・学習のポイント：個別的な計画と集団の計画について理解し、個別の指導計画の必要性について学ぶ。個別計画を立てるには家庭との協力・連携の必要性について学ぶ。 1. 個別的な計画・集団の計画 2. 保護者との連携 演習：保護者と保育士でロールプレイングを行う。 復習：指導計画の保育の振りの必要性について

令和 8 年 度 教 育 計 画								
科目名	社会的養護 I		授業回数	15	単位数	2	担当教員	石原 正巳
質問受付：(e-mail, オフィスアワー等) mandara2026@gmail.com								
教育目標	〔教育目標〕 社会的養護、児童福祉の実践の場において、実践的指導力のある保育士を養成するため、理念、原理、現場の仕事の深みを身につける。以下の諸点に関し定着をはかり、より高い人間的資質や専門的資質について習得する。 〔教育課程の編成〕 1・社会的養護の基本原則と歴史的変遷について理解する 2・子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する 3・社会的養護の制度や体系と実践について理解する 4・社会的養護の領域と概要について理解する 5・社会的養護に関わる専門職・専門機関と倫理について理解する 〔実施の方針及び学生の学習成果〕 教育目標に掲げる 5 項目の基礎知識を理解し、汎用的学習成果として、 6・人との関わりに必要な自己及び他者理解や問題解決の方法を学び、実践できる 7・保育士の専門性（価値、使命）と共に社会人としての価値、態度を養成する							
	教育方法	授業の進め方	〔講義〕 ・ 主に講義による ・ 発表の場の提供 ・ シャトルカードでの課題 1， 2 の記入内容に関して次回の授業で復習を行う					
教育方法	予習・復習	・ 事前学習 シラバスに記載の次回講義内容について調べる。（90分） ・ 事後学習 レジュメを元に要点を整理してまとめる。（90分）						
	テキスト	テキストは使用しない。レジュメを毎回配布する。 〈参考テキスト〉 みらい×子どもの福祉ブックス 社会的養護 I 【第 2 版】 著者代表 喜多 一憲 株式会社 みらい ISBN 9784860154981						
授業評価の方法	具体的に学習評価は ①定期試験によるものとする ②レポートや汎用的学習態度も参考にする 定期試験：80％ シャトルカードおよび授業参加態度：20％（授業領域等への興味、理解、疑問点を捉える力について評価する）							
注意事項	参考図書等 演習、「社会的養護Ⅱ」とも関連づけて学ぶ マスコミの報道等での日頃の情報も掴みながら授業に臨むこと 遅刻、欠席のないようにすること							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	1・社会的養護の基本原則とその現状 (1) 私的な子育てと社会的な子育て (2) 社会的養育と児童養護 (3) 社会的養護とは何か 予習事項―2 回講義内容
2 回	2・社会的養護の基本理念と原理 (1) 社会的養護の基本理念 (2) 社会的養護の原理 (3) 社会的養護の現状 予習事項―3 回講義内容
3 回	3・社会的養護の歴史 (1) 社会的養護の歩み (2) ホスピタリズム論の提起 (3) 日本における子どもの権利の現状と懸念 予習事項―4 回講義内容
4 回	4・子どもの権利擁護 (1) 子どもの権利保障の歩み (2) 特別な配慮や支援を要する子どもの権利保障 予習事項―5 回講義内容
5 回	5・社会的養護の体系と実践 (1) 社会的養護に関わる法律 (2) 施設養護と家庭養護―過程と今後 予習事項―6 回講義内容
6 回	6・社会的養護の領域と概要①―1 養護系施設 (1) 乳児院、母子生活支援施設の目的と概要、支援内容と今後の課題 (2) 児童養護施設の目的と概要、支援内容と今後の課題 予習事項―7 回講義内容
7 回	7・社会的養護の領域と概要①―2 養護系施設 (1) 児童心理治療施設の目的と概要、支援内容と今後の課題 (2) 児童自立支援施設、自立援助ホーム (3) 児童家庭支援センター 予習事項―8 回講義内容
8 回	8・社会的養護の領域と概要② 家庭養護 (1) 里親制度の歴史、新しい社会的養育ビジョン (2) 小規模住居型児童養育事業（ファミリーホーム） 予習事項―9 回講義内容
9 回	9・社会的養護の領域と概要③ 障害系施設 (1) 障害児入所施設の概要、支援内容と今後の課題 (2) 児童発達支援センター 予習事項―10 回講義内容
10 回	10・社会的養護に関わる専門職と倫理 (1) 社会的養護に関わる専門職 (2) 専門職の職業倫理 (3) 専門性と自己覚知 予習事項―11 回講義内容
11 回	11・社会的養護に関わる専門機関の機能 (1) 児童相談所 (2) 市町村 (3) 児童家庭支援センター (4) 司法 予習事項―12 回講義内容

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
12 回	12・社会的養護とソーシャルワーク① (1) 社会的養護におけるソーシャルワークの意義 (2) ソーシャルワークと近接領域の支援 (3) ソーシャルワークの枠組み 予習事項—13 回講義内容
13 回	13・社会的養護とソーシャルワーク② (1) ケースワークの概要 (2) グループワークの概要 (3) ソーシャルワークと自立支援 予習事項—14 回講義内容
14 回	14・施設の運営管理 (1) 施設の運営管理 (2) 施設での権利擁護と職員の課題 予習事項—15 回講義内容
15 回	15・社会的養護の現状と課題 (1) 社会的養護と地域福祉 (2) これからの児童福祉施設援助者 (3) 振り返りとまとめ 予習事項—振り返り

令和 8 年 度 教 育 計 画								
科目名	社会的養護Ⅱ		授業回数	15	単位数	1	担当教員	石原 正巳
質問受付：(e-mail, オフィスアワー等) mandara2026@gmail.com								
教育目標	〔教育目標〕 社会的養護の基本的原理、方法的原理を中心に捉えつつ、児童福祉の実践の場において、実践的指導力のある保育士を養成するため以下の諸点に関し定着をはかり、より高い人間的資質や専門的資質及び技術的側面について習得する 〔教育課程の編成〕 1・子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する 2・施設養護及び家庭養護の実践について理解する 3・社会的養護における計画・記録・自己評価の実践について理解する 4・社会的養護にかかわる相談援助の方法・技術について理解する 5・社会的養護における子どもの虐待の防止と家庭支援について理解する 〔学生の学習成果〕 教育目標に掲げる 5 項目の基礎知識を理解し、汎用的学習成果として、 6・人との関わりに必要な他者理解や問題解決能力を講義や演習を通して実践できる 7・保育士の専門性（価値、使命）と共に社会人としての価値、態度を養成する							
	授業の進め方	〔講義・ 演習 ・ 実験・ 実習〕 主に講義と演習による ① 授業のはじめにシャトルカード記入の質問や感想等に応える ② テキスト・配付資料に沿って進める ③ 演習課題はグループまたは全体で進める ④ 発表の時間を設け、ハンドマイク等を活用する						
教育方法	予習・復習	・ 事前学習 シラバスに記載の次回の教科書範囲を熟読する。（45分） ・ 事後学習 レジюме、教科書を元に要点を整理してまとめる。（45分） ・ シャトルカードでの課題 1， 2 の記入内容に関して次回の授業で復習を行う						
	テキスト	テキストは使用しない。レジюмеを毎回配布する。 （参考テキスト）みらい×子どもの福祉ブックス 社会的養護Ⅱ【第2版】 著者代表 喜多 一憲 株式会社 みらい ISBN 9784860154677						
授業評価の方法	上記教育目標・成果の7つの項目について評価する。 その際、具体的学習評価は 定期試験によるものと シャトルカードおよび演習課題で評価する。（授業領域等への興味、理解、疑問点を捉える力について評価する） 定期試験：80％、演習課題：20％							
注意事項	新聞やTV等での日頃の情報を掴みながら授業に臨むこと 時間にルーズにならぬこと 欠席する場合は必ず欠席届を提出する 自主性をもって授業に臨むこと							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	社会的養護Ⅱを学ぶあなたへ 学びを始める前に オリエンテーション 当事者、施設職員、教員からのメッセージ
2 回	社会的養護の基礎理解 社会的養護の理念と体系 社会的養護に関わる職員の勤務体制と労働条件
3 回	社会的養護における支援内容 施設養護の展開① アドミッションケア
4 回	社会的養護における支援内容 施設養護の展開② インケア
5 回	社会的養護における支援内容 施設養護の展開③ リービングケア～アフターケア
6 回	自立支援計画 自立支援計画とは 自立支援計画づくり
7 回	記録と評価 記録―実践記録と子どもの理解 ジェノグラム作成 マッピング技法
8 回	社会的養護に関わる専門的技術 職員（保育士）の役割と倫理 社会的養護と相談援助
9 回	事例 社会的養護の実際① 乳児院の事例 母子生活支援施設の事例
10 回	事例 社会的養護の実際② 児童養護施設の事例 地域小規模児童養護施設の事例
11 回	事例 社会的養護の実際③ 児童心理治療施設の事例 児童自立支援施設の事例
12 回	事例 社会的養護の実際④ 里親の事例 ファミリーホームの事例

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
13 回	社会的養護の課題と展望 社会的養護に関する政策動向 社会的養護の課題と展望
14 回	対応困難事例に関する質疑 対応困難事例について演習
15 回	振り返りとまとめ 要点の振り返り

令和 8 年 度 教 育 計 画								
科目名	保育実習指導 I	授業回数	15	単位数	2	担当教員	大賀恵子・馬場結子・ 山上幸子・吉田 升	
質問受付の方法（e-mail, オフィスアワー等）： e-mail:ohga @owc.ac.jp、 OH:土曜 2 限								
教育目標と学生の学習成果	教育目標 保育実習に臨むにあたって、保育実習の理論と実践に関わる基礎的な技術及び考え方を身につけることを目的とする。 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 学生の学習成果 専門的学習成果として、教育目標に挙げる 5 項目を習得する。 また、汎用的学習成果は以下のように挙げられる。①保育者としての態度・信念の形成に自助努力する。②保育者として適正な価値・判断の基準を形成し、明確に意見表明ができる力を育成する。③保育者としての論理的思考力・人間関係力を育成する。							
	教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ①実習の意義目的等を手引きに沿って講義する。 ②実際の実習の手続きを進める。 ③実習に関する具体的な方法を身に付けるため適宜課題を出す。 ④事後指導として、実習を総括し、課題を明確にするためのまとめを行う。					予習・復習
	テキスト	必要に応じてプリントを配布する。						
学習評価の方法	保育所実習 I、施設実習のそれぞれについての実習指導を 50 : 50 の比重で評価し合計 100 点満点とする。各実習で以下の 5 つの学習成果（授業課題、調査表やレポート課題の提出状況）について同じ比重で評価する。提出状況や授業態度については別に示す規定に基づいて減点する。 ①実習の意義・概要を学ぶ。 ②実習の内容と課題の明確化ができる。 ③実習に際しての留意事項を確認する。 ④実習の計画と記録について学ぶ。 ⑤事後指導における実習の総括と課題の明確化。 なお、汎用的学習成果①保育者としての態度・信念は減点内容にて評価する。②保育者として適正な価値・判断の基準と明確な意見表明はレポート等の提出物にて評価される。							
注意事項	※「保育実習指導 I」は、1 年次後期から 2 年次前期にかけて実施される。 ※『保育実習の手引き』配布後は必ず持って来ることとする。 ※授業に必要な資料、書類を毎回確認し、準備すること。							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	保育所実習オリエンテーション（以下について理解する。） 1. 履修規定について 2. 評価について 3. 実習までのスケジュール 4. 開講にあたっての意識調査 ◆作業：「実習希望先調査表」の配付・説明・課題
2 回	施設実習オリエンテーション（以下について理解し、身につける。） 1. 履修規定について 2. 評価について 3. 施設実習事前・事後指導テキスト『施設実習の手引』第Ⅰ章『実習の意義と目標』 4. 実習可能施設一覧表 ◆作業：引き続き「実習希望先調査表」の調査・作成
3 回	保育所実習（以下について理解し、身につける。） 1. 事前準備の話、DVD「はじめての保育実習」を通じて実習のイメージを形成する。 2. ボランティアと実習との相違 3. 実習希望先（案）揭示・確認・調整 ◆課題：「開講にあたっての意識調査」
4 回	保育所実習（以下について理解し、身につける。） 1. 実習の意義と目的 2. 実習の段階等 3. 保育実習にあたっての不安に答える Q&A 4. 実習報告会参加についての説明 ◆課題：実習報告会の質問事項を考える（質問事項は当日プリントに書く）。
5 回	保育所実習・施設実習（以下について理解し、身につける。） 1. 実習報告会参加 2. 報告会に参加しての学びをまとめる ◆課題：実習報告会プリントの作成・提出
6 回	保育所実習（以下について理解し、身につける。） 1. 内諾書（岡山県外実習生）配布と手続きの説明 2. ボランティアに関する諸注意 ◆課題：内諾依頼（岡山県外実習生）冬休み中の課題となる。
7 回	施設実習（以下について理解し、身につける。） 施設実習における実習生の心得 1. 『施設実習の手引』第Ⅱ章「実習準備」・第Ⅲ章「実習生の心得」 2. 日誌の書き方と記入練習 ◆作業：内諾書（岡山県外実習生）配布と手続きの説明、課題化
8 回	保育所実習（以下について理解し、身につける。） 実習事務訓練 1. 「実習の意義、心構え、社会人としての責任、守秘義務、実習の目標」 2. 事前訪問（事前オリエンテーション）の手順と注意 3. 手作り玩具（2年生の作品）の作品紹介 ◆春休み課題：実習希望先のボランティア・ボランティア日誌 1. ボランティア（3日間） 2. レポート「ボランティア園の概要・保育所の日・日誌1日分」 3. 手作り玩具の製作（保育実習指導Ⅱの第一回目の授業で提出）

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	施設実習（以下について理解する。） 1. 提出された実習事前レポートについての補足と解説 2. 「実習中の基本的態度と注意事項」 3. 事前オリエンテーションの事前指導 ◆課題：事前オリエンテーションのために実習施設に電話連絡と内諾を得る。
10 回	施設実習（以下について理解し、身につける。） 施設実習送付書類の配付と説明 および各種準備の確認 1. 書式説明 2. 記入の諸注意 3. 参考例による確認 ・「事前オリエンテーションについて」配布 ・「実習生について（個人票）」 ・「評価票」「出勤簿」配布・説明・記述・回収 ・「実習先交通図」配布・説明 ◆課題：実習先までの地図作成と交通機関を調査する。
11 回	施設実習（以下について理解する。） 1. 実習中勤務時間外の注意事項 2. 日誌の書き方と注意事項 ・施設実習連絡・注意事項(1) ◆課題：一日分の日誌を書く。
12 回	施設実習（以下について理解する。） 1. 日誌の書き方と注意事項 2. 『実習の手引き』実習生の心得 ・施設実習連絡・注意事項(2) ◆課題：施設実習日誌の「施設オリエンテーション」の欄に施設の概要を書く。
13 回	施設実習（以下について理解し、身につける。） 実習記録の書き方『施設実習の手引』第Ⅳ章 1. 実習日誌の記録 2. 日誌欄について 3. 実習生としての姿勢と責任 4. 人間関係とマナー ・質疑応答 ・教員による実習先巡回について ◆課題：実習先における事前指導を日誌に記入する。
14 回	施設実習（以下について理解し、身につける。） 施設実習に向けて『実習後のまとめ』 1. 諸注意の確認 2. 課題の設定 実習終了後の諸注意（施設）『施設実習の手引き』第Ⅴ章 ◆課題：実習後レポートについての説明
15 回	事後指導（施設実習・保育所実習）（以下について理解し、身につける。） 実習後の事後記録記述 ◆課題：施設実習事後レポート ◆課題：実習評価の公開と自己課題の確認

令和 8 年 度 教 育 計 画							
科目名	保育実習指導Ⅱ	授業回数	15	単位数	1	担当教員	大賀恵子・馬場結子 山上幸子
質問受付の方法（e-mail, オフィスアワー等）： e-mail:ohga @owc.ac.jp、 OH:土曜 2 限							
教育目標と学生の学習成果	教育目標	保育実習に臨むにあたって、保育実習の理論と実践に関わる基礎的な技術及び考え方を身につけることを目的とする。 1. 保育実習の意義・目的を理解し、保育について総合的に理解する。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。					
	学生の学習成果	専門的学習成果：教育目標に挙げる 5 項目を習得する。 汎用的学習成果：以下のように挙げられる。①保育者としての態度・信念の形成に自助努力する。②保育者として適正な価値・判断の基準を形成し、明確に意見表明ができる力を育成する。③論理的思考力、人間関係力を培う。					
教育方法	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) ・実習Ⅱの意義や内容・準備について、春休みに各学生が保育現場を観察してきた体験を基準として「保育所実習の手引」に沿った講義を軸として進める。第 1～4 回 ・指導計画については、各項目の記述法が身につくよう演習に重点を置き、添削を行い、見直し、復習しつつ進める。第 5～9 回 ・保育士の専門性と職業倫理については、厚生労働省企画の DVD を用い、保育指針と対応させて学ぶ。それに並行して子どもの理解力の発達段階をロールプレイングによって相互点検する。第 10～13 回 ・事後指導は、自己の記録を見直し充実させ、自己評価を行い、グループ討議を経て課題解決への方針を立てる。第 14, 15 回					
	予習・復習	講義や演習の内容に合わせ、予習や復習または実習に関する課題等を指示する。各回 1 時間程度の学習時間を確保すること。					
	テキスト	岡山県保育士養成協議会『保育所実習の手引』（平成 31 年）、フレーベル館『保育所保育指針』平成 29 年告示					
学習評価の方法	以下の 5 つの学習成果について均等に評価し、合計 100 点満点とする。ただし、授業態度・課題提出等については別に示す規定に基づいて減点する。 ① 保育実習の意義・目的の理解と保育の総合的な学び。提出物 ② 保育実践力 ③ 計画と観察、記録、自己評価を踏まえた保育の改善に関する学び ④ 保育士の専門性と職業倫理の理解 ⑤ 実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする学び なお、汎用的学習成果について、①は減点内容にて評価する。②と③は小論文の評価に含まれる。						
注意事項	※「保育実習指導Ⅱ」は、2 年次前期に開講される。 ※13 回目までの内容を実習前に実施する必要がある。						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<保育所実習指導Ⅱオリエンテーション> 教育目標 1 1. 保育実習Ⅱの意義と目標 2. 評価について ・講義：「保育所実習の手引 第Ⅰ章」① について理解する。 ・演習：DVD「保育士・幼稚園教諭になるために－保育士の仕事と役割－」を通じて実習のイメージを形成する。 ◆課題：「実習生について（個人票）」下書きの説明と記入
2 回	<実習の内容について> 教育目標 1 ・講義：「保育所実習の手引 第Ⅰ章」② について理解する。 ・演習：上記についてワークシートを用いてまとめる。 ◆課題：「実習園への巡回用地図」作成・提出 送付書類「評価票」「出勤簿」の必要事項記述
3 回	<実習の形態と記録について> 教育目標 1 ・講義：「保育所実習の手引 第Ⅱ・Ⅲ章」 について理解する。 ・演習： 上記についてワークシートを用いてまとめる。 ・演習： 春休み観察実習の日誌からを見返し、各項目の点検及び文体等の留意点を解説に沿って自己点検する。 ◆課題： 検便・レントゲン検診結果証明書・賠償保険についての依頼書記入
4 回	<保育の理解について> 教育目標 1・2 ・講義：「保育所実習の手引 第Ⅳ章」 について理解する。 ◆課題： 実習園でのオリエンテーション 実習服装準備(エプロン等)
5 回	<保育計画について> 教育目標 1・2 ・講義：日誌・指導案の書き方について理解する。 ・演習：月案・週案・日案・指導案の書き方など各項目についての解説に沿って整理し、まとめを記述する。指導案の「環境構成」「予想される子どもの活動」「保育場の配慮・援助」を解説に沿って記述する。 ◆課題：部分指導案例の通読
6 回	<指導案作成について> 教育目標 2・3 ・講義：部分指導の指導案（1年後期授業より）の確認、指導を受けて要領を理解する。 ・演習：グループごとに部分指導の模擬保育を行い、内容の反省と考察を行う。 ◆課題：演習課題の完成と提出
7 回	<指導案作成について> 教育目標 2・3 ・講義：「生活から遊びへの流れ」について3歳未満児と3歳以上児の違いや保育士の動きの違いに関する指導を受けて、要領を理解する。 ・演習：①前回提出指導案の返却。添削と解説を受けて要領を理解する。 ②グループごとに「食事の指導案（3歳未満と3歳以上）から遊び」への流れの模擬保育を行い、内容について反省と考察を行う。 ◆課題：演習課題の完成と提出

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	<指導案作成について> 教育目標 2・3 ・演習：前回提出指導案の返却。添削と解説を受けて要領を理解する。 ・演習：「遊びの指導案作成① グループごとに遊びと年齢を決めて指導案を作成する。 ◆課題：演習内容の完成
9 回	<指導案作成について> 教育目標 2・3 ・演習：「遊びの指導案作成② グループごとに遊びと年齢を決めて指導案を作成する。 ・演習：ワークシート「指導案の中の7つのエラー探し」をする。 ◆課題：①「学内オリエンテーション」「実習園でのオリエンテーション」記述・提出 ②「実習の自己課題」を考えてくる。
10 回	<実習の準備と留意事項> 教育目標 2・3・4 ・講義：「保育所実習の手引 第Ⅴ章」について理解する。 ・演習：実習の自己課題をまとめる。 ◆課題：実習の目標を確認し「実習の自己課題」を記述・提出
11 回	<保育所保育指針復習①> ・演習：保育所保育指針 第1章総則の視点からワークシートを用いてまとめる。 <実習のまとめと評価について> 教育目標 1・4 ・講義：「保育所実習の手引 第Ⅵ章」「保育所実習評価の着眼点」について理解する。 ◆課題：保育実習巡指導の依頼
12 回	<保育所保育指針復習②> ・演習：保育所保育指針 第2章からワークシートを用いてまとめる。 <実習書類と諸注意> 教育目標 1・4 ・講義：「保育所実習の手引 Ⅴ実習のまとめ」について理解する。 ◆課題：日誌バインダーの見直し、必要な場合は清書する。
13 回	<保育実習の直前確認> 教育目標 2 ・講義：園への依頼内容、実習中の連絡・報告等に関する確認 について理解する。
14 回	<保育実習の総括①> 教育目標 5 ・演習：実習園が行う評価票と同じ視点で自己評価を行い、課題をまとめる。 ◆復習：実習の意義と目的を確認し、自己評価に基づき保育に対する課題や認識を明確にする。 課題：実習園へのお礼状送付
15 回	<保育実習の総括②> 教育目標 5 ・演習：前回まとめた自己課題に対し、学生時代にどのようにして解決するべきかグループで討議し、方針と決意・覚悟を文章にまとめる。 ◆振り返り：保育士の専門性と職業倫理について理解し、保育実践力の向上に役立つ自己課題を明確にする。

令和 8 年 度 教 育 計 画								
科目名	子どもの保健		授業回数	15	単位数	2	担当教員	野々上 敬子
質問受付の方法（e-mail, オフィスアワー等）：授業終了後受け付けます								
教育目標と学生の学習成果	教育目標： 1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する 4. 子どもの疾病とその予防法及び多職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する 子どもの健康管理についての諸問題に関心を持ち、よりよき健康支援のために、主体的に考え、解決しようとする意欲と態度を身につける。 学生の学習成果： 専門的学習成果として、教育目標に掲げる事項の知識を習得し理解する力を獲得する。 また、汎用的学習成果として、主体的に学び課題解決ができるような力を涵養する。							
	教育方法	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) 1. 基本的には、テキストに補足し視聴覚機器を活用し授業を進める 2. 授業内容の理解を深めるために小レポートを作成する 3. 主体的学習を身につけるために予習と復習を奨励する 4.小レポートなどについてはその都度フィードバックを実施する					
	予習・復習	・ 毎回授業後は、復習しておくこと（90 分） ・ 毎回の授業前までには、教育内容の範囲についてテキストを読んでおくこと(40 分) ・ 次回授業計画の範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと(40 分) ・ 新聞の保健情報をよく読んでおくこと(10 分) ※予習および復習はそれぞれ 90 分を目安とする						
	テキスト	子どもと社会の未来を拓く「子どもの保健」 八木利津子編 青鞆社 ISBN 978-4-902636-62-8 C3037						
学習評価の方法	以下の 4 点の学習成果についての理解を評価する 1. 子どもの心身の健康と保健の意義 2. 子どもの身体的発育・発達と保健 3. 子どもの心身の健康状態とその把握 4. 子どもの疾病の予防及び適切な対応 評価方法と配点： 定期試験 70% 小レポート 15% 授業態度 15%							
注意事項	・ 参考図書等：適宜紹介する ・ 保育士資格必修科目 ・ フィードバックの方法：授業中に配布する小レポートに理解できなかったことや質問等を記入し、次回の授業で解説をする。							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	・ ガイダンス【授業内容、方法、授業態度、認定方法等】 ・ 子どもの心身の健康と保健の意義
2 回	・ 子どもの心身の健康と保健の意義 健康の概念と健康指標
3 回	・ 子どもの心身の健康と保健の意義 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
4 回	・ 子どもの心身の健康 発達障害の概念と心の健康課題
5 回	・ 子どもの心身の健康 地域における保健活動と児童虐待防止
6 回	・ 子どもの身体的発達・発育と保健 身体発育及び運動機能の発達と保健
7 回	・ 子どもの身体的発達・発育と保健 生理機能の発達と保健
8 回	・ 子どもの心身の健康状態とその把握 健康状態の観察
9 回	・ 子どもの心身の健康状態とその把握 慢性疾患のある子どもの保育
10 回	・ 子どもの心身の健康状態とその把握 心身の不調等の早期発見
11 回	・ 子どもの心身の健康状態とその把握 発育・発達の把握と健康診断
12 回	・ 子どもの心身の健康状態とその把握 保護者との連携と情報共有
13 回	・ 子どもの疾病の予防と適切な対応 主な疾病の特徴
14 回	・ 子どもの疾病の予防と適切な対応 感染症への対応
15 回	・ 子どもの疾病の予防と適切な対応・子どもの保健のまとめ 子どもの疾病の予防と他職種連携 全体総括 授業のまとめ

令和 8 年 度 教 育 計 画								
科目名	子どもの保健と安全		授業回数	15	単位数	1	担当教員	野々上 敬子
質問受付の方法（e-mail, オフィスアワー等）：授業終了後受け付けます								
教育目標と学生の学習成果	教育目標： 1. 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助 2. 保育園における健康及び安全の管理 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応 4. 感染症対策 5. 保育における保健的対応 6. 健康及び安全の管理の実施体制 子どもの健康管理についての諸問題に関心を持ち、よりよき健康支援のために主体的に考え解決しようとする意欲と態度を身につける。 学生の学習成果： 専門的学習成果として、教育目標に掲げる事項の知識を習得し理解する力を獲得する。 また、汎用的学習成果として、主体的に学び課題解決ができるような力を涵養する。							
	教育方法	授業の進め方	(講義・ <u>演習</u> ・実験・実習・実技) 1. 基本的には、テキストに補足し視聴覚機器を活用し授業を進める 2. 授業内容の理解を深めるために小レポートを作成する 3. 主体的学習を身につけるために予習と復習を奨励する 4. 小レポートなどについてはその都度フィードバックを実施する					
	予習・復習	・ 毎回授業後は、復習しておくこと（45 分） ・ 毎回の授業前までには、教育内容の範囲についてテキストを読んでおくこと(15 分) ・ 次回授業計画の範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと(20 分) ・ 新聞等の保健情報をよく読んでおくこと(10 分) ※予習および復習はそれぞれ 45 分を目安とする						
	テキスト	子どもと社会の未来を拓く「子どもの健康と安全」 八木利津子他 著 青鞞社 ISBN 978-4-902636-61-1 C3037						
学習評価の方法	以下の 6 つの学習成果についての理解を評価する 1. 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助 2. 保育における健康及び安全の管理 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応 4. 感染症対策 5. 保育における保健的対応 6. 健康及び安全の管理の実施体制 評価方法と配点： 定期試験 50% 小レポート 15% 授業態度 15% 発表 20%							
注意事項	・ 参考図書等：適宜紹介する ・ 保育士資格必修科目 ・ フィードバックの方法：授業中に配布する小レポートに理解できなかったことや質問等を記入し、次回の授業で解説をする。							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	・ ガイダンス 子どもの健康と安全の必要性 本教科のすすめ方・目的・目標・内容・方法
2 回	・ 子どもの生活習慣と心身の健康 生活習慣の基本となる生活リズムを理解する
3 回	・ 子どもの発育 正しい身体計測の方法と発育の評価の仕方を理解する
4 回	・ 子どもの健康状態 生理機能の発達を理解する
5 回	・ 子どもの養護 抱き方、寝かせ方、衣着脱、身体の清潔法などの実習
6 回	・ 子どもの養護 口腔内の衛生 歯みがきなどの実習
7 回	・ 子どもの養護 食育について 食事の与え方などの実習
8 回	・ 子どもの病気 体調不良時の対応や看護の仕方を理解する
9 回	・ 子どもの事故と応急処置 事故・けがに対応する技能の習得 応急処置に習熟する実習
10 回	・ 衛生管理・安全教育と安全管理
11 回	・ 救命処置について理解する
12 回	・ 心肺蘇生法 心肺蘇生法の技能を習得 普通救命講習Ⅲの修了証
13 回	・ 健康教育の発表 作成した資料を使つての発表
14 回	・ 健康教育の発表 作成した資料を使つての発表
15 回	・ 全体総括 子どもの保健と安全のまとめ

令和 8 年 度 教 育 計 画							
科目名	子どもの食と栄養	授業回数	15	単位数	2	担当教員	稲井玲子
質問受付の方法（e-mail：inai@owc.ac.jp、 オフィスアワー：在室時はいつでも受け付けます。）							
教育目標と学生の学習成果	教育目標： 小児栄養の基本的理論を理解した上で、保育の実際との関連において下記の実践的な理解をすることを目標とする。 1. 子どもの食生活の現状と課題についての理解 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連についての理解 3. 保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容についての理解 4. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養についての理解 学生の学習成果： 専門的学習成果：専門的学習成果として、教育目標に掲げた理論の理解や実践力を身につける。 汎用的学習成果：子供の心身の健康のための望ましい食環境とはどのようなものかを的確に捉えて食教育が実践できる能力を身に付ける。						
	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・各授業において小テストを行います。 ・講義テーマにそった課題を提出する。 ・後半には実際の保育の場を想定した指導案や教材を作成する。					
教育方法	予習・復習	・予習：「授業回数別教育内容」にある教科書該当か所を通読する。 ・復習：授業ノートを整理する。課題が指定日に提出できるよう作成する。 学習時間の目安：毎回の授業に対し、予習・復習各 90 分以上確保すること					
	テキスト	子どもの食と栄養 第 6 版 建帛社					
学習評価の方法	専門的学習成果 栄養に関する基礎知識を基に教育目標 1～4 について、その獲得度合いを期末試験（筆記試験）により量的に評価する。評価配分点は 70 点である。 演習課題により評価する。 評価配分点は 30 点である。 各授業における小テストを各 30 点満点で評価し、その平均点を 最終の評価点とする。 期末試験（筆記試験）（70 点）＋演習課題（30 点）＝評価点（100 点）のうち 60 点以上を合格とする。 受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、ケースに応じて減点する。						
注意事項	参考資料 ・幼稚園教育要領 保育所保育指針＜原本＞ チャイルド本社 ・保育所保育指針 解説書 厚生労働省編 フレーベル館 ・「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（2019 年改訂厚生労働省） ・「保育所における食事の提供のガイドガイドライン」（平成 24 年 3 月厚生労働省）						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	子どもの健康と食生活の意義 ◆学習目標 現在の子どもの食を取り巻く状況を理解する。食事の時間の意義を説明できる。 ◆講義内容 ・授業の進め方、スケジュール、学習評価の方法について ・子どもの心身の健康と食生活 ◆予習・復習事項 復習事項：授業内容の整理
2 回	栄養に関する基礎知識① ◆学習目標 5大栄養素の言葉の意味、栄養素の種類と働きを説明できる。 ◆講義内容 ・栄養の基本的概念と炭水化物、脂質、たんぱく質の機能 ◆予習・復習事項 予習事項：教科書を読んでおく 復習事項：授業内容の整理
3 回	栄養に関する基礎知識② ◆学習目標 5大栄養素の言葉の意味、栄養素の種類と働きを説明できる。 ◆講義内容 ・ミネラル、ビタミン、食物繊維の働き ◆予習・復習事項 予習事項：教科書を読んでおく 復習事項：授業内容の整理
4 回	栄養に関する基礎知識③ ◆学習目標 日本人の食生活の課題を知り、保育士としてできることを探することができる。 ◆講義内容 ・日本人の食事摂取基準 ・食事バランスガイド ・自身の食生活状況の確認 ◆予習・復習事項 予習事項：教科書を読んでおく 復習事項：授業内容の整理
5 回	栄養に関する基礎知識④ ◆学習目標 食品に含まれる栄養素の種類によって食品を食品群別に分けることができる。 ◆講義内容 ・6つの基礎食品 ・献立作成 ◆予習・復習事項 予習事項：教科書を読んでおく 復習事項：授業内容の整理

6 回	子どもの発育・発達と食生活① ◆学習目標 乳汁栄養の特徴を知り、母子の健康維持、健やかな親子関係を築くための支援ができるようになる。調乳の仕方が説明できる。 ◆講義内容 ・乳児期の食生活 ・乳汁栄養 ・調乳の仕方 ◆予習・復習事項 予習事項：教科書を読んでおく 復習事項：授業内容の整理
7 回	子どもの発育・発達と食生活② ◆学習目標 離乳期の乳児の精神的・身体的発達の特徴をとらえ、離乳を計画的に進めることを適切に支援できるようになる。 ◆講義内容 ・離乳期の食生活 離乳食の役割 離乳の計画と進め方 ◆予習・復習事項 予習事項：教科書を読んでおく 復習事項：授業内容の整理
8 回	子どもの発育・発達と食生活③ ◆学習目標 幼児期に身につけるべき食生活の基本と必要な栄養素の摂取の仕方を理解することができる。その方法としての幼児の間食やお弁当について考えることができる。 ◆講義内容 ・幼児期の食生活 ・間食の意義 ・お弁当の栄養バランス ◆予習・復習事項 予習事項：教科書を読んでおく 復習事項：授業内容の整理、課題作成
9 回	子どもの発育・発達と食生活④ ◆学習目標 弁当の栄養バランスのとり方を理解し、幼児期に適したお弁当を作ることができる。 ◆講義内容 ・バランスのよいお弁当の献立作成 ◆予習・復習事項 予習事項：バランスの良いお弁当を考える 復習事項：お弁当献立の手順確認
10 回	食育の基本と内容① ◆学習目標 「食育とは」何かを法令や国の施策の面から理解し、実際に保育所で食育を推進するために行われている食育やその推進の仕方を説明できるようになる。 ◆講義内容 ・食育基本法・保育所保育指針・保育所における食育に関する指針 ・食育の計画と評価 ◆予習・復習事項 予習事項：教科書を読んでおく 復習事項：授業内容の整理

11 回	食育の基本と内容② ◆学習目標 食育を推進するための環境整備や職員、関連団体との連携の仕方がわかる。 保護者支援の必要性を理解し、支援内容を考えることができる。 の計画を組み入れて立てることができる。 ◆講義内容 ・食育のための環境づくり ・食育だよりの作成 ◆予習・復習事項 予習事項：教科書を読んでおく 復習事項：授業内容の整理
12 回	児童福祉施設における食事と栄養 ◆学習目標 児童福祉施設における食事提供の考え方を理解し、給食を実施するにあたっての支援の仕方を説明できる。 ◆講義内容 ・児童福祉施設の特徴と給食 ◆予習・復習事項 予習事項：教科書を読んでおく 復習事項：授業内容の整理
13 回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 ◆学習目標 疾病及び体調不良の子ども・食物アレルギーのある子どもの個に応じた食事対応のポイントを説明できる。 ◆講義内容 ・特別な配慮を要する子どもの食事 ◆予習・復習事項 予習事項：教科書を読んでおく 復習事項：授業内容の整理
14 回	食育の実践 ◆学習目標 保育所の給食時間を想定し、「今日の給食」について媒体を作成し、食育を実践できるようになる。 ◆講義内容 ・保育者による栄養・食育の実践 ・食育教材の作成 ◆予習・復習事項 予習事項：食育教育媒体案を考える 復習事項：媒体の活用法を考える
15 回	学童期、思春期の食生活 ◆学習目標 学童期、思春期の栄養管理が成人期以降の健康状態に影響することが理解できる。 ◆学習内容 ・学童期思春期の食生活と栄養 「子どもの食と栄養」のまとめ ◆予習・復習事項 予習事項：教科書読んでおく 復習事項：授業内容の整理

令和 8 年 度 教 育 計 画								
科目名	保育内容総論		授業回数	15	単位数	2	担当教員	馬場結子
質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー等）：baba@owc.ac.jp、 OH:								
教育目標と学生の学習成果	教育目標：本授業では子どもの遊びを中心とした保育内容について検討する。子どもにとっての遊びの意味を理解し、保育現場においてどのように遊びが展開するのかを具体的に考察する。 学生の学習成果：保育現場における遊びを考えることができる。 専門的学習成果： 保育の一日の流れの中で遊びがどのような意味をもつのか、5領域に沿いながら子どもにとって「遊びとは何か」を考察することができる。 汎用的学習成果：保育現場において遊びを展開する上で心得ておかなければならないことを理解することができる。							
教育方法	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) この授業は講義を含めた演習形式の授業である。アクティブラーニングの手法を取り入れることがあり、グループワークを通して学生の主体的な参加を促す。学生にもさまざまな遊びを体験してもらうなど、体験的な授業を展開しながら、保育現場における遊びについて具体的に検討する。						
	予習・復習	予習事項：テキストを読むこと（90分）。 復習事項：授業を振り返ってノートをまとめておくこと。保育の現場を想定しながら遊びについて考察すること（90分）。						
	テキスト	谷田貝公昭監修、大沢裕・高橋弥生編著『新版 保育内容総論』（コンパクト版保育者養成シリーズ）						
学習評価の方法	定期試験（70%）、レポート（30%）によって総合的に評価する。 出席率や日頃の学習態度も評価の対象である。 レポートの提出期限は守ること。							
注意事項	【参考図書】 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション この授業の内容を具体的に説明する。保育内容総論とはどのような内容で構成されているのか、他の保育者養成の科目と比較しながら、この授業の目的と意義について説明する。
2 回	保育内容と5領域 保育内容は5領域の中でどのように考えられるのか、特に子どもの遊びを5領域の観点から考察する。また、遊びから学習に展開する中で、幼稚園と小学校（領域と教科）の関連性についても検討する。
3 回	保育の一日の流れ 幼稚園および保育所、こども園の一日の流れについて理解する。そこから遊びの意義について検討する。具体的には主活動や自由遊びの時間に注目しながら、子どもと遊びの関わりを考察する。
4 回	乳児期の保育内容 0歳児から2歳児の発達をふまえた上で、その保育内容を検討する。具体的には乳児期の遊びについて考察する。園における保育実践を検討する。
5 回	3歳児の保育内容 3歳児の発達をふまえた上で、その保育内容を検討する。具体的には3歳児の遊びについて考察する。園における保育実践を検討する。
6 回	4歳児の保育内容 4歳児の発達をふまえた上で、その保育内容を検討する。具体的には4歳児の遊びについて考察する。園における保育実践を検討する。
7 回	5歳児の保育内容 5歳児の発達をふまえた上で、その保育内容を検討する。具体的には5歳児の遊びについて考察する。園における保育実践を検討する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	園の保育 近年では園においてコーナー保育が設けられている。その意義と設定環境について検討し、子どもにとって望ましい遊びの内容と方法について検討する。学生にも実際に体験してもらう予定である。
9 回	幼児の遊びと環境 園庭においてどのような遊びを展開するのか、特に季節を考慮した遊びについて具体的に検討する。(春：花摘み、夏：水遊び、秋：どんぐりなどの木の実の遊び、冬：雪遊び) 自然保育についても具体的に紹介する。
10 回	遊びの歴史（１） 世界で最初に幼稚園を創設したフレーベルの保育内容を検討する。特に、恩物（Gabe）を用いた遊びについて考察する。
11 回	遊びの歴史（２） シュタイナー幼稚園の保育内容について検討する。特に、子どもの遊びと芸術の関わりについて考察する。また、自然保育の実践についても取り上げる。
12 回	遊びの歴史（３） シュタイナーの保育内容について具体的に検討する。トランスパレントペーパーの製作に取り組む予定である。
13 回	日本の保育内容 フレーベルの保育が日本に伝えられたことによって日本の幼稚園教育が展開した。それ以降においてさまざまに工夫を重ねた保育内容を考察し、日本の保育内容について検討する。
14 回	これからの保育内容 少子化に伴い、保育のあり方も変化している。近年における異年齢保育を含めた保育の状況を検討する。
15 回	まとめ これまでの授業を振り返り、子どものための保育内容について検討する。

令和 8 年 度 教 育 計 画							
科目名	教育課程論及び教育方法・技術論	授業回数	15	単位数	2	担当教員	都田修兵・秋山智代 吉田 升・堀口のぞみ
質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー）：stsuda@owc.ac.jp、OH：土曜日 2 限目							
教育目標と学生の学習成果	<u>本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である。</u> 本科目では、子どもたち（とくには幼児教育期）に求められる資質や能力を育成するために必要である教育の方法及び技術の基礎的な知識と技能を習得するとともに、ICT などの情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能も習得する。また、幼稚園教育要領などを基準として編成される教育課程の意義や編成方法を理解するとともに、各園や学校に合わせてカリキュラム・マネジメントを実施することの意義を理解する。 具体的には、「教職課程コアカリキュラム」に対応する以下の目標を達成するものとする。 （１）教育の方法論 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。 （２）教育の技術 教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。 （３）情報機器及び教材の活用 情報機器を活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。 （４）教育課程の意義 学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。 （５）教育課程編成の方法 教育課程編成の基本原則及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 （６）カリキュラム・マネジメント 教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。 <専門的学習成果> 本科目における「専門的学習成果」は、教育目標に示す（１）から（６）までを理解し、「教職」についての基礎的事項を修得することである。 <汎用的学習成果> 本科目における「汎用的学習成果」は、「価値・意見」、情報リテラシー・数量的スキル」及び「論理的思考力」の獲得である。						
	授業の進め方	（講義）・演習・実験・実習・実技） ・主として講義形式による。 ・授業時間内外に取り組む課題（保育指導案）を課す。					
	予習・復習	予習・復習事項 ・毎授業回に、「授業回数別教育内容」に記された予習及び復習を求める。 ・予習については、第 2 回～ 1 5 回に向けて、90 分×1 4 回を目安とする。また、復習については、第 1 回～ 1 5 回終了後にその回の内容と 1 5 回目には別途 90 分程度の期末試験に向けた復習も入れて、90 分×1 5 回+90 分を目安とする。 ※復習でわからないことがあった学生には、OH などを利用しながら、学習成果を高める援助を行う。					
	テキスト	垂見直樹・池田竜介編著『幼児教育・保育のための教育方法論』ミネルヴァ書房、2021。					

学習評価の方法	＜学習評価の観点＞ 学習評価の観点は下記の通りである。 ●「専門的学習成果」については、教育目標にも掲げた（１）から（６）の観点に基づき行う。 （１）教育の方法論 （２）教育の技術 （３）情報機器及び教材の活用 （４）教育課程の意義 （５）教育課程編成の方法 （６）カリキュラム・マネジメント ●「汎用的学習成果」については「教育目標」でも示した「価値・意見」、情報リテラシー・数量的スキル」及び「論理的思考力」の獲得の状況に基づき行う。 ＜学習評価の方法＞ 学習評価は以下の方法により実施することとする。 なお、それぞれの学習評価については、その都度内容等に関するフィードバックを実施する。 （１）定期試験（60点） 「専門的学習成果」の学習評価の方法は、学習評価の観点（１）（３）、及び（４）～（６）までにかかる内容についての定期試験（60点分）を実施する。なお、出題は「選択問題」「簡単な記述問題」「論述問題」等から構成することとする。 （２）指導案作成（汎用的学習成果）（40点） 「汎用的学習成果」の学習評価の方法は、授業課題である「指導案作成」の得点をもって行う。 （３）その他 学習評価の方法（１）（２）以外に受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、以下のケースに応じて減点することとする。ただし、最大で5点までの減点にとどめるものとする。 ・「過度の居眠り」及び「不必要な私語」（1点） ・「無許可による携帯電話の使用（SNS等）」（2点）
注意事項	●定期試験 ・「学則施行細則」第7条により、<u>本科目について3分の2以上出席をしなければ試験を受けることはできない（受験資格なし）。</u> ・「学則施行細則」第7条により、学習評価は100点法をもって採点し、80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可、60点未満を不可とする。 ●再試験 ・「学則施行細則」第7条により、定期試験が不可の者に対して再試験の機会を与え、願により再試験を受けることができる。ただし、<u>講義及び演習の授業科目の再試験は100点法による筆記試験とし、その他の評価点（本科目については、学習評価の方法における（２）（３）（４））は含めず、再試験による60点以上の得点者はすべて60点の学習評価とする。</u> ●追試験 ・「学則施行細則」第7条により、定期試験の際、病気その他止むを得ない事情により受験不能であった者に対しては、その理由が正当であると認められた場合に限り、願により追試験を受けることができるが、<u>追試験による80点以上の得点者はすべて80点の学習評価とする。</u> ＜参考図書＞ ・師岡章編著『幼児教育の指導法』放送大学教育振興会、2015。 ・中川一史ほか編著『教育のためのICT活用』放送大学教育振興会、2017。 ・田中耕治編『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房、2009。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<オリエンテーション、教育方法の基礎理論> (都田) ○本時の目標 本時では、本科目の全体目標及び授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、現代教育・保育の原点ともいえるフレーベルの思想と実践をおさえながら、現代の教育・保育について考える。 ○本時の活動 ・オリエンテーション 本科目の全体目標、授業スケジュール、成績評価等の説明。 ・テキスト第1章 (pp. 1-12) で解説する。 ○本時の学習成果 本科目の概要について理解し、フレーベルの思想や実践から現代の教育・保育について考える。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：再度テキストの該当箇所及び自身のノートを見ながら、本時の内容をおさえる。
2 回	<日本の幼児教育方法の歴史> (都田) ○本時の目標 前近代から近代にかけての日本の幼児教育の歴史を、とくに教育方法という面に焦点をあてながら理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第2章 (pp. 13-22) で解説する。 ○本時の学習成果 前近代から近代にかけての日本の幼児教育の歴史を、教育方法という面から理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：テキスト及び自身のノートを読み返しながら、本時の内容を整理する。
3 回	<環境を通して行う教育> (都田) ○本時の目標 日本における幼児教育・保育の方法である「環境を通して行う教育」の考え方を理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第3章 (pp. 23-32) で解説する。 ○本時の学習成果 「環境を通して行う教育」について理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：テキスト及び自身のノートを読み返しながら、本時の内容を整理する。
4 回	<子どもの育ちと物的環境・人的環境・社会的環境①> (都田) ○本時の目標 子どもの育ちと「物的環境」「人的環境」「社会的環境」の関係について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第4章・5章・6章 (pp. 33-69) で解説する。 ○本時の学習成果 子どもの育ちと「物的環境」「人的環境」「社会的環境」の関係について理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：テキスト及び自身のノートを読み返しながら、本時の内容を整理する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
5 回	<子どもの育ちと物的環境・人的環境・社会的環境②>（都田） ○本時の目標 子どもの育ちと「物的環境」「人的環境」「社会的環境」の関係について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第4章・5章・6章（pp. 33-69）で解説する。 ○本時の学習成果 子どもの育ちと「物的環境」「人的環境」「社会的環境」の関係について理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：テキスト及び自身のノートを読み返ししながら、本時の内容を整理する。
6 回	<幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と教育課程①>（堀口） ○本時の目標 幼稚園などで育てようとしている資質・能力について整理するとともに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や「教育課程」、「カリキュラム・マネジメント」について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第7章（pp. 70-78）で解説する。 ・授業で配付する資料をもとに解説する。 ○本時の学習成果 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や「教育課程」、「カリキュラム・マネジメント」について理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：本時の目標に書かれている用語について調べてくる。 復習事項：授業で配付された資料を読みながら、本時の内容を整理する。
7 回	<幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と教育課程②>（堀口） ○本時の目標 幼稚園などで育てようとしている資質・能力について整理するとともに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や「教育課程」、「カリキュラム・マネジメント」について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第7章（pp. 70-78）で解説する。 ・授業で配付する資料をもとに解説する。 ○本時の学習成果 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や「教育課程」、「カリキュラム・マネジメント」について理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：本時の目標に書かれている用語について調べてくる。 復習事項：授業で配付された資料を読みながら、本時の内容を整理する。
8 回	<幼児教育・保育における情報機器（ICT）>（吉田） ○本時の目標 ICTの環境整備とその利用を取り上げ情報機器の活用についての実態を把握する。さらに、子どもたちの興味・関心を高めたり学習内容をふりかえったりするために、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することを学ぶ。 ○本時の活動 ・テキスト第12章（pp. 126-137）及び授業で配布する資料をもとに解説する。 ○本時の学習成果 情報活用能力及びICTについて理解し、情報機器を活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：授業で配付された資料を読む。とくに、「情報活用能力」、「ICT」については自分の言葉で説明できるようにする。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	<情報活用能力と幼児教育・保育> (吉田) ○本時の目標 子どもたちの情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解し、保育者に必要な情報活用能力、とくに、保育者に必要な情報モラルもあわせて理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第13章（pp. 138-149）及び授業で配布する資料をもとに解説する。 ○本時の学習成果 現在の情報モラル指導モデルカリキュラムを理解し、情報機器の活用をする前の子供たちに情報モラルと情報活用能力の原点を身に付ける能力について理解する。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：授業で配付された資料を読む。とくに、子供たちに情報モラルを含んだ情報活用能力を身に付けるためにどうすればいいか考える。
10 回 ・ 11 回 ・ 12 回 ・ 13 回	<教育の技術と教材の活用（保育指導案作成）> (秋山、都田) ○本時の目標 年・月の保育計画についての理解を深め、それらの目標や内容がどのように設定されるのかについて理解するとともに、具体的な指導案作成の基礎をおさえ、実際に指導案を作成する。 ○本時の活動 ・テキスト第10章・第11章（pp. 104-125）及び授業で配付する資料をもとに解説する。 ○本時の学習成果 『幼稚園教育要領』をもとに年・月の保育計画についての理解を深め、それらの目標や内容がどのように設定されるのかについて説明できる。また、実際に指導案を作成できる。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 復習事項：授業で配布された資料などももとに、本時の内容を整理し、理解を深める。
14 回	<幼児期の学びと幼児理解に基づいた評価> (都田) ○本時の目標 幼児期の教育における「主体的・対話的で深い学び」について考えるとともに、幼児期の教育の評価を幼児理解に基づきながら理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第8章・第9章（pp. 79-103）で解説する。 ○本時の目標 幼児期の教育における教育方法と幼児理解に基づく評価について理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 復習事項：テキスト及び自身のノートを読み返ししながら、本時の内容を整理する。
15 回	<幼児教育・保育のこれから、総括> (都田) ○本時の目標 これからの幼児教育・保育がどのような方向性を目指していく「べき」かについて考える。 ○本時の活動 ・テキスト第14章（pp. 150-158）で解説する。 ・期末試験に向けた授業内容の振り返りを行う。 ○本時の目標 幼児教育・保育がどのような方向性を目指していく「べき」かについて考えている。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容を整理するとともに、これまでの授業内容の整理を行いながら、期末試験に備える。

令和 8 年 度 教 育 計 画							
科目名	幼児と健康	授業回数	15	単位数	1	担当教員	吉田 升
質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー）：nyoshida@owc.ac.jp、月曜日 5 限目							
教育目標と学生の学習成果	教育目標： 本科目は、幼稚園教諭二種免許状取得のための「領域及び保育内容の指導法に関する科目」の一つである。 本科目では、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う」ことを目指して、幼稚園教育において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらい及び内容を理解する。 学生の学習成果： ・専門的学習成果として、上記の教育目標を達成できるようにする。 ・汎用的学習成果として、保育者としての「態度・信念」及び「価値・意見」を形成する。						
	教育方法	授業の進め方 (講義・演習・実験・実習・実技) 1. パワーポイントを用いて授業を進める。 2. 講義内容についてワークシートを活用して理解を深める。 3. 講義内容についてシャトルカードに意見を記すことを課す。 予習・復習 1 回の授業に対する予習および復習の時間はそれぞれ 90 分とする。 予習：講義における重要事項について予習を課す。 復習：講義内容における重要事項について復習を課す。 テキスト ・無藤隆監修・倉持清美代表編者・新訂 事例で学ぶ保育内容＜領域＞健康・萌文書林・2020 年 ＊補助教材として VTR や DVD を適宜使用する。					
学習評価の方法	●専門的学習成果 下記 4 点について、「期末試験：80%」及び「ノート提出：10%」によって評価する。 1. 幼児期の健康課題と健康の発達の意味を理解する。 2. 幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解する。 3. 安全な生活と怪我や病気の予防を理解する。 4. 幼児期の運動発達の特徴と意義を理解する。 ※ノートは講義終了後に提出し、添削したものを次回講義で返却する。 ●汎用的学習成果 「態度・信念」：受講中の態度を評価する。(5%) 「価値・意見」：発表の内容やシャトルカードを用いた質問等を評価する。(5%)						
注意事項	参考図書等： ・榎沢良彦・入江礼子編著・2006 年・「シードブック・保育内容健康」・健帛社						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	■講義内容 本講義の教育目標と学生の学習成果、教育方法（授業の進め方、予習・復習、テキスト）、学習評価の方法について説明するとともに、シラバスに記載されている各回の講義テーマに沿って、現代の幼児をとりまく諸問題や課題について説くとともに、幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらい及び内容について解説する。 *学習成果：幼稚園教育の基本と領域「健康」のねらい及び内容について理解する。 【予習】シラバスの読み、講義全体の流れを把握する。 【復習】領域「健康」のねらい及び内容について復習する。
2 回	■講義内容 [幼児期の健康] 1) 健康の定義 2) 乳幼児期の健康の意義 健康の定義について説くとともに、行動体力と衛体力に対する働きかけを基軸に、乳幼児期の健康の意義について理解を深める。 *学習成果：健康の定義と乳幼児期の健康の意義について理解する。 【予習】乳幼児期の健康の意義について調べる。 【復習】行動体力と防衛体力について復習する。
3 回	■講義内容 [幼児期の心身の健康と発達] 1) 乳幼児期の心身の健康課題 2) 乳幼児期の運動発達の健康課題 今日の子どもが抱える健康課題について、心身の異変について説くとともに、将来顕著となりそうな乳幼児期の心と体、運動発達等の健康課題とその背景について解説する。 *学習成果 乳幼児期の心と体、運動発達等の健康課題について理解する。 【予習】乳幼児の心身の健康について調べる。 【復習】原始反射について復習する。
4 回	■講義内容 [幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と健康課題] 1) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について 2) 子どもを取り巻く現状と健康課題 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について説明するとともに、子どもを取り巻く現状と今日の健康課題について解説する。 *学習成果：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と子どもの今日の健康課題について理解する。 【予習】幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を調べる。 【復習】子どもの今日の健康課題について復習する。
5 回	■講義内容 [幼児期の健康課題と睡眠] 1) 演習①：睡眠時間の確保の重要性を伝える 2) 演習②：生活リズムの確立の重要性を伝える 幼児期の健康課題の一つである短時間睡眠や生活リズムの乱れについて深刻性を理解し、演習を通して、幼児自ら生活習慣を身につける態度を涵養し得る有効な伝え方を考える。 *学習成果：幼児の心身の発達における睡眠と生活リズムの重要性の伝え方を理解する。 【予習】乳幼児の睡眠リズムについて調べる。 【復習】自身の睡眠リズムについて復習する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
6 回	■講義内容「体の諸機能の発達と生活習慣の形成」その1 1) 乳幼児の体の発達の特徴 2) 乳幼児の体の諸機能の発達 乳幼児の体の発達の特徴について説くとともに、発育曲線や身体発育の評価方法に基づいて諸機能の発達について解説する。 *学習成果：乳幼児の体の発達の特徴や諸機能の発達について理解する。 【予習】 スキャモンの発育発達曲線について調べる。 【復習】 乳幼児の体の発達の特徴を復習する。
7 回	■講義内容「体の諸機能の発達と生活習慣の形成」その2 1) 乳幼児の生活習慣の形成とその意義 2) 基本的生活習慣5項目（食事・睡眠・排泄・清潔・衣服の着脱） 乳幼児が生活習慣を形成することの意義について説くとともに、基本的生活習慣5項目に対する配慮と援助の方法、生活観察について解説する。 *学習成果：基本的生活習慣5項目の配慮と援助の方法について理解する。 【予習】 基本的生活習慣5項目について調べる。 【復習】 生活習慣の形成について復習する。
8 回	■講義内容「具体的な指導に向けて」 1) 演習①：食事 2) 演習②：排泄 3) 演習③：清潔 4) 演習④：衣服の着脱 第5回目の授業時に行った睡眠以外の4項目の基本的生活習慣について、演習を通して、幼児自ら生活習慣を身につける態度を涵養し得る有効な伝え方を考える。 *学習成果：基本生活習慣5項目を幼児自ら身につける重要性の伝え方を理解する。 【予習】 基本的生活習慣の重要性の伝え方について調べる。 【復習】 基本的生活習慣について具体的な指導を復習する。
9 回	■講義内容「安全な生活と病気の予防」その1 1) 幼児期の怪我の特徴 2) 幼児期の病気の予防 幼児期の怪我の特徴や病気の一般的な症状と処置法について説くとともに、病気を予防するための方策や具体的な指導法について解説する。 *学習成果：幼児期の怪我の特徴や病気の予防について理解する。 【予習】 幼児の怪我の特徴や病気の予防について調べる。 【復習】 応急処置の方法を復習する。
10 回	■講義内容「安全な生活と病気の予防」その2 1) 幼児の安全教育 2) 幼児の健康管理 幼児の生活実態に即した安全教育と健康管理の重要性について説くとともに、実際の保育現場における具体的な指導方法について解説する。 *学習成果：幼児の安全教育と健康管理の必要性和意識の強化について理解する。 【予習】 幼児の安全教育と健康管理について調べる。 【復習】 安全教育の重要性について復習する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
11 回	■講義内容「安全な生活と病気の予防」その3 1) 危険に関するリスクとハザードの違い 2) 遊具の安全管理と安全な使用法 幼児の活動に潜むリスクとハザードの違いについて説き、日常生活における安全管理上のリスクマネジメントについて解説する。 *学習成果：リスクとハザードの違いとリスクマネジメントについて理解する。 【予習】危険に関するリスクとハザードについて調べる。 【復習】幼児の活動に潜むリスクとハザードについて復習する。
12 回	■講義内容「幼児期の運動発達と身体活動」その1 1) 乳幼児期の運動発達 2) 幼児期の身体活動 幼児期の運動発達の特徴について説くとともに、幼児期に多様な動きを獲得することの意義について解説する。 *学習成果：幼児期の運動発達と多様な身体活動の意義について理解する。 【予習】幼児期の運動発達と身体活動について調べる。 【復習】幼児期の運動発達の特徴について復習する。
13 回	■講義内容「幼児期の運動発達と身体活動」その2 1) 日常生活における幼児の動き 2) 幼児の動きに対する配慮 日常生活における幼児の動きの経験について説くとともに、幼児の動きに対する配慮など身体活動の在り方について解説する。 *学習成果：日常生活における幼児の動きと配慮について理解する。 【予習】日常生活における幼児の動きについて調べる。 【復習】幼児の動きに対する配慮について復習する。
14 回	■講義内容「乳幼児の心の発達」 1) 乳幼児期の情緒の発達 2) 乳幼児期の知的能力の発達 乳幼児期の代表的な精神的特徴について説くとともに、幼児期の情緒と知的能力の発達について家庭や保育現場で起こり得る具体例を挙げて解説する。 *学習成果：乳幼児期の情緒面と知的能力から精神的発達の特徴について理解する。 【予習】乳幼児期の心の発達について調べる。 【復習】乳幼児期の精神的発達の特徴について復習する。
15 回	■講義内容「総復習」 ノートを中心に、これまでの講義内容における重点項目について総復習を行う。 *学習成果：ノートに記されている講義の重点項目と内容について把握する。 【予習】これまでの講義内容の不十分な箇所をノートに追記する。 【復習】乳幼児の健康について復習する。

令和 8 年 度 教 育 計 画								
科目名	「幼児と健康」の指導法		授業回数	15	単位数	2	担当教員	吉田 升
質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー）：nyoshida@owc.ac.jp、月曜日 5 限目								
教育目標と学生の学習成果	教育目標： 本科目は、幼稚園教諭二種免許状取得のための「領域及び保育内容の指導法に関する科目」の一つである。 本科目では、幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらい及び内容並びに幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解するとともに、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定して保育を構築する方法を身につけることにより、発達に即した実践的指導力を養うことを目標とする。 学生の学習成果： ・専門的学習成果として、上記の教育目標を達成できるようにする。 ・汎用的学習成果として、保育者としての「態度・信念」を形成する。							
	授業の進め方	(講義・ 演習 ・実験・実習・実技) 1. 具体的な指導場面を想定して演習活動を中心に授業を進める。 2. 講義内容についてシャトルカードに意見を記すことを課す。						
教育方法	予習・復習	1 回の授業に対する予習および復習の時間はそれぞれ 90 分とする。 予習：次回講義における重要事項について予習を課す。 復習：講義内容における重要事項について復習を課す。						
	テキスト	・無藤隆監修・倉持清美代表編者・新訂 事例で学ぶ保育内容＜領域＞健康・萌文書林・2020 年 ＊補助教材として VTR や DVD を適宜使用する。						
学習評価の方法	●専門的学習成果 下記 2 点について、「模擬指導実践：60%」及び「指導案：20%」によって評価する。 1. ねらい及び内容、指導上の留意点と幼稚園教育における評価の考え方、領域ごとに幼児が経験し身につけていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解する。 2. 幼児の発達や学びの過程、認識・思考、動き、幼児の体験との関連性を考慮し、具体的な指導場面を想定した指導案を基に、ICT を活用して保育を構築する方法を身につける。 ※指導案については、添削しコメントをつけて返却する。 ●汎用的学習成果 「態度・信念」：受講中の態度を評価する。(20%)							
注意事項	参考図書等： ・榎沢良彦・入江礼子編著・2006 年・「シードブック・保育内容健康」・健帛社							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	■講義内容 本講義の教育目標と学生の学習成果、教育方法（授業の進め方、予習・復習、テキスト）、学習評価の方法について説明するとともに、幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「健康」のねらい及び内容並びに全体構造について説くとともに、幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらい及び内容について解説する。 *学習成果：領域「健康」のねらい及び内容並びに全体構造と保育実践について理解する。 【予習】シラバスを読み、講義全体の流れを把握する。 【復習】領域「健康」のねらいと内容について復習する。
2 回	■講義内容〔幼児の健康に関わる現代的課題〕 1) 領域「健康」のねらい及び内容を踏まえた指導上の留意点 2) 現場の取り組み事例 領域「健康」のねらい及び内容を踏まえた指導上の留意点について解説するとともに、幼児の健康に関わる現代的課題に対する現場の取り組みについて事例を基に考える。 *学習成果 乳幼児期の心身や運動発達の背景と現場における取り組みについて理解する。 【予習】領域「健康」における保育現場の取り組みの事例を調べる。 【復習】講義内容における重点項目をまとめる。
3 回	■講義内容〔領域「健康」と小学校の各教科とのつながり〕 1) 領域「健康」において幼児が身につける内容 2) 小学校の各教科等とのつながり 領域「健康」において幼児が経験し身につけていく内容と小学校の各教科等のつながりについて、資料や視聴覚教材などの ICT を用いて具体的な事例を基に考える。 *学習成果：幼児が身につける内容と小学校の各教科等とのつながりについて理解する。 【予習】領域「健康」において幼児が身につける内容について調べる。 【復習】講義内容における重点項目をまとめる。
4 回	■講義内容〔日常生活における幼児の動き〕その1 1) 遊びの場面における幼児の身体活動：幼児の動きを想定した体験① 2) 運動指導の留意点と環境や動線に配慮した環境構成 室内外の遊びの場面を想定し、実際に体験しながら幼児の多様な動きの視点から捉えることにより、幼児期の運動発達に沿った運動指導の留意点と教師の役割について考える。 *学習成果：遊びの場面における幼児の身体活動と運動指導の留意点について理解する。 【予習】遊びの場面における幼児の身体活動について調べる。 【復習】講義内容における重点項目をまとめる。
5 回	■講義内容〔日常生活における幼児の動き〕その2 1) 生活の場面における幼児の身体活動と環境構成：幼児の動きを想定した体験② 2) 教師の役割と幼稚園教育における評価の考え方 室内外の生活の場面を想定し、実際に体験しながら幼児の多様な動きの視点から捉えることにより、様々な環境や幼児の動線に配慮した環境構成について考える。 *学習成果：生活の場面における多様な動きと環境構成の留意点について理解する。 【予習】生活の場面における幼児の動きについて調べる。 【復習】講義内容における重点項目をまとめる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
6 回	■講義内容「保育実践における指導事例」 1) 基本的生活習慣5項目の指導事例 2) 災害時の安全教育及び交通安全教育の指導事例 基本的生活習慣5項目や災害時の安全教育及び交通安全教育について、資料や視聴覚教材等のICTを用いて具体的な指導事例を基に実態に沿った教師の援助や環境構成を考える。 ＊学習成果：事例に基づいて、実態に沿った教師の援助や環境構成を理解する。 【予習】保育実践における指導事例について調べる。 【復習】講義内容における重点項目をまとめる。
7 回	■講義内容「模擬保育に向けて」その1 1) 指導案の作成① 2) 模擬保育に向けた教材の製作及び意見交換 指導案の作成における留意点の理解とともに、幼児の生活実態に即した具体的な場面を想定した教師の役割や援助、環境構成について考え、模擬保育に向けて教材の製作を行う。 ＊学習成果：指導案の作成における留意点について理解する。 【予習】指導案の作成における要点について調べる。 【復習】意見交換した内容をまとめる。
8 回	■講義内容「模擬保育に向けて」その2 1) 指導案の作成② 2) 模擬保育に向けた教材の製作及び意見交換 指導案の作成における留意点の理解とともに、幼児の生活実態に即した具体的な場面を想定した教師の役割や援助、環境構成について考え、模擬保育に向けて教材の製作を行う。 ＊学習成果：指導案の作成における留意点について理解する。 【予習】指導案の作成における留意点について調べる。 【復習】意見交換した内容をまとめる。
9 回	■講義内容「模擬保育」その1 1) 基本的生活習慣5項目における「食事」の要点 2) 演習①：模擬指導 幼児期の健康課題の一つである食生活の乱れによる健康問題に焦点を当て、健康に対する意識を強化し、幼児自ら防衛体力に働きかける態度を涵養し得る指導法について考える。 ＊学習成果：基本的生活習慣の「食事」の要点と指導内容・方法を理解する。 【予習】模擬保育に向けた製作と模擬指導の練習をする。 【復習】「食事」に関する指導について復習する。
10 回	■講義内容「模擬保育」その2 1) 基本的生活習慣5項目における「排泄」の要点 2) 演習②：模擬指導 幼児期の健康課題の一つである食生活の乱れに関連する排泄に焦点を当て、健康に対する意識を強化し、幼児自ら防衛体力に働きかける態度を涵養し得る指導法について考える。 ＊学習成果：基本的生活習慣の「排泄」の要点と指導内容・方法を理解する。 【予習】模擬保育に向けた製作と模擬指導の練習をする。 【復習】「排泄」に関する指導について復習する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
11 回	■講義内容「模擬保育」その3 1) 基本的生活習慣5項目における「睡眠」の要点 2) 演習③：模擬指導 幼児期の健康課題の一つである睡眠不足や生活リズムの乱れに焦点を当て、健康に対する意識を強化し、幼児自ら防衛体力に働きかける態度を涵養し得る指導法について考える。 *学習成果：基本的生活習慣の「睡眠」の要点と指導内容・方法を理解する。 【予習】模擬保育に向けた製作と模擬指導の練習をする。 【復習】「睡眠」に関する指導について復習する。
12 回	■講義内容「模擬保育」その4 1) 基本的生活習慣5項目における「清潔」「衣服の着脱」の要点 2) 演習④：模擬指導 幼児期の清潔行動と衣服の着脱に焦点を当て、演習を通して、幼児自ら防衛体力に働きかける態度を涵養し得る有効な指導法について考える。 *学習成果：「清潔」「衣服の着脱」の要点と指導内容・方法を理解する。 【予習】模擬保育に向けた製作と模擬指導の練習をする。 【復習】「清潔」「衣服の着脱」に関する指導について復習する。
13 回	■講義内容「模擬保育」その5 1) 災害時の安全教育 2) 演習⑤：模擬指導 幼児に対する災害時の安全教育に焦点を当て、演習を通して、幼児自ら生命を守ろうとする力を涵養し得る有効な指導法について考える。 *学習成果：災害時の安全教育の指導内容・方法について理解する。 【予習】災害時の安全教育についての模擬指導の練習をする。 【復習】安全教育に関する指導について復習する。
14 回	■講義内容「模擬保育」その6 1) 交通安全教育 2) 演習⑥：模擬指導 幼児に対する交通安全教育に焦点を当て、演習を通して、幼児自ら生命を守ろうとする力を涵養し得る有効な指導法について考える。 *学習成果：交通安全教育の指導内容・方法について理解する。 【予習】交通安全教育についての模擬指導の練習をする。 【復習】交通安全教育に関する指導について復習する。
15 回	■講義内容「領域「健康」における ICT の活用方法」 1) 乳幼児と ICT について 2) 領域「健康」と ICT の関係について 乳幼児において、ICT の活用が成長においてどのような影響を与えるのか、健康にどのような影響を与えるのかについて、資料や視聴覚教材等の ICT を用いて具体的な指導事例を基に教師の視点を考える。 *学習成果：領域「健康」と ICT の関係について理解する。 【予習】領域「健康」における ICT の活用方法について調べる。 【復習】保育現場における ICT の活用方法を調べる。

令和 8 年度 教 育 計 画							
科目名	幼児と人間関係	授業回数	15	単位数	1	担当教員	尾崎・副島
質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー等） soejima@owc.ac.jp、 OH:水曜日 09:10～10:50							
教育目標と学生の学習成果	【教育目標・到達目標】						
	教育目標： 乳幼児期における人間関係の発達過程を理解し、子どもの内面を読み取りながら、関係を育てる保育の在り方を理論と事例の往還を通して考察できる力を養う。						
	到達目標： 1. 乳幼児期の人間関係の発達的特徴を年齢ごとに説明できる。 2. 事例をもとに子どもの心情や背景を読み取り、適切な援助を考察できる。 3. 人間関係を育てる保育の視点を自らの言葉で整理できる。						
	【学生の学習成果】						
	専門的学習成果： ・領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、発達段階に応じた関係形成の特徴を説明できる。 ・具体的事例を理論的根拠に基づいて分析できる。						
教育方法	汎用的学習成果： ・他者の意見を聴き、自分の考えを論理的に表現できる。 ・子どもの姿を多面的に捉える思考力を身につける。						
	授業の進め方	(講義・ <u>演習</u> ・実験・実習・実技)					
		講義による理論理解、テキスト事例の読解、グループ討議を組み合わせる。毎回、子どもの姿を根拠に照らし合わせて説明する時間を設け、思考を言語化する。					
	予習・復習	予習事項： 該当箇所のテキストを読み、事例中の子どもの行動について「なぜその行動をとったのか」を考えてくる。 復習事項： 振り返りの問題を提示する。指定の提出方法で提出する。 授業で扱った発達理論と事例を結びつけ、援助の意図を自分の言葉でまとめる。					
	テキスト	寺見陽子 『事例と図解で学ぶ保育実践 子どもの心の育ちと人間関係』 教育情報出版 (2023)					
学習評価の方法	授業内課題（振り返り・課題レポート）40％ 最終レポート 40％ 授業への主体的参加 20％						

注 意 事 項	毎回テキストを持参すること。 討議型授業のため積極的参加を求める。 予習、復習の励行 課題への積極的な取り組み 【参考図書】 幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説 認定こども園要領解説
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	領域「人間関係」の意義と全体像を捉える 本授業の目的と評価方法を確認したうえで、幼稚園教育要領・保育所保育指針などにおける領域「人間関係」のねらいと内容を読み解く。乳幼児期における人との関わりがなぜ育ちの基盤となるのかを理解し、領域の構造を説明できるようになる。
2 回	愛着形成と信頼関係の基礎 発達心理学の理論をもとに愛着形成の仕組みを学び、保育者の応答的関わりが子どもの安心感や自己肯定感にどのように影響するかを事例から考察する。安心できる関係が育ちを支える根拠を説明できるようになる。
3 回	0・1 歳児の人間関係の発達 視線・模倣・共同注意など、0・1 歳児に見られる対人関係の特徴を学ぶ。非言語的コミュニケーションの意味を理解し、応答的関わりの具体例を挙げて説明できるようになる。
4 回	1・2 歳児の自己主張と葛藤 自己主張の高まりと「取り合い」などの衝突場面を発達の視点から分析する。行動の背景を読み取り、葛藤場面における適切な援助を考察できるようになる。
5 回	3 歳児の仲間関係の広がり 並行遊びから共同的遊びへの移行を学び、仲間意識の芽生えを理解する。3 歳児の対人関係の特徴を具体例を挙げて説明できるようになる。
6 回	4 歳児の協同性の発達 役割意識や話し合いの芽生えを取り上げ、協同的活動の意味を理解する。集団の中で自己を発揮する姿を読み取り、支援の方向性を説明できるようになる。
7 回	5 歳児の集団形成とルール意識 ルールの理解や話し合い活動の実際を学ぶ。トラブル解決場面を分析し、主体的な関係づくりを支える援助を考察できるようになる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	多様な人間関係の広がり 異年齢交流や地域との関わりを通して育つ社会性について学ぶ。多様な他者との関係が子どもの育ちに与える影響を説明できるようになる。
9 回	個別の特性と人間関係 個別の特性をもつ子どもの姿を取り上げ、多様性の視点から関係形成を支える保育を考察する。特性を尊重しながら集団の中で育ちを保障する視点を身につける。
10 回	気になる子どもの理解と援助 具体的事例をもとに、行動の背景や内面を読み取る視点を養う。表面的な行動だけで判断せず、根拠をもって援助を説明できるようになる。
11 回	保護者との関係づくり 保護者との信頼関係が子どもの育ちに与える影響を理解する。連携の具体的方法を挙げ、保育者の役割を説明できるようになる。
12 回	人間関係を育てる保育計画 年間計画や日案の中に領域「人間関係」をどのように位置づけるかを学ぶ。発達理解に基づいた計画の視点を説明できるようになる。
13 回	事例分析Ⅰ 複合的な事例を分析し、発達理論と実践を結びつける。子どもの姿を多面的に捉え、援助の方向性を論理的に述べられるようになる。
14 回	事例分析Ⅱ グループ討議を通して異なる視点を共有し、考察を深める。多角的な理解に基づき、自らの考えを整理して表現できるようになる。
15 回	総括と到達確認 これまでの学びを振り返り、人間関係を育てる保育の視点を自らの言葉で整理する。発達理解と援助を統合して説明できることを確認する。

令和8年度 教 育 計 画							
科目名	幼児と人間関係の指導法	授業回数	15	単位数	2	担当教員	尾崎・副島
質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー等）soejima@owc.ac.jp、 OH:水曜日 09:10～10:50							
教育目標と学生の学習成果	【教育目標・到達目標】 教育目標： 領域「人間関係」の理論を実践へと展開し、子どもの実態に応じた指導計画を構想・実践・省察できる力を養う。 到達目標： 1. 領域「人間関係」の構造を説明できる。 2. 発達理解に基づく指導計画を立案できる。 3. 模擬保育を通して援助の在り方を改善できる。 【学生の学習成果】 専門的学習成果： ・理論的根拠を明示して、指導案を作成できる。 ・模擬保育を振り返り改善点を明確にできる。 汎用的学習成果： ・協働的に授業を構成できる。 ・批判的思考をもって自己評価できる。						
	教育方法	授業の進め方 (講義・ 演習 ・実験・実習・実技) 講義と演習を組み合わせ、事例分析、指導案作成、模擬保育を段階的に行う。 予習事項： 該当年齢の教科書の部分を読み、発達特徴を整理してくる。 復習事項： 各回、振り返りの問題を提示する。指定の提出方法で提出する。 模擬保育の振り返りを文章化し改善点を整理する。 テキスト 山本陽子 他『実践につながる新しい保育内容「人間関係」』ミネルヴァ書房（2023）					
学習評価の方法	授業内課題 30% 模擬保育 30% 最終レポート 30% 参加度 10%						

注 意 事 項	毎回テキストを持参すること。 模擬保育などグループにおける主体的参加を求める。 予習、復習の励行 課題への積極的な取り組み 【参考図書】 幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説 認定こども園要領解説
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	領域「人間関係」の構造理解と指導法の全体像 幼稚園教育要領・保育所保育指針などにおける領域「人間関係」のねらいと内容を再確認し、前期で学んだ発達理解との関連を整理する。領域の構造を踏まえた指導法の考え方を理解し、理論と実践を結びつけて説明できるようになる。
2 回	0～2 歳児の指導の視点 愛着形成や基本的信頼感を支える保育の在り方を学ぶ。応答的関わりを中心とした援助の具体例を検討し、年齢特性に応じた指導の視点を説明できるようになる。
3 回	3～5 歳児の協同性を育てる指導 仲間関係の発展や協同的活動の実際を取り上げる。話し合いや共同活動を通して関係を育てる指導の在り方を理解し、具体的な援助を構想できるようになる。
4 回	気になる子どもへの支援計画 発達特性や個別の課題をもつ子どもの事例を分析する。背景理解に基づいた支援計画を立てる視点を学び、合理的配慮を含めた援助の方向性を説明できるようになる。
5 回	保護者支援と関係づくり 保護者との信頼関係を基盤とした支援の在り方を学ぶ。連携の具体的方法を整理し、家庭と園をつなぐ指導の視点を説明できるようになる。
6 回	0 歳児の事例分析と援助構想 0 歳児の具体的事例を分析し、発達理解をもとに援助の方法を構想する。非言語的関わり的重要性を踏まえた指導の工夫を説明できるようになる。
7 回	1～2 歳児の事例分析と援助構想 自己主張や葛藤場面の事例を取り上げ、子どもの思いを読み取る。発達段階に応じた援助を具体的に提案できるようになる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	3～5 歳児の事例分析と援助構想 仲間関係のトラブルや協同場面を分析し、話し合いを支える援助の方法を検討する。主体的な関係づくりを支援する具体策を説明できるようになる。
9 回	特別な配慮を要する子どもへの指導 多様な背景をもつ子どもへの支援を取り上げ、個別支援と集団保育の両立について考察する。実践的視点から指導上の留意点を整理できるようになる。
10 回	指導計画の構造と作成方法 領域「人間関係」のねらいをどのように指導計画に反映させるかを学ぶ。年間計画や指導案の構造を理解し、計画立案の基本的枠組みを説明できるようになる。
11 回	指導案作成演習 具体的な年齢を設定し、発達理解に基づいた指導案を作成する。ねらい・内容・援助の意図を明確にし、理論的根拠をもって説明できるようになる。
12 回	模擬保育Ⅰ（実践と省察） 作成した指導案に基づき模擬保育を実施する。実践後に振り返りを行い、自らの援助の適切性を分析し改善点を明確にできるようになる。
13 回	模擬保育Ⅱ（改善と再構成） 前回の省察を踏まえ、援助を再構成した模擬保育を行う。改善点を意識した実践を通して、より適切な関わりを構想できるようになる。
14 回	模擬保育Ⅲ（協働的实践） グループで協働しながら模擬保育を行い、相互評価を通して多面的視点を学ぶ。他者の意見を取り入れ、実践を客観的に改善できるようになる。
15 回	総括と実践力の確認 これまでの学びを振り返り、理論と実践を統合して説明する。領域「人間関係」の指導法について、自らの実践観として整理できることを確認する。

令和８年度教育計画							
科目名	幼児と環境	授業回数	15	単位数	1	担当教員	秋山智代
質問受付の方法 e-mail : akiyama@owc.ac.jp OH: 火曜日 9：00～16:00 B3 0 5 室							
教育目標と学生の学習成果	教育目標 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「環境」の教育的ねらいは「周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。」である。そこで本科目では、幼児が自ら興味や関心をもって環境に主体的に関わり、充実感や満足感を味わうことのできる体験について深く理解し、そのような幼児と環境との関わりを促進させる意図的な関わりに検討を加えていくのに必要な知識・技能を身に付ける。また、人的環境としての保育者の感性を養う。						
	学生の学習成果 専門的学習成果：子どもの発達・成長に必要な「環境」に関する様々な知識・技能及び感性を身に付ける。 汎用的学習成果：保育者は子どもにとっては人的環境として子どもの環境の一部であることを自覚し、保育者として求められる態度・信念を獲得する。						
教育方法	授業の進め方	（講義）・演習・実験・実習・実技 ・保育内容「環境」のねらいを理解し、豊かなかかわりを育むための保育者の援助と配慮事項を子ども視点で考察し、まとめる。 ・植物を栽培したり、動物を飼育したりしてその成長を観察する。 ・毎回授業後には振り返りタイムを設定（カードに記入）する。					
	予習復習	予習事項：「授業回数別内容」に記された内容について４５分間以上調べてから授業に望む。 復習事項：保育現場で実際に計画・実践する場合を想定して４５分間以上かけて授業内容を整理する。					
	テキスト	・『保育内容 環境』高橋貴志・目良秋子編著 建帛社 2024 その他適宜資料を配布する。 ＊まとめと授業後の振り返り等を記入しておくこと。					
学習評価の方法	＊学習成果と受講態度を学習評価の基準とする。 具体的には、定期試験、小テスト、レポート、受講態度、を総合的に評価する。 ＜専門的学習成果＞：定期試験（60点） 小テスト（10点×2回＝20点） ＊採点終了後、学生に返却し解説等を実施する。 ＜汎用的学習成果＞：幼児の環境構成レポート（5点×2回＝10点） 授業内活動（芋植え、種植え、水やり）（10点） ＜受講態度＞：受講態度に問題がある場合は、減点する。ただし、最大で5点までにとどめるものとする。						
注意事項	【参考図書】 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』文部科学省厚生労働省フレーベル館，2018年 ・『そだててあそぼう 3』サツマイモの絵本』農山漁村文化協会，2001年 ・『子どもと環境―基本と実践事例―』田尻由美子・武藤隆編，同人書院，2011年 ・『あそびから学びが生まれる動的環境デザイン』大豆生田啓友，学研，2020年 ・『ワクワク！ドキドキ！が生まれる環境構成』岡上尚子，ひかりのくに，2018年 ・『学びを支える保育環境づくり』～幼稚園・保育園・認定こども園の環境構成～高山静子，小学館，2022年 ・保育者のための！SDGs入門						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<オリエンテーション> <第1章 保育内容「環境」について> 保育内容「環境」を学ぶ意味について、情報化が進行する現代社会の特徴と保育の場における子どもの発達支援を関連づけて学ぶ。 ○活動内容：オリエンテーション（授業の進め方、学習評価の方法） 3つの告示文書における保育内容「環境」を理解する。（テキスト p 1－p 10） ○学習成果： 領域「環境」の告示文書からわかることや保育内容「環境」学ぶ意味を知る。 ○復習事項：「環境」のねらいや内容を整理する。
2 回	<第2章 園内の環境と保育> 園内環境のうち、0～1歳児の乳児室、2～5歳児の保育室、遊戯室など環境を構成する際の基本的な考え方について学ぶ。 ○活動内容：園内環境を構成する際の基本的考え方について学ぶ。（テキスト p.11・p 15） ○学習成果：年齢に応じた園内環境の基本的な考え方を知る。 ○予習事項：園内環境を調べる。（保育室、遊戯室、図書スペース） ○復習事項：年齢に応じた環境をまとめる。
3 回	<第2章 園内の環境と保育> 環境デザインの視点から実際の保育の事例を取り上げ、これからの保育における環境の在り方について考える。 ○活動内容：0～1歳児、2～5歳児の園内環境デザインの実際を知る。（テキスト p15・p 26） ○学習成果：年齢に応じた保育の環境を考える。 ○予習事項：年齢に応じて環境を調べる。 ○復習事項：保育室環境を自分でデザインする。
4 回	<第3章 園庭の環境と保育> 意図的、計画的に環境を構成する際の基本的な考え方を学ぶ。 ○活動内容：運動スペース、遊具、砂遊び場、水遊び場、動物の飼育、植物の栽培を考える。（テキスト p .27・p 30） ○学習成果：園庭の環境の基本的な考え方を学ぶ。 小テスト（第1回）シラバス第2回、第3回の内容 ○予習事項：園内環境を勉強する。 ○復習事項：園庭の環境構成をまとめる。
5 回	<第3章 園庭の環境と保育> 環境デザインの視点から実際の保育実践を学ぶ。 ○活動内容：園庭施設の活用の事例をふまえながら、子どもたちが主体的な遊びを実現できるような園庭環境の構成、そしてそこで展開される園庭遊びを考える。（テキスト p.31－p 44） ○学習成果：園庭遊びを考える。 ○予習事項：園庭の環境の実際を読んてくる。 ○復習事項：園庭遊びのいろいろな活動を考える。
6 回	<第4章 自然環境と保育> 幼児期における自然体験は、自然に対する畏敬の念や、生きものに対する親しみや愛情を育てるうえで重要であることを学ぶ。 ○活動内容：5 自然環境を理解する。（テキスト p45－p 47） ○学習成果：子どもにとっての自然環境を考える。 小テスト（第2回）シラバス第4回の5回内容 ○予習事項：園庭環境について勉強する。 ○復習事項：自然環境の活用を考える。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
7 回	＜第4章自然環境と保育＞ 乳幼児の自然体験がより豊かになるよう園内の環境整備を行うとともに、園を取り巻く自然環境の活用を考える。 ○活動内容：植物の栽培や動物の飼育、園外保育を計画的かつこどもの興味や関心に応じて行う保育を事例から考える。(テキスト p47- p 59) ○学習成果：事例から、保育者が子どもの育ちを読み取ったり共感したりする気持ちの大切さを知る。幼児の環境の構成レポート① ○予習事項：子どもが自然と直接触れる機会を考える。 ○復習事項：自然を通した対話的学びを考える
8 回	＜第5章 社会環境と保育＞ 具体的に社会環境を情報化、および家庭、地域、保育の場という三者の関係性から地域の問題として考える。 ○活動内容：地域の社会環境を調べる。(テキスト p.61— p 67) ○学習成果：保育の場の社会環境を考える。 ○予習事項：保育の場における情報化について調べる。 ○復習事項：情報の問題点を考える。
9 回	＜第5章 社会環境と保育＞ 社会環境として地域社会、諸外国のことなる文化や地球環境、現代的な社会環境を取り上げる。 ○活動内容：実際の保育の場における事例をもとに現在のこどもを取り巻く社会環境と保育の実践について考える。(テキスト p.67— p 76) ○学習成果：事例の子どもの姿から読み取りと援助を考える ○予習事項：テキストの事例を読んでもくる。 ○復習事項：E S Dについて調べる。
10 回	＜第6章文字・数・図形への興味・関心と保育内容「環境」＞ 「文字・数・図形」に関する学びの資源を、子どもの育ちにあわせて教材化したり、子ども自身が教材化したりできるように環境を調整することを学ぶ ○活動内容：生活の中で、どのような役割を果たしているか気付く。(テキスト p.77— p 92) ○学習成果：「文字・数・図形」に関して調べる。 ○予習事項：園の中にある「文字・数・図形」を調べる。 ○復習事項：数や量や図形などへの関心が持てる、年齢に応じた、遊びを考える。
11 回	＜第6章文字・数・図形への興味・関心と保育内容「環境」＞ 子どもの認識体系について考えながら、「文字・数・図形」に関する活動を取り入れる方を学ぶ。 ○活動内容：日常生活のなかでの、数や量や図形などへの関心とその発達を事例から学ぶ。(テキスト p.87— p 92) 幼児と環境の構成レポート② ○学習成果：いろいろな事例から遊びの多様性を知る。 ○予習事項：テキストの事例を読んでもくる。 ○復習事項：遊びが活発になるいろいろな要因をまとめる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
12 回	＜第7章 小学校教育との連携と保育内容「環境」＞ 小学校教育と保育との違いと連携の必要性を考える。 ○活動内容：保育と教育の目的・目標を理解する。(テキスト p93— p 101) ○学習成果： 保育の場と小学校ではどのようなことを大切にしているか知る ○予習事項：小学校と保育の違いを読んでくる。 ○復習事項： 保育・教育の目的・目標をまとめる。
13 回	＜第7章 小学校教育との連携と保育内容「環境」＞ 小学校教育と保育の場との接続・連携は、どのような点に配慮して進めていくか知る。 ○活動内容： 保育における実践を読み取る。(テキスト p 101— p 108) ○学習成果：アクティブラーニングの基本的な考え方を学ぶ。 ○予習事項：テキストを読んでくる。 ○復習事項： 保育の場と小学校の遊びの考え方を比較する。
14 回	＜第8章 子育て支援と保育内容「環境」＞ 保護者との信頼関係を築きながら、保護者が安心して子育てできるよう援助を考える。 ○活動内容：子育て支援の必要性を学ぶ。 (テキスト p111— p 120) ○学習成果： 様々な家庭への支援を学ぶ ○予習事項：テキスト事例を読んでくる。 ○復習事項：子育て情報の提供を考える。
15 回	＜第9章 これまでの学びを振り返る＞ 「5領域の中の環境」という視点を持ち、他の4つの領域（健康・人間関係・言葉・表現）と保育内容環境を結び付けて考える。 前期環境のまとめをする。 ○活動内容：環境の重要性を考える。 (テキスト p.123— p 126) ○学習成果：環境の基本的な考え方を復習する。 ○予習事項：テキストの重要な箇所を読んでくる。 ○復習事項：前期環境の内容を整理して前期試験に備える。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<オリエンテーション> 本科目の授業計画，学習評価方法等について理解する。【 模擬保育室 】 <保育内容環境について> 幼児が取り巻く環境との関わりを話し合い、指導方法を考える。 ○活動内容：オリエンテーション（授業の進め方、スケジュール、学習評価の方法） 演習問題①（テキスト p. 9）を話し合う。 （模擬室の環境構成） ○学習成果：環境のとらえかたに関して幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園の特性による実践レベルでの違いを考える。
2 回	<園内の環境と保育> 園内の環境の実際を考える。 ○活動内容：演習問題②（テキスト p. 25）を話し合う。手袋シアターを作る。 ○学習成果：園内環境を子どもの発達に合わせてデザインする。 ○予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ○復習事項：園内環境を考える。手袋シアターを作る。
3 回	<園庭の環境と保育> 園庭の環境を理解して実践的に遊びの環境を考える。 ○活動内容：演習問題③（テキスト p. 41）を話し合う。手袋シアターを作る。 ○学習成果：子どもが遊びたくなる環境を考える。 ○予習事項：テキストを読んでくる。 ○復習事項：手袋シアターを作る。
4 回	<自然環境と保育> 「幼児期の最後までに育ってほしい姿」を事例から見つける。 芋ほりの保育案を作成する。 ○活動内容：演習問題④（テキスト p. 59）を作成する。 手袋シアター発表 ○学習成果：自然を取り入れた園庭の環境を具体的に考える。 ○予習事項：子どもに体験させたい遊びを考える。 ○復習事項：芋ほりの指導略案を作成する。
5 回	<社会環境と保育> 領域「環境」のねらいおよび内容をふまえて保育を構想する。 ○活動内容：演習問題⑤（テキスト p. 75）を話し合う。 ○学習成果：季節による自然や生活の変化を感じる体験ができる遊びを考える。 ○予習事項：自分が住んでいる地域にはどんな地域活動があるか調べる。 ○復習事項：芋掘りの準備をする。
6 回	<伝統遊びや伝承遊び> 乳幼児が興味をもつ環境を考える。 ○活動内容：伝承遊びを経験する。 ○学習成果：伝承遊びを保育にいれる方法を学ぶ。 ○予習事項：いろいろなわらべうたを調べる。 ○復習事項：いろいろな保育案をまとめる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
7 回	＜自然との関わり体験＞ 【岡短畑】 生物・自然との関わりの事象に対する興味関心・、理解の発達について体験を通して理解する。 ○活動内容：芋掘りを体験する。 ○学習成果：芋掘りの指導案の確認をする。 ○予習事項：芋の料理を調べてくる。 ○復習事項：自分の考えた指導案の反省、感想をまとめる
8 回	＜文字・数・図形への興味と保育内容「環境」＞ それぞれの年齢にあった文字・数・図形環境を考える。 ○活動内容：演習問題⑥（テキスト p. 91） ○学習成果：文字・数・図形の環境を考える。 ○予習事項：遊びができる環境を考える。 ○復習事項：遊びを体験して改良する点や工夫する点を考える。
9 回	＜小学校教育との連携と保育内容「環境」＞ 小学校教育と保育との違いについて様々な点から確認する。 ○活動内容：演習問題⑦（テキスト p. 108） エプロンシアターを作る ○学習成果：アクティブラーニングの実践を学ぶ。 ○予習事項：テキストを読んでくる。 ○復習事項：アクティブラーニングの考え方を確認する。
10 回	＜子育て支援と保育内容「環境」＞ 現代社会において必要な子育て支援を考える。 ○活動内容：演習問題⑧（テキスト p. 120） エプロンシアターを作る。 ○学習成果：保護者が抱える子育てに関する不安について考える。 ○予習事項：子育て支援について調べてくる。 ○復習事項：エプロンシアターを作る。
11 回	＜これまでの学びを振り返る＞ こどもを取り巻く様々な環境のなかで育ちを伸張するもの、阻害するものを考える。 ○活動内容：演習問題⑨（テキスト p. 126） エプロンシアターを作る ○学習成果：子どもにとって環境の大切さを考える。 ○予習事項：実習体験から遊びをデザインする。 ○復習事項：エプロンシアターを作る
12 回	＜保育内容環境の実践＞ 乳幼児が興味・関心を抱ける環境を作る。 ○活動内容：エプロンシアターを発表する ○学習成果：エプロンシアターの演じ方を学ぶ ○予習事項：エプロンシアターの演じ方を練習する ○復習事項：他の人の演じ方の方法を学びまとめる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
13 回	<わが国の文化や伝統に親しむ> 伝統を次の世代へとつないでいく体験を考える。自然に興味や関心をもつ。 ○活動内容: お正月行事を理解する。 お正月の行事を体験する。 ○学習成果: 伝統行事に興味を持つ。 ○予習事項: お正月について調べる。 ○復習事項: 伝統行事を調べて まとめる。
14 回	<環境を通して行う教育> 理解する。 ○活動内容: (テキスト p.170) を話し合う 。 ○学習成果: 発達や学びの連続性を大切なことを理解する。 ○予習事項: 自分の保育経験から問題を考えて、解決する環境を考える。 ○復習事項: 小学校教育との違いをまとめる。
15 回	<まとめ➡人的環境としての保育者> 環境の構成は幼児教育の基本と考える。 保育者が保育をどのように保育を展開していこうかと構想し、環境の構成を考える。 ○活動内容 授業内容の振り返り 保育について話し合い ○学習成果 環境へのかかわり方について振り返る、 環境についてまとめる。 ○予習事項 今までの学習内容を振り返る。 ○復習事項 日常生活における活動に対する捉え方や支援方法について復習する。

令和 8 年 度 教 育 計 画								
科目名	幼児と言葉		授業回数	15	単位数	1	担当教員	馬場結子
質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー等）：baba@owc.ac.jp、 OH:								
教育目標と学生の学習成果	教育目標：幼い子どもの心を養い育てるための言葉の知識と技術を身に付ける。 学生の学習成果：言葉遊びや絵本の読み聞かせについて学び、保育の現場において役立てることができる。 専門的学習成果：児童文化財を通して言葉の意味を考え、子どものイメージや想像力、感性を養うために必要な知識と技術を身に付ける。 汎用的学習成果：幼い子どもの心を育てるためにはどのような言葉を語りかければよいのかを考えることができる。							
教育方法	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) この授業は講義ではあるが、時には演習を含めたものとなる。絵本の読み聞かせや言葉遊びは演習に含まれる。実際に授業の中で体験してもらう。						
	予習・復習	予習事項：多くの絵本を読むこと。絵本のリストを配布する。 復習事項：授業で学習したことをまとめておくこと。						
	テキスト	谷田貝公昭監修、大沢裕編著『言葉』（コンパクト版保育内容シリーズ）一藝社						
学習評価の方法	定期試験（70%）、レポート（30%）で総合的に評価する。 出席率や日頃の学習態度も評価の対象である。 絵本の読み聞かせ等は積極的な参加が求められる。 レポートは提出期限を守ること。							
注意事項	【参考図書】 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション この授業「幼児と言葉」の概要について説明する。
2 回	領域「言葉」について 領域「言葉」の内容について説明する。5領域の中で「言葉」がどのような意味をもつか、他の領域との関連性も考えながら領域「言葉」について検討する。
3 回	乳児と言葉 日々の生活において子どもはどのように言葉を獲得するのであろうか。乳児期の発達を踏まえながら、子どもと言葉の関わりについて説明する。
4 回	幼児と言葉 幼児期の子どもは多くの言葉を理解できるようになる。子どものイメージや感性を養い育てるために、日々の生活の中でどのように言葉と関わればよいのかを考察する。
5 回	保育と言葉 幼児が言葉を通してどのように自己の世界を広げていくのか、また他者との関わりをもつことができるのかを考察する。保育現場における「言葉による伝え合い」（コミュニケーションとしての機能）について検討する。
6 回	言葉の遊び 言葉のイメージや想像力を養うために、どのような語りかけが子どもにとって良いのかを考察する。言葉のリズムや響きを楽しむための言葉の遊び（しりとり、なぞなぞ）を紹介する。
7 回	童謡について わらべうたと手遊びを通して言葉の響きやリズムを楽しみながら、子どものイメージを豊かなものにするための童謡の役割について考察する。
授 業 回 数 別 教 育 内 容	

8 回	絵本について 絵本は絵と言葉によって成り立つものであるが、幼い子どもにとって絵本はどのような意味をもつのかを考察する。また、保育現場における絵本の役割についても検討する。
9 回	絵本の読み聞かせ（１） 絵本の選び方、持ち方や読み方について具体的に説明する。さまざまな絵本を紹介する。
10 回	絵本の読み聞かせ（２） 絵本を実際に読み聞かせる。学生一人ひとりが読み聞かせの技術を習得する。
11 回	紙芝居（１） 紙芝居について説明する。紙芝居の読み方を中心に説明する。
12 回	紙芝居（２） 紙芝居を実際に読みながら、紙芝居の意義について考察する。学生一人ひとりが紙芝居の技術を習得する。
13 回	ストーリーテリング おはなしを覚えて語るといことはどのようなものであるのかを説明する。
14 回	保育現場における児童文化財の役割 保育現場において児童文化財はどのような役割を果たすのかを説明する。
15 回	まとめ これまでの講義内容を振り返りながら、幼児と言葉の意義について考察する。

令和8年度教育計画							
科目名	幼児と言葉の指導法	授業回数	15	単位数	2	担当教員	馬場結子
質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー等）：baba@owc.ac.jp、OH:							
教育目標と学生の学習成果	教育目標：児童文化財を学ぶことによって言葉の知識や技術を通して子どもを育てることを理解する。 学生の学習成果：絵本を活用した指導案を作成することができる。 専門的学習成果：絵本を活用した保育を展開することができる。 汎用的学習成果：保育の現場で子どもと共におはなしを楽しむことができるように、絵本の活用を通して幼い子どもの心を育てることの意味を考えることができる。						
教育方法	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) この授業は講義であるが、演習も含まれる。絵本を活用した保育の展開について具体的に説明した上で、実際に学生一人ひとりに体験してもらう。また、領域「言葉」に関わる指導計画を作成する。					
	予習・復習	予習事項：多くの絵本を読むこと。絵本のリストを配布する。 復習事項：授業を振り返り、まとめておくこと。					
	テキスト	谷田貝公昭監修 大沢裕編著『言葉』（コンパクト版保育内容シリーズ）					
学習評価の方法	定期試験（50%）、レポート等（50%）で総合的に評価する。 出席率や日頃の学習態度も評価の対象である。 「絵本のワークショップ」や絵本制作による作品も含めて評価する。 また、指導案の作成も評価の対象である。						
注意事項	【参考図書】 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション 「幼児の言葉と指導法」の授業内容について説明する。
2 回	わらべうたと手遊び ～言葉にリズムをのせて～ 保育現場において取り上げられるわらべうたと手遊びを行う。実際に歌うことを通して言葉の響きやリズムを楽しみながら、子どもにとってのわらべうたと手遊びの意味について考察する。
3 回	絵本の読み聞かせ 実際に絵本の読み聞かせを行う。絵本の選び方、持ち方や読み方を習得する。
4 回	絵本のワークショップ（１） １冊の絵本をもとに製作を行う。あらかじめ絵本は提示する。
5 回	絵本のワークショップ（２） １冊の絵本をもとに製作する。絵本は自由に選ぶことができる。
6 回	「おはなし会」の準備（１） 「おはなし会」の構成（手遊び、絵本、紙芝居など）について検討する。時間配分を考えながら「おはなし会」のプログラムを作成する。
7 回	「おはなし会」の準備（２） グループに分けて「おはなし会」の準備を行う。自分が担当するものを決めて練習する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	「おはなし会」の実施 絵本の読み聞かせや紙芝居などの練習の成果を発表する。
9 回	「指導案」の作成（１） 保育の現場における領域「言葉」に関わる指導案の作成について説明する。
10 回	「指導案」の作成（２） 実際に指導案を作成する。指導案は＜導入・展開・まとめ＞の流れに沿って作成する。絵本や紙芝居を素材にした保育を展開する。
11 回	「指導案」の発表 学生一人ひとりが自分で作成した「指導案」について発表する。
12 回	絵本の制作（１） 絵本の制作について説明する。どのように絵本を制作するのか、その手順について説明する。
13 回	絵本の制作（２） 自分でお話を考えて絵本を制作する。
14 回	絵本の制作（３） 完成した絵本を展示・発表する。
15 回	まとめ これまでの授業を振り返り、言葉の指導法の意義について考察する。

令和 8 年 度 教 育 計 画							
科目名	幼児と表現 I	授業回数	15	単位数	1	担当教員	吉田 升
質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー）：nyoshida@owc.ac.jp、月曜日 5 限目							
教育目標と学生の学習成果	教育目標： 本科目は、幼稚園教諭二種免許状取得のための「領域及び保育内容の指導法に関する科目」の一つである。 領域「表現」における幼児の身体表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境構成等の専門的事項について知識を獲得するとともに、効果的な指導を行うための技能及び表現力を身につけることを目標とする。 1. 幼児の身体表現の姿や、その発達を理解する。 2. 基礎的知識・技能を習得し、幼児の身体表現を支えるための感性を豊かにする。 学生の学習成果： ・専門的学習成果として、上記の教育目標を達成できるようにする。 ・汎用的学習成果として、保育者に相応しい「態度・信念」を身につける。						
教育方法	授業の進め方	(講義・ 演習 ・実験・実習・実技) ・作品の振り移しを通してリズム感や表現力のスキルアップを目指すとともに、ソロ・ユニゾン等の形態で発表し、パフォーマンスについて学生相互でモニターを行う。 ・映像や音楽、ピアノ、打楽器等の多彩な音楽提示法を用いることにより、音刺激からもたらされるイメージを広げ、保育現場における指導力の向上を図る。					
	予習・復習	1 回の授業に対する予習および復習の時間はそれぞれ 90 分とする。 予習：提示した内容について十分な予習を行うこと。 復習：学習した内容について十分な復習を行うこと。					
	テキスト	1. 上野奈初美編著・2021 年・「表現指導法 感性を育て、表現の世界を拓く」・萌文書林 ＊補助教材として、DVD やプリントを適宜使用する。					
学習評価の方法	●専門的学習成果 下記 2 点について、「実技試験：80%」によって評価する。 1. 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付け並びに表現を生成する過程について理解するとともに、幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。 2. 様々な表現の基礎的知識・技能を学ぶことを通し、イメージ豊かに表現する楽しさを実感するとともに、他者の表現を受け止め共感し豊かな表現活動に繋げることができる。 ●汎用的学習成果 「態度・信念」：受講中の態度を評価する。(20%)						
注意事項	参考図書等： ・前橋明著・1995 年・「身体表現」・大学教育出版						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	■講義内容 本講義の教育目標と学生の学習成果、教育方法（授業の進め方、予習・復習、テキスト）、学習評価の方法について説明するとともに、シラバスに記載されている各回の講義テーマに沿って幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びについて説くとともに、幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらい及び内容について解説する。 *学習成果：幼稚園教育の基本と領域「表現」のねらい及び内容について理解する。 【予習】シラバスを読み、講義全体の流れを把握する。 【復習】表現遊びについて復習する。
2 回	■講義内容〔領域「表現」のねらい及び内容〕 1) 領域「表現」のねらい及び内容 2) 幼児期の表現の特性 幼児期の表現の特性及び幼児の表現の位置づけについて説くとともに、身体表現の体験を通して幼児の多様な表現の姿及び表現と発達との関係について具体例を示して解説する。 *学習成果：領域「表現」のねらい及び内容と幼児の表現の特性について理解する。 【予習】領域「表現」のねらい及び内容について調べる。 【復習】講義内容における重点項目を復習する。
3 回	■講義内容〔幼児の身体発達と表現〕その1 1) 3歳児の発達特性 2) 3歳児の表現活動の特徴 幼児期（3歳児）の身体発達と表現活動について説くとともに、身体表現の体験を通して幼児期の表現活動の特徴について具体例を示して解説する。 *学習成果：幼児期の発達特性と表現活動の特徴について理解する。 【予習】3歳児の身体発達と表現活動の特徴について調べる。 【復習】講義内容における重点項目を復習する。
4 回	■講義内容〔幼児の身体発達と表現〕その2 1) 4歳児の発達特性 2) 4歳児の表現活動の特徴 幼児期（4歳児）の身体発達と表現活動について説くとともに、身体表現の体験を通して幼児期の表現活動の特徴について具体例を示して解説する。 *学習成果：幼児期の発達特性と表現活動の特徴について理解する。 【予習】4歳児の身体発達と表現活動の特徴について調べる。 【復習】講義内容における重点項目を復習する。
5 回	■講義内容〔幼児の身体発達と表現〕その3 1) 5歳児の発達特性 2) 5歳児の表現活動の特徴 幼児期（5歳児）の身体発達と表現活動について説くとともに、身体表現の体験を通して幼児期の表現活動の特徴について具体例を示して解説する。 *学習成果：幼児期の発達特性と表現活動の特徴について理解する。 【予習】5歳児の身体発達と表現活動の特徴について調べる。 【復習】講義内容における重点項目を復習する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
6 回	■講義内容 [生活の中にある音と表現] 1) 「表現」することの本質 2) 音あそびのための効果的な教材 生活の中にある音の視点から内発的動機づけによって表現することの本質を説くとともに、身体表現の体験を通して幼児期の表現活動の特徴について具体例を示して解説する。 *学習成果：生活の中の音と幼児の表現活動の特徴並びに効果的な教材について理解する。 【予習】生活の中にある音と表現について調べる。 【復習】講義内容における重点項目を復習する。
7 回	■講義内容 [身近なものに触れるということ] 1) 人類の歴史と身近なモノ・生きものへの感性 2) 異質な他者と出会うということ 生活の中にある音の視点から内発的動機づけによって表現することの本質を説くとともに、身体表現の体験を通して幼児期の表現活動の特徴について具体例を示して解説する。 *学習成果：生活の中の音と幼児の表現活動の特徴並びに効果的な教材について理解する。 【予習】身近なものに触れるということについて調べる。 【復習】講義内容における重点項目を復習する。
8 回	■講義内容 [幼児の表現の基礎となるもの] 1) 表現を生成する過程 2) 「表現－理解」関係の構造 幼児が表現を生成する過程について説くとともに、幼児の素朴で豊かな表現の基となる「表現－理解」関係の構造について解説する。 *学習成果：幼児が表現を生成する過程と「表現－理解」関係の構造について理解する。 【予習】幼児の表現を生成する過程について調べる。 【復習】講義内容における重点項目を復習する。
9 回	■講義内容 [幼児の表現を受け止める感性] 1) educate する力 2) 保育者の受容的態度 教育の根幹は educate する力であることを説くとともに、幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することのできる受容的態度の重要性について解説する。 *学習成果：educate する力と保育者の受容的態度の重要性について理解する。 【予習】幼児の表現を受け止める感性について調べる。 【復習】講義内容における重点項目を復習する。
10 回	■講義内容 [多種多様な表現] 1) 表現の多様性 2) 保育者の受容的態度 教育の根幹は educate する力であることを説くとともに、幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することのできる受容的態度の重要性について解説する。 *学習成果：educate する力と保育者の受容的態度の重要性について理解する。 【予習】多種多様な表現について調べる。 【復習】講義内容における重点項目を復習する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
11 回	■講義内容〔身近な素材を用いた表現活動〕 1) 型紙や割り箸、紙皿等を使用した表現遊び 2) ペットボトル等を使用した音を奏でる表現遊び 型紙や割り箸、紙皿、ペットボトル等の身近な素材を用いて行う幼児の表現活動を体験するとともに、多彩な保育教材による幼児表現あそびについて解説する。 ＊学習成果：身近な素材を用いた様々な表現活動や製作方法について理解する。 【予習】身近な素材を用いた表現活動について調べる。 【復習】講義内容における重点項目を復習する。
12 回	■講義内容〔幼稚園における季節や行事の活動と伝承遊び〕 1) 季節や行事の活動 2) 各地の伝統芸能と伝承遊び 幼稚園で行われる季節ごとの行事について説き、各地の伝統芸能や文化財、文化的活動を知るとともに、昔から受け継がれてきた伝承遊びを体験する。 ＊学習成果：幼稚園における季節ごとの行事や伝統芸能、伝承遊びについて理解する。 【予習】幼稚園における季節ごとの行事及び伝承遊びについて調べる。 【復習】講義内容における重点項目を復習する。
13 回	■講義内容〔イメージの共有と再構築〕 1) 様々な表現とイメージの共有 2) パッチワーク方式による創作方法と隊形 幼児が自然や生活、文化を通して湧き上がるイメージを共有することを説き、そのイメージを再構築して表現する過程を体験するとともに、パッチワーク方式について解説する。 ＊学習成果：イメージの共有と再構築並びにパッチワーク方式について理解する。 【予習】イメージの共有と再構築について調べる。 【復習】講義内容における重点項目を復習する。
14 回	■講義内容〔動きの探求〕 その 1 1) グループ練習 2) 手具を用いた表現 幼児の表現のグループ練習を行うことを通して表現することの楽しさを実感する ＊学習成果：表現の楽しさを生み出す要因について理解する。 【予習】グループ発表に向けた練習をする。 【復習】グループで出た意見をまとめ、情報共有する。
15 回	■講義内容〔動きの探求〕 その 2 1) グループ発表（ビデオ撮影） 2) 手具を用いた表現 幼児の表現のグループ発表を行うことを通して、表現の楽しさを生み出す要因についてディスカッションによる分析を行う。 ＊学習成果：表現の楽しさを生み出す手具を用いた表現について理解する。 【予習】グループ発表に向けた練習をする。 【復習】グループ発表の振り返りをする。

令和 8 年 度 教 育 計 画								
科目名	「幼児と表現Ⅰ」の指導法		授業回数	15	単位数	1	担当教員	吉田 升
質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー）：nyoshida@owc.ac.jp、月曜日 5 限目								
教育目標と学生の学習成果	教育目標： 本科目は、幼稚園教諭二種免許状取得のための「領域及び保育内容の指導法に関する科目」の一つである。 領域「表現」は、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことを目指すものである。幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容とともに幼児の発達や学びの過程を理解した上で、具体的な指導場面を想定した保育を構想・展開する方法を身につけることを目標とする。 学生の学習成果： ・専門的学習成果として、上記の教育目標を達成できるようにする。 ・汎用的学習成果として、保育者に相応しい「態度・信念」と「人間関係力」を身につける。							
教育方法	授業の進め方	(講義・ 演習 ・実験・実習・実技) ・実践的指導力の強化を図り、表現遊びの模擬指導を実施し、学生相互でモニターを行う。 ・VTR 撮影・視聴を通して「自己表現力（情報伝達能力）」を客観的に認識すると共に、修正の手掛かりを探り、各々の学習過程におけるフィードバック効果をねらう。 ・音刺激による動きの多様化を具体的に考察するために、生のピアノ演奏を用いる。						
	予習・復習	1 回の授業に対する予習および復習の時間はそれぞれ 90 分とする。 予習：提示した内容について十分な予習を行うこと。 復習：学習した内容について十分な復習を行うこと。						
	テキスト	1. 上野奈初美編著・2021 年・「表現指導法 感性を育て、表現の世界を拓く」・萌文書林 ※補助教材として、DVD やプリントを適宜使用する。						
学習評価の方法	●専門的学習成果 下記 2 点について、「模擬保育：60%」及び「指導案：20%」によって評価する。 1. 領域「表現」のねらい及び内容と指導上の留意点、幼稚園教育における評価の考え方、幼児が経験し身につけていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解する。 2. 幼児の発達や学びの過程、認識・思考、動き、幼児の体験との関連性を考慮し、具体的な指導場面を想定した指導案を基に、ICT を活用して保育を構築する方法を身につける。 ※指導案については、添削しコメントをつけて返却する。 ●汎用的学習成果 「態度・信念」：受講中の態度を評価する。(10%) 「人間関係力」：グループ活動での参加態度を評価する。(10%)							
注意事項	参考図書等： ・前橋明著・1995 年・「身体表現」・大学教育出版							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	■講義内容 本講義の教育目標と学生の学習成果、教育方法（授業の進め方、予習・復習、テキスト）、学習評価の方法について説明するとともに、幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「表現」のねらい及び内容並びに全体構造について説くとともに、幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらい及び内容について解説する。 *学習成果：領域「表現」のねらい及び内容並びに全体構造と保育実践について理解する。 【予習】シラバスを読み、講義全体の流れを把握する。 【復習】講義内容における重点項目をまとめる。
2 回	■講義内容〔領域「表現」のねらい及び内容〕 1) 領域「表現」のねらい及び内容を踏まえた指導上の留意点 2) 幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点 領域「表現」のねらい及び内容を踏まえた指導上の留意点について解説するとともに、幼児の表現に関わる現場の取り組みについて事例を基に考える。 *学習成果：領域「表現」のねらい及び内容並びに全体構造を理解する。 【予習】領域「表現」のねらい及び内容について調べる。 【復習】講義内容における重点項目をまとめる。
3 回	■講義内容〔領域「表現」と小学校の各教科とのつながり〕 1) 領域「表現」において幼児が身につける内容 2) 小学校の各教科等とのつながり 領域「表現」において幼児が経験し身につけていく内容と、小学校の各教科等のつながりについて説き、視聴覚教材などの ICT を用いて具体的な事例を基に考える。 *学習成果：幼児が身につける内容と小学校の各教科等とのつながりについて理解する。 【予習】幼稚園教育における評価の考え方と小学校の各教科とのつながりについて調べる。 【復習】講義内容における重点項目をまとめる。
4 回	■講義内容〔表現遊びにおける幼児の動き〕その1 1) 表現遊びの場面における幼児の身体活動：幼児の動きを想定した体験① 2) 表現遊びの指導の留意点 表現遊びの場面における幼児の身体活動を想定し、実際に体験しながら幼児の多様な動きの視点から捉え、幼児の心情・認識・思考・動き等を視野に入れた指導の留意点を考える。 *学習成果：表現遊びの場面における幼児の動きと指導上の留意点について理解する。 【予習】表現遊びの場面における幼児の身体活動について調べる。 【復習】講義内容における重点項目をまとめる。
5 回	■講義内容〔表現遊びにおける幼児の動き〕その2 1) 表現遊びの場面における幼児の身体活動：幼児の動きを想定した体験② 2) 教師の役割と幼稚園教育における評価の考え方 室内外の生活の場面を想定し、実際に体験しながら幼児の多様な動きの視点から捉えることにより、様々な環境や幼児の動線に配慮した環境構成について考える。 *学習成果：表現遊びの場面における多様な動きと保育構想の留意点について理解する。 【予習】教師の役割と幼稚園教育における評価の考え方について調べる。 【復習】講義内容における重点項目をまとめる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
6 回	■講義内容「模擬保育に向けて」その1 1) 幼児が興味・関心をもつような魅力ある指導案 2) 模擬保育に向けた教材の製作及び意見交換 幼児の発達に即して領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材を活用するとともに、幼児が興味・関心をもつような魅力ある指導案について考える。 ＊学習成果：指導案の作成における留意点について理解する。 【予習】幼児が興味・関心をもつような魅力ある指導案について考える。 【復習】意見交換したことをまとめる。
7 回	■講義内容「模擬保育に向けて」その2 1) 幼児の表現したい気持ちを大切にしたい指導案 2) 模擬保育に向けた教材の製作及び意見交換 幼児の発達に即して領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材を活用するとともに、幼児の表現したい気持ちを大切にしたい指導案について考える。 ＊学習成果：指導案の作成における留意点について理解する。 【予習】幼児の表現したい気持ちを大切にしたい指導案について考える。 【復習】意見交換したことをまとめる。
8 回	■講義内容「模擬保育」その1 1) 幼児の豊かな感性と表現を引き出す 2) 演習：模擬指導とディスカッション 幼児の「豊かな表現」の育みをねらいとした環境構成や言葉かけについて説き、実指導案に沿って模擬保育を行うとともに振り返りを通して保育を改善する視点について考える。 ＊学習成果：表現遊びの展開における要点と模擬指導を通した改善点について理解する。 【予習】模擬保育に向けた製作と練習をする。 【復習】模擬保育において不十分なところを考える。
9 回	■講義内容「模擬保育」その2 1) 幼児の協働性 2) 演習：模擬指導とディスカッション 幼児の「協同性」の育みをねらいとした環境構成や言葉かけについて説き、実指導案に沿って模擬保育を行うとともに、振り返りを通して保育を改善する視点について考える。 ＊学習成果：表現遊びの展開における要点と模擬指導を通した改善点について理解する。 【予習】模擬保育に向けた製作と練習をする。 【復習】模擬保育において不十分なところを考える。
10 回	■講義内容「模擬保育」その3 1) 幼児の言葉による伝え合い 2) 演習：模擬指導とディスカッション 幼児の「言葉による伝え合い」を育む環境構成や言葉かけについて説き、実指導案に沿って模擬保育を行うとともに、振り返りを通して保育を改善する視点について考える。 ＊学習成果：表現遊びの展開における要点と模擬指導を通した改善点について理解する。 【予習】模擬保育に向けた製作と練習をする。 【復習】模擬保育において不十分なところを考える。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
11 回	■講義内容〔生活発表会を想定して〕その1 1) 幼児期の表現の学びと小学校の教科内容 2) オペレッタ制作活動 幼児期の表現の学びには、小学校の音楽科・図画工作科だけでなく、国語や算数等、多教科にわたるつながりがあることを、オペレッタ制作活動を通して具体的に解説する。 ＊学習成果：幼児期の学びと小学校の教科内容との関連性について理解する。 【予習】幼児期の表現の学びと小学校の教科内容について調べる。 【復習】オペレッタについて復習する。
12 回	■講義内容〔生活発表会を想定して〕その2 1) 幼児の協同的かつ創造的な表現と意欲的な取り組みを目指して 2) オペレッタ制作活動 幼児の協同的かつ創造的な表現を育み、幼児が意欲的に表現活動に取り組める工夫について、具体的な取り組みを紹介し、オペレッタ制作活動を通して様々な視点から解説する。 ＊学習成果：幼児期の協同的かつ創造的な表現と意欲的な取り組みについて理解する。 【予習】幼児の協同的かつ創造的な表現と意欲的な取り組みについて考える。 【復習】オペレッタで使用した制作物の確認をする。
13 回	■講義内容〔生活発表会を想定して〕その3 1) オペレッタ制作活動 生活発表会の場面を想定してオペレッタ発表会の練習行う。教え込むのではなく、意欲的に表現活動に取り組めるような指導案の作成と指導について考える。 ＊学習成果：幼児が意欲的に表現活動に取り組めるような指導案について理解する。 【予習】オペレッタの発表に向けた製作と練習をする。 【復習】オペレッタの発表に向けて再確認する。
14 回	■講義内容〔生活発表会を想定して〕その4 1) 実技試験 2) 作品鑑賞と相互評価 生活発表会の場面を想定してオペレッタ発表会を行い、幼児のやる気を引き出すことのできるような指導案の作成と指導について考える。 ＊学習成果：幼児が意欲的に表現活動に取り組めるような指導案について理解する。 【予習】オペレッタ発表に向けた製作と練習をする。 【復習】オペレッタについて振り返りをする。
15 回	■講義内容〔幼児期の終わりまでに育ってほしい姿〕 1) 領域「表現」と「豊かな感性と表現」の関連 2) 模擬保育の振り返り 「幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿」について、領域「表現」と「豊かな感性と表現」の関連以外の姿についても、他領域との関連も含めて考える。 ＊学習成果：領域「表現」と関係の深い幼児の姿と他領域との関連性について理解する。 【予習】「豊かな感性と表現」について調べる。 【復習】保育現場において他領域と領域「表現」がどのように関連するかについて復習する。

令和 8 年 度 教 育 計 画							
科目名	幼児と表現Ⅱ	授業回数	15	単位数	1	担当教員	佐藤 尚宏
質問受付：E 棟 105 研究室にて(水曜・金曜の在室時)				e-mail： t_sato@owc.ac.jp			
教育目標と学生の学習成果	教育目標：いろいろな題材の楽しみ方 Society5.0 時代に求められる教師の指導力に「好奇心や探究心を引き出す力」「試行錯誤しチャレンジする環境づくりの力」「発想のひらめきや連想による創造を促す力」などがある。 この授業では前 2／3 で造形表現活動の題材（素材・技法・技能・用具）をインターネットで調査し、その内容を年齢に合わせ取捨選択する要点について体験的に学ぶ。また後 1／3 では造形表現における技能のスキルアップ課題に取り組み体験的に学ぶ。 1．題材をインターネットで調査し、題材の特性・楽しさ・面白さを理解する方法を学ぶ。 2．制作において必要な技能・技法・用具の使い方などを体験的に学ぶ。 3．上記 2 つから、幼児の造形活動に適切な環境を設定し支援する視点を体験的に学ぶ。 学生の学習成果： 専門的学習成果として、教育目標に掲げる 3 項目を習得する。 また汎用的学習成果として、①他者の活動を見守り共に楽しむ姿勢や視点など、幼児を指導・援助する価値・意見を形成し、②他者の主体性を引き出す関わりを意識したコミュニケーションなど、保育者としての具体的な態度を身に付け・信念を涵養する。						
	教育方法	授業の進め方	(講義・ 演習 ・実験・実習・実技) ① 題材についてインターネットで調査しレポートにまとめる。 ② 題材の演習を通じて、幼児向きにどの点を取捨選択すべきか体験的に学ぶ。 ③ ②でわかったことを、①のレポートに加筆・修正する。 ＊準備と片付けまでを含めて授業内容とする。				
		予習・復習	・汚れてもいい服装、制作の邪魔にならない服装と髪型に留意すること。 ・時間内でレポートが完成しなかった場合は次回までに完成させること。 ・各題材についてのふりかえりを欠かさず行い学習の深化を図る。				
		テキスト					
	学習評価の方法	以下の 3 つの学習成果について毎回の制作の様子・作品の出来映え・ふりかえり記録によって評価する。評価は 100 点満点とし、評価割合は以下の①～②80%、④220%とする。 ① 題材についてインターネットで調査し、レポートにまとめることができているか。 もしくはテーマに沿って的確な作品制作を行うことができているか。（自己表現ではない） ② 題材の演習を通じて、幼児向けの視点からレポートに加筆・修正を行えているか。 もしくはテーマの理解を深め、再制作を行えているか。 ③ 幼児を指導・援助する価値・意見を形成し、保育者としての具体的な態度を身に付け・信念を涵養できているか。（掃除、片付けを含む） 専門的学習成果は上記①～②、汎用的学習成果は③に該当する。					
注意事項							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	【オリエンテーション「幼児期における表現とは何か」】 ▶本時の目標：この科目の学修内容についての視点と期待される取り組み姿勢を理解する。 ▶本時の活動：講義とワークショップにより「幼児期における表現」について考察する。 ▶本時の学習成果：幼児期の育ちにおける造形表現の役割と意義がわかる。 ▶予習と復習：授業内容のまとめと自分の考えをまとめる。(1 時間以上) *課題のフィードバック：次回このレポートを使って振り返りを行う。確認をした後返却。
2 回	【題材① 折り染め(1)】 ▶本時の目標：制作方法を調べ、試作を通して必要な技法・技能を体験的に学ぶ。 ▶本時の活動：「折り染」の制作について調べ、10 点程試作を行い、情報の吟味を行う。 ▶本時の学習成果：「折り染」の技法を知り、試作を通してネット情報の優劣を体験する。 ▶予習と復習：ふりかえり記録をスケッチブックにまとめる。(1 時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめを使ったふりかえり時に行う。
3 回	【題材① 折り染め(2)】 ▶本時の目標：制作方法で出来映えが変わることを理解し、年齢に合わせた提供方法を考える。 ▶本時の活動：専門性の高い制作方法の調べ方のコツを知り、その方法で再度制作する。 ▶本時の学習成果：専門性の高い方法を知ること、出来映えが変わることを知る。 ▶予習と復習：ふりかえり記録をスケッチブックにまとめる。(1 時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめを使ったふりかえり時に行う。
4 回	【題材② ステンシル (1)】 ▶本時の目標：制作方法を調べ、試作を通して必要な技法・技能を体験的に学ぶ。 ▶本時の活動：ステンシルの制作について調べ、10 点程試作を行い、情報の吟味を行う。 ▶本時の学習成果：技法を知り、試作を通してネット情報の優劣を体験する。 ▶予習と復習：ふりかえり記録をスケッチブックにまとめる。(1 時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめを使ったふりかえり時に行う。
5 回	【題材② ステンシル (2)】 ▶本時の目標：制作方法で出来映えが変わることを理解し、年齢に合わせた提供方法を考える。 ▶本時の活動：専門性の高い制作方法を調べ、その方法で再度制作する。 ▶本時の学習成果：専門性の高い方法などの情報を選ぶことで出来映えが変わることを知る。 ▶予習と復習：ふりかえり記録をスケッチブックにまとめる。(1 時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめを使ったふりかえり時に行う。
6 回	【題材③ スチレン版画 (1)】 ▶本時の目標：制作方法を調べ、試作を通して必要な技法・技能を体験的に学ぶ。 ▶本時の活動：制作について調べ、5 点程試作を行い、情報の吟味を行う。 ▶本時の学習成果：技法を知り、試作を通してネット情報の優劣を体験する。 ▶予習と復習：ふりかえり記録をスケッチブックにまとめる。(1 時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめを使ったふりかえり時に行う。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
7 回	【題材③ スチレン版画（２）】 ▶本時の目標：制作方法で出来映えが変わることを理解し、年齢に合わせた提供方法を考える。 ▶本時の活動：専門性の高い制作方法の調べ方のコツを知り、その方法で再度制作する。 ▶本時の学習成果：専門性の高い方法を知ること、出来映えが変わることを知る。 ▶予習と復習：ふりかえり記録をスケッチブックにまとめる。（１時間以上） ＊課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめを使ったふりかえり時に行う。
8 回	【題材④ 小麦粉粘土（１）】 ▶本時の目標：小麦粉粘土のつくり方を調べ、試作を通して必要な技法・技能を体験的に学ぶ。 ▶本時の活動：小麦粉粘土作りを通して、必要な知識や技能を体験的に学ぶ。 ▶本時の学習成果：情報の調べ方、小麦粉粘土のつくり方がわかる。 ▶予習と復習：ふりかえり記録をスケッチブックにまとめる。（１時間以上） ＊課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめを使ったふりかえり時に行う。
9 回	【題材④ 小麦粉粘土（２）】 ▶本時の目標：粘土で必要な技（動作）＝技能を体験的に学ぶ。 ▶本時の活動：粘土あそび（パン作り等）を通して様々な技能を試行錯誤する。 ▶本時の学習成果：粘土で多様な形をつくり出すのに必要な技法がわかる。 ▶予習と復習：ふりかえり記録をスケッチブックにまとめる。（１時間以上） ＊課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめを使ったふりかえり時に行う。
10 回	【スキルアップ課題① 線の表情と表現】 ▶本時の目標：「動き・音・味・匂い」などの感覚を線の表情で表す技を体験的に学ぶ。 ▶本時の活動：様々なテーマに合わせた線描を試行錯誤し、ふりかえり記録を行う。 ▶本時の学習成果：線による表現に必要な技能や基本的な造形言語が体験的にわかる。 ▶予習と復習：ふりかえり記録をスケッチブックにまとめる。（１時間以上） ＊課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめを使ったふりかえり時に行う。
11 回	【スキルアップ課題② 色の表情と表現】 ▶本時の目標：「動き・音・味・匂い」などの感覚を線の表情で表す技を体験的に学ぶ。 ▶本時の活動：様々なテーマに合わせた色の表現を試行錯誤し、ふりかえり記録を行う。 ▶本時の学習成果：色による表現に必要な技能や基本的な造形言語が体験的にわかる。 ▶予習と復習：ふりかえり記録をスケッチブックにまとめる。（１時間以上） ＊課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめを使ったふりかえり時に行う。
12 回	【スキルアップ課題③ 紙の加工と表現】 ▶本時の目標：様々な形をつくるための加工方法を体験的に学ぶ。 ▶本時の活動：様々な加工方法を試した後、ふりかえり記録を行う。 ▶本時の学習成果：紙による表現に必要な技能や基本的な造形言語が体験的にわかる。 ▶予習と復習：ふりかえり記録をスケッチブックにまとめる。（１時間以上） ＊課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめを使ったふりかえり時に行う。

13 回	【スキルアップ課題④ マカロニリース】 ▶本時の目標：美しいマカロニリースを作るために必要な技＝技法・技能を体験的に学ぶ。 ▶本時の活動：マカロニリースを制作し、ふりかえり記録を行う。 ▶本時の学習成果：配置・構成の「美」を見つけ出し、技術的な課題がわかる。 ▶予習と復習：ふりかえり記録をスケッチブックにまとめる。(1 時間以上) ＊課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめを使ったふりかえり時に行う。
14 回	スキルアップ課題⑤ 雪の結晶づくり】 ▶本時の目標：グルーガンの技＝技法・技能を体験的に学ぶ。 ▶本時の活動：雪の結晶を制作しひとつの画面にまとめ、ふりかえり記録を行う。 ▶本時の学習成果：配置・構成の「美」を見つけ出し、技術的な課題がわかる。 ▶予習と復習：ふりかえり記録をスケッチブックにまとめる。(1 時間以上) ＊課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめを使ったふりかえり時に行う。
15 回	【まとめ こどもの遊びと造形表現の関係ー素材と技法の視点も交えて】 ▶本時の目標：発達に必要不可欠な「遊び」と「造形表現（図画工作）」の共通点がわかる。 遊びとしての造形表現での素材と技法の関係がわかる。 ▶本時の活動：テーマについてワークショップによりグループごとに考察し発表・共有する。 ▶本時の学習成果：「遊び」における「造形表現（図画工作）」の役割・関係がわかる。 ▶予習と復習：発表資料を参考にしてレポートを提出。(1 時間以上)

令和 8 年 度 教 育 計 画								
科目名	「幼児と表現Ⅱ」の指導法		授業回数	15	単位数	1	担当教員	佐藤尚宏
質問受付：0H E 棟 105 研究室（水・金の在室時）				e-mail： t_sato@owc.ac.jp				
教育目標と学生の学習成果	教育目標:活動のつくり方を学ぶ 幼児のより豊かな造形表現に必要な指導・援助の基礎知識と実践方法の習得を目指す。 1. 間接援助:素材・用具・場等「環境を整える力」について講義と演習により学ぶ。 2. 直接援助:表現に誘い興味を持たせ「主体性を引き出す力」について講義と演習により学ぶ。 3. 指導計画:よりよい造形表現活動を「計画する力」を学ぶ。 学生の学習成果: 専門的学習成果:上記教育目標に掲げる 3 項目を習得する。 汎用的学習成果:①保育者としての態度・信念の形成に自助努力し②幼児を指導するのにふさわしい価値の基準と判断力を備え、適正な意見をもつ姿勢を涵養する。 【実務家教員としての本科目との関連】 ・現在こども園・保育園にて年間 110 日程の絵画指導を行っており、幼児の姿や対応について具体的な指導が可能。 ・過去に美術系進学予備校にて 15 年勤務経験があり、造形表現全般の技能指導が可能。							
	授業の進め方	(講義・ <u>演習</u> ・実験・実習・実技) ① 講義：学習の要点について教員が説明・実演する。 ② グループに分かれて、先生の立場から演習する。 ③ 演習での学習成果をレポートにまとめる。 ④ 先生としての指導計画を立案する。						
教育方法	予習・復習	★汚れてもいい服装、制作の邪魔にならない服装と髪型に留意すること★ 予習事項：事前指示に従い題材の下調べを行うこと。（30 分程度） 復習事項：課題が完成しなかった場合は次回までに課題を完成させること。 作品写真、題材の特徴、気づき等をスケッチブックにまとめること。（1 時間程度）						
	テキスト	無し						
学習評価の方法	以下の 3 つの学習成果について、課題へ取り組む様子・模擬保育や指導案、及び授業最終回のレポートによって評価する。評価は 100 点満点とし、評価割合は以下の①～③90%、④10%とする。 ① 「計画する力」活動が豊かになる導入に効果的な「しかけ」を設定できる。 ② 「かかわる力」活動が豊かになる指導・援助に効果的な「やりとり」ができる。 ③ 「環境を設定する力」活動が円滑に進む素材・用具の「しこみ」ができる。 ④ より豊かな造形表現に必要な指導・援助の基礎知識と方法について要点を理解しまとめる事ができる。							
注意事項								

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	【オリエンテーション&講義 1 「造形表現活動のつくり方」】 ▶本時の目標:この科目の学修内容についての視点と期待される取り組み姿勢を理解する。 ▶本時の活動:講義により「造形表現のつくり方」に必要な基礎知識と授業の内容を理解する。 ▶本時の学習成果:造形表現の指導計画づくりに必要な視点と方法がわかる。 ▶予習と復習:授業内容について自分の考えをレポートにまとめる。(1 時間以上) *課題のフィードバック:次回このレポートを使って振り返りを行う。確認をした後返却。
2 回	【授業体験 1 にじのはし:適切な活動事例】 ▶本時の目標:適切な模擬保育を通じ、適切な活動づくりを体験的に学ぶ。 ▶本時の活動:適切な模擬保育の体験と前回は比較し、適切な活動作りを学習する。 ▶本時の学習成果:活動にストーリーとファンタジーを使い、やりたい気持ちに誘う方法がわかる。 ▶予習と復習:ふりかえり記録として今回の模擬保育をシナリオにする。(1 時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめを使ったふりかえり時に行う。
3 回	【授業体験2 にじのはし:不適切な活動事例】 ▶本時の目標:模擬保育体験を通じ、不適切な活動を体験的に学ぶ。 ▶本時の活動:不適切な指導による模擬保育を体験し、やってはいけない活動を学習する。 ▶本時の学習成果:不適切な活動計画、かかわり方、環境構成が体験的にわかる。 ▶予習と復習:ふりかえり記録をまとめること。自分なりの活動計画作成(1 時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめを使ったふりかえり時に行う。
4 回	【講義2 直接援助の基本と導入について】 ▶本時の目標:導入の意義と流れ、注意点を学習する。 ▶本時の活動:講義により導入の意義と流れ、注意点を学習し、レポートにまとめる。 ▶本時の学習成果:導入の意義と流れ、注意点についての概要がわかる。 ▶予習と復習:「野菜スタンプであそぼう」の実践練習のシナリオを作る。(1 時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめを使ったふりかえり時に行う。
5 回	【演習 1 「野菜スタンプであそぼう」】 ▶本時の目標:導入の意義を実際の活動に活かす要点が体感的にわかる。 ▶本時の活動:グループごとに導入部分の模擬保育を演習する。 ▶本時の学習成果:講義内容と実践の要点がつながり理解が深まる。 ▶予習と復習:「カラスのパン屋さん」の導入シナリオを作成。(1 時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめを使ったふりかえり時に行う。
6 回	【演習 2 「からすのパン屋さんー粘土でパン作り」】 ▶本時の目標:導入の意義を実際の活動に活かす要点が体感的にわかる。 ▶本時の活動:グループごとに導入部分の模擬保育を演習する。 ▶本時の学習成果:講義内容と実践の要点がつながり理解が深まる。 ▶予習と復習:「デカルコマニー」の導入シナリオを作成。(1 時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめを使ったふりかえり時に行う。
7 回	【演習 3 「デカルコマニー」であそぼう】 ▶本時の目標:導入の意義を実際の活動に活かす要点が体感的にわかる。 ▶本時の活動:グループごとに導入部分の模擬保育を演習する。 ▶本時の学習成果:講義内容と実践の要点がつながり理解が深まる。 ▶予習と復習:演習 1～3 の学習成果をまとめる。(1 時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめを使ったふりかえり時に行う。

授業回数別教育内容	
8 回	【講義3 活動中の関わりの基本について】 ▶本時の目標:活動中の関わりの意義と注意点を学習する。 ▶本時の活動:講義により活動中の関わりの意義と注意点を学習し、レポートにまとめる。 ▶本時の学習成果:活動中の関わりの意義と注意点についての概要がわかる。 ▶予習と復習:「野菜スタンプであそぼう」の実践練習のシナリオを作る。(1 時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめを使ったふりかえり時に行う。
9 回	【演習4 環境を整える① 折り染めー物品をどう配置するのか?】 ▶本時の目標:環境を整えるポイントを体験的に学ぶ。 ▶本時の活動:グループごとに制作環境を準備し、よりよい環境を探る。 ▶本時の学習成果:幼児の身体の高さや技能に配慮する視点が体験的にわかる。 ▶予習と復習:ふりかえり記録をまとめる。(1 時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめを使ったふりかえり時に行う。
10 回	【演習5 環境を整える② ステンシルー物品をどう準備するのか?】 ▶本時の目標:環境を整えるポイントを体験的に学ぶ。 ▶本時の活動:グループごとに制作環境を準備し、よりよい環境を探る。 ▶本時の学習成果:材料の特徴に合わせて配慮する視点が体験的にわかる。 ▶予習と復習:ふりかえり記録をまとめる。(1 時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめを使ったふりかえり時に行う。
11 回	【演習5 環境を整える③ 折り紙と壁面構成ー展示方法と共同制作】 ▶本時の目標:環境を整えるポイントを体験的に学ぶ。 ▶本時の活動:グループごとに制作環境を準備し、よりよい環境を探る。 ▶本時の学習成果:材料の特徴に合わせて配慮する視点が体験的にわかる。 ▶予習と復習:ふりかえり記録をまとめる。(1 時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめを使ったふりかえり時に行う。
12 回	【演習6 環境を整える④ ゆびえのぐー制限を減らす工夫】 ▶本時の目標:環境を整えるポイントを体験的に学ぶ。 ▶本時の活動:グループごとに制作環境を準備し、よりよい環境を探る。 ▶本時の学習成果:材料の特徴に合わせて配慮する視点が体験的にわかる。 ▶予習と復習:ふりかえり記録をまとめる。(1 時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめを使ったふりかえり時に行う。
13 回	【自分で活動をつくろう ①題材を選ぼう】 ▶本時の目標:自分なりの造形表現活動を計画する。 ▶本時の活動:自分で題材を選び、造形表現活動の計画を立案する。 ▶本時の学習成果:より豊かな表現活動を自分たちなりに計画することができる。 ▶予習と復習:題材の候補を探しておく。(1 時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、および指導案へのコメントにて行う。
14 回	【自分で活動をつくろう ②教材研究をしよう】 ▶本時の目標:教材研究を通して計画の改善と物品の準備を行う。 ▶本時の活動:選んだ題材の教材研究を行い、物品の準備や計画の改善を行う。 ▶本時の学習成果:教材研究の大切さと効果がわかる。 ▶予習と復習:教材研究でわかったことを j 活動計画に反映させること。(1 時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、および指導案へのコメントにて行う。
15 回	【自分で活動をつくろう ③簡単な模擬保育演習と計画の改善】 ▶本時の目標:自分なりの造形表現活動をつくりあげる。 ▶本時の活動:グループ毎に簡単な模擬保育を行い計画を改善する。 ▶本時の学習成果:より豊かな表現活動を自分たちなりに作り上げることができる。 ▶予習と復習:模擬保育での気づきを反映させて最終的な活動計画を提出すること。(1 時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、および指導案へのコメントにて行う。

令和 8 年 度 教 育 計 画							
科目名	幼児と音楽Ⅰ（A）	授業回数	15	単位数	1	担当教員	河原 真理、他
質問受付の方法		オフィスアワー：在室時何時でも可			シャトルカード		
教育目標と学生の学習成果	教育目標： 幼児教育現場に即した実践的音楽表現力・指導力を修得するため、以下の3項目を目標として <u>積極的に適切な予習・復習の練習を積み重ねる事が大前提であることを学ぶ。</u> 1. ピアノ演奏に関する基本的な知識・技能を理解・修得する。 2. ピアノ演奏に必要な練習の方法を理解・修得し、練習を積み重ねた成果を実感する。 3. ピアノ演奏を通して音楽活動の楽しさを体験し、仲間と上達の喜びを共有する。 学生の学習成果： ・専門的学習成果：上記教育目標の3項目を修得するため、2年間の幼児と音楽ⅠA・B・C・Dの段階を追って自主的・自立的・意欲的に合理的な練習を積み重ね、練習の成果として基礎力を身につける。 ・汎用的学習成果：幼児と音楽Ⅰの2年間を通した継続的な学びと努力で、社会人・保育者としてのモラルや責任を信念を持って果たすために必要な自己管理能力・コミュニケーション能力を身につける。						
	授業の進め方	(講義・ <u>演習</u> ・実験・実習・実技) ・適切な練習を積み重ねてきた課題曲をピアノ技能に応じて個人レッスンし、具体的・客観的にアドバイスし、シャトルカードでフィードバックすることで、レベルアップへの具体的な自主練習の方法を伝える。 ・適切な練習を積み重ねてきた課題曲を人前で演奏し聴き合うことで、社会人に求められる態度や責任感を獲得することを課す。					
教育方法	予習・復習	予習：シラバスに沿って必ず予習・練習することを課す。 復習：シラバスに沿って必ず復習・練習することを課す。 ※予習・復習は次回の授業までに少なくとも合計3時間以上の練習を求める。 ※練習時間は自己評価（フィードバック）のため毎回シャトルカードの指定の場所に記入し提出する。 ※授業時間内でマスターできなかった課題曲は予習・復習することを課す。					
	テキスト	「全訳ハノンピアノ教本」全音楽譜出版社 「指づかいつきバイエルピアノ教本」木村ケイ編 全音楽譜出版社 「ツェルニー100番・30番・40番」全音楽譜出版社					
学習評価の方法	① 専門的学習成果 ・各人の予習・復習による学習成果						

注 意 事 項	参考図書等：岡山短期大学ピアノ練習用 YouTube 動画を参考に指使いを楽譜通り正確に練習すること。 ※遅刻・早退の際には入室時・退室時必ず担当教員に報告し、時刻の確認をすること。 (遅刻・早退が 20 分以上は欠席となるため)
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	〈オリエンテーション〉 ・幼児と音楽Ⅰ(A)授業の進め方・スケジュール・学習方法・評価の方法について説明する。 ・担当分けをし、各担当別に各人の課題・練習方法・準備を確認する。 学習成果：ピアノ実演技術の向上、社会人として責任を果たすための方法を理解する。 予習・復習：ハノン No. 1～5 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を必ず練習する。 ※ 予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
2 回	〈読譜・演奏するために必要なソルフエージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ・ハノン No. 1～5：共通課題曲を個人レッスンする。 ・バイエル・ツェルニー：各人の課題曲を個人レッスンする。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：ハノン No. 1～5 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を必ず練習する。 復習：ハノン No. 1～5 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を必ず練習・暗譜する。 ※ 予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
3 回	〈読譜・演奏するために必要なソルフエージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ・ハノン No. 1～5：共通課題曲を個人レッスンする。 ・バイエル・ツェルニー：各人の課題曲を個人レッスンする。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：ハノン No. 1～5 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を必ず練習する。 復習：ハノン No. 1～5 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を必ず練習・暗譜する。 ※ 予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
4 回	〈読譜・演奏するために必要なソルフエージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ・ハノン No. 1～5：共通課題曲を個人レッスンする。 ・バイエル・ツェルニー：各人の課題曲を個人レッスンする。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：ハノン No. 1～5 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を必ず練習する。 復習：ハノン No. 1～5 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を必ず練習・暗譜する。 ※ 予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
5 回	〈読譜・演奏するために必要なソルフエージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ・ハノン No. 1～5：共通課題曲を個人レッスンする。 ・バイエル・ツェルニー：各人の課題曲を個人レッスンする。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：ハノン No. 1～5 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を必ず練習する。 復習：ハノン No. 1～5 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を必ず練習・暗譜する。 ※ 予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。

6 回	〈読譜・演奏するために必要なソルフエージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ・ハノン No. 1～5：共通課題曲を個人レッスンする。 ・バイエル・ツェルニー：各人の課題曲を個人レッスンする。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：ハノン No. 1～5 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を必ず練習する。 復習：ハノン No. 1～5 を暗譜で実演できるよう必ず練習して人前実演に備える。 ※ 予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
7 回	〈ハノン第 1 回目人前実演〉 ・共通課題曲 (No. 1～No. 5) から当日 1 曲指定した曲を暗譜で正確に演奏する。 学習成果：人前で暗譜で演奏することに慣れ、適切な練習の必要性を実感する。 予習：ハノン No. 6～10 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を必ず練習する。 復習：ハノン No. 1～5 を指の練習に応用して練習開始時に毎回弾く。 ※ 予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	〈読譜・演奏するために必要なソルフエージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ・ハノン No. 6～10：共通課題曲を個人レッスンする。 ・バイエル・ツェルニー：各人の課題曲を個人レッスンする。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：ハノン No. 6～10 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を必ず練習する。 復習：ハノン No. 6～10 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を必ず練習・暗譜する。 ※ 予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
9 回	〈読譜・演奏するために必要なソルフエージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ・ハノン No. 6～10：共通課題曲を個人レッスンする。 ・バイエル・ツェルニー：各人の課題曲を個人レッスンする。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：ハノン No. 6～10 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を必ず練習する。 復習：ハノン No. 6～10 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を必ず練習・暗譜する。 ※ 予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
10 回	〈読譜・演奏するために必要なソルフエージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ・ハノン No. 6～10：共通課題曲を個人レッスンする。 ・バイエル・ツェルニー：各人の課題曲を個人レッスンする。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：ハノン No. 6～10 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を必ず練習する。 復習：ハノン No. 6～10 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を必ず練習・暗譜する。 ※ 予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。

11 回	〈読譜・演奏するために必要なソルフエージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ・ハノン No. 6～10：共通課題曲を個人レッスンする。 ・バイエル・ツェルニー：各人の課題曲を個人レッスンする。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：ハノン No. 6～10 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を必ず練習する。 復習：ハノン No. 6～10 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を必ず練習・暗譜する。 ※ 予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
12 回	〈読譜・演奏するために必要なソルフエージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ・ハノン No. 6～10：共通課題曲を個人レッスンする。 ・バイエル・ツェルニー：各人の課題曲を個人レッスンする。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：ハノン No. 6～10 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を必ず練習・暗譜する。 復習：ハノン No. 6～10 を暗譜で実演できるよう必ず練習して人前実演に備える。 ※ 予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
13 回	〈ハノン第 2 回目人前実演〉 ・共通課題曲 (No. 6～No. 10) から当日 1 曲指定した曲を暗譜で正確に演奏する。 学習成果：人前で暗譜で演奏することに慣れ、適切な練習の必要性を実感する。 予習：バイエル・ツェルニーから各人の課題曲を必ず練習・暗譜する。 復習：ハノン No. 1～No. 10 を指の練習に応用して練習開始時に毎回弾く。 ※ 予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
14 回	〈読譜・演奏するために必要なソルフエージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ・バイエル・ツェルニー：各人の課題曲を個人レッスンする。 学習成果：人前で暗譜で演奏するために必要な練習の成果を精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：バイエル・ツェルニーから各人の課題曲を暗譜で実演できるよう必ず練習して人前実演に備える。 復習：ハノン No. 1～No. 10 を指の練習に応用して練習開始時に毎回弾く。 ※ 予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
15 回	〈自由曲人前実演〉 ・自由曲（バイエル・ツェルニー）から各人の課題曲を暗譜で正確に演奏する。 学習成果：人前で演奏することに慣れ、適切な練習の必要性を実感する。 予習：夏休み弾き歌い課題曲①「おおきなたいこ」②「むすんでひらいて」を夏休み明けの幼児と音楽 I (B) 1 回目授業時に 2 曲とも暗譜で弾き歌いできるよう必ず練習を積み重ねる。 復習：ハノン No. 1～No. 10 を指の練習に応用して練習開始時に毎回弾く。 ※ 予習・復習の練習時間は休暇中も 1 週間に 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。

令和 8 年 度 教 育 計 画							
科目名	幼児と音楽Ⅰ（B）	授業回数	15	単位数	1	担当教員	河原 真理、他
質問受付の方法 オフィスアワー：在室時何時でも可 シャトルカード							
教育目標と学生の学習成果	教育目標： 幼児教育現場に即した実践的音楽表現力・指導力を修得するため、以下の4項目を目標として <u>積極的に適切な予習・復習の練習を積み重ねる事が大前提であることを学ぶ。</u> 1. ピアノ演奏に関する基本的な知識・技能を理解・修得する。 2. ピアノ演奏に必要な練習の方法を理解・修得する。 3. 童謡弾き歌いに関する基本的な知識・技術を理解・修得する。 4. ピアノ演奏・弾き歌い演奏を通して音楽活動の楽しさを体験し、仲間と上達の喜びを共有する。 学生の学習成果： ・専門的学習成果：上記教育目標の4項目を修得するため、2年間の幼児と音楽ⅠA・B・C・Dの段階を追って自主的・自立的・意欲的に合理的な練習を積み重ね、練習の成果として基礎力を身につけ表現する喜びを実感する。 ・汎用的学習成果：幼児と音楽Ⅰの2年間を通じた継続的な学びと努力で、社会人・保育者としてのモラルや責任を信念を持って果たすために必要な自己管理能力・コミュニケーション能力を身につける。						
	授業の進め方	(講義・ <u>演習</u> ・実験・実習・実技) ・ <u>適切な練習を積み重ねてきた課題曲をピアノ技能に応じて個人レッスンし、具体的・客観的にアドバイスし、シャトルカードでフィードバックすることで、レベルアップへの具体的な自主練習の方法を伝える。</u> ・ <u>適切な練習を積み重ねてきた課題曲を人前で演奏し聴き合うことで、社会人に求められる態度や責任感を獲得することを課す。</u>					
教育方法	予習・復習	予習：シラバスに沿って必ず予習・練習することを課す。 復習：シラバスに沿って必ず復習・練習することを課す。 ※予習・復習は、次回の授業までに少なくとも合計3時間以上の練習を求める。※練習時間は自己評価（フィードバック）のため毎回シャトルカードの指定の場所に記入し提出する。※授業時間内でマスターできなかった課題曲は予習・復習することを課す。					
	テキスト	「指づかいつきバイエルピアノ教本」木村ケイ編 全音楽譜出版社 「ブルグミュラー25の練習曲」「ソナチネアルバム1・2」 全音楽譜出版社 「保育ソング」明治図書出版社 「こどものうた200」チャイルド社					
学習評価の方法	① 専門的学習成果 ・各人の予習・復習による学習成果						

注 意 事 項	参考図書等：岡山短期大学ピアノ練習用 YouTube 動画を参考に指使いを楽譜通り正確に練習すること。 ※遅刻・早退の際には入室時・退室時必ず担当教員に報告し、時刻の確認をすること。 (遅刻・早退が 20 分以上は欠席となるため)
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	〈オリエンテーション〉 ・幼児と音楽Ⅰ(B)授業の進め方・スケジュール・学習方法・評価の方法について説明する。 〈実演〉 ・夏休み課題曲①おおきなたいこ②むすんでひらいてを2曲とも暗譜で弾き歌い演奏する。 学習成果：人前で暗譜で弾き歌い演奏することに慣れ、適切な練習の必要性を実感する。 予習：③おおきなくりの木のしたで④おかたづけ（共通弾き歌い課題曲）を必ず練習する。 バイエル・ブルグミュラー・ソナチネから各人の技能に合わせた課題曲（自由曲）を必ず練習する。 復習：実演した曲の問題点を必ず練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計3時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
2 回	〈読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ③おおきなくりの木のしたで④おかたづけ・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：③おおきなくりの木のしたで④おかたづけを暗譜する。・自由曲を必ず練習する。 復習：③おおきなくりの木のしたで④おかたづけを正確に弾き歌いできるよう、丁寧に練習する。：各自の自由曲を丁寧に正確に練習する。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計3時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
3 回	〈童謡弾き歌い課題曲2曲人前実演 及び個人レッスン授業〉 ③おおきなくりの木のしたで④おかたづけを暗譜で弾き歌い演奏する。⑤いとまき⑥チューリップ・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：⑤いとまき⑥チューリップ・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：弾き歌い課題曲③④の問題点と自由曲を丁寧に正確に練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計3時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
4 回	〈読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ⑤いとまき⑥チューリップ・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：⑤いとまき⑥チューリップを暗譜する。・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：⑤いとまき⑥チューリップを正確に弾き歌いできるよう、丁寧に練習する。：各自の自由曲を丁寧に正確に練習する。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計3時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。

5 回	〈童謡弾き歌い課題曲 2 曲人前実演 及び個人レッスン授業〉 ⑤いとまき⑥チューリップ を暗譜で弾き歌い演奏する。⑦あくしゅでこんにちは 2⑧あいさつのうた・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：人前で暗譜で弾き歌い演奏することに慣れ、教育実習に備える。 予習：⑦あくしゅでこんにちは 2 ⑧あいさつのうた・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：弾き歌い課題曲⑤⑥の問題点と自由曲を丁寧に正確に練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
6 回	〈読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ⑦あくしゅでこんにちは 2 ⑧あいさつのうた・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：⑦あくしゅでこんにちは 2⑧あいさつのうたを暗譜する。・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：⑦あくしゅでこんにちは 2 ⑧あいさつのうた・自由曲を丁寧に正確に練習する。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
7 回	〈童謡弾き歌い課題曲 2 曲人前実演 及び個人レッスン授業〉 ⑦あくしゅでこんにちは 2 ⑧あいさつのうたを暗譜で弾き歌い演奏する。⑨おててをあらいましょう⑩ぶんぶんぶん・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：⑨おててをあらいましょう⑩ぶんぶんぶん・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：弾き歌い課題曲⑦⑧の問題点と自由曲を丁寧に正確に練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
8 回	〈読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ⑨おててをあらいましょう⑩ぶんぶんぶん・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：練習・準備してきたことを精一杯発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：⑨おててをあらいましょう⑩ぶんぶんぶんを暗譜する。・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：⑨おててをあらいましょう⑩ぶんぶんぶん・自由曲を丁寧に正確に練習する。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
9 回	〈童謡弾き歌い課題曲 2 曲人前実演 及び個人レッスン授業〉 ⑨おててをあらいましょう⑩ぶんぶんぶん を暗譜で弾き歌い演奏する。 ⑪こぎつね⑫ごあいさつ・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：人前で暗譜で弾き歌いすることに慣れ、教育実習に備える。 予習：⑪こぎつね⑫ごあいさつ・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：弾き歌い課題曲⑨⑩の問題点と自由曲を丁寧に正確に練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。

10 回	<読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する> ⑪こぎつね⑫ごあいさつ・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：⑪こぎつね⑫ごあいさつを暗譜する。・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：⑪こぎつね⑫ごあいさつ・自由曲を丁寧に正確に練習する。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計3時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
11 回	<童謡弾き歌い課題曲2曲人前実演 及び個人レッスン授業> ⑪こぎつね⑫ごあいさつを暗譜で弾き歌い演奏する。⑬まめまき⑭まつぼっくり・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：⑬まめまき⑭まつぼっくり・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：弾き歌い課題曲⑪⑫の問題点と自由曲を丁寧に正確に練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計3時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
12 回	<読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する> ⑬まめまき⑭まつぼっくり・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：⑬まめまき⑭まつぼっくりを暗譜する。・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：⑬まめまき⑭まつぼっくり・自由曲を丁寧に正確に練習する。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計3時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
13 回	<童謡弾き歌い課題曲2曲人前実演 及び個人レッスン授業> ⑬まめまき⑭まつぼっくり を暗譜で弾き歌い演奏する。自由曲を個人レッスンする。 学習成果：人前で暗譜で弾き歌いすることに慣れ、教育実習に備える。 予習：自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：弾き歌い課題曲⑬⑭の問題点と自由曲を丁寧に正確に練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計3時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
14 回	<読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する> ・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：自由曲を正確に暗譜で弾けるよう、人前実演に備えて、丁寧に練習する。 復習：弾き歌い課題曲の問題点と自由曲を丁寧に正確に練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計3時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
15 回	<自由曲実技人前実演> ・バイエル・ブルグミュラー・ソナチネから各人の自由課題曲を1曲暗譜で演奏する。 学習成果：人前で演奏することに慣れ、教育実習に備える。 予習：春休み弾き歌い課題曲①めだかのがっこう②ちょうちょう を春休み明けの 幼児と音楽Ⅰ(C)1回目の授業時に2曲とも暗譜で弾き歌いできるよう、丁寧に正確に練習する。 復習：今までの課題曲の問題点を練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は休暇中も1週間に3時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。

令和 8 年 度 教 育 計 画							
科目名	幼児と音楽Ⅰ（C）	授業回数	15	単位数	1	担当教員	河原 真理、他
質問受付の方法 オフィスアワー：在室時何時でも可 シャトルカード							
教育目標と学生の学習成果	教育目標： 幼児教育現場に即した実践的音楽表現力・指導力を修得するため、以下の4項目を目標として<u>積極的に適切な予習・復習の練習を積み重ねる事が大前提であることを学ぶ。</u> 1. ピアノ演奏に関する基本的な知識・技能を理解・修得する。 2. ピアノ演奏に必要な練習の方法を理解・修得する。 3. 童謡弾き歌いに関する基本的な知識・技術を理解・修得する。 4. ピアノ演奏・弾き歌い演奏を通して音楽活動の楽しさを体験し、仲間と上達の喜びを共有し共に向上して行く。 学生の学習成果： ・専門的学習成果：上記教育目標の4項目を修得するため、2年間の幼児と音楽ⅠA・B・C・Dの段階を追って自主的・自律的・意欲的に合理的な練習を積み重ね、技能を向上させた成果と喜びを実感する。 ・汎用的学習成果：幼児と音楽Ⅰの2年間を通した継続的な学びと努力で、社会人・保育者としてのモラルや責任を信念を持って果たすために必要な自己管理能力・コミュニケーション能力を身につける。						
	授業の進め方	（講義・<u>演習</u>・実験・実習・実技） ・適切な練習を積み重ねてきた課題曲をピアノ技能に応じて個人レッスンし、具体的・客観的にアドバイスし、シャトルカードでフィードバックすることで、レベルアップへの具体的な自主練習の方法を伝える。 ・適切な練習を積み重ねてきた課題曲を人前で交替で演奏し聴き合うことで、社会人に求められる態度や責任感を獲得することを課す。					
教育方法	予習・復習	予習：シラバスに沿って必ず予習・練習することを課す。 復習：シラバスに沿って必ず復習・練習することを課す。 ※予習・復習は、次回の授業までに少なくとも合計3時間以上の練習を求める。 ※練習時間は自己評価（フィードバック）のため毎回シャトルカードの指定の場所に記入し提出する。※授業時間内でマスターできなかった課題曲は予習・復習することを課す。					
	テキスト	「ブルグミュラー25の練習曲」全音楽譜出版社 「ソナチネアルバム1・2」全音楽譜出版社 「こどものうた200」チャイルド本社 「保育ソング」明治図書出版社					

学習評価の方法	① 専門的学習成果 ・各人の予習・復習による学習成果 $2 \text{ 点} \times 7 \text{ 回} + 1 \text{ 点} \times 6 \text{ 回} = 20 \text{ 点}$ ・弾き歌い実技人前実演（授業時間内 7 回実施） $2 \text{ 点} \times 14 \text{ 曲} = 28 \text{ 点}$ ・自由曲実技人前実演（1 回実施） $52 \text{ 点} \times 1 \text{ 回} = 52 \text{ 点}$ 以上の配分とし人前実演で弾く曲は全曲暗譜でマスターすることを必須とし総合評価する。 ② 汎用的学習成果 信念を持った社会人、保育者としての態度や責任感を身に付けるため、次の項目について加点対象とする。 ・童謡弾き歌いの歌唱及び追加曲演奏 また以下を減点対象とする。 ・演奏に適した身だしなみ・衛生的で適切な長さの爪、等々でないこと ・練習時間の未記入 ・授業態度不良（私語、授業関連事項以外での携帯使用、自分勝手な行動、授業中の立ち歩き、等々）
注意事項	参考図書等：岡山短期大学ピアノ練習用 YouTube 動画を参考に指使いを楽譜通り正確に練習すること。 ※遅刻・早退の際には入室時・退室時必ず担当教員に報告し、時刻の確認をすること。 （遅刻・早退が 20 分以上は欠席となるため）
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	〈オリエンテーション〉 ・幼児と音楽 I (C) 授業の進め方・スケジュール・学習方法・評価の方法について説明する。 〈実演〉 ・春休み課題曲①めだかのがっこう②ちょうちょう を 2 曲とも暗譜で弾き歌い演奏する。 学習成果：人前で暗譜で弾き歌い演奏するレベルを向上させ、教育実習に備える。 予習：③かえるのがっしょう④春がきた（共通弾き歌い課題曲）を丁寧に正確に練習する。 ブルグミュラー・ソナチネから各人の技能に合わせた課題曲（自由曲）を練習する。 復習：実演した曲の問題点を必ず練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
2 回	〈読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ③かえるのがっしょう④春がきた・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。 予習：③かえるのがっしょう④春がきたを暗譜する・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：③かえるのがっしょう④春がきた を教育現場で活用できるよう、丁寧に正確に練習して演奏レベルを上げて行く。：自由曲を丁寧に正確に練習する。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
3 回	〈弾き歌い課題曲 2 曲人前実演 及び個人レッスン授業〉 ③かえるのがっしょう④春がきた を暗譜で弾き歌い演奏する ⑤こいのぼり⑥おべんとう・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。 予習：⑤こいのぼり⑥おべんとう・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：弾き歌い課題曲③④を教育現場で活用できるよう、丁寧に正確に練習して、暗譜での演奏レベルを上げて行く。：自由曲を丁寧に正確に練習する。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。

4 回	<読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する> ⑤こいのぼり⑥おべんとう・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。 予習：⑤こいのぼり⑥おべんとうを暗譜する。・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：⑤こいのぼり⑥おべんとう・自由曲を教育現場で活用できるよう、丁寧に正確に練習して演奏レベルを上げて行く。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計3時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
5 回	<弾き歌い課題曲2曲人前実演 及び個人レッスン授業> ⑤こいのぼり⑥おべんとう を暗譜で弾き歌い演奏する。⑦おばけなんてないさ⑧しゃぼんだま・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：練習・準備してきたことを効果的に活用し、暗譜での人前実演の質を上げる。 予習：⑦おばけなんてないさ⑧しゃぼんだま・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：弾き歌い課題曲⑤⑥を教育現場で活用できるよう、丁寧に正確に練習して、暗譜での演奏レベルを上げて行く。：自由曲を丁寧に正確に練習する。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計3時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
6 回	<読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する> ⑦おばけなんてないさ⑧しゃぼんだま・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。 予習：⑦おばけなんてないさ⑧しゃぼんだまを暗譜する。・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：⑦おばけなんてないさ⑧しゃぼんだま・自由曲を教育現場で活用できるよう、丁寧に正確に練習して演奏レベルを上げて行く。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計3時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
7 回	<弾き歌い課題曲2曲人前実演 及び個人レッスン授業> ⑦おばけなんてないさ⑧しゃぼんだま を暗譜で弾き歌い演奏する。⑨かたつむり⑩みずあそび・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。 予習：⑨かたつむり⑩みずあそび・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：弾き歌い課題曲⑦⑧を教育現場で活用できるよう、丁寧に正確に練習して、暗譜での演奏レベルを上げて行く。：自由曲を丁寧に正確に練習する。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計3時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	<読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する> ⑨かたつむり⑩みずあそび・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。 予習：⑨かたつむり⑩みずあそびを暗譜する。・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：⑨かたつむり⑩みずあそび・自由曲を教育現場で活用できるよう、丁寧に正確に練習して演奏レベルを上げて行く。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計3時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。

9 回	＜弾き歌い課題曲 2 曲人前実演 及び個人レッスン授業＞ ⑨かたつむり⑩みずあそび を暗譜で弾き歌い演奏する。⑪たなばたさま⑫おもちゃのチャチャ・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：練習・準備してきたことを効果的に活用し、暗譜での人前実演の質を上げる。 予習：⑪たなばたさま⑫おもちゃのチャチャ・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：弾き歌い課題曲⑨⑩を教育現場で活用できるよう、丁寧に正確に練習して、暗譜での演奏レベルを上げて行く。：自由曲を丁寧に正確に練習する。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
10 回	＜読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する＞ ⑪たなばたさま⑫おもちゃのチャチャ・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。 予習：⑪たなばたさま⑫おもちゃのチャチャを暗譜する・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：⑪たなばたさま⑫おもちゃのチャチャ・自由曲を教育現場で活用できるよう、丁寧に正確に練習して演奏レベルを上げて行く。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
11 回	＜弾き歌い課題曲 2 曲人前実演 及び個人レッスン授業＞ ⑪たなばたさま⑫おもちゃのチャチャ・自由曲を暗譜で弾き歌い演奏する。⑬せんせいとおともだち⑭おかえりのうた・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。 予習：⑬せんせいとおともだち⑭おかえりのうた・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：弾き歌い課題曲⑪⑫を教育現場で活用できるよう、丁寧に正確に練習して、暗譜での演奏レベルを上げて行く。：自由曲を丁寧に正確に練習する。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
12 回	＜読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する＞ ⑬せんせいとおともだち⑭おかえりのうた・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。 予習：⑬せんせいとおともだち⑭おかえりのうたを暗譜する。・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：⑬せんせいとおともだち⑭おかえりのうた・自由曲を教育現場で活用できるよう、丁寧に正確に練習して演奏レベルを上げて行く。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
13 回	＜弾き歌い課題曲 2 曲人前実演 及び個人レッスン授業＞ ⑬せんせいとおともだち⑭おかえりのうた を暗譜で弾き歌い演奏する。 ・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：練習・準備してきたことを効果的に活用し、暗譜での人前実演の質を上げる。 予習：自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：弾き歌い課題曲⑬⑭を教育現場で活用できるよう、丁寧に正確に練習して、暗譜での演奏レベルを上げて行く。：自由曲を丁寧に正確に練習する。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。

14 回	〈読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。 予習：自由曲を正確に暗譜で弾けるよう、人前実演に備えて、丁寧に練習する。 復習：弾き歌い課題曲の問題点と自由曲を丁寧に正確に練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計3時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
15 回	〈自由曲実技人前実演〉 〈学歌・卒業式歌 練習〉 ・ブルグミュラー・ソナチネから各人の自由課題曲を1曲暗譜で演奏する。 学習成果：人前で演奏する機会をレベルアップにつなげる。 予習：夏休み弾き歌い課題曲①つき②とんぼのめがね を夏休み明けの幼児と音楽Ⅰ(D)1回目の授業時に2曲とも暗譜で弾き歌いできるよう、丁寧に正確に練習する。 復習：今までの課題曲の問題点を練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は休暇中も1週間に3時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。

令和 8 年 度 教 育 計 画							
科目名	幼児と音楽Ⅰ（D）	授業回数	15	単位数	1	担当教員	河原 真理、他
質問受付の方法 オフィスアワー：在室時何時でも可 シャトルカード							
教育目標と学生の学習成果	教育目標： 幼児教育現場に即した実践的音楽表現力・指導力を修得するため、以下の4項目を目標として <u>積極的に適切な予習・復習の練習を積み重ねる事が大前提であることを学ぶ。</u> 1. ピアノ演奏に関する基本的な知識・技能を理解・修得する。 2. ピアノ演奏に必要な練習の方法を理解・修得する。 3. 童謡弾き歌いに関する基本的な知識・技術を理解・修得する。 4. ピアノ演奏・弾き歌い演奏を通して音楽活動の楽しさを体験し、仲間と上達の喜びを共有し共に向上して行く。 学生の学習成果： ・専門的学習成果：上記教育目標の4項目を修得するため、2年間の幼児と音楽ⅠA・B・C・Dの段階を追って自主的・自律的・意欲的に合理的な練習を積み重ね、技能を向上させた成果と喜びを実感する。 ・汎用的学習成果：幼児と音楽Ⅰの2年間を通した継続的な学びと努力で、社会人・保育者としてのモラルや責任を信念を持って果たすために必要な自己管理能力・コミュニケーション能力を身につける。						
	授業の進め方	(講義・ <u>演習</u> ・実験・実習・実技) ・ <u>適切な練習を積み重ねてきた課題曲をピアノ技能に応じて個人レッスンし、具体的・客観的にアドバイスし、シャトルカードでフィードバックすることで、レベルアップへの具体的な自主練習の方法を伝える。</u> ・ <u>適切な練習を積み重ねてきた課題曲を人前で交替で演奏し聴き合うことで、社会人に求められる態度や責任感を獲得することを課す。</u>					
教育方法	予習・復習	予習：シラバスに沿って必ず予習・練習することを課す。 復習：シラバスに沿って必ず復習・練習することを課す。 ※予習・復習は、次回の授業までに少なくとも合計3時間以上の練習を求める。 ※練習時間は自己評価（フィードバック）のため毎回シャトルカードの指定の場所に記入し提出する。※授業時間内でマスターできなかった課題曲は予習・復習することを課す。					
	テキスト	「ブルグミュラー25の練習曲」全音楽譜出版社 「ソナチネアルバム1・2」全音楽譜出版社 「こどものうた200」チャイルド本社 「保育ソング」明治図書出版社					

学習評価の方法	① 専門的学習成果 ・各人の予習・復習による学習成果 $2 \text{ 点} \times 7 \text{ 回} + 1 \text{ 点} \times 6 \text{ 回} = 20 \text{ 点}$ ・弾き歌い実技人前実演（授業時間内 7 回実施） $2 \text{ 点} \times 14 \text{ 曲} = 28 \text{ 点}$ ・自由曲実技人前実演（1 回実施） $52 \text{ 点} \times 1 \text{ 回} = 52 \text{ 点}$ 以上の配分とし人前実演で弾く曲は全曲暗譜でマスターすることを必須とし総合評価する。 ② 汎用的学習成果 信念を持った社会人、保育者としての態度や責任感を身に付けるため、次の項目について加点対象とする。 ・童謡弾き歌いの歌唱 及び追加曲演奏 - また、以下を減点対象とする。 ・演奏に適した身だしなみ・衛生的で適切な長さの爪、等々でないこと ・練習時間の未記入 ・授業態度不良（私語、授業関連事項以外での携帯使用、自分勝手な行動、授業中の立ち歩き、等々）
注意事項	参考図書等：岡山短期大学ピアノ練習用 YouTube 動画を参考に指使いを楽譜通り正確に練習すること。 ※遅刻・早退の際には入室時・退室時必ず担当教員に報告し、時刻の確認をすること。 （遅刻・早退が 20 分以上は欠席となるため）
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	〈オリエンテーション〉 ・幼児と音楽Ⅰ(D)授業の進め方・スケジュール・学習方法・評価の方法について説明する。 〈実演〉 ・夏休み課題曲①つき②とんぼのめがね を 2 曲とも暗譜で弾き歌い演奏する。 学習成果：暗譜で演奏するレベルを向上させ、音楽指導の質を上げる方法を修得する。 予習：③どんぐりころころ④やまのおんがくか（共通弾き歌い課題曲）を必ず練習する。 ブルグミュラー・ソナチネから各人の技能に合わせた課題曲(自由曲)を必ず練習する。 復習：実演した曲の問題点を丁寧に正確に練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
2 回	〈読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ③どんぐりころころ④やまのおんがくか・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。 予習：③どんぐりころころ④やまのおんがくかを暗譜する。・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：③どんぐりころころ④やまのおんがくか・自由曲を教育現場で活用できるよう、丁寧に正確に練習して、演奏レベルを上げて行く。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
3 回	〈弾き歌い課題曲 2 曲人前実演 及び個人レッスン授業〉 ③どんぐりころころ④やまのおんがくか を暗譜で弾き歌い演奏する ⑤もりのくまさん ⑥ハッピーバースデー・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。 予習：⑤もりのくまさん⑥ハッピーバースデー・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：弾き歌い課題曲③④の問題点と自由曲を丁寧に正確に練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。

4 回	〈読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ⑤もりのくまさん⑥ハッピーバースデー・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。 予習：⑤もりのくまさん⑥ハッピーバースデーを暗譜する。・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：⑤もりのくまさん⑥ハッピーバースデー・自由曲を教育現場で活用できるよう、丁寧に正確に練習して、演奏レベルを上げて行く。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計3時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
5 回	〈弾き歌い課題曲2曲人前実演 及び個人レッスン授業〉 ⑤もりのくまさん⑥ハッピーバースデー を暗譜で弾き歌い演奏する。⑦どうさん⑧たきび・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：暗譜での弾き歌い人前実演の質を上げる。 予習：⑦どうさん⑧たきび・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：弾き歌い課題曲⑤⑥の問題点と自由曲を丁寧に正確に練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計3時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
6 回	〈読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ⑦どうさん⑧たきび・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：演奏レベルを上げて行く方法を修得する。 予習：⑦どうさん⑧たきびを暗譜する。・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：⑦どうさん⑧たきび・自由曲を丁寧に正確に練習して演奏レベルを上げて行く。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計3時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
7 回	〈弾き歌い課題曲2曲人前実演 及び個人レッスン授業〉 ⑦どうさん⑧たきび を暗譜で弾き歌い演奏する。⑨サンタクロース⑩ゆき・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：暗譜で演奏するレベルを向上させて音楽指導の質を上げる方法を修得する。 予習：⑨サンタクロース⑩ゆき・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：弾き歌い課題曲⑦⑧の問題点と自由曲を丁寧に正確に練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計3時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	〈読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ⑨サンタクロース⑩ゆき・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：演奏レベルを上げて行く方法を修得する。 予習：⑨サンタクロース⑩ゆきを暗譜する。・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：⑨サンタクロース⑩ゆき・自由曲を丁寧に正確に練習して、演奏レベルを上げて行く。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計3時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。

9 回	〈弾き歌い課題曲 2 曲人前実演 及び個人レッスン授業〉 ⑨サンタクロース⑩ゆき を暗譜で弾き歌い演奏する。⑪おしょうがつ⑫おもいで of アルバム・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：暗譜での弾き歌い人前実演の質を上げる。 予習：⑪おしょうがつ⑫おもいで of アルバム・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：弾き歌い課題曲⑨⑩の問題点と自由曲を丁寧に正確に練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
10 回	〈読譜、演奏するために必要なソルフエージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ⑪おしょうがつ⑫おもいで of アルバム・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：演奏レベルを上げて行く方法を修得する。 予習：⑪おしょうがつ⑫おもいで of アルバムを暗譜する。・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：⑪おしょうがつ⑫おもいで of アルバム・自由曲を丁寧に正確に練習して、演奏レベルを上げて行く。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
11 回	〈弾き歌い課題曲 2 曲人前実演 及び個人レッスン授業〉 ⑪おしょうがつ⑫おもいで of アルバム を暗譜で弾き歌い演奏する。⑬どんないろがすき⑭メリーさんのひつじ・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：暗譜で演奏するレベルを向上させて音楽指導の質を上げる方法を修得する。 予習：⑬どんないろがすき⑭メリーさんのひつじ・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：弾き歌い課題曲⑪⑫の問題点と自由曲を丁寧に正確に練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
12 回	〈読譜、演奏するために必要なソルフエージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ⑬どんないろがすき⑭メリーさんのひつじ・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：演奏レベルを上げて行く方法を修得する。 予習：⑬どんないろがすき⑭メリーさんのひつじを暗譜する。・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：⑬どんないろがすき⑭メリーさんのひつじ・自由曲を丁寧に正確に練習して、演奏レベルを上げて行く。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
13 回	〈弾き歌い課題曲 2 曲人前実演 及び個人レッスン授業〉 ⑬どんないろがすき⑭メリーさんのひつじ を暗譜で弾き歌い演奏する。自由曲を個人レッスンする。 学習成果：暗譜での弾き歌い人前実演の質を上げる。 予習：自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：弾き歌い課題曲⑬⑭の問題点と自由曲を丁寧に正確に練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計 3 時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。

14 回	〈読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ・自由曲を個人レッスンする。 学習成果：暗譜で演奏するレベルを向上させて人前実演に備える方法を修得する。 予習：自由曲を正確に暗譜で弾けるよう、人前実演に備えて、丁寧に練習する。 復習：弾き歌い課題曲の問題点と自由曲を丁寧に正確に練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は次回の授業までに合計3時間以上を目標とし、片手ずつ練習後、両手で<u>正確に</u>スムーズに弾けるようになるまで練習すること。
15 回	〈自由曲実技人前実演〉 〈学歌・卒業式歌 練習〉 ・自由課題曲を1曲暗譜で演奏する。 学習成果：演奏レベルを自主的・自律的・意欲的に上げて行く方法を修得する。 復習：これまでの学びを活用して練習で実演をより向上させて行く方法を確認する。

令和 8 年 度 教 育 計 画													
科目名	幼児と音楽Ⅱ（A）	授業回数	15	単位数	1	担当教員	大羽敬子						
質問受付の方法：S－Tシャトルカード、授業時間の前後													
教育目標と学生の学習成果	<教育目標> わらべうた・童謡・唱歌には、言葉の響きやリズムを楽しみながら、季節の変化や人、ものとの関わりを感じることができる要素がある。それらは、幼児期に豊かな感性を育むうえで重要な役割を果たす。幼児の生活や遊びの中で、伸び伸びとした表現能力を引き出し、育てることのできる保育者を目指して、以下の3点を教育目標とする。 1. 基本的な発声の仕方を理解し、わらべうた・童謡・唱歌を数多く習得する。 2. わらべうた・童謡・唱歌の教材としての特徴を認識し、楽曲についての理解を深める。 3. わらべうた・童謡・唱歌を表情豊かに歌い、歌唱表現の楽しさを味わう。 <学生の学習成果> 専門的学習成果：教育目標に掲げる3項目を習得し、豊かな表現につなげることができる。 汎用的学習成果：歌唱指導や弾き歌いをするために、日々の自主練習が必要となる。 演奏技術の向上をめざして、努力する姿勢を身につけることができる。												
	教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・腹式呼吸による発声練習をする。 ・幼児の歌について、教材としての留意点を解説しながら数多くの楽曲を歌う。 ・教材研究ノートを作成し、楽曲についての理解を深める。										
教育方法	予習・復習	・授業前に、各回の楽曲を階名唱、歌詞唱で歌い、予習する。（30分） ・授業後に、各回の教材研究ノートを完成させ、既習曲の弾き歌いを練習する。（60分）											
	テキスト	・教育芸術社 「改訂 幼児のための音楽教育」											
学習評価の方法	専門的学習成果、汎用的学習成果について、以下の配分で判断し、学習評価を行う。 <table><tr><td>1. 授業への取り組みの記録（自己評価表の提出）</td><td>30%</td></tr><tr><td>2. 教材研究ノートの作成（ノート提出）</td><td>20%</td></tr><tr><td>3. 歌唱実技試験</td><td>50%</td></tr></table> なお、自己評価表は各回授業内で復習内容を含めて記入、提出し、学習状況をチェックする。授業への取り組みが十分でない場合は指導をする。教材研究ノートは、第14回授業内で提出。これらの課題は学習した楽曲の60%以上の曲数を必要とする。 歌唱実技試験は第15回授業時に実施し、既習曲の中から指定した課題曲を歌うものとする。							1. 授業への取り組みの記録（自己評価表の提出）	30%	2. 教材研究ノートの作成（ノート提出）	20%	3. 歌唱実技試験	50%
1. 授業への取り組みの記録（自己評価表の提出）	30%												
2. 教材研究ノートの作成（ノート提出）	20%												
3. 歌唱実技試験	50%												
注意事項	参考図書等： ・チャイルド本社「こどものうた 200」 ・明治図書「保育ソング 90」												

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<オリエンテーション> ・授業内容 授業の進め方、スケジュール、学習評価の方法について説明する。 <発声について> ・授業内容 腹式呼吸について説明し、実際に声を出して確かめる。 歌う時の姿勢について確認する。 幼児の声域について認識する。 ・学習成果 腹式呼吸による発声の仕方と歌う姿勢を意識できるようになる。 幼児の声域を知り、楽譜選びに活かせるようになる。 ・予習課題 テキスト P27～P29 を読む。 ・復習課題 腹式呼吸を再度確認する。
2 回	<こどものうた 4月教材> テキスト P30～41 ・授業内容 腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 4月教材の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。教材研究ノートを作成する。 4月教材の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果 各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・予習課題 テキスト該当ページ全曲の階名唱、歌詞唱をする。 ・復習課題 授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。
3 回	<こどものうた 5月教材> テキスト P42～49 ・授業内容 腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 5月教材の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。教材研究ノートを作成する。 5月教材の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果 各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・予習課題 テキスト該当ページ全曲の階名唱、歌詞唱をする。 ・復習課題 授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。
4 回	<こどものうた 6月教材> テキスト P50～57 ・授業内容 腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 6月教材の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。教材研究ノートを作成する。 6月教材の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果 各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・予習課題 テキスト該当ページ全曲の階名唱、歌詞唱をする。 ・復習課題 授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。
5 回	<こどものうた 7月教材> テキスト P58～65 ・授業内容 腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 7月教材の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。教材研究ノートを作成する。 7月教材の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果 各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・予習課題 テキスト該当ページ全曲の階名唱、歌詞唱をする。 ・復習課題 授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
6 回	<こどものうた 8月教材> テキスト P66～73 ・授業内容 腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 8月教材の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。教材研究ノートを作成する。 8月教材の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果 各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・予習課題 テキスト該当ページ全曲の階名唱、歌詞唱をする。 ・復習課題 授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。
7 回	<こどものうた 9月教材> テキスト P74～81 ・授業内容 腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 9月教材の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。教材研究ノートを作成する。 9月教材の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果 各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・予習課題 テキスト該当ページ全曲の階名唱、歌詞唱をする。 ・復習課題 授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。
8 回	<こどものうた 10月教材> テキスト P82～89 ・授業内容 腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 10月教材の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。教材研究ノートを作成する。 10月教材の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果 各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・予習課題 テキスト該当ページ全曲の階名唱、歌詞唱をする。 ・復習課題 授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。
9 回	<こどものうた 11月教材> テキスト P90～97 ・授業内容 腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 11月教材の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。教材研究ノートを作成する。 11月教材の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果 各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・予習課題 テキスト該当ページ全曲の階名唱、歌詞唱をする。 ・復習課題 授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。
10 回	<こどものうた 12月教材> テキスト P98～105 ・授業内容 腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 12月教材の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。教材研究ノートを作成する。 12月教材の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果 各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・予習課題 テキスト該当ページ全曲の階名唱、歌詞唱をする。 ・復習課題 授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。 歌唱実技試験の準備をする。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
11 回	<こどものうた 1月教材> テキスト P106～113 ・授業内容 腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 1月教材の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。教材研究ノートを作成する。 1月教材の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果 各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・予習課題 テキスト該当ページ全曲の階名唱、歌詞唱をする。 ・復習課題 授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。 歌唱実技試験の準備をする。
12 回	<こどものうた 2月教材> テキスト P114～121 ・授業内容 腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 2月教材の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。教材研究ノートを作成する。 2月教材の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果 各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・予習課題 テキスト該当ページ全曲の階名唱、歌詞唱をする。 ・復習課題 授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。 歌唱実技試験の準備をする。
13 回	<こどものうた 3月教材> テキスト P122～131 ・授業内容 腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 3月教材の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。教材研究ノートを作成する。 3月教材の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果 各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・予習課題 テキスト該当ページ全曲の階名唱、歌詞唱をする。 ・復習課題 授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめ、提出の準備をする。 歌唱実技試験の準備をする。
14 回	<わらべうた> テキスト P132～139 ・授業内容 腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 わらべうたの各楽曲を歌う際の留意点を解説する。 教材研究ノートを作成する。 わらべうたの各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果 各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・予習課題 テキスト該当ページ全曲の階名唱、歌詞唱をする。 ・復習課題 授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 歌唱実技試験の準備をする。 ・課題提出 教材研究ノートを提出する。
15 回	<歌唱実技試験> 既習曲の中から指定した課題曲を歌う。

令和 8 年 度 教 育 計 画															
科目名	幼児と音楽Ⅱ（B）		授業回数	15	単位数	1	担当教員	大羽敬子							
質問受付の方法 授業内S－Tシャトルカード 授業時間の前後															
教育目標と学生の学習成果	<教育目標> 幼児と音楽Ⅱ（A）で学んだ教材研究をより発展させて、保育・教育現場で幅広い表現指導ができるようになるために、実践的な知識と表現技能を身に付けることを目標とする。 1. 伝統的な歌遊びを習得して、その楽しさを味わい、歌遊びの継承につなげる。 2. 身近にある幼児の歌について、教材としての特徴を知り、指導に活かせるようにする。 3. 音楽遊びを発展させて、簡単な合唱、合奏などの指導実践につなげる。 <学生の学習成果> 専門的学習成果:教育目標に掲げた3項目を習得し、幅広い表現指導につなげることができる。 汎用的学習成果:集団での音楽作りを通して、協力して成し遂げることの大切さを身に付けることができる。														
	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・各楽曲について、歌遊びの種類、構成音、歌詞の内容を解説する。 ・歌詞、旋律を確認しながら正確に歌う。 ・テキストの遊び方を確認しながら、実際に遊びを体験する。 ・指導実践例を考えて教材研究ノートにまとめる。													
教育方法	予習・復習	・授業前に、各回の楽曲を階名唱、歌詞唱で歌い、遊び方の予習をする。（30分） ・授業後に、各回の教材研究ノートを完成させ、遊び方の復習をする。（30分）													
	テキスト	・テキストA 教育芸術社「改訂 幼児のための音楽教育」 ・テキストB チャイルド本社「こどものうた 200」 ・テキストC 明治図書「表現がみるみる広がる！保育ソング 90」 ・配布プリント													
学習評価の方法	専門的学習成果、汎用的学習成果について、以下の配分で判断し、学習評価を行う。 <table><tr><td>1. 授業への取り組み（自己評価表の提出）</td><td>20%</td></tr><tr><td>2. 教材研究ノートのまとめ（提出）</td><td>20%</td></tr><tr><td>3. 模擬指導発表（第7回授業）</td><td>30%</td></tr><tr><td>4. アンサンブル発表（第15回授業）</td><td>30%</td></tr></table> なお、自己評価表は各回授業内で復習内容を含めて記入、提出し、学習状況をチェックする。授業への取り組みが十分でない場合は指導する。教材研究ノートのまとめは各回の復習課題であり、第14回授業内で提出。これらの課題は学習した楽曲の60%以上の曲数を必要とする。 模擬指導発表については、指導案と指導実践を総合的に判断して評価する。受講生全員の振り返りと助言は、結果をまとめたプリントを配布する。 アンサンブル発表については練習過程を含め、意欲、関心、表現力などを総合的に評価する。							1. 授業への取り組み（自己評価表の提出）	20%	2. 教材研究ノートのまとめ（提出）	20%	3. 模擬指導発表（第7回授業）	30%	4. アンサンブル発表（第15回授業）	30%
	1. 授業への取り組み（自己評価表の提出）	20%													
2. 教材研究ノートのまとめ（提出）	20%														
3. 模擬指導発表（第7回授業）	30%														
4. アンサンブル発表（第15回授業）	30%														
注意事項	注意事項 ・受講者数により、授業で扱う楽曲を変更する場合がある。														

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<オリエンテーション> ・授業内容 授業の進め方、スケジュール、学習評価について説明する。 <幼児の生活・遊びと音楽> テキストA P6～29 ・授業内容 幼児の遊びと音楽の関わり、わらべうたの特徴、身近にある子どもの歌の歴史について解説する。 ・学習成果 幼児の発達段階に応じた音楽表現指導について認識することができる。具体的な指導上の留意点を認識することができる。 ・予習課題 テキスト P6～P13 を読む。 ・復習課題 教材研究ノートを作成する。
2 回	<あそびうた (1) > テキストA ①なべなべそこぬけ ②あんたがたどこさ ③いっぽんばし ④おちゃらかホイ ⑤お寺のおしょうさん ・授業内容 各あそびうたについて、種類と構成音、指導上の留意点を認識する。歌詞の内容、旋律を確認しながら歌う。テキストの遊び方解説を参考にしながら、実際に遊びを体験する。各曲について気づいたことを教材研究ノートに書く。 ・学習成果 あそびうたを習得し、指導上の留意点を認識することができる。 ・予習課題 テキスト P27 を読む。上記①～⑤の各曲を歌う。 ・復習課題 教材研究ノートを作成し、学習した各曲の遊びについて復習する。
3 回	<あそびうた (2) > テキストA、テキストB ①げんこつやまのたぬきさん ②ずいずいずっころばし ③かごめかごめ ④はないちもんめ ⑤ちゃちゃつばちやつば ・授業内容 各あそびうたについて、種類と構成音、指導上の留意点を認識する。歌詞の内容、旋律を確認しながら歌う。テキストの遊び方解説を参考にしながら、実際に遊びを体験する。各曲について気づいたことを教材研究ノートに書く。 ・学習成果 あそびうたを習得し、指導上の留意点を認識することができる。 ・予習課題 上記①～⑤の各曲を歌う。 ・復習課題 教材研究ノートを作成し、学習した各曲の遊びについて復習する。
4 回	<あそびうた (3) > テキストB ①いとまき ②アルプス一万尺 ③ぼうがいっぽんあったとき ④とうさんゆびどこです ⑤これくらいのおべんとばこに ・授業内容 各あそびうたについて、種類と構成音、指導上の留意点を認識する。歌詞の内容、旋律を確認しながら歌う。テキストの遊び方解説を参考にしながら、実際に遊びを体験する。各曲について気づいたことを教材研究ノートに書く。 ・学習成果 あそびうたを習得し、指導上の留意点を認識することができる。 ・予習課題 上記①～⑤の各曲を歌う。 ・復習課題 教材研究ノートを作成し、学習した各曲の遊びについて復習する。
5 回	<あそびうた (4) > テキストB 配布プリント ①むすんでひらいて ②かえるのがっしょう ③てをたたきましょう ④おおきなくりのきのしたで ⑤ちゃつみ ・授業内容 各あそびうたについて、種類と構成音、指導上の留意点を認識する。歌詞の内容、旋律を確認しながら歌う。テキストの遊び方解説を参考にしながら、実際に遊びを体験する。各曲について気づいたことを教材研究ノートに書く。 ・学習成果 あそびうたを習得し、指導上の留意点を認識することができる。 ・予習課題 上記①～④の各曲を歌う。テキスト P14～P17 を読む。 ・復習課題 教材研究ノートを作成し、学習した各曲の遊びについて復習する。模擬指導発表の準備をする。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
6 回	<あそびうた (5) > 配布プリント ①あたまかたひざポン ②カレーライスのうた ③とんとんとんひげじいさん ④くいしんぼゴリラの歌 ⑤グーチョキパーでなにつくろう ⑥パン屋さんにおかいもの ・授業内容 各あそびうたについて、種類と構成音、指導上の留意点を認識する。 歌詞の内容、旋律を確認しながら歌う。 テキストの遊び方解説を参考にしながら、実際に遊びを体験する。 各曲について気づいたことを教材研究ノートに書く。 ・学習成果 あそびうたを習得し、指導上の留意点を認識することができる。 ・予習課題 模擬指導発表の準備をする。 ・復習課題 教材研究ノートを作成し、学習した各曲の遊びについて復習する。 模擬指導発表の準備をする。
7 回	<あそびうた 模擬指導 発表> テキストA、テキストB、配布プリント ・授業内容 各自であそびうたを選択し、実際にクラス受講生を対象に模擬指導を行う。 発表後、ひとりひとりの模擬指導内容について、受講生全員で振り返る時間を設ける。指導実践の質を高めるために、留意点や課題について話し合う。 教材研究ノートに感想や気づきを記入し、完成させる。 ・学習成果 模擬指導を行うことで、保育実践への自信へとつながり、指導上の課題を見つけることができる。 ・予習課題 模擬指導発表の準備をする。 ・復習課題 教材研究ノートを作成する。
8 回	<こどものうた (1) > テキストA ①こどりのうた ②ぼくのミックスジュース ③いぬのおまわりさん ④にんげんっていいな ⑤にじ ・授業内容 上記のこどものうたを習得する。 各楽曲の教材としての特徴を解説し、指導上の留意点を認識する。 表情豊かに生き生きと歌い、歌唱表現の楽しさを味わう。 ・学習成果 身近にあるこどものうたが生き生きと歌えるようになり、レパートリーを広げることができる。 ・予習課題 上記①～⑤の各曲の階名唱、歌詞唱をする。 ・復習課題 習得した歌を繰り返し練習し、弾き歌いにも慣れる。 教材研究ノートを作成する。
9 回	<こどものうた (2) > テキストA、テキストC ①さよならぼくたちのほいくえん（ようちえん） ②ゆりかごの歌 ③線路は続くよどこまでも ④おはながわらった ⑤ドキドキドン！1年生 ・授業内容 上記のこどものうたを習得する。 各楽曲の教材としての特徴を解説し、指導上の留意点を認識する。 表情豊かに生き生きと歌い、歌唱表現の楽しさを味わう。 ・学習成果 身近にあるこどものうたが生き生きと歌えるようになり、レパートリーを広げることができる。 ・予習課題 上記①～⑤の各曲の階名唱、歌詞唱をする。 ・復習課題 習得した歌を繰り返し練習し、弾き歌いにも慣れる。 教材研究ノートを作成する。
10 回	<こどものうた (3) > 配布プリント 「てぶくろ」 ・授業内容 配布プリントの教材について、台詞と歌と動きを確認し、練習する。 工夫点、改良点を見だし、完成させる。教材研究ノートを作成する。 ・学習成果 音楽劇の楽しさを体験することができ、発表会での音楽劇作りに活かせるようになる。 ・予習課題 ウクライナ民話「てぶくろ」についてあらすじを調べる。 ・復習課題 習得した歌を繰り返し練習する。 教材研究ノートを作成する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
11 回	<リズムあそび (1)> テキストA ①ブンブンブン ②ぞうさん ③アイアイ ④さんぽ ⑤アンパンマンのマーチ など ・授業内容 手作り楽器を作り、リズムあそびについて認識する。 歌にあわせてテキストの簡単なリズム奏を練習する。 各自でリズムを考え、グループでそのリズムを組み合わせ、いろいろな楽曲の即興的リズム演奏をする。 教材研究ノートを作成する。 ・学習成果 リズムを創作し、自由に表現する楽しさを味わい、幼児の生き生きとした表現指導に役立てることができる。 ・予習課題 テキスト P18～P22 を読む。上記①～⑤の各曲を歌う。 ・復習課題 教材研究ノートを作成する。
12 回	<リズムあそび (2)> 配布プリント、テキストA ①さんぽ ②あんたがたどこさ ③はるがきた ④聖者の行進 ⑤トライアングルカノン ・授業内容 ボディパーカッションあそびについて認識する。 上記の曲の歌とリズム奏を練習する。 アンサンブルとして完成させる。 ・学習成果 歌に合わせて、ボディパーカッションで音楽表現できるようになり、幼児の生き生きとした表現指導に役立てることができる。 ・予習課題 ボディパーカッションについて調べる。 ・復習課題 上記①～⑤のリズム遊びを復習する。
13 回	<リズムあそび (3)> 配布プリント、テキストA ①ふるさと ②てのひらをたいように ③かごめかごめ ④みんなでグー・チョキ・パー ⑤ほかほかパン屋さん ・授業内容 ボイスアンサンブルあそびについて認識する。 上記の曲の各パートを練習する。 アンサンブルとして完成させる。 ・学習成果 言葉の響きとリズムを楽しみながら、ボイスアンサンブルで音楽表現できるようになり、幼児の生き生きとした表現指導に役立てることができる。 ・予習課題 ボイスアンサンブルについて調べる。 ・復習課題 上記①～⑤のリズム遊びを復習する。教材研究ノートの提出準備をする。
14 回	<リズムあそび (4)> 配布プリント、テキストA、テキストB ・授業内容 グループで、合奏、ボディパーカッションまたはボイスアンサンブルの創作活動を体験する。 協力して、選曲・担当決め・リズムパターン作りをし、発表の準備をする。 話し合いの様子、合わせ練習の様子、改良点の気づきなどを教材研究ノートに記録する。 ・学習成果 リズムを創作し、自由に表現する楽しさを味わうことができる。また、グループ活動をする中で、協力して成し遂げる姿勢を身に付けることができる。 ・課題提出 教材研究ノートの提出をする。 ・予習課題 第 13 回までの音楽遊びを振り返り、アンサンブル発表の内容を考えておく。 ・復習課題 アンサンブル発表に向けて練習する。
15 回	<アンサンブル発表> テキストA ・授業内容 グループで練習した音楽を発表する。 グループで演奏を振り返り、音楽の質を高めるために工夫する点を考える。 教材研究ノートに演奏後の感想や気づきを記入し、完成させる。 ・学習成果 アンサンブル演奏の楽しさを味わうことができる。 演奏の発表体験ができ、アンサンブル演奏の技能向上につながる。

令和 8 年 度 教 育 計 画							
科目名	幼児と体育（A）	授業回数	15	単位数	1	担当教員	吉田 升
質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー）：nyoshida@owc.ac.jp、月曜日 5 限目							
教育目標と学生の学習成果	教育目標： 幼児期の心身の発育発達の特徴を踏まえた指導や援助方法を学習する。また、運動遊びの楽しさや安全について考慮できる指導力を身につける。						
	学生 of 学習成果 ・専門的学習成果 1．幼児期における健全な心身の発達のために、一人ひとりの特性と発達の課題に即した指導力が身につく。 2．運動遊びの喜びや楽しさ、安全面に配慮した指導力が身につく。						
教育方法	汎用的学習成果 保育者として必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力が身につく。 保育者としての態度・信念及び自己管理能力が身につく。						
	授業の進め方	（講義・ <u>演習</u> ・実験・実習・実技） ・教材用ビデオ、参考資料等を参考に、乳幼児の発達段階を把握する。 ・指導案を作成し、模擬指導の実践を行う。 ・身近にあるもの（ダンボールや新聞紙など）を使って遊びを考え実践を行う。 ・グループ編成で遊びの実践を行う。					
	予習・復習	1 回の授業に対する予習および復習の時間はそれぞれ 90 分とする。 予習：講義における主要な内容について予習を課す。 復習：講義内容における重要な項目について復習を課す。					
	テキスト	必要に応じて参考資料を配布する。					
学習評価の方法	・専門的学習成果 模擬指導の評価：60% 指導案の評価：20% ※指導案に関しては、評価・添削したのち返却する。 ・汎用的学習成果 受講態度 20%						
注意事項	服装等について：室内で用いる運動用シューズを準備すること。服装は、運動に適した服装で参加すること。アクセサリについては、可能な限り全て外すこと。 遅刻について：準備運動終了後入室した場合、怪我などの心配があるため、指導者の指示に従って授業に参加すること。 見学者について：授業内容を見学用紙に記入すること。 トイレ等で退室する場合、入室時に帰ってきたことを伝えること。 体調等が悪い場合は、事前に申し出ること。						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション ・授業の進め方、注意事項、学習評価の方法について説明する。 ・運動遊びの意義、子どもの体力の現状、運動遊びの指導や援助方法について学習する。 学習成果 授業の進め方、学習評価の方法について理解する。 幼児理解や発達段階に基づいた環境構成、援助について理解する。 【予習】シラバスを読み、講義の内容を確認する。 【復習】子どもの運動遊びについて復習する。
2 ・ 3 回	身近にあるものを使った遊び ・物の特性を把握し、遊びを創造、工夫する遊びの実践をする。 ・新聞紙、ダンボール、タオル、ペットボトルなどを使って遊びの指導方法を習得する。 学習成果 遊びが広がることばがけ・環境構成・援助について理解する。 安全面に配慮する指導が身に付く。 【予習】身近にある用具での遊びを考える。 【復習】遊ぶ際の環境構成について復習する。
4 回	身近にあるものを使った遊び ・グループごとに遊びを考え、指導方法について話し合う。 ・遊びが広がることばがけ・環境構成・援助について指導方法を考察し、指導案を作成する。 学習成果 遊びが広がることばがけ・環境構成・援助ができる指導が身に付く。 安全面に配慮する指導が身に付く。 保育者として必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力が身に付く。 【予習】様々な運動遊びについて調べる。 【復習】グループでの意見をまとめる。
5 回	身近にあるものを使って遊び ・模擬指導の評価 遊びの導入、物を使っての遊びの展開、援助について評価をする。 言葉使いや声の大きさ、遊びの伝達方法、子どもの誘導方法、援助、安全面に対する配慮について評価する。 ・実践の振り返り 模擬指導の反省及び鬼遊び・幼児体操の指導が活かされた指導であったか振り返り、次の指導に役立てる。 学習成果 幼児期における健全な心身の発達のために、一人ひとりの特性と発達の課題に即した指導力が身に付く。 保育者として必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力が身に付く。 【予習】模擬指導の練習をする。 【復習】模擬指導の振り返りをする。
6 回	遊びのいろいろ ・発達段階に応じたジャンケン遊び、遊具・手具や新聞紙を使った遊びを実践する。 ・幼児理解や発達段階に基づいた環境構成、援助をしていくことで人と関わる力が育つことを理解する。 ・遊びの手順を理解する。 学習成果 遊びの指導方法を習得する。 【予習】発達段階に応じた遊びを調べる。 【復習】遊びの手順を復習する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
7 ・ 8 回	幼児体操 ・表現やリズムミカルな身体活動は、豊かな心身の発達を促すことを学習する。 ・グループごとに指導案を作成し、指導方法について話し合う。 ・喜びや楽しさを味わえる指導、安全面に配慮した指導を考察する。 ・既成の幼児体操を習得、指導へ繋げる方法を考察する。運動会、学習発表会などを想定し、構成や隊形、衣装などの小物について創作する。 学習成果 表現力や指導力が身に付く。 【予習】幼児体操を調べる。 【復習】グループで話し合った内容をまとめる。
9 ・ 10 回	幼児体操 ・模擬指導の評価 幼児体操の導入、指導、構成や隊形、まとめについて。言葉使いや声の大きさ、動きの伝達方法、子どもの誘導方法、援助、安全面に対して配慮、構成や隊形、衣装・小物などを評価する。 ・実践の反省について 模擬指導の反省及び鬼遊びでの反省が活かされた指導であったか振り返る。 学習成果 学習発表会、運動会などで発表できる指導力が身に付く。 保育者として必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力が身につく。 【予習】模擬指導のために幼児体操を練習する。 【復習】模擬指導について振り返りをする。
11 回	水遊び ・健康と安全に関する諸注意、人の安全管理、水の安全管理、発達に応じた水遊びを学習する。 学習成果 遊びが広がることばがけ・環境構成・援助について理解する。安全面に配慮する指導が身に付く。 【予習】水遊びについて調べる。 【復習】水遊びの際の安全管理について復習する。
12 回	鬼遊び ・発達段階に応じた鬼遊びを実践する。 ルールや役割、グループやチームを作って行う鬼遊びをについて学習する。素早く逃げる、追いかける、身をおかわすなどの全身運動が巧みになり運動機能や体力が高まることを理解する。 ・指導方法について考察する。 喜びや楽しさを味わえる指導、安全面に配慮した指導、保育者の援助のあり方について考察し指導へ繋げる。 学習成果 鬼遊びの指導方法を身に付ける。 保育者として必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力が身に付く。 【予習】鬼遊びについて調べる。 【復習】鬼遊びの際の安全管理について復習する。
13 ・ 14 ・ 15 回	鬼遊び ・模擬指導の評価 遊びの導入、展開、まとめ、援助について。言葉使いや声の大きさ、遊びの伝達方法、子どもの誘導方法、援助、安全面に対しての配慮について評価する。 ・実践の反省及び指導案の修正を行い、次の指導に役立てる。 学習成果 鬼遊びの指導力が身に付く。 保育者として必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力が身につく。 【予習】模擬指導のために鬼遊びの指導方法をまとめる。 【復習】模擬指導について振り返りをする。

令和 8 年 度 教 育 計 画							
科目名	幼児と体育（B）	授業回数	15	単位数	1	担当教員	吉田 升
質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー）：nyoshida@owc.ac.jp、月曜日 5 限目							
教育目標と学生の学習成果	教育目標： 大型遊具や用具の特徴を把握し、子どもたちの興味や関心をもてる指導や援助について学習する。 また、基礎技能の習得及び補助の必要性について学習する。 学生の学習成果 ・専門的学習成果 1. 子ども一人ひとりの運動機能に合わせた指導、補助、援助ができる能力が身に付く。 2. 子どもの興味や関心をもてる指導力が身に付く。 3. 基礎技能が身につく。 ・汎用的学習成果 保育者としての必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力が身につく。 保育者としての態度・信念及び自己管理の能力が身に付く。						
教育方法	授業の進め方	（講義・ 演習 ・実験・実習・実技） ・教材用ビデオ、参考資料等を参考に発達段階や運動機能を把握する。 ・大型遊具や用具を使って運動遊びを行う。 ・体操系の技と補助の練習を行う。 ・大型遊具や用具を組み合わせた運動遊びを考え、指導案を作成し実践を行う。					
	予習・復習	1 回の授業に対する予習および復習の時間はそれぞれ 90 分とする。 予習：講義における主要な内容について予習を課す。 復習：講義内容における重要な項目について復習を課す。					
	テキスト	必要に応じて参考資料を配布する。					
学習評価の方法	・専門的学習成果 模擬指導の評価：60% 指導案：20% ※指導案に関しては、評価・添削したのち返却する。 ・汎用的学習成果 受講態度 20%						
注意事項	服装等について：室内で用いる運動用シューズを準備すること。服装は、運動に適した服装で参加すること。アクセサリについては、可能な限り全て外すこと。 遅刻について：準備運動終了後入室した場合、怪我などの心配があるため、指導者の指示に従って授業に参加すること。 見学者について：授業内容を見学用紙に記入すること。 トイレ等で退室する場合、入室時に帰ってきたことを伝えること。 体調等が悪い場合は、事前に申し出ること。						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション 授業の進め方、安全面に対する留意点、学習評価の方法について説明し、大型遊具や用具を使った運動遊びの指導方法について学習する。これらの運動遊びは、「できる」「できない」がはっきりしているので、できるようになるための補助と援助、また、一人ひとりの特徴に合わせた補助と援助をしていく必要性を学習する。 学習成果 授業の進め方や学習評価の方法を理解する。 大型遊具や用具の特徴、安全面に対する留意点を理解する。 子ども一人ひとりの特徴に合わせた指導が必要であることを理解する。 【予習】シラバスを読み、講義内容を確認する。 【復習】大型遊具や用具を使った運動遊びの指導方法について復習する。
2 ・ 3 ・ 4 回	跳び箱運動（開脚跳び） ・子どもの発達段階や能力に応じた遊びを実践し、子どもの興味や関心、能力に応じて、いろいろと工夫して遊ぶことを学習する。 ・身体機能の発達や社会面などが育つことを学習し、補助の仕方を実践、習得する。 「できた」という達成感や喜び・楽しさを理解し、補助技能を習得する。 環境構成、安全面の配慮について学習する。 学習成果 子どもの年齢や発達に応じた遊びの指導力が身に付く。 子ども一人ひとりに合わせた補助技能が身に付く。 【予習】跳び箱の跳び方について調べる。 【復習】跳び箱の指導方法を復習する。
5 回	サーキット遊び ・発達段階に応じた遊具・用具・手具を組み合わせた運動遊びを実践し、遊具・用具などの組み合わせた遊びは、たくさんの動きを可能にし、身体機能や運動能力を育て、調整力が身に付くことを学習する。環境構成、安全面の配慮について学習する。遊びの手順を理解する。 学習成果 発達段階に応じた指導力が身に付く。 【予習】サーキット遊びについて調べる。 【復習】遊具・用具・手具について復習する。
6 回	サーキット遊び ・指導案を作成し指導方法を話し合う。 遊びの題材として、昔話、アニメ、日常生活に関心がある事柄（例：カレーを作ろう）を題材として取り上げ、遊具・用具・手具を組み合わせた運動遊びを考察する。 ・安全面の配慮した指導、保育者の援助のあり方について考察する。 学習成果 発達段階に応じた遊具・用具・手具を組み合わせた運動遊びの指導方法が身に付く。 保育者としての必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力が身に付く。 【予習】模擬指導のための指導案を作成する。 【復習】グループで話し合った内容をまとめる。
7 回	サーキット遊び ・模擬指導の評価（遊びの導入、展開、援助について） 言葉使いや声の大きさ、遊びの伝達方法、子どもの誘導方法、援助、安全面に対しての配慮について評価する。 ・実践の反省及び指導案の修正を行い、次の指導に役立てる。 学習成果 発達段階に応じた遊具・用具・手具を組み合わせた運動遊びの指導が身に付く。 保育者としての必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力が身に付く。 【予習】模擬指導のために練習する。 【復習】模擬指導について振り返りをする。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	ボール遊び ・乳幼児の発達段階や能力に応じた遊びを実践し、遊ルールのある集団遊び、伝承遊びを経験することにより身体機能や運動能力を育て、調整力を身に付けることができることを学習する。 学習成果 年齢や発達段階に応じた指導力が身に付く。 【予習】ボール遊びについて調べる。 【復習】ボール遊びの際の安全管理について復習する。
9 回	フラフープ遊び ・物を操作して遊ぶ、手で操作して遊ぶ、他の遊具と組み合わせた遊びを実践する。 ・身体機能や運動能力を育て、調整力を身に付けることができることを学習する。 学習成果 遊びの工夫ができ、年齢や発達段階に応じた指導力が身に付く。 【予習】フラフープ遊びを調べる。 【復習】フラフープ遊びの際の安全管理について復習する。
10 回	鉄棒遊び ・参考ビデオ視聴（一斉指導の様子）し、幼児の運動機能及び能力に応じた遊びを理解し、補助や援助について学習する。また、環境構成、安全に対する配慮について学習する。 学習成果 一斉指導の指導力を身に付ける。 【予習】鉄棒遊びについて調べる。 【復習】鉄棒遊びの補助や援助について復習する。
11 回	縄遊び ・短なわ、長なわでいろいろな遊び方、跳び方の実践をする。 ・幼児の発達段階や能力に応じた遊び、伝承遊びなどを経験することにより、リズム感、身体諸機能が発達することを学習する。また、ゲームや長なわ跳びでは、社会性や協調性が養われることを学習する。そして、安全面に配慮した指導について学習する。 学習成果 遊びの工夫ができ、年齢や発達段階に応じた指導力が身に付く。 【予習】なわとびについて調べる。 【復習】なわとびの際の安全管理について復習する。
12 ・ 13 ・ 14 回	マット遊び ・幼児の発達段階や能力に応じた遊びを実践する。 模倣遊びや多種多様の動きを身に付けることにより、全身的な発育が促され、瞬発力・柔軟性・巧緻性が養われることを学習する。また、環境構成、安全面に配慮した指導について学習する。 ・前転・後転・側転の基礎技能を習得する。また、補助技能を習得する。 学習成果 年齢や発達段階に応じた指導力が身に付く。 基礎技能、補助・援助ができる能力が身に付く。 【予習】マット遊びについて調べる。 【復習】マット遊びの際の安全管理について復習する。
15 回	マット遊び ・模擬指導の評価（遊びの導入、展開、援助について） 言葉使いや声の大きさ、遊びの伝達方法、子どもの誘導方法、援助、安全面に対しての配慮について評価する。 学習成果 環境構成、援助、安全面に配慮した指導力が身に付く。 基礎技能、補助・援助ができる能力が身に付く。 【予習】模擬指導のためにマット遊びを練習する。 【復習】模擬指導の振り返りをする。

令和8年度教育計画							
科目名	幼児と図画工作	授業回数	15	単位数	1	担当教員	佐藤尚宏
質問受付：0H E棟 105 研究室（水・金の在室時）				e-mail： t_sato@owc.ac.jp			
教育目標と学生の学習成果	教育目標:アソビゴコロと多様性 五感を通して感じることや試して遊んで発見することの楽しさと価値を実感し、保育者に必要な視点や態度、基本的な素材処理を体験的に学ぶ。 1. 五感を通して感じること、試して遊んで発見することの楽しさと価値を体験的に学ぶ。 2. 他者の表現から違いや良さを発見し多様性を尊重する視点や態度を体験的に学ぶ。 3. 図画工作の基本的な素材処理を体験的に学ぶ。 学生の学習成果: 専門的学習成果: 上記教育目標に掲げる3項目を習得する。 汎用的学習成果: ①幼児を指導・援助するための価値・意見を形成する。 ②保育者としての具体的な態度を身に付け・信念を涵養する。						
	授業の進め方	(講義・ 演習 ・実験・実習・実技) ① (前回の課題を作品写真からふりかえる→スケッチブックにまとめる) ① 課題の説明と、留意事項等を教員が説明する。 ② 課題の演習を通じて、体験的に学ぶ。 ③ 演習の過程では、教員がアドバイスを適宜行う。 ④ 予習、復習等について教員が説明する。					
教育方法	予習・復習	★汚れてもいい服装、制作の邪魔にならない服装と髪型に留意すること★ 予習事項：事前指示に従い題材の下調べを行うこと。(30分程度) 復習事項：課題が完成しなかった場合は次回までに課題を完成させること。 作品写真、題材の特徴、気付き等をスケッチブックにまとめること。(1時間程度)					
	テキスト	なし					
学習評価の方法	以下の5つの学習成果について、①②制作の様子と作品の作り込み、スケッチブックのまとめによって100点満点で評価。評価割合は以下の①～②80%、③～④20%とする。 ① 【作品数の多さと表現の幅広さ（制作態度）】 五感を通し感じ、試し、遊び、発見し、たっぷり試行錯誤を楽しむことができる。 ② 【作品の出来映え】図画工作の基本的な素材処理技術を習得できる。 ③ 保育者として、他者の活動や作品の違いや多様性の価値を認め楽しみ尊重できる。 専門的学習成果は上記①～②、汎用的学習成果は③に該当する。						
注意事項	【参考図書】 幼児造形の基礎－乳幼児の造形表現と造形教材 萌文書林						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	【オリエンテーション「幼児と図画工作について」】 ▶本時の目標：この科目の学修内容と期待される取り組み姿勢を理解する。 ▶本時の活動：講義とワークショップにより「幼児と図画工作」について考察する。 ▶本時の学習成果：幼児期の育ちにおける図画工作の役割と意義がわかる。 ▶予習と復習：授業内容について自分の考えをレポートにまとめる。(1時間以上) *課題のフィードバック：次回このレポートを使って振り返りを行う。確認をした後返却。
2 回	【感じよう・発見しよう① 「春の気配」を見つけよう】 ▶本時の目標：感覚的に写真を撮る事が、感じ・発見する表現として価値があると実感する。 ▶本時の活動：学内を散策し「春の気配」を感じるシーンを撮影し共有する。 ▶本時の学習成果：色や現象、景色の違いが見えてくる。 ▶予習と復習：作品写真とふりかえりをスケッチブックにまとめる。(1時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめをつかった次回のふりかえり時に行う。
3 回	【感じよう・発見しよう② いろみず、いろいろ】 ▶本時の目標：色水遊びを通して、試行錯誤と探求を行い、様々な美の可能性を発見する。 ▶本時の活動：「色水」をつかった造形遊びで様々な色水づくりや、できた色水を並べて遊び試行錯誤を通して、美しいと思うシーンを発見・探求し、相互鑑賞し、写真撮影する。 《写真撮影と提出について》*写真提出時はほぼ毎回同じ ・美しさや面白さなど<u>魅力を感じるシーン</u>をできるだけ多く発見し、撮影する。 ・他の人の活動も相互鑑賞し、魅力を感じたら撮影の許可を得た上で撮影する。 ・撮影した写真の中からベスト3を選び提出する。 (自分の制作以外の写真も可) ▶本時の学習成果：色の混色の原理や光を透した色の造形美と価値が体験的にわかる。 ▶予習と復習：作品写真とふりかえりをスケッチブックにまとめる。(1時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめをつかった次回のふりかえり時に行う。
4 回	【感じよう・発見しよう③ 置いて、並べて、組み立てて（配置・構成の美）】 ▶本時の目標：物の配置・構成を通し、試行錯誤と探求を行い様々な美の可能性を発見する。 ▶本時の活動：「置く、並べる、積む etc.」による造形遊びを行い、写真撮影・共有する。 《写真撮影と提出》 ▶本時の学習成果：配置・構成による空間表現の造形美と価値が体験的にわかる。 ▶予習と復習：作品写真とふりかえりをスケッチブックにまとめる。(1時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめをつかった次回のふりかえり時に行う。
5 回	【感じよう・発見しよう④ 痕跡いろいろ】 ▶本時の目標：「痕跡を残す」試行錯誤と探求を行い、様々な美の可能性を発見する。 ▶本時の活動：粘土に様々な物で「痕跡を残す」造形遊び 《写真撮影と提出》 ▶本時の学習成果：痕跡による表現＝行為の気配（記憶）の造形美・価値が体験的にわかる。 ▶予習と復習：作品写真とふりかえりをスケッチブックにまとめる。(1時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめをつかった次回のふりかえり時に行う。
6 回	【こどもの育ちと素材・技法① 描画の発達体験と見立て遊び】 ▶本時の目標：こどもの描画の本質と、描画遊びの様々な美の可能性を発見する。 ▶本時の活動：こどもの描画の発達段階の体験と、形を見立て加筆する描画遊びをする。 ▶本時の学習成果：こどもの描画の感覚と意味、見立て・落書きの面白さが体験的にわかる。 ▶予習と復習：作品とふりかえりをスケッチブックにまとめる。(1時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめをつかった次回のふりかえり時に行う。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
7 回	【こどもの育ちと素材・技法② トントン、ペタペタ、野菜スタンプ】 ▶本時の目標：「版」の楽しさ・面白さ、可能性を実感し発見する。 ▶本時の活動：身近な野菜の意外な形と繰り返す造形の面白さや可能性を試行錯誤する。 ▶本時の学習成果：複製する造形の面白さと可能性、価値が体験的にわかる。 ▶予習と復習：作品とふりかえりをスケッチブックにまとめる。(1時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめをつかった次のふりかえり時に行う。
8 回	【こどもの育ちと素材・技法③ クルクル、コロコロ、丸めてみよう】 ▶本時の目標：「丸める」手の使い方・意味を再確認し、羊毛の扱いがわかる。 ▶本時の活動：フェルトボールによる小品作り。 《写d真撮影と提出*自作のみ》 ▶本時の学習成果：手の使い方を習熟し、フェルト化する楽しさの価値が体験的にわかる。 ▶予習と復習：作品写真とふりかえりをスケッチブックにまとめる。(1時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめをつかった次のふりかえり時に行う。
9 回	【こどもの育ちと素材・技法④ ゆびあみ、あやとり】 ▶本時の目標：規則的な動きのくりかえしの意義や習熟過程が体感的にわかる。 ▶本時の活動：「ゆびあみ」によるあやとり糸の制作と「あやとり」の練習 ▶本時の学習成果：「ゆびあみ」と「あやとり」を習熟することができる。 ▶予習と復習：作品写真とふりかえりをスケッチブックにまとめる。(1時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめをつかった次のふりかえり時に行う。
10 回	【こどもの育ちと素材・技法⑤ 折って、広げて、大発見（デカルコマニー）】 ▶本時の目標：技能の要らない制作と偶発的な美の可能性や意義、面白さを発見する。 ▶本時の活動：「デカルコマニー」 ▶本時の学習成果：意図から離れた偶発的な造形美と価値が体験的にわかる。 ▶予習と復習：作品とふりかえりをスケッチブックにまとめる。(1時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめをつかった次のふりかえり時に行う。
11 回	【こどもの育ちと素材・技法⑥ 削るときらめく、スクラッチ】 ▶本時の目標：「スクラッチ」の楽しさ・面白さ、可能性を発見する。 ▶本時の活動：「スクラッチ」による作品制作 ▶本時の学習成果：クレヨン・クレパスの扱いと、「スクラッチ」の造形美が体験的にわかる。 ▶予習と復習：作品写とふりかえりをスケッチブックにまとめる。(1時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめをつかった次のふりかえり時に行う。
12 回	【こどもの育ちと素材・技法⑦ おりがみ、いろいろ】 ▶本時の目標：「おりがみ」における手の使い方と作品の生かし方が体験的にわかる。 ▶本時の活動：「おりがみ」で折り図を元に動物や植物などを制作し展示する。 《写真撮影と提出》 ▶本時の学習成果：折り図の見方、折り方のコツ、様々な折り方がわかる。 ▶予習と復習：作品写真とふりかえりをスケッチブックにまとめる。(1時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめをつかった次のふりかえり時に行う。
13 回	【こどもの育ちと素材・技法⑧ 粘土でつくる小さな世界】 ▶本時の目標：「粘土」の基本技能の習熟。 ▶本時の活動：「粘土」で様々な形をつくり、組み合わせ、小さな世界（風景）を表現する。 《写真撮影と提出》 ▶本時の学習成果：手の使い方といろいろな形の関係、配置・構成の表現が体験的にわかる。 ▶予習と復習：作品写真とふりかえりをスケッチブックにまとめる。(1時間以上) *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめをつかった次のふりかえり時に行う。

14 回	【こどもの育ちと素材・技法⑧ 新聞紙であそぼう】 ▶本時の目標：紙の加工とさまざまな表現について習熟。 ▶本時の活動：「新聞紙」を加工してさまざまな形をつくる。 《写真撮影と提出》 ▶本時の学習成果：紙の加工の基本技能を習熟し、できる形をつかった遊びを考案できる。 ▶予習と復習：作品写真とふりかえりをスケッチブックにまとめる。（1 時間以上） *課題のフィードバックは授業中随時、およびまとめをつかった次のふりかえり時に行う。
15 回	【こどもの育ちと素材・技法⑨ 紙コップであそぼう】 ▶本時の目標：「紙コップ」による立体構成や空間構成について習熟。 ▶本時の活動：「紙コップ」を使ってさまざまな立体をつくる。 《写真撮影と提出》 ▶本時の学習成果：紙の加工の基本技能を習熟し、できる形をつかった遊びを考案できる。 ▶予習と復習：作品写真とふりかえりをスケッチブックにまとめる。（1 時間以上） *課題のフィードバックは授業中随時行う。

令和8年度教育計画							
科目名	児童文化	授業回数	15	単位数	2	担当教員	馬場結子
質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー等）：baba@owc.ac.jp、OH：							
教育目標と学生の学習成果	教育目標：児童文化とは何かを学び、その意義について考えることができる。 学生の学習成果：児童文化についてさまざまな知識を深めることができる。 専門的学習成果：子どものためにどのように児童文化を役立てるのかを考えることができる。 汎用的学習成果：児童文化を通して子どもの心を育てるために必要な知識を身に付けることができる。						
教育方法	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) この授業は講義中心であるが、演習も含まれる。そのため、アクティブラーニングの手法も取り入れる。					
	予習・復習	予習事項：多くの絵本や児童文学を読むこと。リストを配布するため、順次読み進めること。 復習事項：授業の内容を振り返り、まとめること。					
	テキスト	特になし					
学習評価の方法	定期試験（70%）、レポート（30%）で総合的に評価する。 日頃の学習態度も評価の対象である。 レポートは提出の期限を守ること。 積極的な参加が望まれる。						
注意事項	【参考図書】 石井桃子著『こどもの図書館』岩波書店 松岡享子『子どもと本』岩波書店						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション 授業「児童文化」の概要について説明する。また、児童文化の定義をふまえて、子どもと児童文化の関わりについて説明する。
2 回	子どもの遊びについて 伝承遊びを含めて、さまざまな子どもの遊びを紹介する。実際に学生にも体験してもらう。
3 回	玩具について 玩具の歴史について説明した上で、さまざまな玩具を紹介する。実際に玩具を用いた遊びを体験してもらう。
4 回	童謡について 日本の童謡を中心に説明する。大正自由教育期に『赤い鳥』が刊行されて以降、子どもの心意に叶うような童謡がうまれた。そうした童謡をいくつか紹介する。
5 回	絵本論（１） 外国の絵本について説明する。特に、近代の絵本（『もじゃもじゃペーター』や『ピーターラビット』等）を中心に説明する。
6 回	絵本論（２） 日本の絵本について説明する。ロングセラーの絵本『ぐりとぐら』は、イギリスの『ピーターラビット』の影響を受けていたが、そうした経緯を辿りながら、日本の絵本について考察する。
7 回	紙芝居について 紙芝居の歴史とともに、その概念を説明する。また、紙芝居の語り方は独特なものがあり、それについても説明する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	人形劇について おはなしと指人形を中心に説明する。授業において指人形を製作する。
9 回	保育と児童文化 さまざまな児童文化財が保育の現場においてどのように活用されているのかを考察する。 また、児童文化施設（児童館やこども図書館）の役割についても説明する。
10 回	児童文学とは 児童文学の歴史をふまえて、子どもと児童文学の関係について考察する。
11 回	イギリスの児童文学 A. A. ミルンの『くまのプーさん』を中心に説明する。ミルンの児童文学における子ども観について考察する。
12 回	ドイツの児童文学（１） E. ケストナーの児童文学について説明する。ケストナーの児童文学における子ども観について考察する。
13 回	ドイツの児童文学（２） M. エンデの児童文学について説明する。エンデの児童文学における子ども観について考察する。
14 回	スウェーデンの児童文学 A. リンドグレーンの児童文学について説明する。リンドグレーンの児童文学における子ども観について考察する。
15 回	まとめ これまでの授業を振り返り、児童文化について考察する。